

2025年度における環境調査の結果等について
【神奈川県】

2026年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1-1
1-1 本書の概要	1-1-1
1-2 事業の実施状況	1-2-1
2 事後調査	2-1-1
2-1 水資源（山岳トンネル）	2-1-1
2-1-1 調査方法	2-1-1
2-1-2 調査地点	2-1-2
2-1-3 調査期間	2-1-5
2-1-4 調査結果	2-1-5
2-2 動物、生態系	2-2-1
2-2-1 希少猛禽類の生息状況	2-2-1
2-2-2 移設した動物の生息状況	2-2-4
2-3 植物、生態系	2-3-1
2-3-1 調査項目	2-3-1
2-3-2 調査方法	2-3-1
2-3-3 調査地点	2-3-1
2-3-4 調査期間	2-3-2
2-3-5 移植後の生育状況	2-3-3
3 モニタリング	3-1-1
3-1 大気質	3-1-1
3-1-1 調査項目	3-1-1
3-1-2 調査方法	3-1-1
3-1-3 調査地点	3-1-2
3-1-4 調査期間	3-1-5
3-1-5 調査結果	3-1-6

3-2	水質	3-2-1
3-2-1	調査項目	3-2-1
3-2-2	調査方法	3-2-1
3-2-3	調査地点	3-2-2
3-2-4	調査期間	3-2-5
3-2-5	調査結果	3-2-6
3-3	地下水	3-3-1
3-3-1	調査項目	3-3-1
3-3-2	調査方法	3-3-1
3-3-3	調査地点	3-3-2
3-3-4	調査期間	3-3-8
3-3-5	調査結果	3-3-10
3-4	水資源（非常口（都市部）及び地下駅）	3-4-1
3-4-1	調査項目	3-4-1
3-4-2	調査方法	3-4-1
3-4-3	調査地点	3-4-2
3-4-4	調査期間	3-4-7
3-4-5	調査結果	3-4-8
3-5	水資源（山岳トンネル）	3-5-1
3-5-1	調査項目	3-5-1
3-5-2	調査方法	3-5-1
3-5-3	調査地点	3-5-2
3-5-4	調査期間	3-5-5
3-5-5	調査結果	3-5-6
3-6	地盤沈下	3-6-1
3-6-1	調査項目	3-6-1
3-6-2	調査方法	3-6-1
3-6-3	調査地点	3-6-1
3-6-4	調査期間	3-6-7
3-6-5	調査結果	3-6-9

3-7 土壤汚染	3-7-1
3-7-1 調査項目	3-7-1
3-7-2 調査方法	3-7-1
3-7-3 調査地点	3-7-2
3-7-4 調査期間	3-7-7
3-7-5 調査結果	3-7-8
3-8 安全（交通）	3-8-1
3-8-1 調査項目	3-8-1
3-8-2 調査方法	3-8-1
3-8-3 調査地点	3-8-2
3-8-4 調査期間	3-8-4
3-8-5 調査結果	3-8-4

4 環境保全措置の実施状況	4-1-1
4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置	4-1-1
4-1-1 等々力非常口	4-1-1
4-1-2 第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）	4-1-3
4-1-3 犬蔵非常口	4-1-10
4-1-4 第一首都圏トンネル（東百合丘工区）	4-1-16
4-1-5 片平非常口	4-1-22
4-1-6 神奈川県駅（仮称）	4-1-28
4-1-7 第二首都圏トンネル	4-1-35
4-1-8 相模川橋りょう	4-1-39
4-1-9 津久井トンネル（東工区）・相模川変電所	4-1-45
4-1-10 津久井トンネル（西工区）	4-1-51
4-1-11 関東車両基地	4-1-57
4-1-12 藤野トンネル	4-1-63
4-2 代替巢の設置	4-2-1
4-3 重要な種の移植	4-3-1
5 その他特に実施した調査	5-1-1
5-1 希少猛禽類の継続調査	5-1-1
5-1-1 調査項目	5-1-1
5-1-2 調査方法	5-1-1
5-1-3 調査地点	5-1-1
5-1-4 調査期間	5-1-2
5-1-5 調査結果	5-1-2
6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	6-1-1
6-1 廃棄物等	6-1-1
6-1-1 集計項目	6-1-1
6-1-2 集計方法	6-1-1
6-1-3 集計対象箇所	6-1-1
6-1-4 集計期間	6-1-1
6-1-5 集計結果	6-1-1

6-2	温室効果ガス	6-2-1
6-2-1	集計項目	6-2-1
6-2-2	集計方法	6-2-1
6-2-3	集計対象箇所	6-2-1
6-2-4	集計期間	6-2-1
6-2-5	集計結果	6-2-1
7	業務の委託先	7-1
	参考資料1：事業の実施状況	参1-1
1-1	トンネルの施工状況	参1-1
1-2	トンネルの湧水等の状況	参1-2
1-3	建設発生土の主な搬出先と土量	参1-4
	参考資料2：騒音・振動の簡易計測	参2-1
	参考資料3：安全・安心の取組み	参3-1
3-1	掘進時の取組み	参3-1
非公開版		(別冊)

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【神奈川県】平成26年8月」（以下、「評価書【神奈川県】」という。）及び「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【神奈川県】平成26年8月」に基づく事後調査計画書（平成26年11月）」に基づいて、2025年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

2025年度における、神奈川県内の事業の実施状況は以下のとおりである。

工事の実施状況を表1-2-1、工事の実施箇所を図1-2-1に示す。

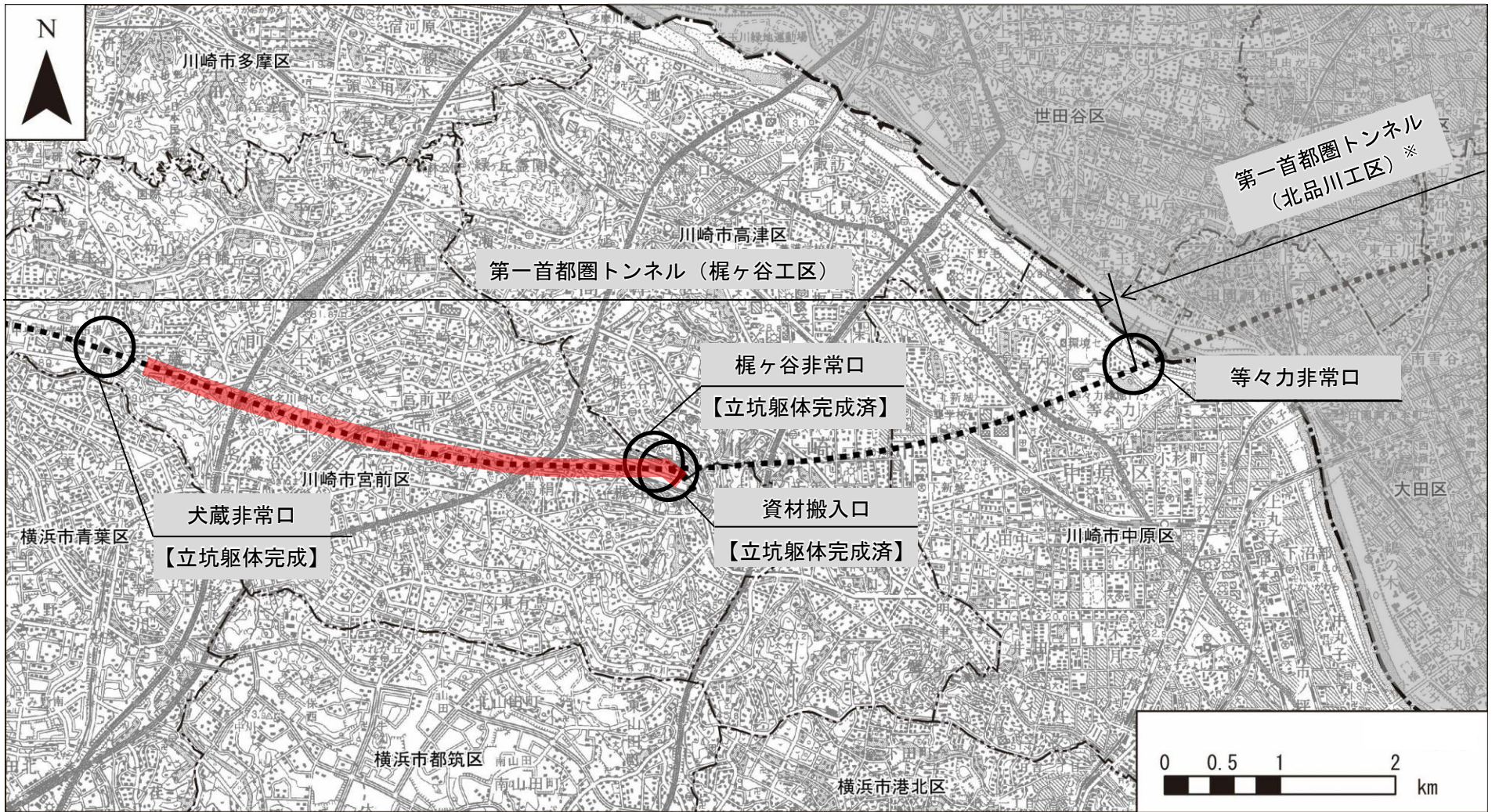
その他、相模原市では、神奈川県駅（仮称）において、2025年10月に神奈川県、相模原市と共催で「さがみはらリニアフェスタ2025」を実施した。

建設発生土については、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先や公共事業等において活用した。

表 1-2-1 2025 年度の工事の実施状況

実施箇所	実施状況
等々力非常口	・工事施工ヤードの管理を実施した。
梶ヶ谷非常口及び資材搬入口	・梶ヶ谷非常口において、立坑が完成。(2021年度) [第一首都圏トンネル(梶ヶ谷工区)発進立坑] [保守用車留置場所トンネル到達立坑] ・資材搬入口において、立坑が完成。(2020年度) [保守用車留置場所トンネル発進立坑]
第一首都圏トンネル(梶ヶ谷工区)	・梶ヶ谷非常口の立坑からの掘進(名古屋方)を実施した。
犬蔵非常口	・非常口躯体構築工を実施し、立坑が2025年11月に完成した。
東百合丘非常口	・立坑が完成。(2021年度) [第一首都圏トンネル(東百合丘工区)発進立坑] [第一首都圏トンネル(梶ヶ谷工区)到達立坑]
第一首都圏トンネル(東百合丘工区)	・東百合丘非常口の立坑からの掘進(名古屋方)を実施した。
片平非常口	・工事用道路が完成。(2021年度) ・掘削工、非常口躯体構築工を実施した。
神奈川県駅(仮称)	・地下駅の構築工を実施した。
国道16号交差部トンネル	・トンネル内部掘削が完了。(2023年度)
第二首都圏トンネル	・シールド機組立準備工、シールド機組立及び発進準備工を実施した。
相模川橋りょうほか	・相模川橋りょうにおいて、工事施工ヤード造成、橋脚基礎工、橋脚下部工、橋脚上部工を実施した。 ・太井上依知架道橋において、工事施工ヤード造成、橋脚基礎工、橋脚下部工を実施した。
津久井トンネルほか(東工区)	・相模川変電所において、造成工事を実施した。 ・津久井トンネル(東工区)において、本線トンネルの掘削工を実施した。
津久井トンネルほか(西工区)	・長竹非常口において、非常口トンネル(斜坑)の掘削が完了(2023年度)し、本線トンネルの掘削工を実施した。 ・大岩下非常口において、工事施工ヤード造成工を実施した。 ・道志川橋りょうにおいて、工事施工ヤード造成に向けた準備工を実施した。
関東車両基地	・工事施工ヤード造成、県道64号仮設道路工(2025年12月完成)及び谷戸沢仮設水路工を実施した。
藤野トンネル	・新戸非常口において、工事施工ヤード造成に向けた準備工を実施した。 ・大洞非常口において、非常口トンネル(斜坑)の掘削が完了(2022年度)し、本線トンネルの掘削工を実施した。

・各トンネル等の施工状況は、資料編の参考資料1-1に記載している。

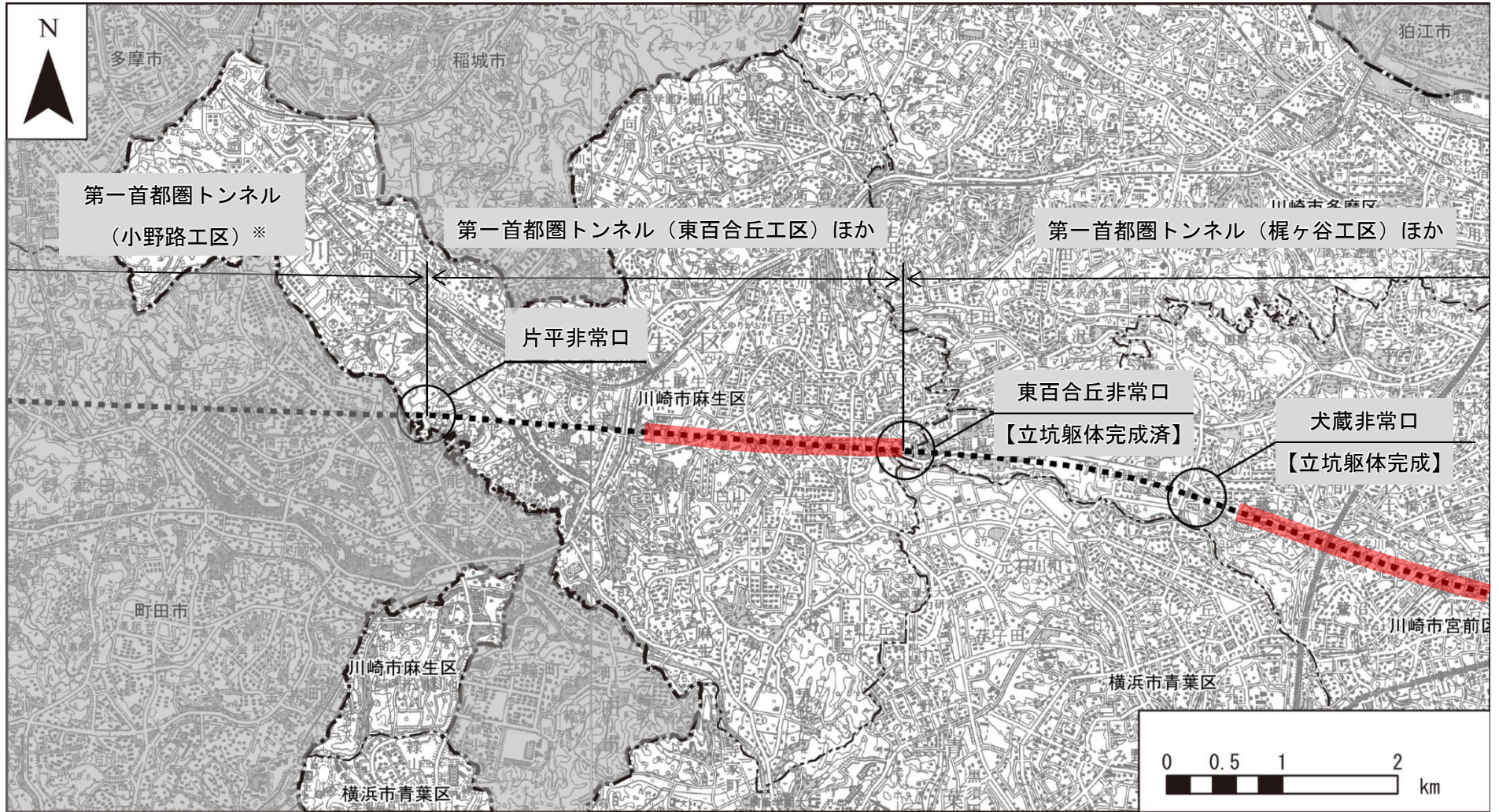


凡例

- 計画路線(トンネル部) - - - 都県境 (トンネル部) 掘進済み範囲 文字 工事の実施箇所
- 計画路線(地上部) - - - 市区町村境

※東京都内の工事の実施箇所として、「2025年度における環境調査の結果等について【東京都】」に実施状況を記載。

図 1-2-1 (1) 工事の実施箇所

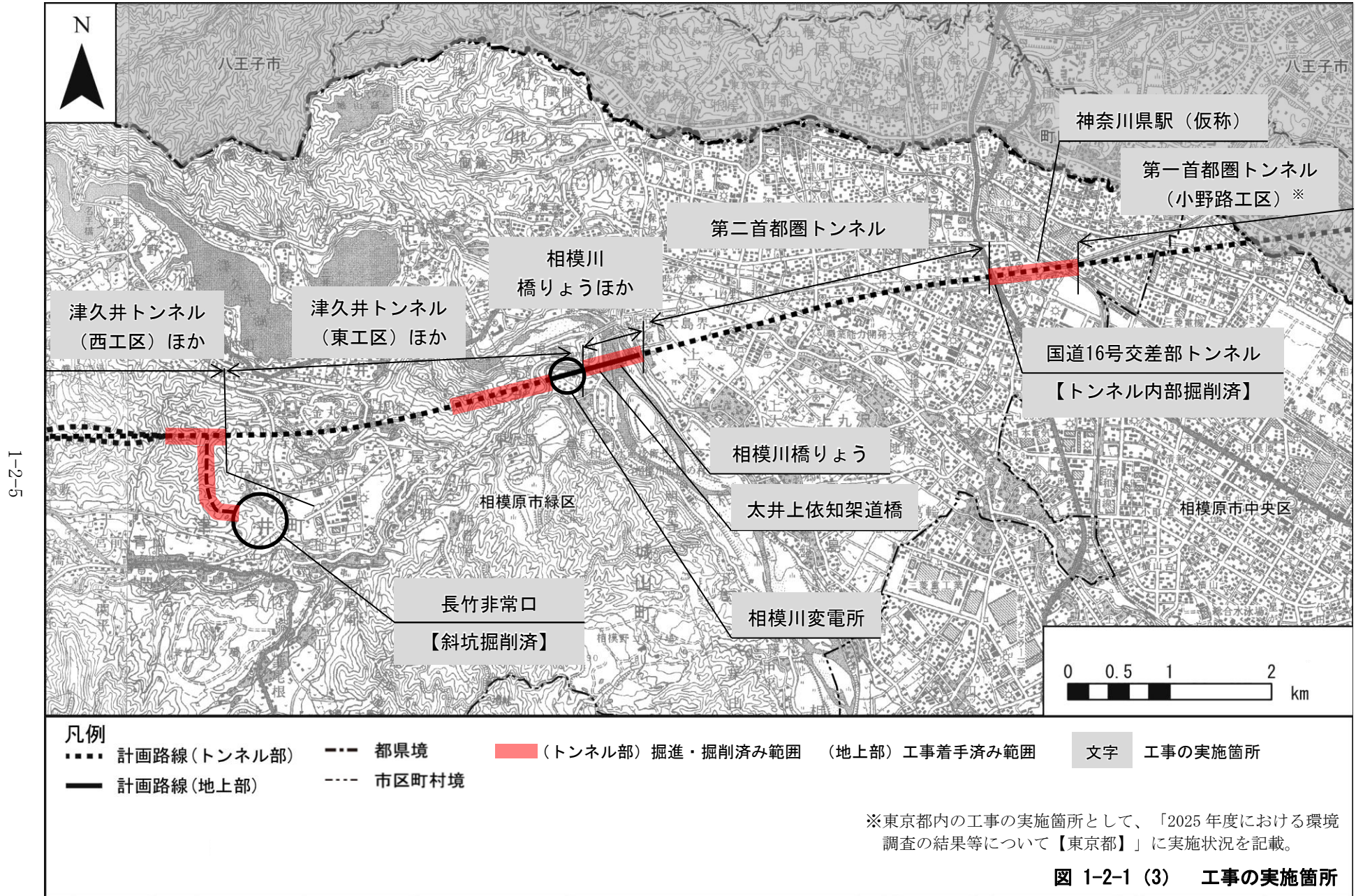


凡例

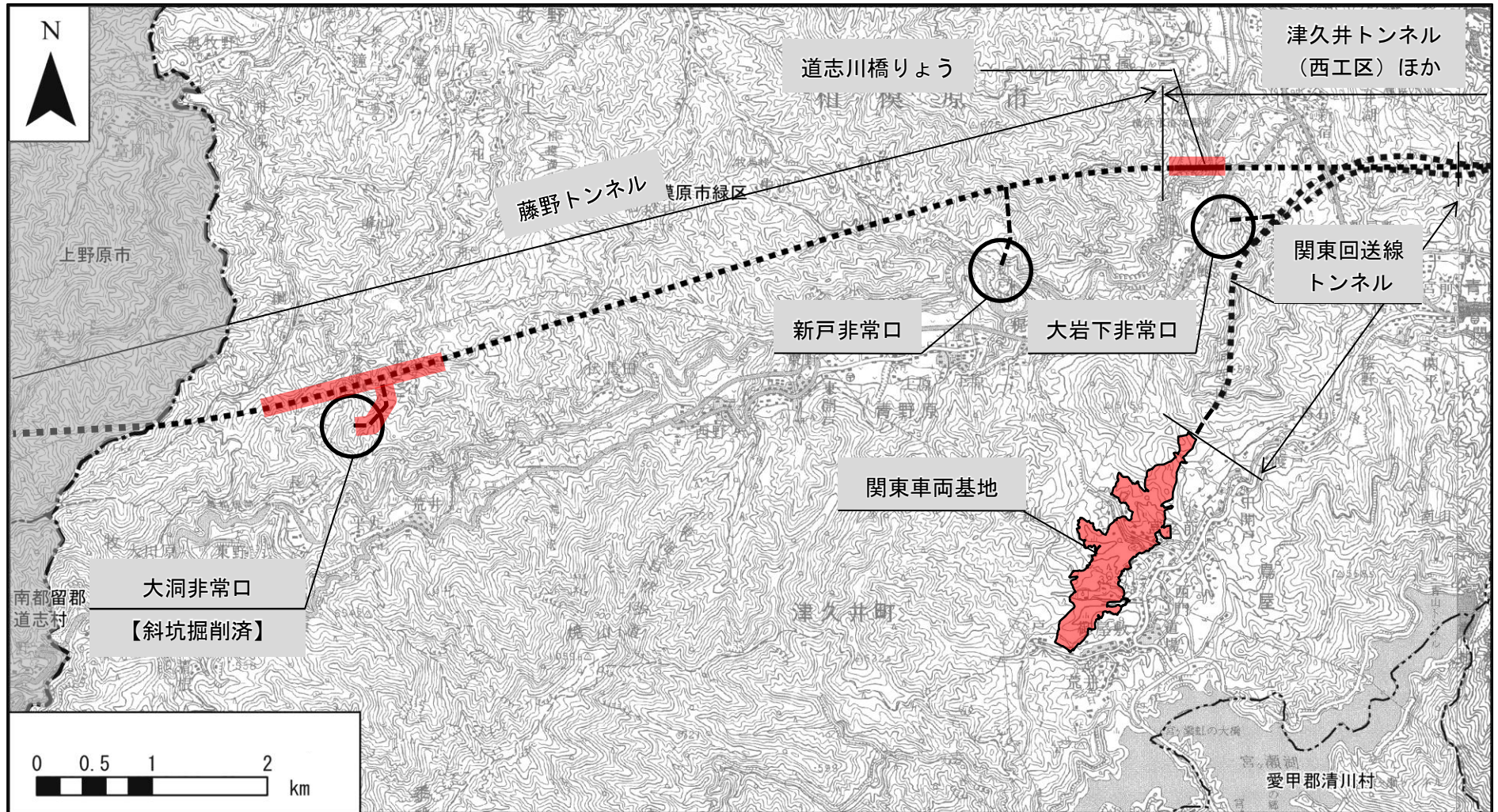
..... 計画路線(トンネル部)	--- 都県境	■ (トンネル部) 掘進済み範囲	文字 工事の実施箇所
— 計画路線(地上部)	---- 市区町村境		

※東京都内の工事の実施箇所として、「2025年度における環境調査の結果等について【東京都】」に実施状況を記載。

図 1-2-1 (2) 工事の実施箇所



1-2-6



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- (トンネル部) 掘削済み範囲
- (地上部) 工事着手済み範囲
- 文字 工事の実施箇所
- 計画路線(地上部)
- 市区町村境

図 1-2-1 (4) 工事の実施箇所

2 事後調査

2025年度は、水資源（山岳トンネル）、動物、植物について事後調査を実施した。
なお、動物、植物については、希少種の保護の観点から、生息・生育箇所の特定に繋がるような調査結果等の一部の資料については非公開とした。

2-1 水資源（山岳トンネル）

地下水を利用した水資源に与える影響の予測には不確実性があることから事後調査を実施した。なお、本報告に関わる事後調査計画については、工事計画や評価書【神奈川県】における地下水の予測検討範囲、既存文献資料、自治体並びに予測検討範囲に係る地区の自治会等への聞き取り調査の結果を踏まえ策定している。

2-1-1 調査方法

調査項目及び調査方法は、表 2-1-1-1 に示すとおりである。

表 2-1-1-1 調査方法

区分	調査項目	調査方法
井戸の水位	地下水の水位、水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率、透視度	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に準拠する
地表水の流量	地表水（河川）の流量、水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に準拠する

2-1-2 調査地点

調査地点は、表 2-1-2-1 及び図 2-1-2-1 に示すとおりである。

表 2-1-2-1 (1) 調査地点 (井戸)

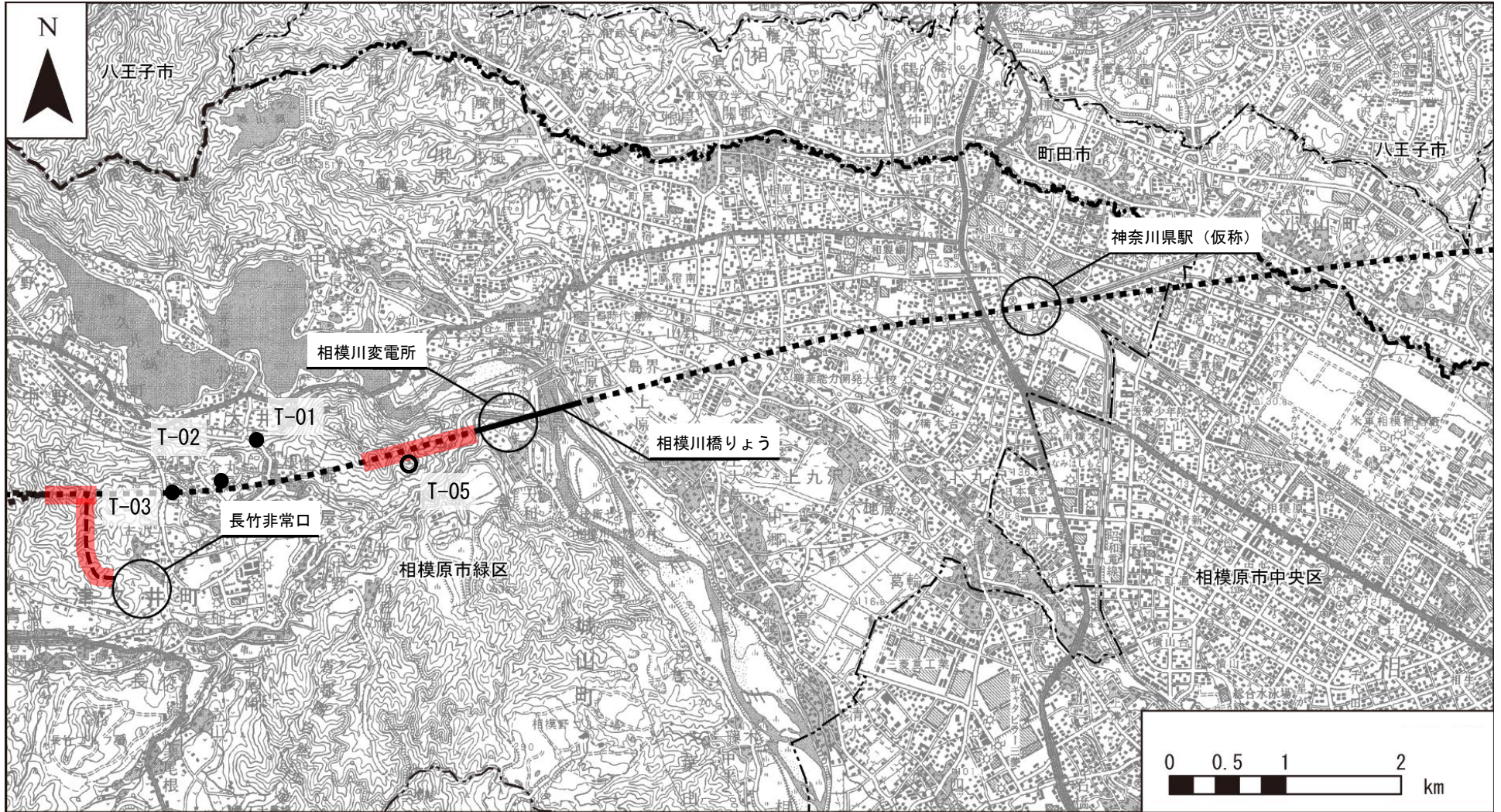
地点番号	市区名	調査地点	調査項目
T-01	相模原市緑区	個人水源 (縦井戸) (井戸の深さ約9m)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 井戸の水位 ・ 水温 ・ 水素イオン濃度 (pH) ・ 電気伝導率 ・ 透視度
T-02		個人水源 (縦井戸) (井戸の深さ約12m)	
T-03		個人水源 (縦井戸) (井戸の深さ約20m)	
T-04		観測井戸 (縦井戸) (井戸の深さ約67m)	
F-01		個人水源 (縦井戸) (井戸の深さ約60m)	
F-02		簡易水道 (縦井戸) (井戸の深さ約100m)	
F-03		小規模水道 (縦井戸) (井戸の深さ約51m)	
F-04		小規模水道 (縦井戸) (井戸の深さ約75m)	
F-05		小規模水道 (縦井戸) (井戸の深さ約65m)	

・ 地点番号は、津久井トンネルに関わる範囲を「T-」、藤野トンネルに関わる範囲を「F-」として記載している。

表 2-1-2-1 (2) 調査地点 (地表水)

地点番号	市区名	調査地点	調査項目
T-05	相模原市緑区	串川 (支流)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地表水の流量 ・ 水温 ・ 水素イオン濃度 (pH) ・ 電気伝導率
T-06		事業用取水堰	
T-07		道志川 (支流)	
F-06		寒沢川 (下流部)	
F-07		道志川 (支流)	
F-08		仲沢川 (下流部)	
F-09		仲沢川 (支流)	
F-10		道志川 (支流)	
F-11		綱子川 (支流)	

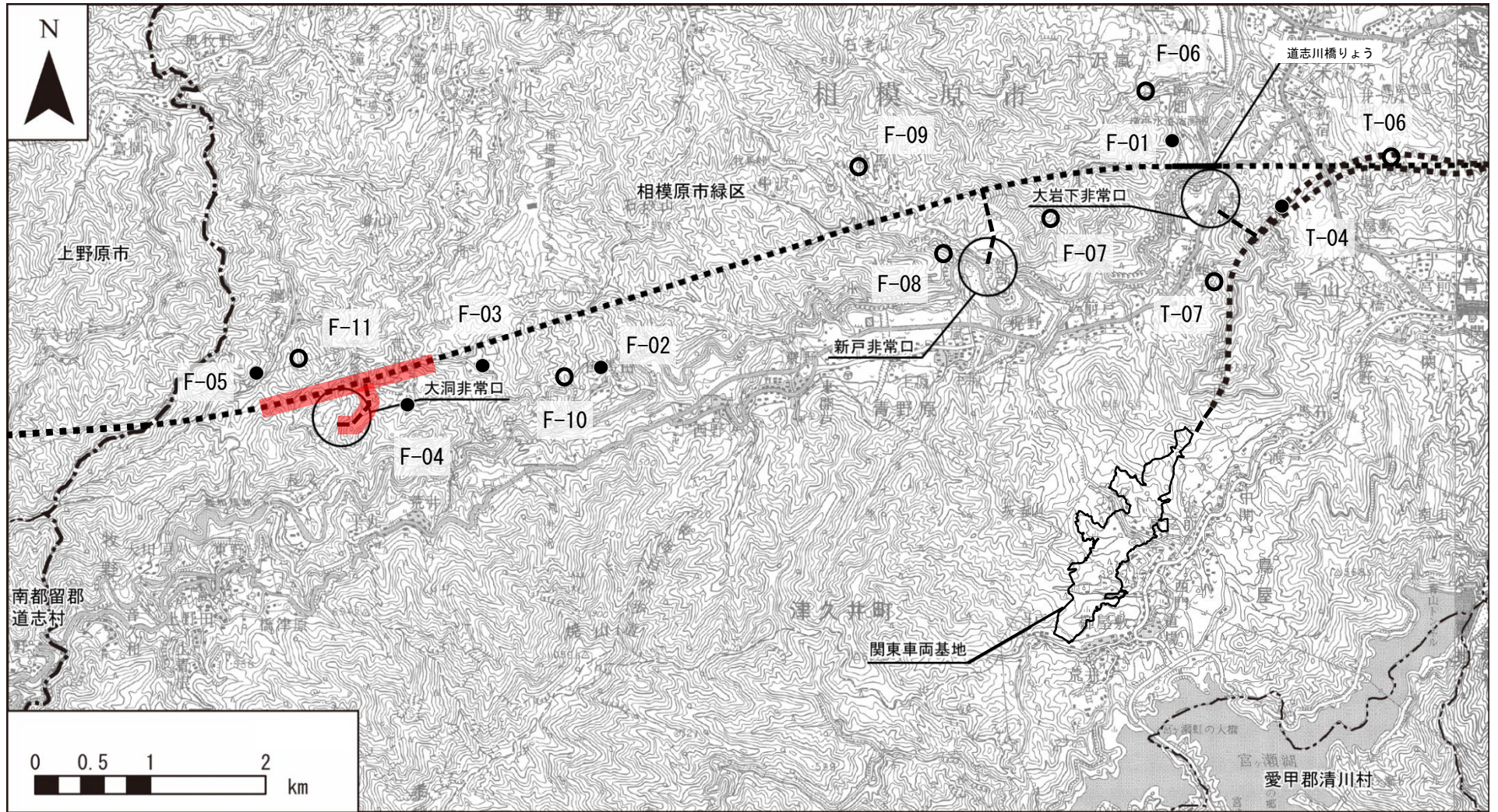
・ 地点番号は、津久井トンネルに関わる範囲を「T-」、藤野トンネルに関わる範囲を「F-」として記載している。



凡例

- 計画路線(トンネル部) ● 井戸の水位 (トンネル部) 掘削済み範囲
- 計画路線(地上部) ○ 地表水の流量
- 非常口トンネル(斜坑)
- 都県境
- 市町村境

図 2-1-2-1 (1) 調査地点(水資源(山岳トンネル))



凡例

..... 計画路線(トンネル部)	● 井戸の水位	■ (トンネル部) 掘削済み範囲
—— 計画路線(地上部)	○ 地表水の流量	
----- 非常口トンネル(斜坑)		
--- 都県境		
----- 市町村境		

図 2-1-2-1 (2) 調査地点(水資源(山岳トンネル))

2-1-3 調査期間

現地調査の期間は、表 2-1-3-1 に示すとおりである。

表 2-1-3-1(1) 調査期間（井戸）

調査項目	調査期間	調査頻度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水位 ・ 水温 ・ 水素イオン濃度 (pH) ・ 電気伝導率 ・ 透視度 	2025年 4月 9～10日、12日、19～20日、23日 2025年 5月 8～12日、16日 2025年 6月 8日、13～14日、18～19日、26日 2025年 7月 9～13日、24～25日 2025年 8月 6～7日、10日、17日、21～22日 2025年 9月 4～7日、11日、28日 2025年 10月 9日、11～13日、16日、19日 2025年 11月 5日、7日、9日、12～13日、16日、20～21日 2025年 12月 10～13日、18～19日、21日 2026年 1月 9～11日、16～19日、21～22日 2026年 2月 5～6日、8日、13日、18～20日 2026年 3月 4～5日、7～8日、12日、18～20日	月 1 回/地点

表 2-1-3-1(2) 調査期間（地表水）

調査項目	調査期間	調査頻度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 流量 ・ 水温 ・ 水素イオン濃度 (pH) ・ 電気伝導率 	2025年 4月 9～13日、19～21日、23日 2025年 5月 8～12日、15日、17～18日、28日 2025年 6月 8日、13～16日、18～19日 2025年 7月 9～10日、12～13日、17日、19～20日、24～25日 2025年 8月 1～2日、6～10日、21～22日 2025年 9月 3日、6日、11～14日、26～28日 2025年 10月 9日、11日、13日、15～19日 2025年 11月 5～7日、9日、12～14日、20～21日 2025年 12月 4～6日、10～13日、18～19日 2026年 1月 8～10日、16～19日、21～24日 2026年 2月 5～9日、12～15日、18～20日 2026年 3月 4～5日、7～9日、11～13日、15日、18～20日	月 1 回/地点

2-1-4 調査結果

調査結果は表 2-1-4-1、表 2-1-4-2 及び図 2-1-4-1、図 2-1-4-2 に示すとおりである。なお、図 2-1-4-1、図 2-1-4-2 については、過去 5 年分のデータを記載している。

表 2-1-4-1 (1) 調査結果 (井戸)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度												
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
T-01	相 模 原 市 緑 区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-3.95	-4.03	-4.38	-3.80	-3.70	-4.31	-5.00	-5.15	-5.88	-6.35	-6.75	-6.38	
			水温 (°C)	15.1	15.8	17.8	16.1	17.8	16.5	15.7	13.1	14.2	9.4	12.5	12.6	
			pH	7.3	7.1	6.9	7.8	6.9	6.8	7.2	7.2	7.4	7.6	7.2	7.8	
			電気伝導率 (mS/m)	11	12	11	12	12	12	13	13	13	13	13	13	12
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
T-02	相 模 原 市 緑 区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-4.11	-4.20	-4.50	-4.16	-4.85	-4.44	-4.79	-4.75	-5.00	-5.31	-5.24	-5.52	
			水温 (°C)	17.4	18.3	18.4	19.8	19.5	19.4	16.9	15.2	16.4	13.4	15.1	14.7	
			pH	7.3	7.0	7.2	7.1	7.0	6.7	7.4	7.6	7.4	7.3	7.5	7.3	
			電気伝導率 (mS/m)	13	13	13	12	13	13	13	13	14	13	14	14	
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- ・地点番号は図 2-1-2-1 を参照。
- ・透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
- ・水位は井戸孔口からの深さを示す。

表 2-1-4-1 (2) 調査結果 (井戸)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
T-03	相模 原市 緑区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-15.28	-15.39	-15.85	-18.05	-18.26	-15.47	-16.96	-16.88	-17.94	-18.10	-16.53	-16.63
			水温 (°C)	18.1	19.6	27.6	26.1	25.8	22.2	19.3	13.4	10.3	7.1	8.9	12.9
			pH	7.8	7.5	7.3	7.1	7.3	7.4	7.4	7.3	7.2	7.3	7.4	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	32	34	34	33	34	33	34	33	30	26	18	21
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
T-04	相模 原市 緑区	観測井戸 (縦井戸)	水位 (m)	-20.23	-19.99	-20.05	-20.09	-20.24	-20.23	-20.25	-20.25	-20.36	-20.39	-20.45	-20.41
			水温 (°C)	14.0	13.9	13.9	15.7	15.6	13.9	13.9	13.9	13.8	13.9	13.9	13.9
			pH	7.5	7.7	7.8	7.5	7.4	7.7	8.0	7.8	7.2	7.8	7.3	7.5
			電気伝導率 (mS/m)	21	23	21	21	21	22	21	21	22	22	20	22
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- ・ 地点番号は図 2-1-2-1 を参照。
- ・ 透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
- ・ 水位は井戸孔口からの深さを示す。

表 2-1-4-1 (3) 調査結果 (井戸)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-01	相 模 原 市 緑 区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-18.32	-18.61	-18.70	-17.63	-19.00	-18.76	-18.70	-18.61	-18.67	-18.73	-18.72	-18.76
			水温 (°C)	16.5	16.6	21.9	20.2	20.9	19.9	17.5	14.6	11.6	9.7	6.9	12.6
			pH	7.7	7.4	7.5	7.8	7.1	6.9	8.1	7.6	7.6	7.8	7.8	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	16	18	16	15	14	14	16	15	14	15	15	14
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
F-02	相 模 原 市 緑 区	簡易水道 (縦井戸)	水位 (m)	-60.98	-60.03	-40.98	-40.87	-62.15	-50.64	-61.68	-41.98	-44.54	-62.40	-46.50	-43.72
			水温 (°C)	17.0	17.3	17.4	18.7	20.6	21.1	16.2	15.8	14.8	15.0	14.8	12.6
			pH	8.3	8.0	8.2	7.7	8.2	8.3	8.1	8.4	8.3	8.7	8.6	8.7
			電気伝導率 (mS/m)	14	14	16	16	10	11	15	15	14	13	12	13
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- 地点番号は図 2-1-2-1 を参照。
- 透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
- 水位は井戸孔口からの深さを示す。

表 2-1-4-1 (4) 調査結果 (井戸)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-03	相模原市緑区	小規模水道 (縦井戸)	水位 (m)	-32.32	-30.01	-30.92	-28.62	-29.55	-30.47	-30.41	-31.40	-31.72	-32.30	-32.87	-34.13
			水温 (°C)	16.2	15.6	16.4	16.1	16.0	16.4	17.3	15.3	15.0	15.3	14.8	12.6
			pH	7.9	8.1	8.0	7.9	7.4	7.5	8.3	8.0	8.0	8.1	7.9	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	12	14	13	13	11	11	13	13	12	11	12	11
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
F-04	相模原市緑区	小規模水道 (縦井戸)	水位 (m)	-3.64	-3.45	-3.51	-3.83	-4.17	-4.44	-3.85	-3.73	-4.00	-6.74	-15.47	-3.82
			水温 (°C)	15.4	15.5	16.3	18.3	16.5	17.2	15.4	14.9	14.5	14.5	14.5	12.6
			pH	7.5	7.5	7.5	7.8	7.6	7.8	7.3	7.7	7.7	8.1	8.1	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	27	27	33	22	28	14	29	26	27	26	24	26
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- ・ 地点番号は図 2-1-2-1 を参照。
- ・ 透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
- ・ 水位は井戸孔口からの深さを示す。

表 2-1-4-1 (5) 調査結果 (井戸)

地点 番号	市 区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-05	相 模 原 市 緑 区	小規模水道 (縦井戸)	水位 (m)	-3.64	-4.16	-4.13	-3.96	-5.37	-4.35	-4.27	-4.30	-5.56	-5.96	-6.40	-4.43
			水温 (°C)	14.8	16.6	20.2	22.8	24.9	24.5	20.1	12.6	8.8	7.0	5.3	12.6
			pH	8.3	7.6	7.3	8.1	8.0	8.0	8.4	8.0	7.9	8.1	8.3	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	10	9.4	11	11	10	9.9	13	12	10	10	10	16
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- 地点番号は図 2-1-2-1 を参照。
- 透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
- 水位は井戸孔口からの深さを示す。

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

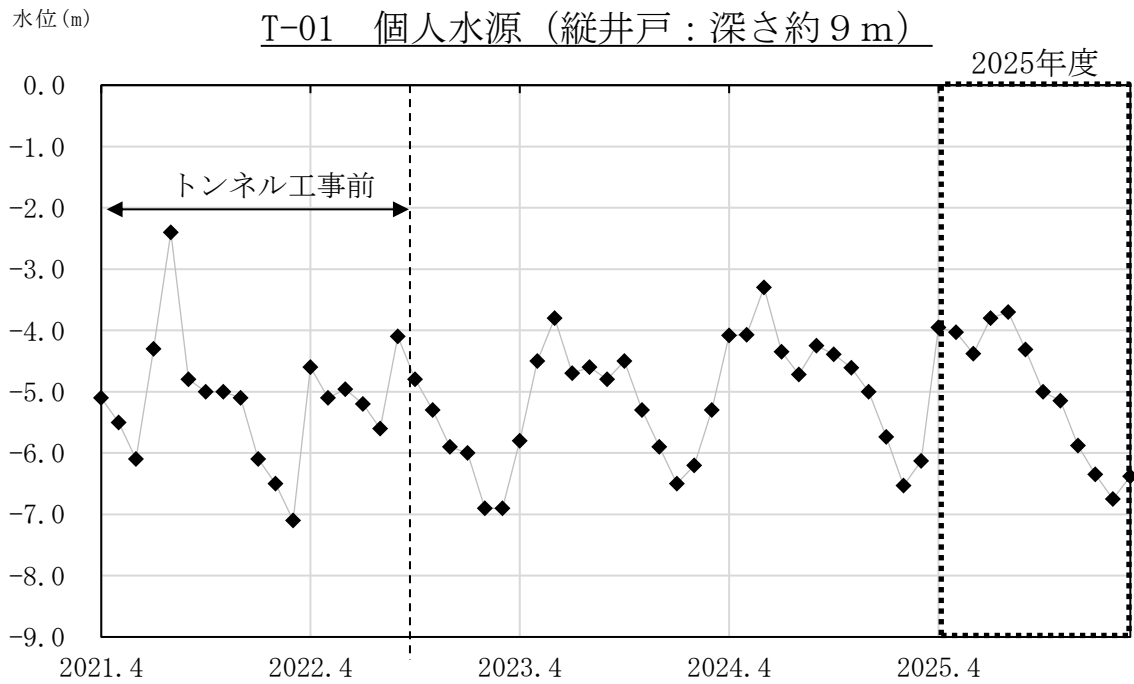


図 2-1-4-1 (1) 井戸の水位の調査結果 (T-01 個人水源)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

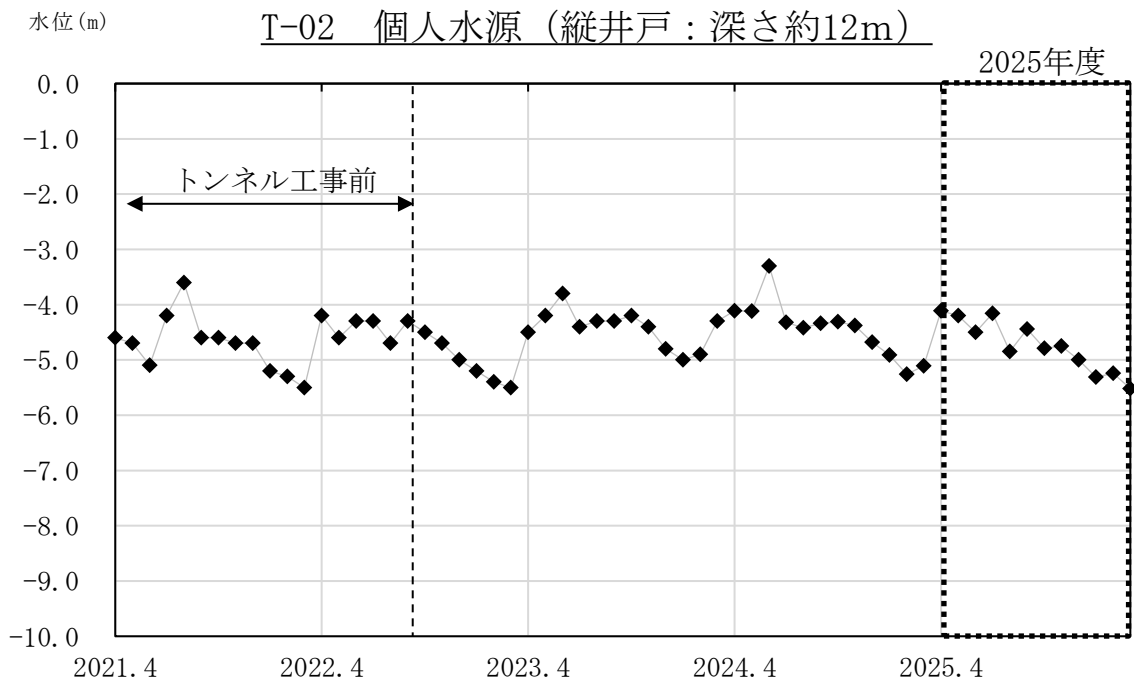


図 2-1-4-1 (2) 井戸の水位の調査結果 (T-02 個人水源)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

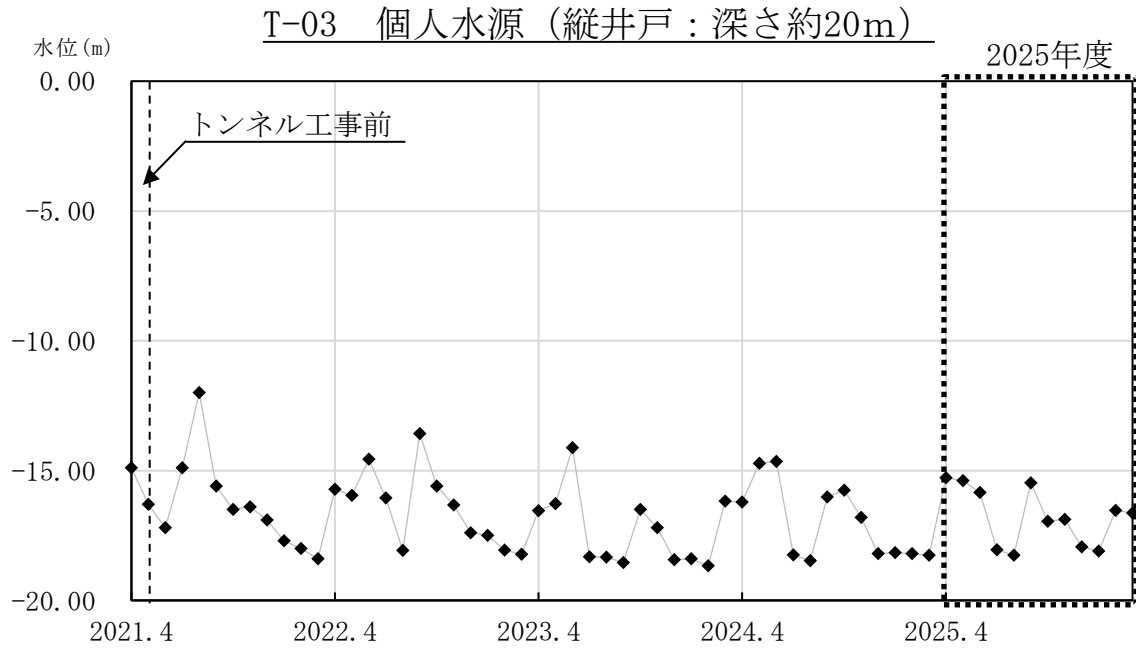


図 2-1-4-1 (3) 井戸の水位の調査結果 (T-03 個人水源)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

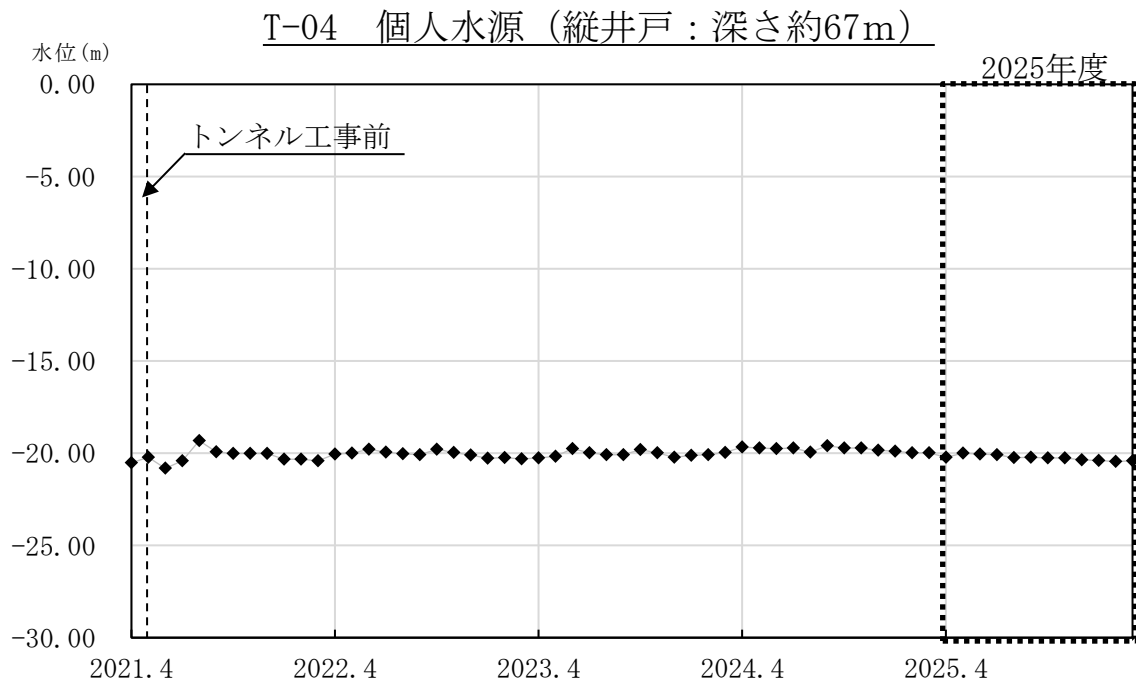


図 2-1-4-1 (4) 井戸の水位の調査結果 (T-04 観測井戸)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

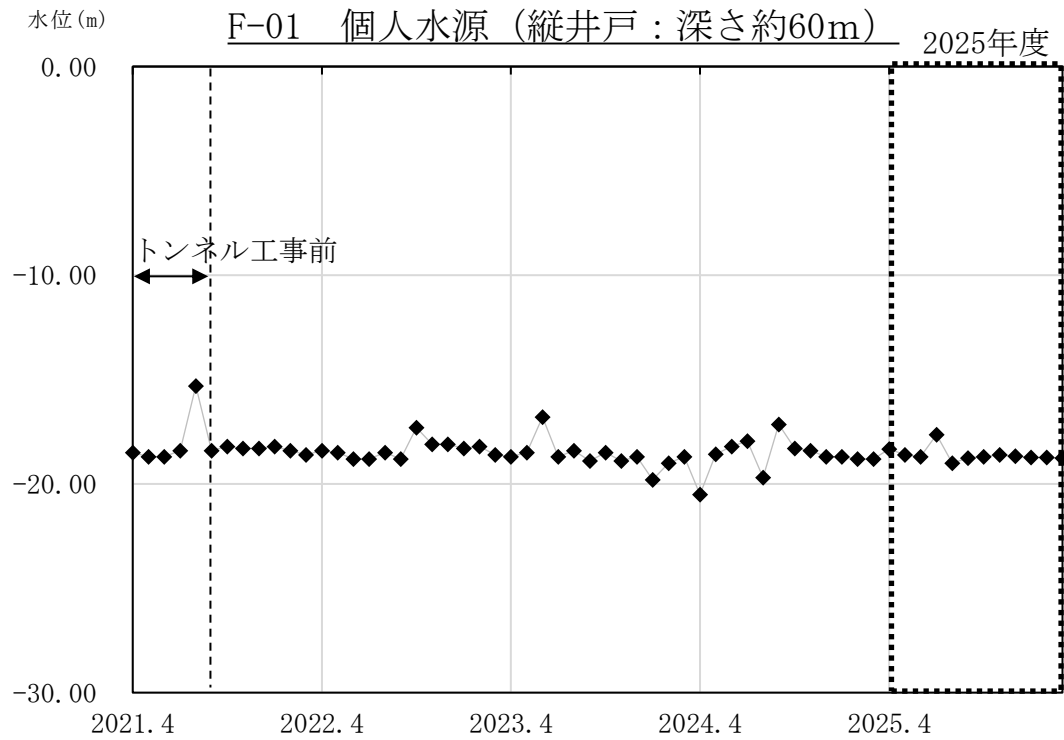
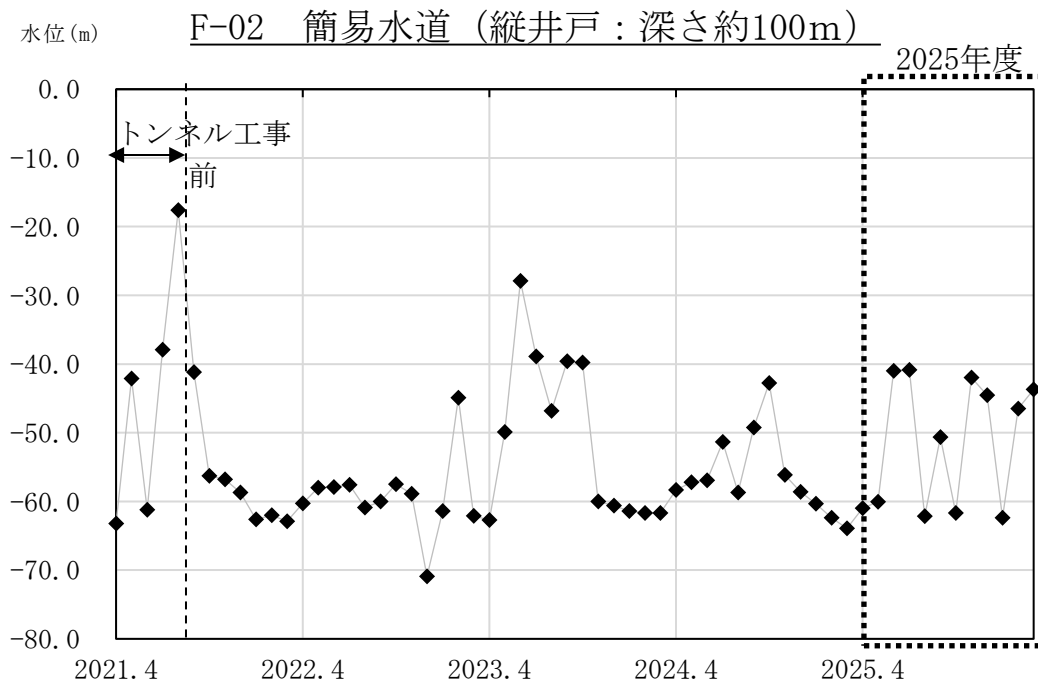


図 2-1-4-1 (5) 井戸の水位の調査結果 (F-01 個人水源)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。



・ 2021年度 8 月期、2023年度 6 月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-1 (6) 井戸の水位の調査結果 (F-02 簡易水道)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

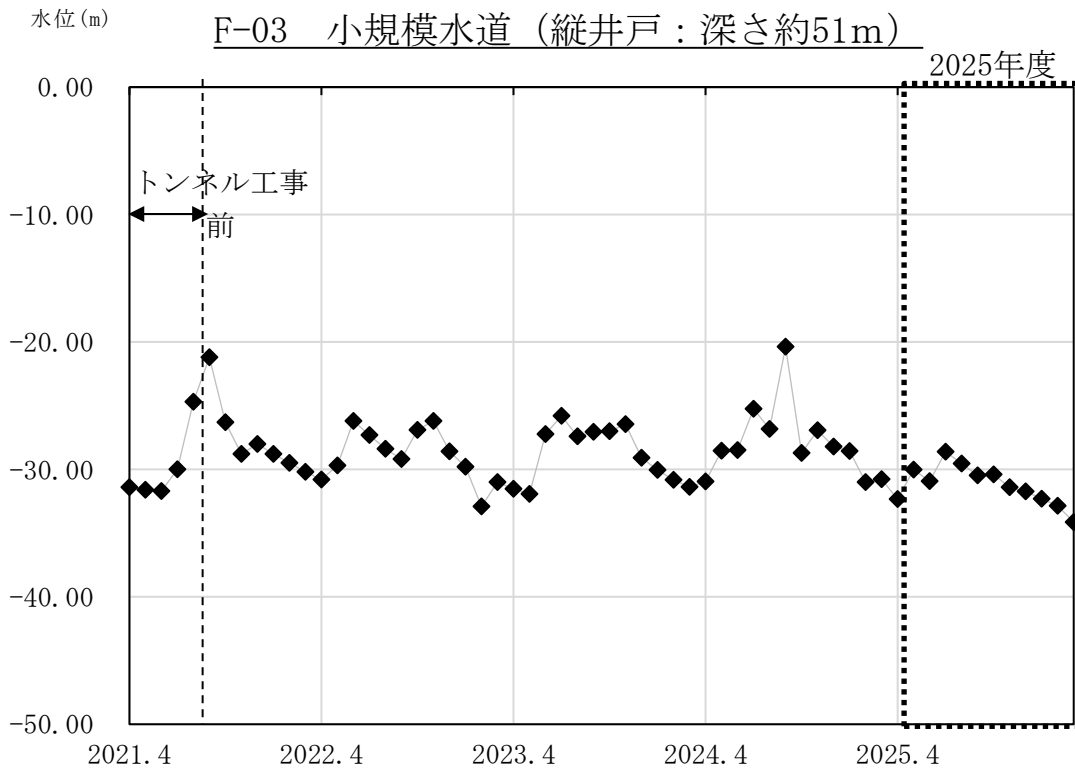


図 2-1-4-1 (7) 井戸の水位の調査結果 (F-03 小規模水道)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

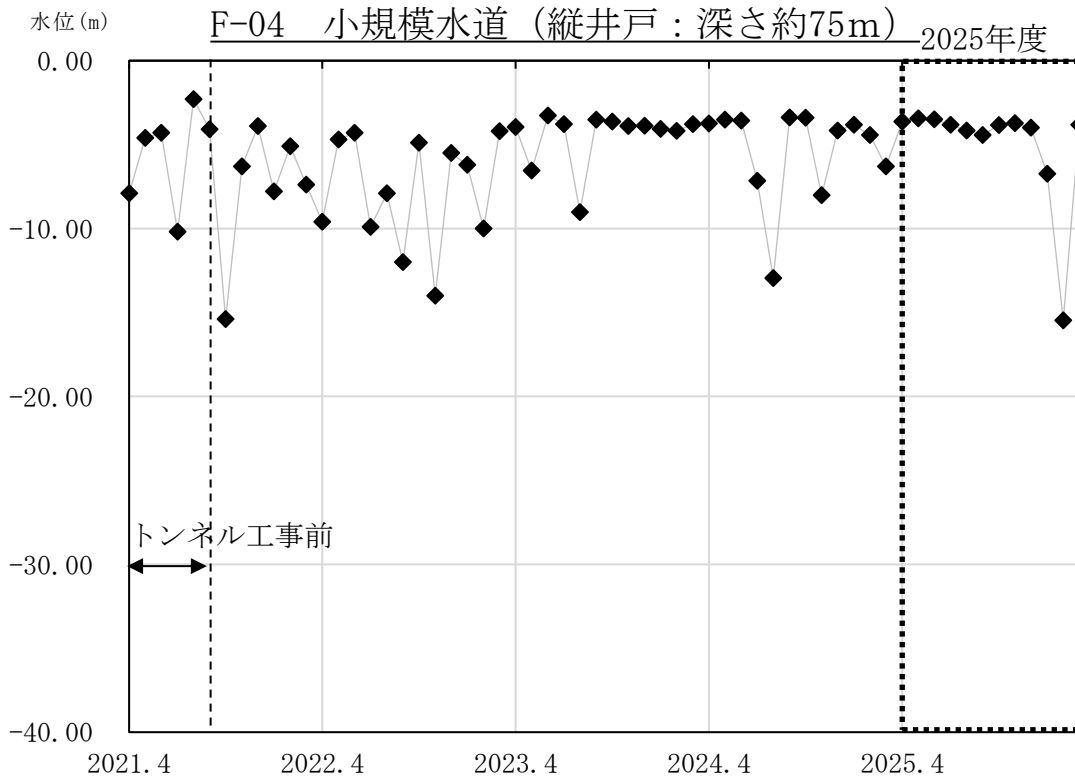


図 2-1-4-1 (8) 井戸の水位の調査結果 (F-04 小規模水道)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

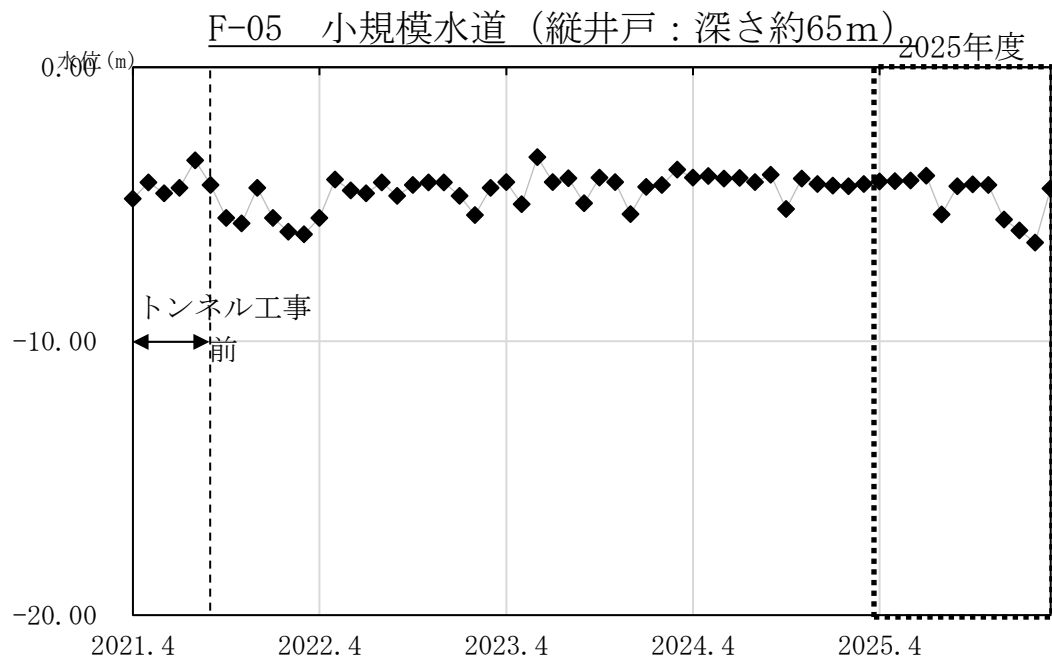


図 2-1-4-1 (9) 井戸の水位の調査結果 (F-05 小規模水道)

表 2-1-4-2 (1) 調査結果 (地表水)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
T-05	相模原市緑区	串川 (支流)	流量 (m ³ /min)	0.03	0.04	0.02	0.03	0 ^{*1}	0.02	0.01	0.01	0 ^{*1}	0 ^{*1}	0 ^{*1}	0.01
			水温 (°C)	14.4	14.9	19.9	20.4	23.1	18.4	14.3	11.1	7.2	5.4	6.5	7.4
			pH	7.5	8.0	7.6	8.0	7.4	7.6	7.5	7.5	7.9	7.8	8.0	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	11	10	11	13	12	11	12	11	12	12	12	12
T-06		事業用取水堰	流量 (m ³ /min)	0.08	0.13	0.04	0.11	0.02	0.24	0.03	0.03	0.03	0.02	0.01	0.04
			水温 (°C)	14.5	16.9	20.0	20.2	25.0	18.3	15.5	11.7	6.2	5.9	10.2	12.4
			pH	7.7	7.6	7.4	7.6	7.7	7.7	7.5	7.7	7.6	7.6	7.7	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	12	11	13	13	14	13	14	14	14	14	15	13
T-07		道志川 (支流)	流量 (m ³ /min)	0.07	0.08	0.05	0.07	0.02	0.06	0.02	0.02	0.01	0 ^{*1}	0	0
			水温 (°C)	13.9	13.7	15.0	15.5	17.3	15.1	14.5	13.1	10.1	8.2	- ^{*2}	- ^{*2}
			pH	8.0	8.1	8.5	7.7	7.5	7.9	7.7	7.7	7.6	6.2	- ^{*2}	- ^{*2}
			電気伝導率 (mS/m)	9.6	10	10	10	11	11	11	11	12	11	- ^{*2}	- ^{*2}

・地点番号は図 2-1-2-1 を参照。

※1 確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

※2 水量が確認されなかったため欠測とした。なお、2025 年度は年間を通して降水が少なく全体的に減水傾向が確認されている。

表 2-1-4-2 (2) 調査結果 (地表水)

地点番号	市区名	調査地点	調査項目	2025年度												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
F-06	相模原市緑区	寒沢川 (下流部)	流量 (m ³ /min)	1.10	2.93	1.03	11.30	0.40	1.47	0.94	0.61	0.53	0.37	0.27	0.26	
			水温 (°C)	13.4	15.1	19.6	21.7	22.6	21.4	16.6	10.3	7.3	5.2	4.3	7.4	
			pH	8.0	7.3	8.0	8.1	7.2	7.3	8.1	8.2	7.6	8.3	8.0	7.6	
			電気伝導率 (mS/m)	12	13	12	9.5	13	10	12	12	12	13	13	12	
F-07		道志川 (支流)	流量 (m ³ /min)	0.09	0.08	0.05	0.01	0.03	0.07	0.05	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03
			水温 (°C)	13.9	14.8	20.5	21.5	23.2	23.0	16.1	9.9	6.8	7.1	4.4	8.7	
			pH	8.1	7.7	8.0	8.1	8.0	7.2	7.6	8.3	8.6	8.5	8.2	8.1	
			電気伝導率 (mS/m)	12	14	14	8	14	11	14	12	14	14	15	13	
F-08		仲沢川 (下流部)	流量 (m ³ /min)	2.48	3.37	5.88	2.58	1.55	2.32	4.17	1.46	0.78	0.76	0.58	1.53	
			水温 (°C)	13.0	14.0	20.8	22.0	24.9	23.9	16.1	12.0	4.9	3.3	0.3	7.2	
			pH	8.2	8.0	7.4	8.2	8.2	8.2	7.5	8.4	8.1	8.7	8.3	8.4	
			電気伝導率 (mS/m)	13	12	15	12	15	13	15	13	16	15	15	15	

・地点番号は図 2-1-2-1 を参照。

表 2-1-4-2 (3) 調査結果 (地表水)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度													
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
F-09	相模 原市 緑区	仲沢川 (支流)	流量 (m ³ /min)	0.02	0.01	0.01	0.04	0.001	0.01	0 [*]	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
			水温 (°C)	14.2	14.9	18.2	19.0	22.8	20.8	16.2	11.4	8.3	7.4	5.3	9.1		
			pH	7.8	7.6	7.8	7.8	7.7	7.8	8.1	8.2	8.1	8.3	8.3	8.2		
			電気伝導率 (mS/m)	12	14	13	13	13	11	14	13	13	13	13	13		
F-10		相模 原市 緑区	道志川 (支流)	流量 (m ³ /min)	0.08	0.12	0.09	0.43	0.01	0.10	0.02	0.03	0.01	0.01	0 [*]	0.02	
				水温 (°C)	12.0	13.0	18.5	20.0	21.5	21.9	16.6	10.3	5.9	3.4	2.6	7.3	
				pH	7.9	7.6	7.4	8.1	8.1	8.4	7.6	7.6	7.8	8.6	8.4	8.6	
				電気伝導率 (mS/m)	9.3	9.1	12	9.1	12	11	12	11	12	11	11	10	
F-11			相模 原市 緑区	綱子川 (支流)	流量 (m ³ /min)	0.03	0.03	0.02	0.08	0 [*]	0.02	0.01	0.01	0 [*]	0 [*]	0 [*]	0.01
					水温 (°C)	12.9	13.2	19.0	20.0	20.7	26.5	16.0	11.6	9.9	7.9	6.7	8.3
					pH	8.5	7.9	7.2	8.2	8.1	8.0	8.3	8.3	8.1	7.9	8.1	8.5
					電気伝導率 (mS/m)	11	10	12	7.7	11	11	13	10	11	12	11	11

・地点番号は図 2-1-2-1 を参照。

※確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

測定方法：容器法、流速計測法

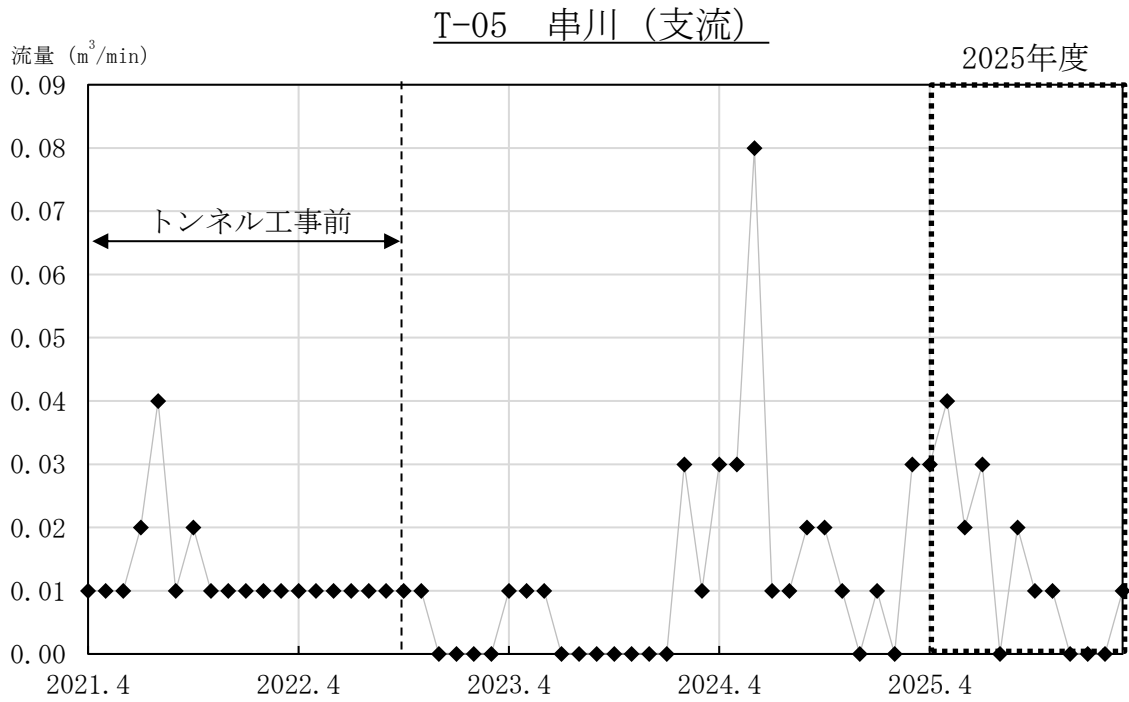
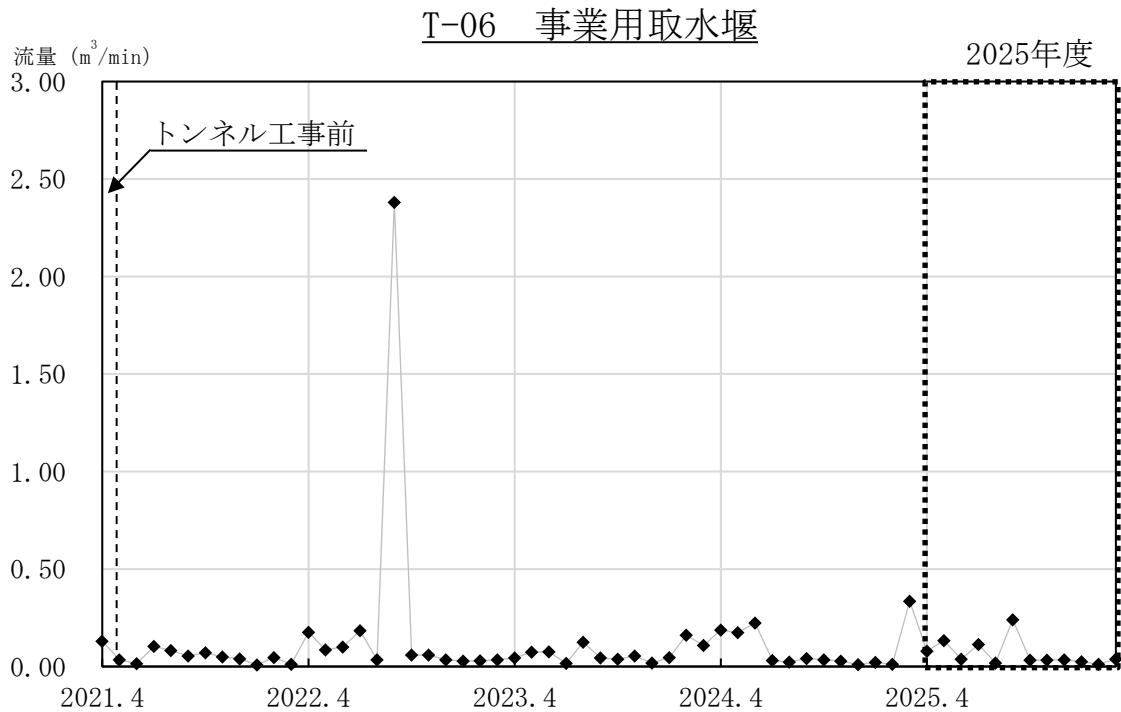


図 2-1-4-2 (1) 地表水の流量の調査結果 (T-05 串川 (支流))

測定方法：容器法、流速計測法



・2022年度9月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-2 (2) 地表水の流量の調査結果 (T-06 事業用取水堰)

測定方法：容器法

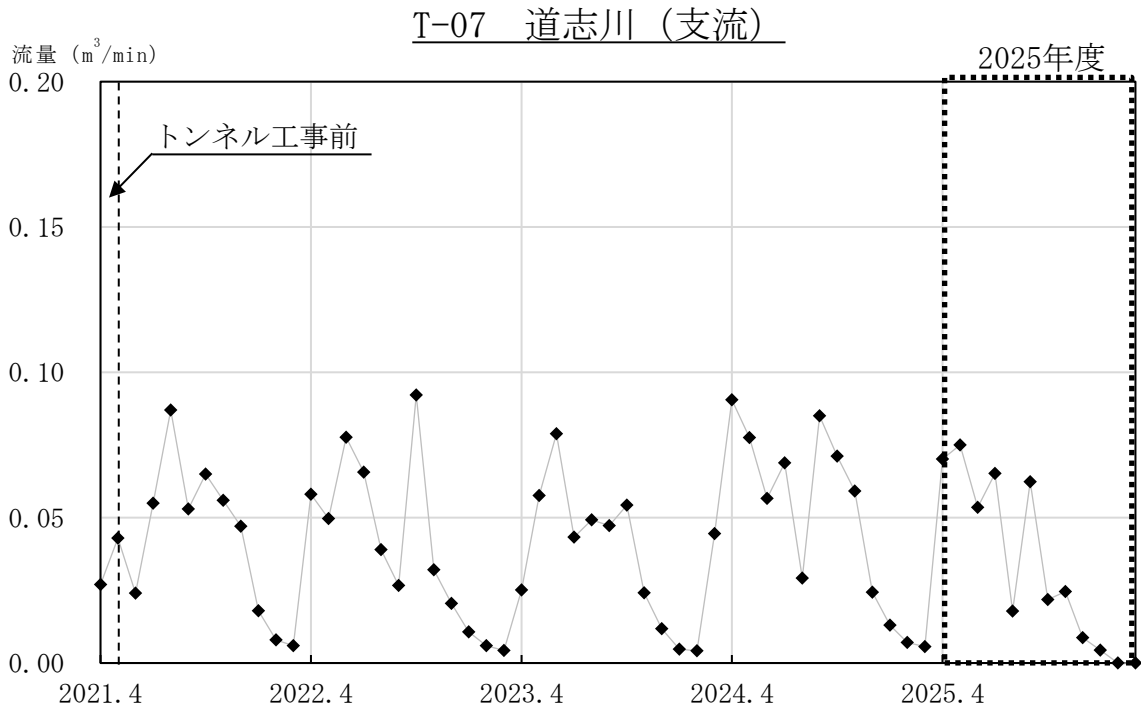
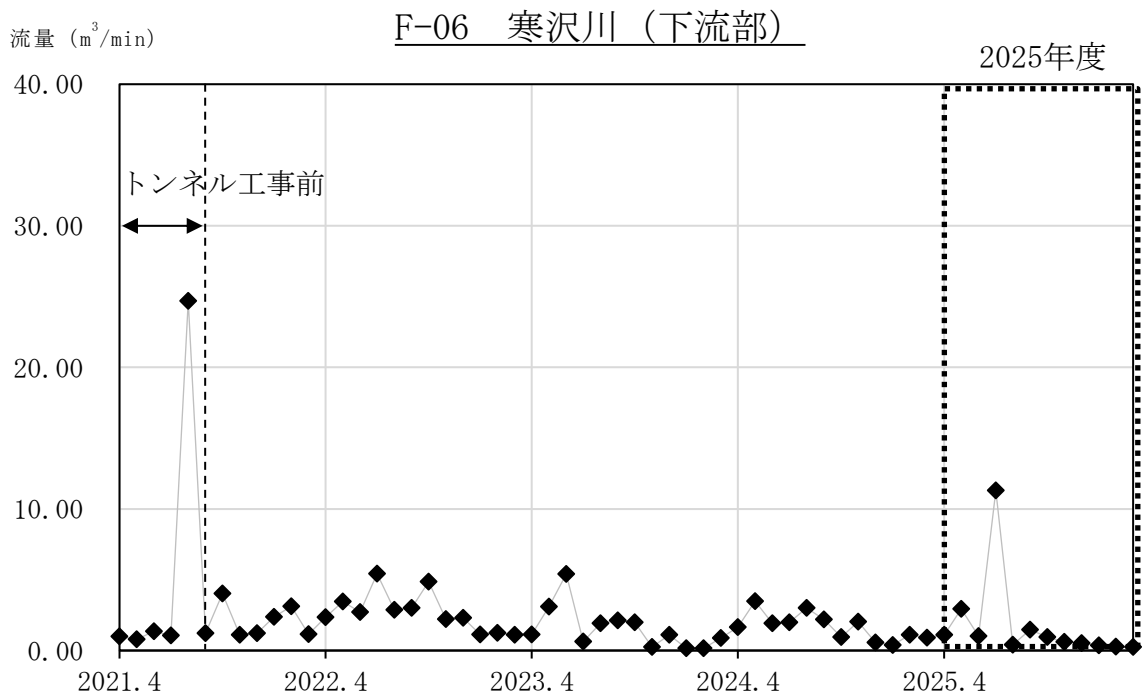


図 2-1-4-2 (3) 地表水の流量の調査結果
(T-07 道志川 (支流))

測定方法：流速計測法



・2021年度8月期、2025年度7月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-2 (4) 地表水の流量の調査結果
(F-06 寒沢川 (下流部))

測定方法：容器法

F-07 道志川（支流）

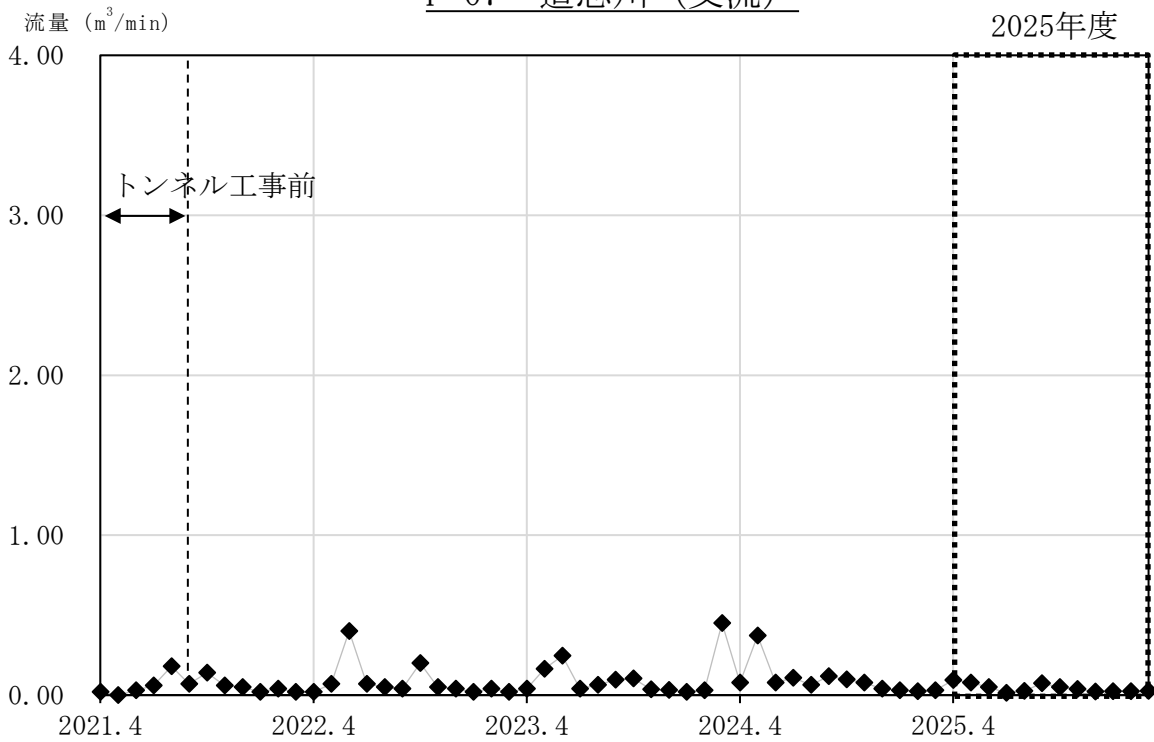
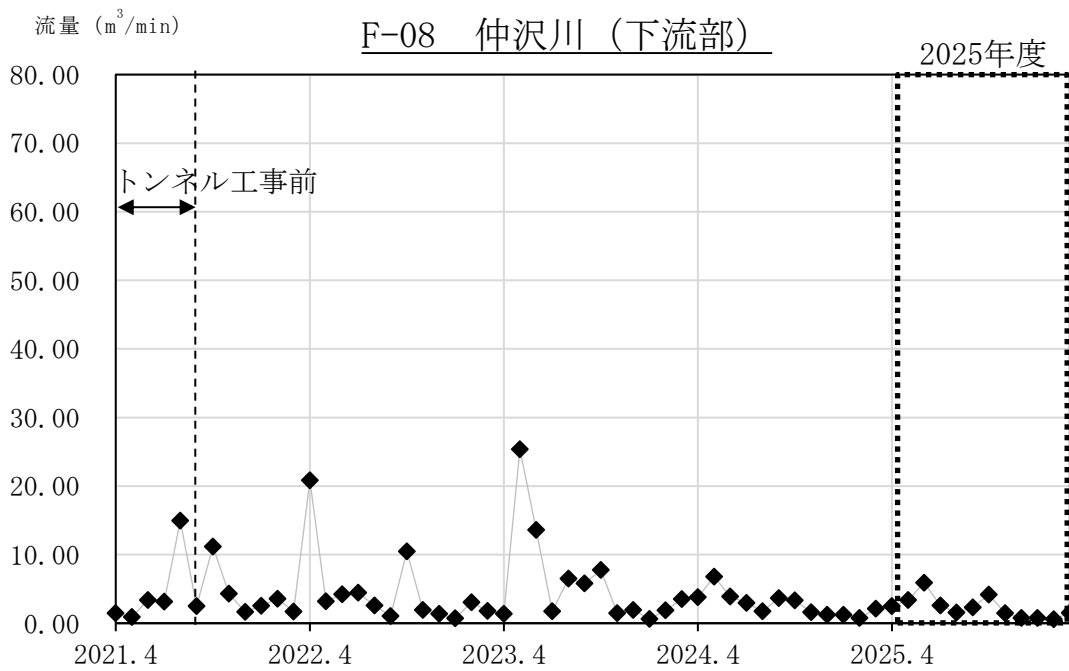


図 2-1-4-2 (5) 地表水の流量の調査結果
(F-07 道志川（支流）)

測定方法：流速計速法

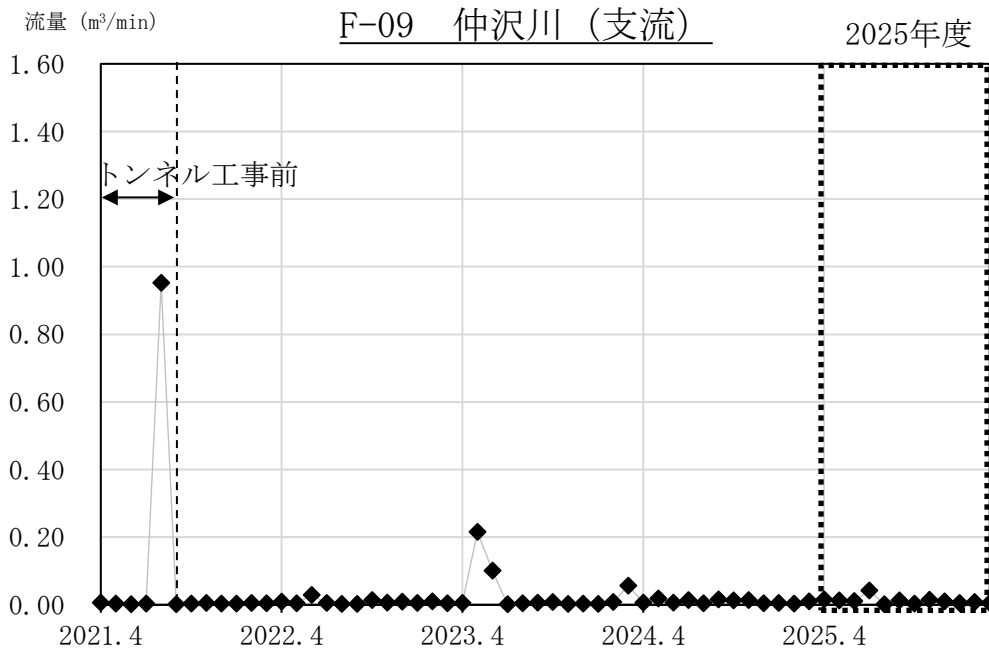
F-08 仲沢川（下流部）



・2021年度8月期、2022年度4月期、10月期、2023年度5月～6月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-2 (6) 地表水の流量の調査結果
(F-08 仲沢川（下流部）)

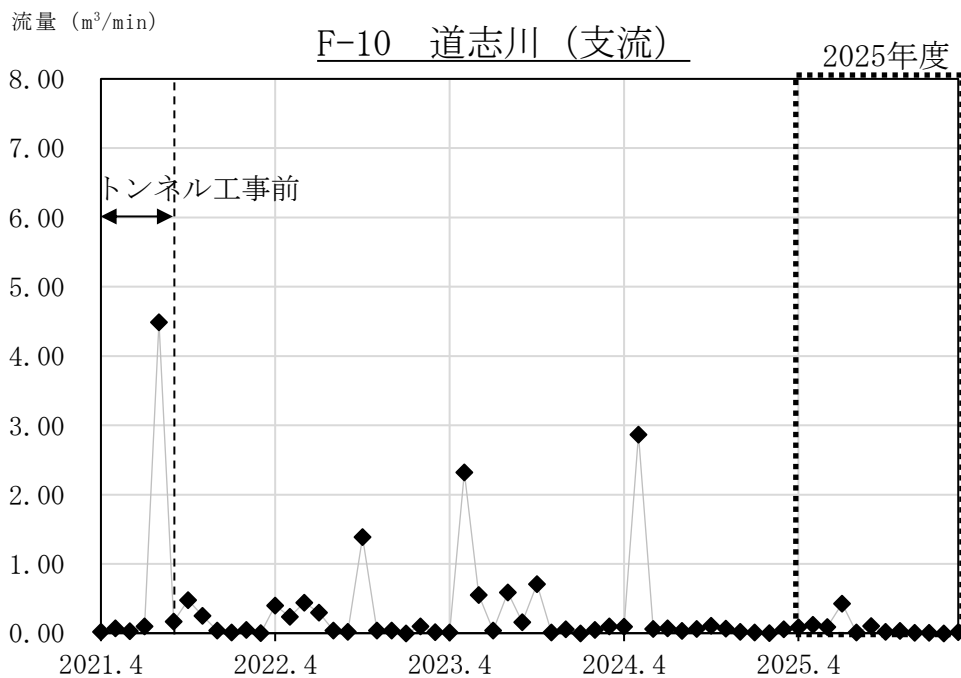
測定方法：容器法、流速計測法



・2021年度8月期、2023年度5月～6月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-2 (7) 地表水の流量の調査結果
(F-09 仲沢川 (支流))

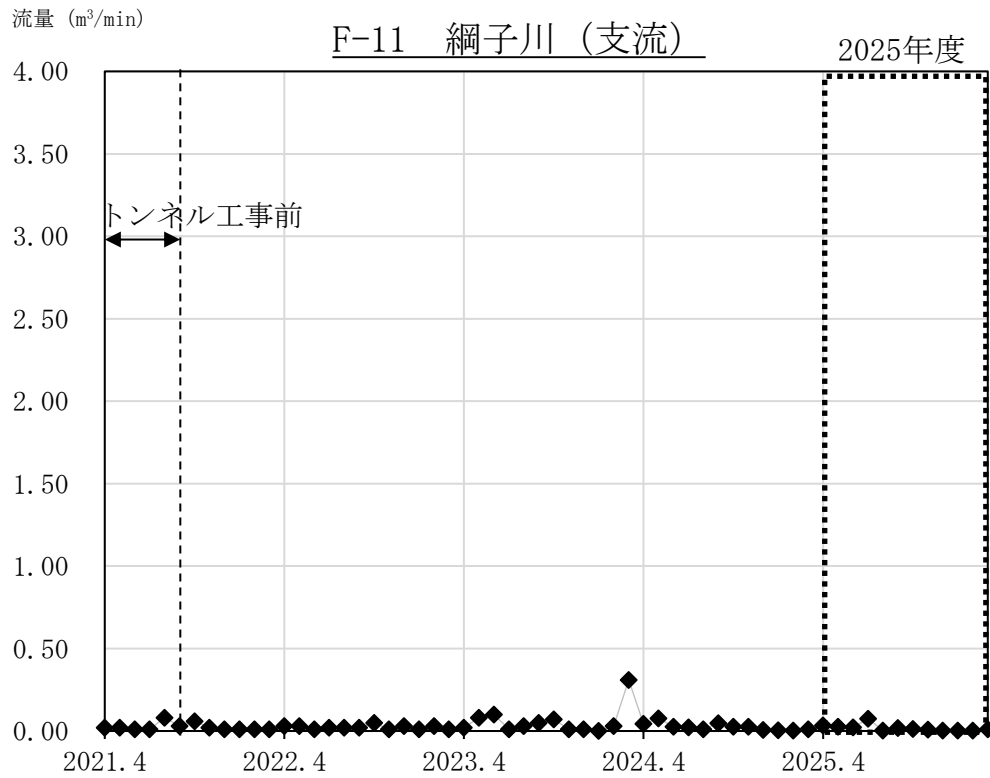
測定方法：容器法、流速計測法



・2021年度8月期、2022年度10月期、2023年度5月期、2024年度5月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-2 (8) 地表水の流量の調査結果
(F-10 道志川 (支流))

測定方法：容器法、流速計測法



・2023年度3月期は、まとまった降雨があった。

図 2-1-4-2 (9) 地表水の流量の調査結果
(F-11 綱子川（支流）)

2-2 動物、生態系

2-2-1 希少猛禽類の生息状況

事後調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、工事中における事後調査を実施した。なお、2025年度に完了した繁殖期の調査結果を記載した。

(1) 調査項目

オオタカ（小倉ペア）、オオタカ（長竹ペア）、クマタカ（菅井ペア）、ノスリ（青山Aペア）、ノスリ（長竹ペア）、オオタカ（鳥屋Aペア）、オオタカ（鳥屋Bペア）、ノスリ（鳥屋Aペア）、ノスリ（鳥屋Bペア）及びハチクマ（鳥屋ペア）の生息状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は表 2-2-1 に示すとおりである。

表 2-2-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事中の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

(3) 調査地点

現地調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように工事施工ヤードなど事業地周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

(4) 調査期間

調査期間は表 2-2-2 に示すとおりである。

表 2-2-2 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	2024年12月23日～2024年12月25日 2025年1月15日～2025年1月17日 2025年2月17日～2025年2月19日 2025年3月17日～2025年3月19日 2025年4月14日～2025年4月16日 2025年5月9日、21日～23日、26日、27日 2025年6月2日、3日、9日～11日、30日 2025年7月7日～2025年7月10日、14日、28日 2025年8月4日～2025年8月6日、22日、29日

(5) 調査結果

調査結果は表 2-2-3 に示すとおりである。

表 2-2-3 (1) 希少猛禽類の確認状況 (2024年12月～2025年8月)

ペア名	確認状況
オオタカ (小倉ペア)	オオタカ (小倉ペア) は、現地調査により、飛翔等を確認したが、調査範囲内において繁殖は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
オオタカ (長竹ペア)	オオタカ (長竹ペア) は、現地調査により、2021年に繁殖を確認した営巣地において、抱卵等が確認されたが、その後の調査では雛の姿は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
オオタカ (鳥屋Aペア)	オオタカ (鳥屋Aペア) は、現地調査により、飛翔等を確認したが、調査範囲内において繁殖は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
オオタカ (鳥屋Bペア)	オオタカ (鳥屋Bペア) は、現地調査により、新規巣にて繁殖を確認した。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
クマタカ (菅井ペア)	クマタカ (菅井ペア) は、現地調査により、飛翔等を確認したが、調査範囲内において繁殖は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

表 2-2-3 (2) 希少猛禽類の確認状況 (2024 年 12 月～2025 年 8 月)

ペア名	確認状況
ノスリ (青山 A ペア)	ノスリ (青山 A ペア) は、現地調査により、2017 年～2023 年に繁殖を確認していた営巣地への成鳥の出入り等を確認したが、繁殖は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ (長竹ペア)	ノスリ (長竹ペア) は、現地調査により、2024 年に繁殖を確認していた営巣地で、2025 年も繁殖を確認した。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ (鳥屋 A ペア)	ノスリ (鳥屋 A ペア) は、現地調査により、2024 年に繁殖を確認していた営巣地への成鳥の出入り等を確認したが、繁殖は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ (鳥屋 B ペア)	ノスリ (鳥屋 B ペア) は、現地調査により、2023 年及び 2024 年に繁殖を確認していた営巣地で、2025 年も繁殖を確認した。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ハチクマ (鳥屋ペア)	ハチクマ (鳥屋ペア) は、現地調査により、2023 年に繁殖を確認していた営巣地で、2025 年も繁殖を確認した。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

2-2-2 移設した動物の生息状況

重要な種の移設の効果に不確実性があることから、移設を実施した動物の生息状況の事後調査を実施した。

(1) 調査方法

移設先の水域を現地調査（任意観察）することにより、移設を実施した動物の生息状況を確認した。

(2) 調査地点

現地調査地点は、移設を実施した地点であり、対象は表 2-2-4 に示すとおりである。

表 2-2-4 移設を実施した動物

種名	科名	移設前の生息地	移設の実施箇所	移設の実施時期
アズマヒキガエル	ヒキガエル科	相模原市 緑区 鳥屋	相模原市 緑区 鳥屋	【自生個体の移設（幼生約12,000個体）】 2021年4月26日、27日、5月10日 【室内飼育及び飼育個体の移設（幼生約2,500個体）】 室内飼育期間： 2021年4月26日～5月19日 移設日： 2021年5月10日、14日、19日 【自生個体の再移設（幼生約4,000個体）】 2024年4月23日、5月1日

(3) 調査期間

移設後の生息状況の現地調査は、表 2-2-5 に示す時期に実施した。なお、移設後の生息状況調査の調査期間は、移設後 1 か月以内に 1 回、それ以降は移設後 3 年まで繁殖期に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて設定した。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、調査期間の見直しを検討する。



表 2-2-5 調査期間

種名	調査箇所	調査日
アズマヒキガエル	相模原市緑区鳥屋	2025年4月28日

(4) 移設後の生息状況

アズマヒキガエル

移設後の生息状況の現地調査（2025年4月28日）では、移設地において、移設個体の生息状況の確認を行った。約2,000個体の幼生を確認することができた。移設後の状況は写真2-2-2-1に示すとおりである。今後も環境の変化や対象種の生息状況を把握し、必要により、状況に応じた追加的な措置を行い、対象種の保全に努める。

	 <p>生息数：約2,000個体</p>
<p>写真2-2-2-1 (1) 移設地の状況 (2025年4月28日)</p>	<p>写真2-2-2-1 (2) 移設後の生息状況 (2025年4月28日)</p>

2-3 植物

重要な種の移植の効果に不確実性があることから、移植を実施した植物の生育状況の事後調査を実施した。

2-3-1 調査項目

調査項目は、移植した植物の生育状況とした。

2-3-2 調査方法

調査方法は、現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

2-3-3 調査地点

調査地点は、移植を実施した地点とし、対象は表 2-3-1 に示すとおりである。

表 2-3-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
コヒロハハナヤスリ	ハナヤスリ科	相模原市緑区 青山	相模原市緑区 青山	2022年10月19日
カヤラン	ラン科	相模原市緑区 青山	相模原市緑区 青山	2025年12月12日
		相模原市緑区 牧野	相模原市緑区 牧野	
エビネ	ラン科	相模原市緑区 青山	相模原市緑区 青山	2025年12月12日
		相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2022年11月14日、 15日、17日
ミズニラ	ミズニラ科	相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2021年8月10日、 17日
コマツカサススキ	カヤツリグサ科	相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2021年11月11日、 12日
キンラン	ラン科	相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2025年10月16日
ヒメノヤガラ	ラン科	相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2020年11月30日
クロムヨウラン	ラン科	相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2020年11月30日

2-3-4 調査期間

移植後の生育状況の調査期間は、表 2-3-2 に示すとおりである。なお、移植後の生育状況調査は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は移植後 3 年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等の技術的助言を踏まえて設定した。また、調査結果によって、専門家等の技術的助言を踏まえ、必要により調査期間の再検討を行う。

表 2-3-2 生育状況の現地調査の時期

種名	調査箇所	調査日
コヒロハハナヤスリ	相模原市緑区青山	2025 年 10 月 10 日
カヤラン	相模原市緑区青山	2025 年 12 月 19 日、2026 年 1 月 9 日
	相模原市緑区牧野	
エビネ	相模原市緑区青山	2025 年 12 月 18 日、2026 年 1 月 8 日
	相模原市緑区鳥屋	2025 年 10 月 9 日
ミズニラ	相模原市緑区鳥屋	2025 年 8 月 4 日
コマツカサススキ	相模原市緑区鳥屋	2025 年 11 月 7 日
キンラン	相模原市緑区鳥屋	2025 年 10 月 23 日、11 月 13 日
ヒメノヤガラ	相模原市緑区鳥屋	2025 年 7 月 31 日
クロムヨウラン	相模原市緑区鳥屋	2025 年 7 月 31 日

2-3-5 移植後の生育状況

(1) コヒロハハナヤスリ

青山地区における2025年度の生育期の調査(10月10日)においては、14個体の生育を確認し、うち2個体で孢子葉が見られた。株数の減少はあるものの、残った個体の生育状況は良好であることを確認した。(移植から3年確認したため、事後調査は終了する。)

確認状況を写真2-3-5-1に示す。



写真 2-3-5-1 移植後の生育状況
(2025年10月10日)

(2) カヤラン

青山地区における2025年度の移植後10日以内の調査（12月19日）においては、2個体の生育を確認した。移植後1か月以内の調査（1月9日）においても、2個体の生育を確認した。いずれの調査日も、移植したすべての個体が確認され、生育状況は良好であることを確認した。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

確認状況を写真2-3-5-2に示す。



写真 2-3-5-2 移植後の生育状況
(2025年12月19日、2026年1月9日)

牧野地区における2025年度の移植後10日以内の調査（12月19日）においては、1個体の生育を確認した。移植後1か月以内の調査（1月9日）においても、1個体の生育を確認した。いずれの調査日も、移植したすべての個体が確認され、生育状況は良好であることを確認した。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

確認状況を写真2-3-5-3に示す。






写真 2-3-5-3 移植後の生育状況
(2025年12月19日、2026年1月9日)

(3) エビネ




青山地区における2025年度の移植後10日以内の調査（12月18日）においては、移植地A、移植地Bともに6個体の生育を確認した。移植後1か月以内の調査（1月8日）においても、移植地A、移植地Bともに6個体の生育を確認した。いずれも、移植したすべての個体を確認され、生育状況は良好であることを確認した。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

確認状況を写真2-3-5-4に示す。

移植地A	移植地B
 <p data-bbox="260 1050 726 1122">写真 2-3-5-4(1) 移植後の生育状況 (2025年12月18日)</p>	 <p data-bbox="869 1050 1335 1122">写真 2-3-5-4(2) 移植後の生育状況 (2025年12月18日)</p>
 <p data-bbox="260 1525 726 1597">写真 2-3-5-4(3) 移植後の生育状況 (2026年1月8日)</p>	 <p data-bbox="869 1525 1335 1597">写真 2-3-5-4(4) 移植後の生育状況 (2026年1月8日)</p>

鳥屋地区における2025年度の結実期の調査（10月9日）においては、移植地Aでは30個体の生育を確認した。移植地Bでは17個体の生育を確認した。移植地Cでは59個体の生育を確認した。株数の減少や食害及び動物による掘り起こしはあるものの、残った個体の生育状況は良好であることを確認した。（移植から3年確認したため、事後調査は終了する。）

確認状況を写真2-3-5-5に示す。

移植地A	移植地B
 <p data-bbox="256 947 726 1014">写真 2-3-5-5(1) 移植後の生育状況 (2025年10月9日)</p>	 <p data-bbox="868 947 1353 1014">写真 2-3-5-5(2) 移植後の生育状況 (2025年10月9日)</p>
移植地C	
 <p data-bbox="256 1451 726 1518">写真 2-3-5-5(3) 移植後の生育状況 (2025年10月9日)</p>	

(4) ミズニラ

鳥屋地区における2025年度の生育期の調査（8月4日）においては、11個体の生育を確認した。2021年の移植以降、周辺に生育するヨシ等の被圧によって生育不良が発生し個体数が減少したと考えている。生育環境のメンテナンスを行い、調査を継続したところ、2024年度は4個体の生育を確認したが、2025年度は11個体と増加していることを確認した。現在の移植先が改変範囲に含まれることとなったため、今後、他の適切な地点が整備され次第、再移植することを考えている。このため移植から3年以上確認したが、今後も事後調査を継続する。

確認状況を写真2-3-5-6に示す。



写真 2-3-5-6 移植後の生育状況
(2025年8月4日)

(5) コマツカサスキ

鳥屋地区における2025年度の結実期の調査（11月7日）においては、6個体の生育を確認した。2021年の移植以降、周辺のヨシ等に被圧され個体数が減少していた。生育環境のメンテナンスを行い、調査を継続したところ、2024年度は3個体の生育を確認したが、2025年度は6個体と増加していることを確認した。現在の移植先が改変範囲に含まれることとなったため、今後、他の適切な地点が整備され次第、再移植することを考えている。このため移植から3年以上確認したが、今後も事後調査を継続する。

確認状況を写真2-3-5-7に示す。



写真 2-3-5-7 移植後の生育状況
(2025年11月7日)

(6) キンラン

鳥屋地区における2025年度の移植後10日以内の調査（10月23日）においては、地上部は移植時に既に地上部が立ち枯れしていたことから確認できなかった。移植後1か月以内の調査（11月13日）においても、同様に地上部を確認できなかった。移植時に、周囲の土ごと移植を行ったため、今後生育の見込みがあると考えている。今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

確認状況を写真2-3-5-8に示す。



写真 2-3-5-8 移植地の状況
(2025年10月23日、11月13日)

(7) ヒメノヤガラ

鳥屋地区における2025年度の開花期の調査（7月31日）においては、地上部は確認できなかった。周辺環境に大きな変化は無く、動物による掘り起こしもなかった。そのため根は残っている可能性が高いと考えている。移植から3年以上確認したが、専門家の技術的助言を踏まえて、今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

確認状況を写真2-3-5-9に示す。



写真 2-3-5-9 移植地の状況
(2025年7月31日)

(8) クロムヨウラン

鳥屋地区における2025年度の開花期の調査（7月31日）においては、地上部は確認できなかった。周辺環境に大きな変化は無く、動物による掘り起こしもなかった。2024年度調査では1個体生育を確認できていることから、根は残っている可能性が高いと考えている。移植から3年以上確認したが、専門家の技術的助言を踏まえて、今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

確認状況を写真2-3-5-10に示す。



写真 2-3-5-10 移植地の状況

(2025年7月31日)

3 モニタリング

2025年度は、大気質、水質、地下水、水資源（非常口（都市部）及び地下駅、山岳トンネル）、地盤沈下、土壌汚染、安全（交通）について、モニタリングを実施した。

3-1 大気質

資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-1-1 調査項目

調査項目は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん等とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目	調査方法	測定高さ
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和 53 年 7 月 11 日、環境庁告示第 38 号）に定める測定方法	地上 1.5m
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和 48 年 5 月 8 日、環境庁告示第 25 号）に定める測定方法	地上 3.0m
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解 2020」（2020 年 3 月、日本薬学会編）に基づくダストジャー法	地上 1.5m

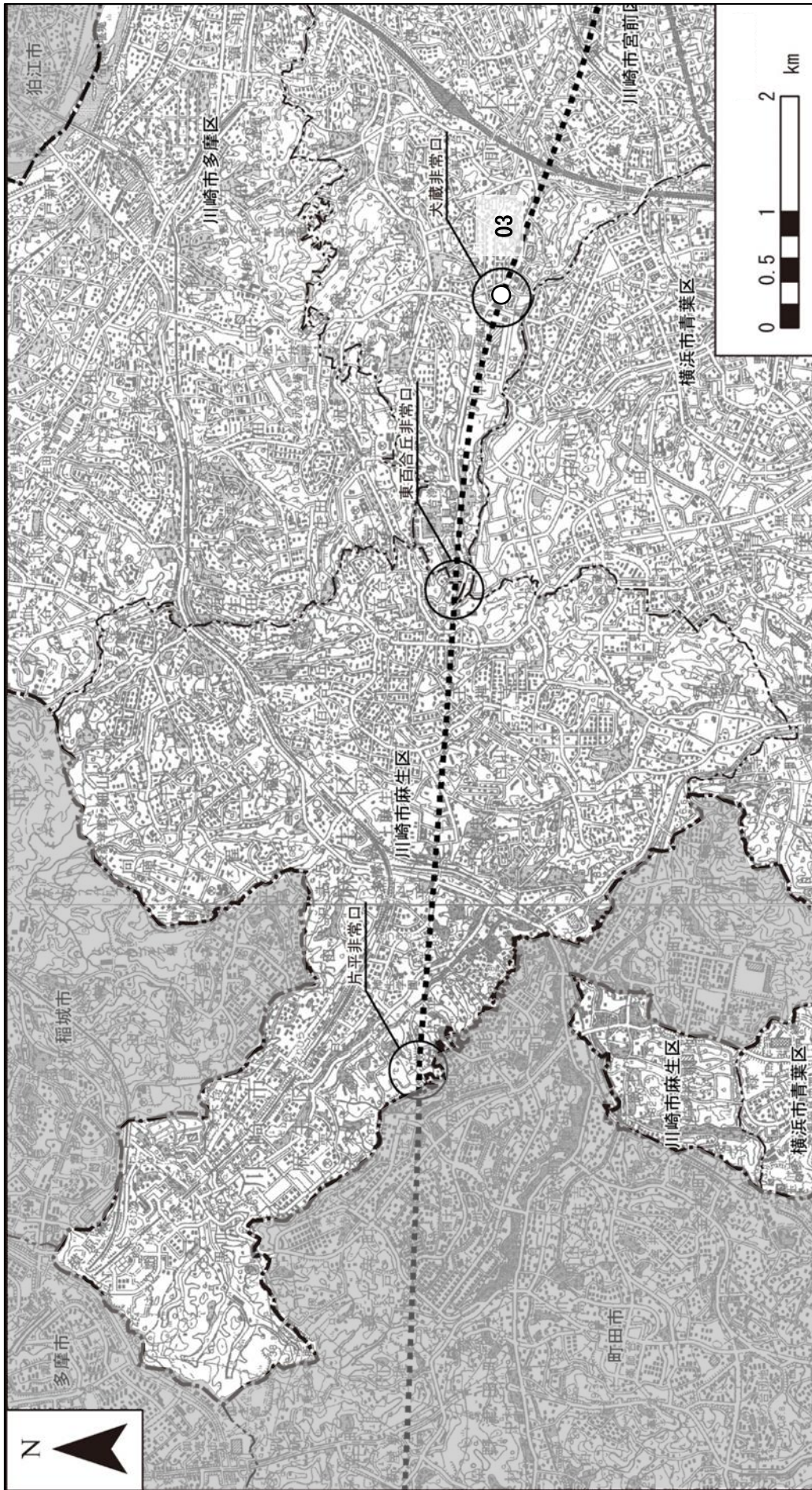
3-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-1-3-1 及び図 3-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

調査項目	地点 番号※	調査地点	区市名	所在地	実施箇所
資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	03	沿道 03	川崎市 宮前区	犬蔵	犬蔵非常口

※ 地点番号は、評価書【神奈川県】に記載している地点番号と同じである。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)

- 都県境
- 市区町村境

○ 調査地点(資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)

図 3-1-3-1(1) 調査地点(大気質)

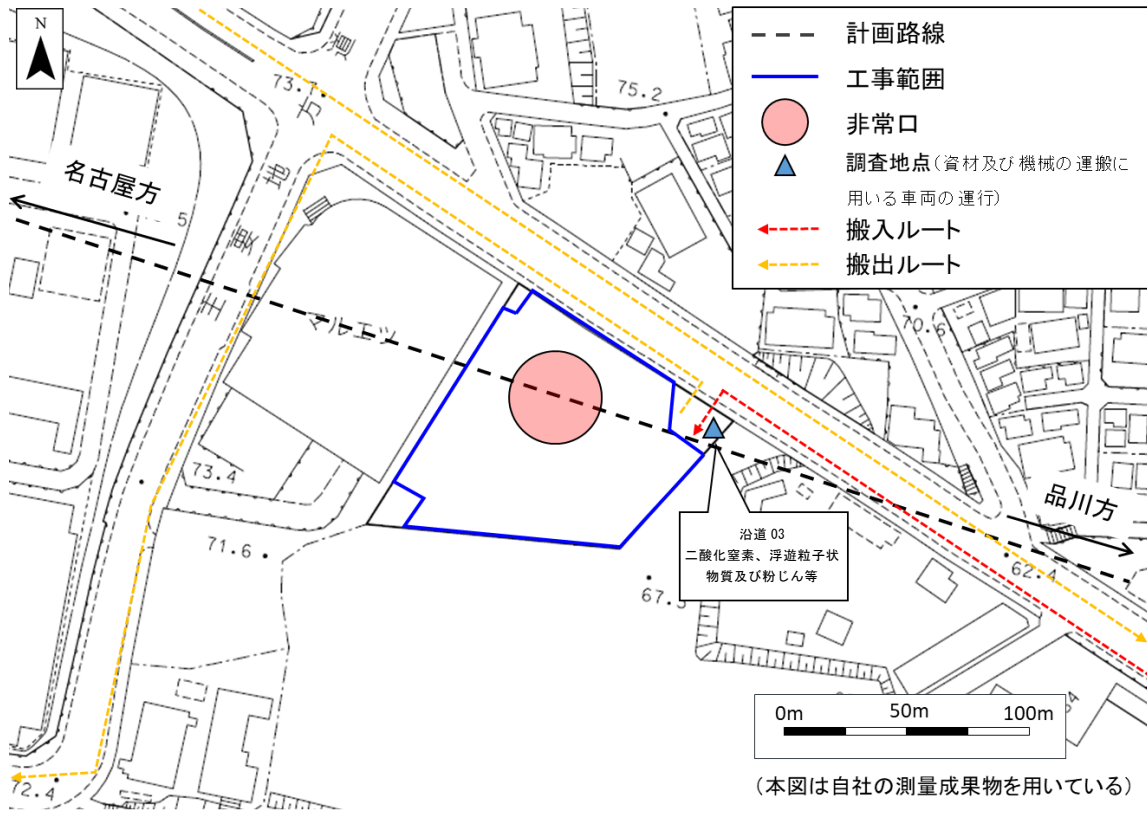


図 3-1-3-1(2) 調査地点 (大気質) (03 犬蔵)

3-1-4 調査期間

調査期間は、工事期間全体の中で工事内容を勘案し、調査項目ごとに工事による影響が最大となる時期を選定しており、表 3-1-4-1 に示すとおりである。調査は四季調査を実施するものとし、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については各季 7 日間連続測定を、粉じん等については各季 1 か月間連続測定を行った。なお、地点番号 03 の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等については、2024 年度からの調査結果を以って四季調査が完了するため、2024 年度分を再掲する。

表 3-1-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の 主な工事内容	備考
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行 (二酸化窒素及び 浮遊粒子状物質)	03	冬季	2025 年 2 月 12 日～ 2025 年 2 月 18 日	躯体構築工(犬蔵非常口) 掘進工 (東百合丘工区)	2024 年度 調査
		春季	2025 年 5 月 8 日～ 2025 年 5 月 14 日		今回 調査
		夏季	2025 年 7 月 1 日～ 2025 年 7 月 7 日		
		秋季	2025 年 10 月 23 日～ 2025 年 10 月 29 日		
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行 (粉じん等)	03	冬季	2025 年 1 月 16 日～ 2025 年 2 月 15 日	躯体構築工(犬蔵非常口) 掘進工 (東百合丘工区)	2024 年度 調査
		春季	2025 年 4 月 16 日～ 2025 年 5 月 29 日※		今回 調査
		夏季	2025 年 6 月 18 日～ 2025 年 7 月 18 日		
		秋季	2025 年 10 月 22 日～ 2025 年 11 月 21 日		

※ 2025 年 4 月 26 日～2025 年 5 月 7 日は休工期間のため、調査期間から除外した。

3-1-5 調査結果

a) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。

地点番号 03 における二酸化窒素は、年間（四季）を通じた日平均値の最高値は 0.020ppm で、基準の値を下回っている。また、浮遊粒子状物質は、年間（四季）を通じた日平均値の最高値は 0.059 mg/m³ で、基準の値を下回っている。

また、降下ばいじん量については、調査地点 03 で最大 7.7t/km²/月であった。

表 3-1-5-1 (1) 調査結果（二酸化窒素）

地点 番号	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた 日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の 日数とその割合		基準*
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
03	28	672	0.013	0.043	0.020	0	0	0	0	日平均値の 年間 98%値が 0.06ppm 以下

※ 環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (2) 調査結果（浮遊粒子状物質）

地点 番号	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	1時間値0.20mg/m ³ を超えた時間数と その割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数とその割合		基準*
	日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	時間	%	日	%	
03	28	672	0.014	0.078	0.059	0	0	0	0	日平均値の 年間 2%除外値が 0.10mg/m ³ 以下

※ 環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (3) 調査結果（降下ばいじん量）※1

地点 番号	春季	夏季	秋季	冬季	指標値※2
	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
03	4.1	4.4	5.1	7.7	20t/km ² /月

※1 調査結果は、バックグラウンド濃度と資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与分の合計となる。

※2 スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自84号）を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、環境影響評価書では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月（1993年～1997年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた 10t/km²/月を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

3-2 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事前及び工事中のモニタリングを実施した。

3-2-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日、環境庁告示第59号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日、環境庁告示第59号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）」（令和5年3月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

3-2-3 調査地点

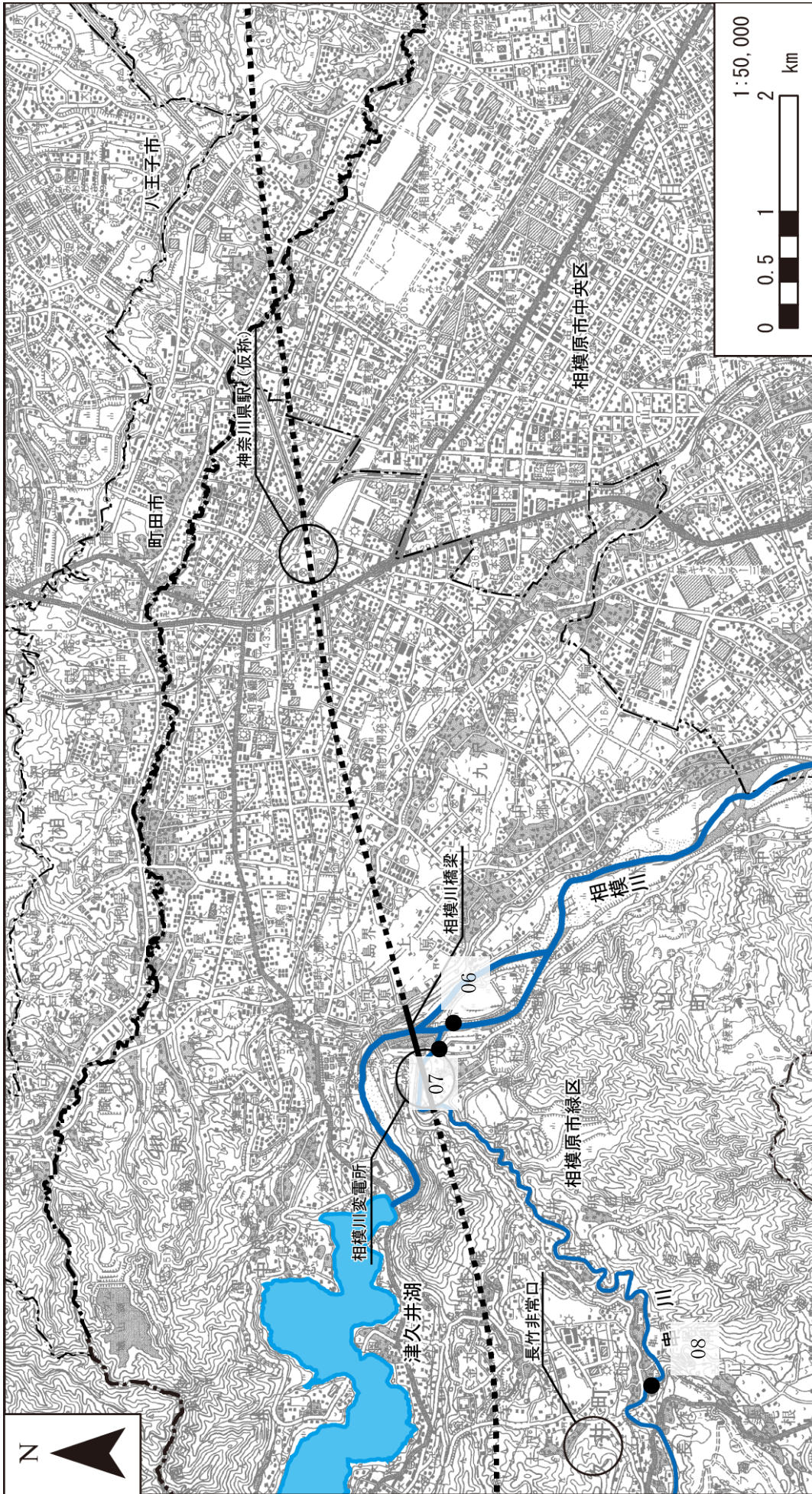
調査地点は、表 3-2-3-1 及び図 3-2-3-1 に示すとおりである。

表 3-2-3-1 調査地点

地点番号	市区名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目	
06	相模原市 緑区	相模川	相模川	相模川橋りょう	浮遊物質量 (SS)、水温、 水素イオン濃度 (pH)、 自然由来の重金属等	
07			串川	相模川変電所 津久井トンネル東坑口		
08			串川	津久井トンネル東坑口 長竹非常口		
09			道志川	大岩下非常口		
10			串川支川	関東車両基地		
11 ^{※1}			11-1			串川
			11-2			谷戸沢
			11-3	串川		
12 ^{※2}			道志川	藤野トンネル 新戸非常口		
13 ^{※2}			大洞沢	藤野トンネル 大洞非常口		

※1 地点番号 11 は、工事計画の深度化に伴い調査地点を増やした河川を示す。

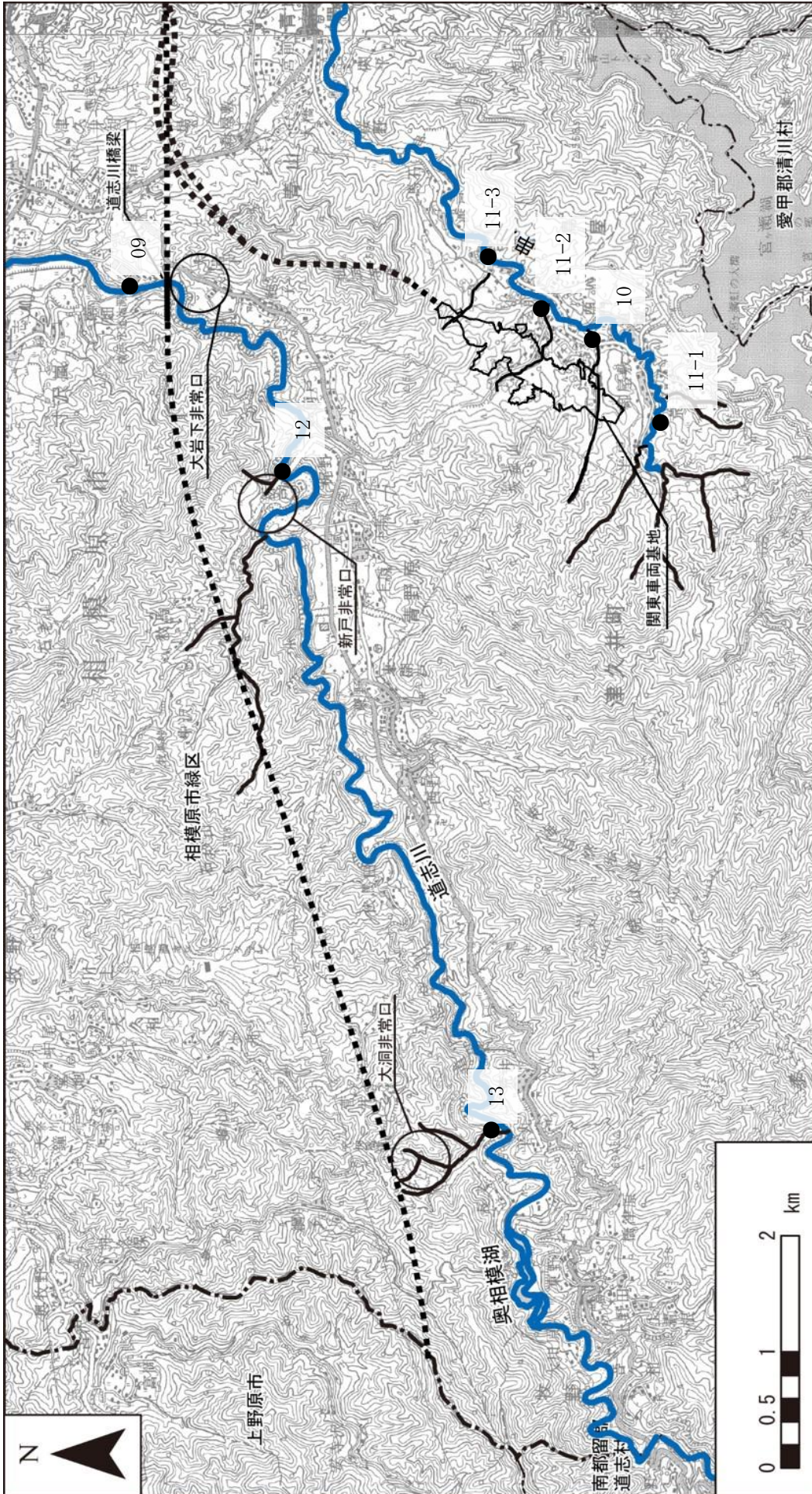
※2 地点番号 12、13 は、非常口位置変更後に対象となった河川を示す。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境
- 調査地点
- 非常口トンネル(斜坑)
- 湖沿 A 湖沿 A
- 湖沿 B 湖沿 B
- 湖沿 C 湖沿 C
- 湖沿 D 湖沿 D
- 指定なし 指定なし

図 3-2-3-1 (1) 調査地点(水質)



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境
- 調査地点
- 非常口トンネル(斜坑)
- 湖沼 A
- 湖沼 B
- 湖沼 C
- 湖沼 D
- 類型 A
- 類型 B
- 類型 C
- 類型 D
- 指定なし

図 3-2-3-1 (2) 調査地点 (水質)

3-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-2-4-1 に示すとおりである。

表 3-2-4-1 調査期間

地点番号	対象河川	実施時期の種別	調査日	調査頻度	
06	相模川	工事中	2026年1月8日	年1回	
07	串川	工事中	2026年1月8日	年1回	
08	串川	工事中	2026年1月8日	年1回	
09	道志川	工事中	2026年1月9日	年1回	
10	串川支川	工事中	2026年1月7日	年1回	
11	11-1	串川	工事中	2026年1月7日	年1回
	11-2	谷戸沢	工事中	2026年1月7日	年1回
	11-3	串川	工事前	2026年1月7日	1回
12	道志川	工事前	2026年1月9日	1回	
13	大洞沢	工事中	2026年1月7日	年1回	

3-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-2-5-1 に示すとおりである。各地点の調査項目は、いずれも環境基準等に適合していた。

表 3-2-5-1 (1) 調査結果

地点番号	06 (工事中)	07 (工事中)	08 (工事中)	09 (工事中)	10 (工事中)	環境基準等 ^{※2}	
対象河川	相模川	串川	串川	道志川	串川支川		
類型指定 ^{※1}	A	A	A	A	(A) ^{※1}		
流量 (m ³ /s)	1.3×10	3.7×10 ⁻²	1.6×10 ⁻¹	5.5	2.0×10 ⁻²	—	
浮遊物質 量 (SS) (mg/L)	6	<1	<1	<1	<1	A : 25mg/L 以下	
水温 (°C)	7.8	2.9	11.4	7.6	7.0	—	
気象の状況	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	—	
土質の状況	石、礫、砂	石、礫、砂	石、礫、砂	石、礫、砂	石、礫、砂	—	
水素イオン濃度 (pH)	7.3	7.6	7.7	7.5	7.6	A : 6.5 以上 8.5 以下	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

・「<」は未満を示す。

※1 類型指定のない河川については、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

※2 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

表 3-2-5-1 (2) 調査結果

地点番号	11-1 (工事中)	11-2 (工事中)	11-3 (工事前)	12 (工事前)	13 (工事中)	環境基準等※2	
対象河川	串川	谷戸沢	串川	道志川	大洞沢		
類型指定※1	A	(A) ※1	A	A	(A) ※1		
流量 (m ³ /s)	1.0×10 ⁻³	1.0×10 ⁻²	3.0×10 ⁻²	2.4	6.1×10 ⁻³	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	< 1	< 1	< 1	< 1	< 1	A:25mg/L 以下	
水温 (°C)	8.2	6.0	6.0	3.5	6.5	—	
気象の状況	曇り	曇り	曇り	晴れ	曇り	—	
土質の状況	石、礫、砂	石、礫、砂	石、礫、砂	石、礫、砂	岩盤、石、礫	—	
水素イオン濃度 (pH)	7.4	7.7	7.9	7.8	7.6	A: 6.5 以上 8.5 以下	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

・「<」は未満を示す。

※1 類型指定のない河川については、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

※2 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

なお、工事中における相模川橋りょうの工事施工ヤードからの工事排水の水質について、浮遊物質量、水温及び水素イオン濃度（pH）の測定を行っている。また、工事中における長竹非常口、津久井トンネル東坑口、大洞非常口における工事施工ヤードからの工事排水（トンネル湧水含む）の水質については、浮遊物質量、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等の測定を行っている。測定は定期的に行っているが、値は年間最大値（水素イオン濃度及び水温は年間最大・最小値）を記載した。

相模川橋りょうの測定結果は、浮遊物質量は 31mg/L 以下、水素イオン濃度は 6.0～8.5 であり、いずれも法令に定める排水基準等に適合していた。水温は 5.8～30.2℃である。

長竹非常口の測定結果は、浮遊物質量は 7mg/L 以下、水素イオン濃度は 6.5～8.1 であり、いずれも法令に定める排水基準に適合していた。水温は 3.0～28.0℃である。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.001mg/L 未満（「検出されないこと」に該当）、六価クロムは 0.012mg/L 以下、水銀は 0.0005mg/L 未満、セレンは 0.001mg/L 未満、鉛は 0.001mg/L 未満、ヒ素は 0.005mg/L 未満、ふっ素は 0.2mg/L 未満、ほう素は 0.1mg/L 以下であり、いずれも法令に定める排水基準に適合していた。

津久井トンネル東坑口の測定結果は、浮遊物質量は 3mg/L 以下、水素イオン濃度は 6.5～8.6 であり、いずれも法令に定める排水基準に適合していた。水温は 3.6～27.6℃である。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.0003mg/L 未満（「検出されないこと」に該当）、六価クロムは 0.01mg/L 以下、水銀は 0.0005mg/L 未満、セレンは 0.001mg/L 未満、鉛は 0.001mg/L 未満、ヒ素は 0.005mg/L 以下、ふっ素は 0.11mg/L 以下、ほう素は 0.1mg/L 未満であり、いずれも法令に定める排水基準に適合していた。

大洞非常口の測定結果は、浮遊物質量は 13.5mg/L 以下、水素イオン濃度は 7.0～7.8 であり、いずれも法令に定める排水基準に適合していた。水温は 1.0～25.0℃である。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.0003mg/L 未満（「検出されないこと」に該当）、六価クロムは 0.013mg/L 以下、水銀は 0.0005mg/L 未満、セレンは 0.003mg/L 以下、鉛は 0.001mg/L 未満、ヒ素は 0.001mg/L 未満、ふっ素は 0.11mg/L 以下、ほう素は 0.1mg/L 未満であり、いずれも法令に定める排水基準に適合していた。

3-3 地下水

地下水について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-3-1 調査項目

調査項目は、地下駅、非常口（都市部）付近の井戸の地下水の水位の状況とした。

3-3-2 調査方法

調査方法は、表 3-3-2-1 に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法

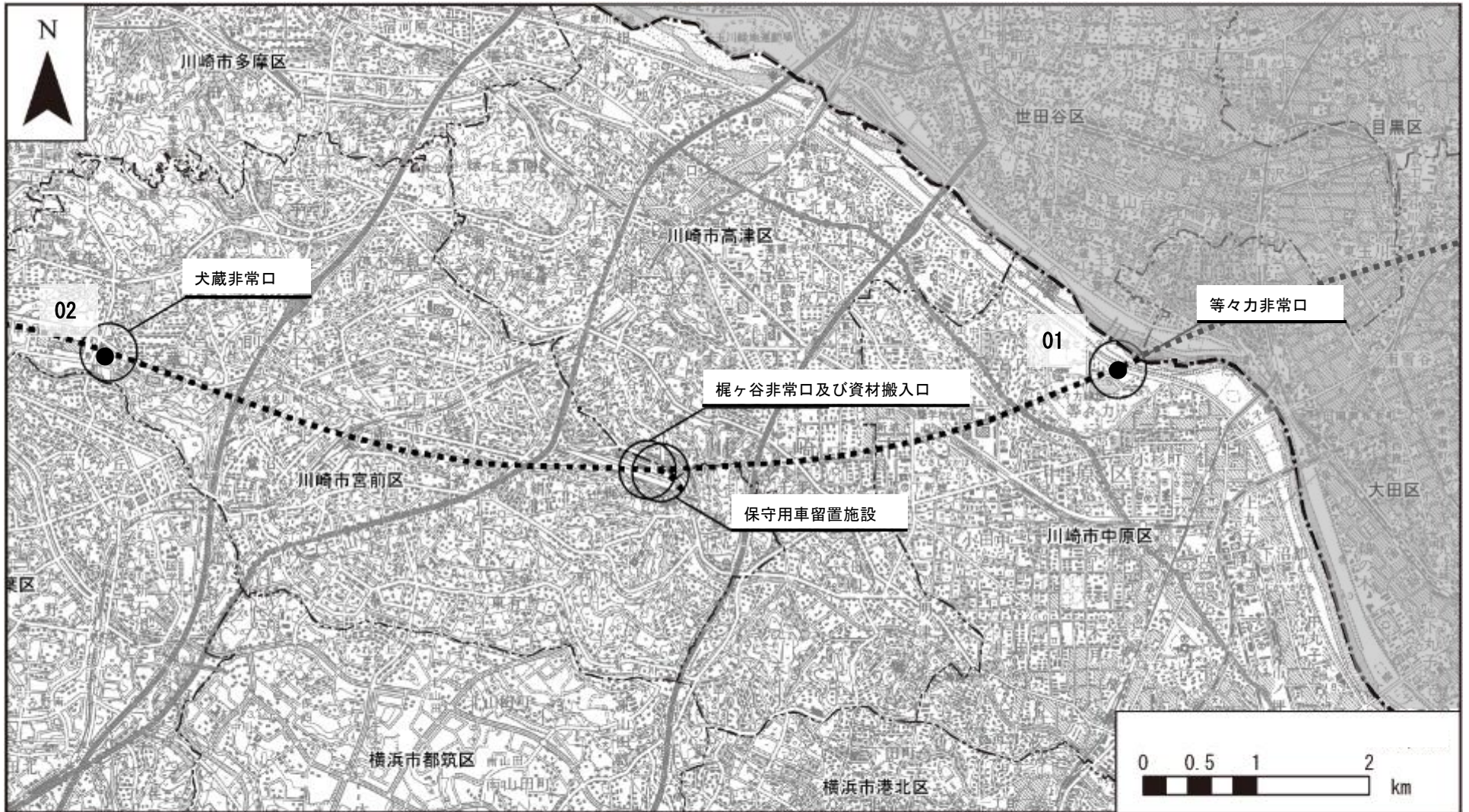
調査項目	調査方法
水位	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に定める測定方法

3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1、図 3-3-3-1 及び図 3-3-3-2 に示すとおりである。

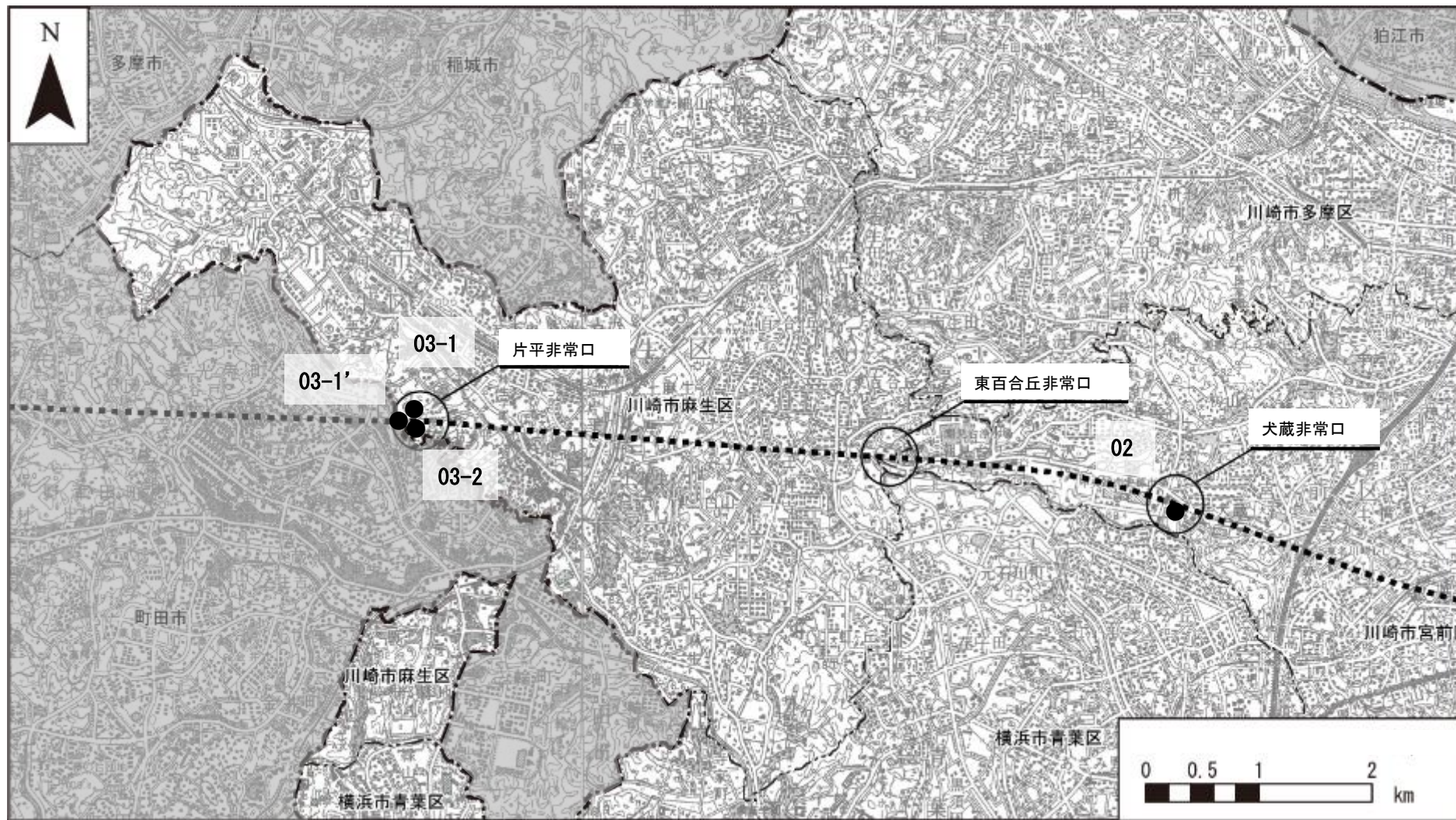
表 3-3-3-1 調査地点

地点番号	調査地点	区市名	所在地	実施箇所	備考
01		川崎市 中原区	等々力	等々力非常口	浅層観測井
					深層観測井
02		川崎市 宮前区	犬蔵	犬蔵非常口	浅層観測井
					深層観測井
03	03-1'	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	浅層観測井
	03-1				深層観測井
	03-2				浅層観測井
					深層観測井
04	04-1	相模原市 緑区	橋本	神奈川県駅 (仮称)	浅層観測井
	04-2				深層観測井
					浅層観測井
	04-3				深層観測井
					浅層観測井
	04-4				深層観測井
04-5	浅層観測井				



- 凡例
- 計画路線(トンネル部) ● 調査地点
 - 計画路線(地上部)
 - - - 都県境
 - · - · 市区町村境

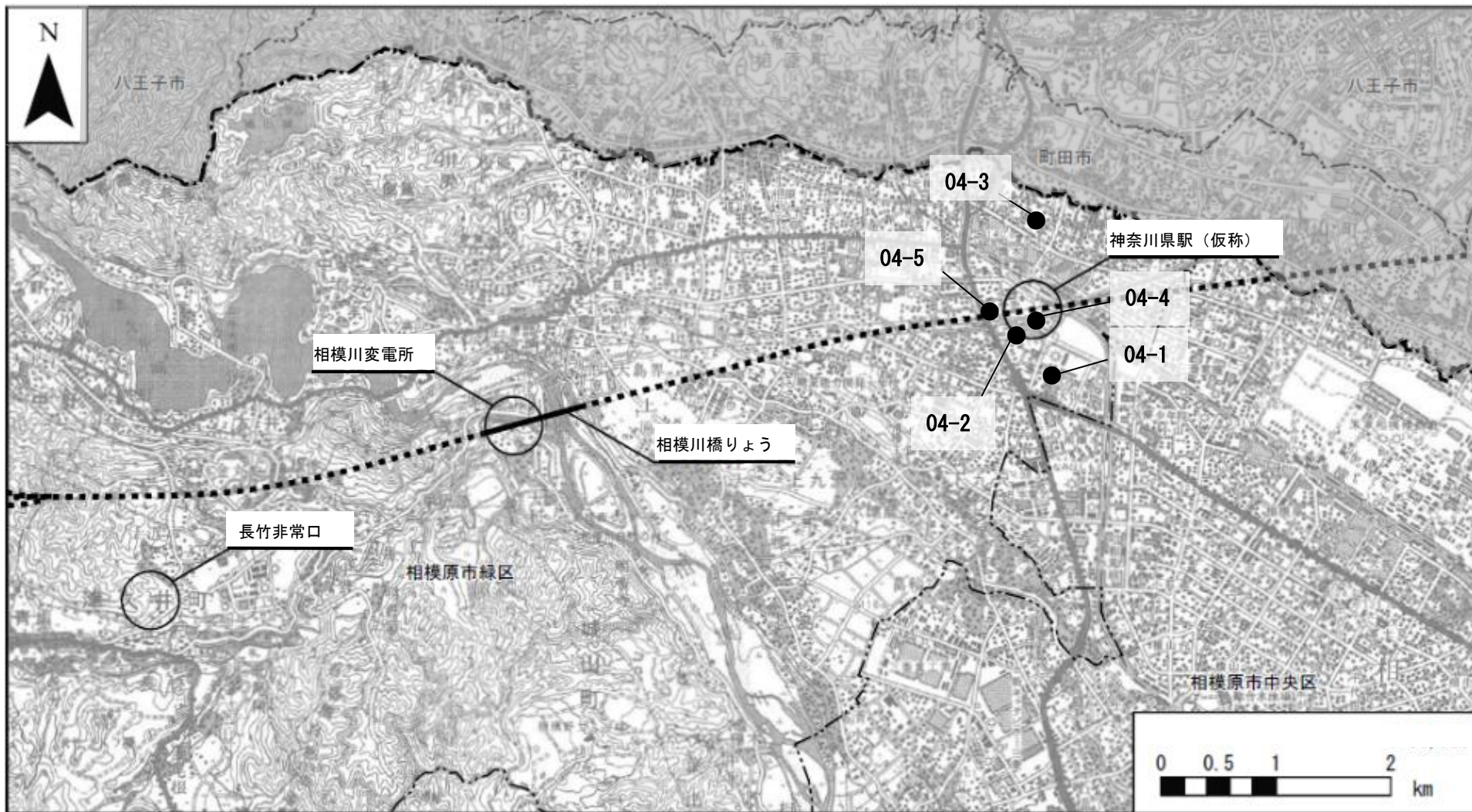
図 3-3-3-1 (1) 調査地点 (地下水)



凡例

- 計画路線(トンネル部) ● 調査地点
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図 3-3-3-1 (2) 調査地点 (地下水)



凡例

- 計画路線(トンネル部) ● 調査地点
- 計画路線(地上部)
- - - - 都県境
- - - - 市区町村境

図 3-3-3-1 (3) 調査地点 (地下水)

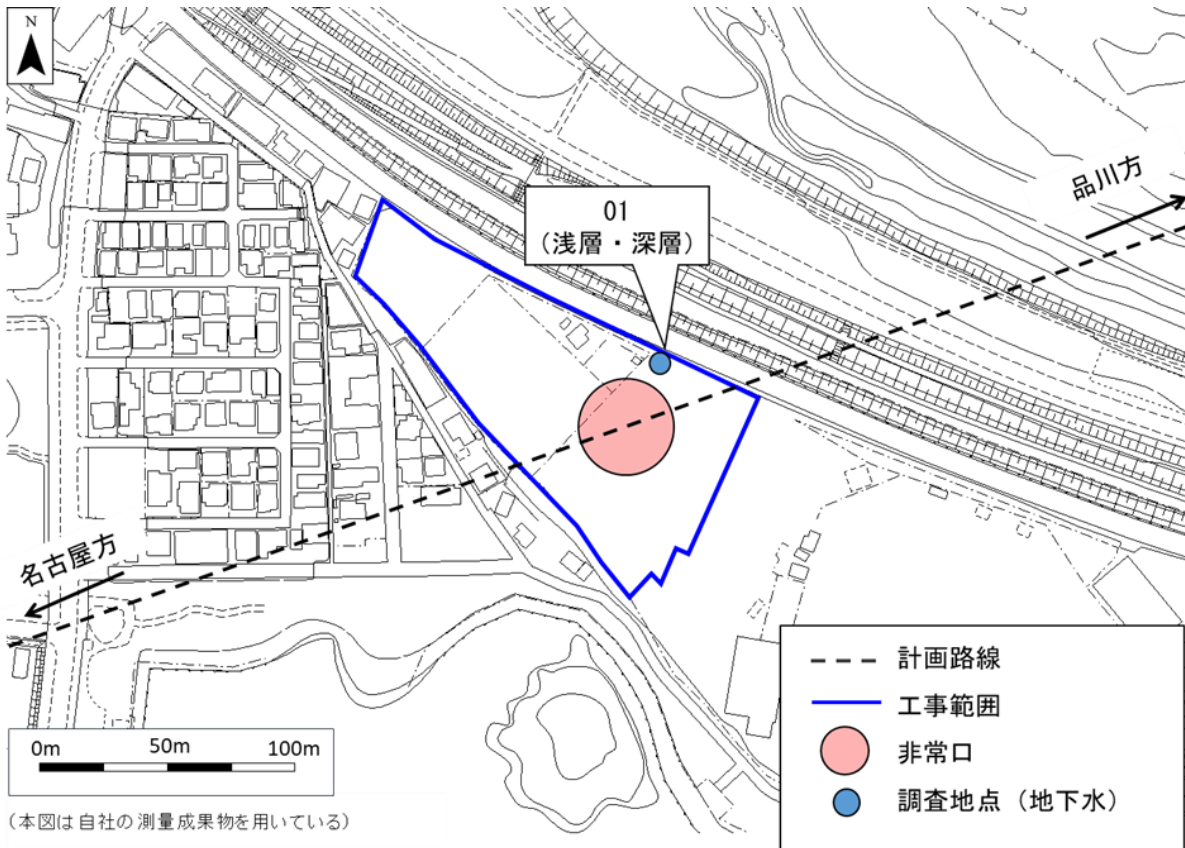


図 3-3-3-2 (1) 調査地点 (地下水) (01 等々力)

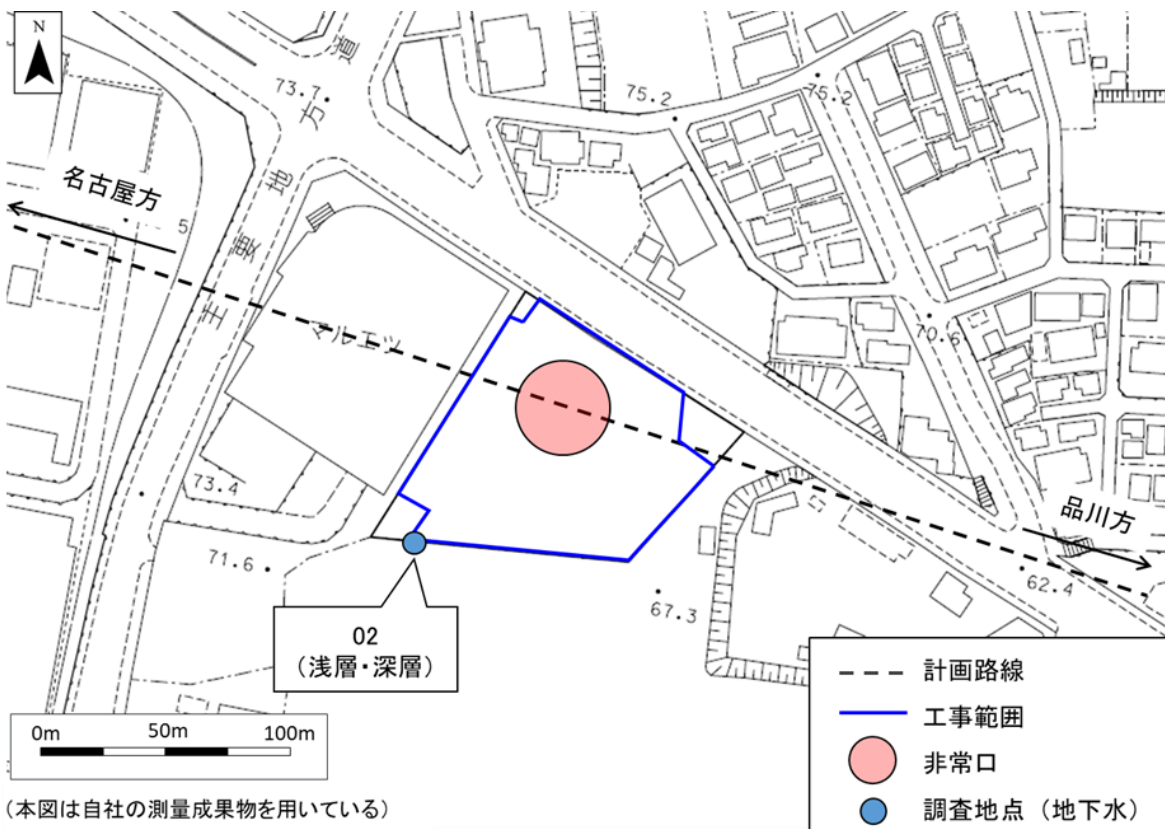


図 3-3-3-2 (2) 調査地点 (地下水) (02 犬蔵)

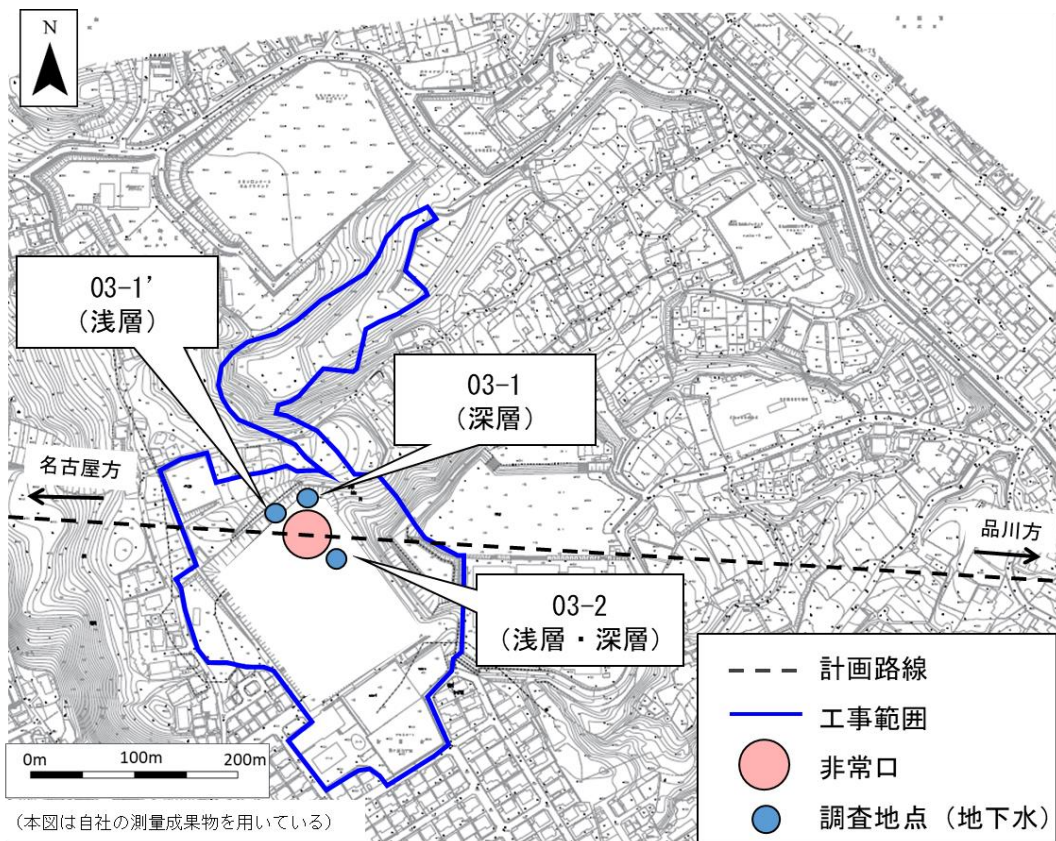


図 3-3-3-2 (3) 調査地点 (地下水) (03 片平)

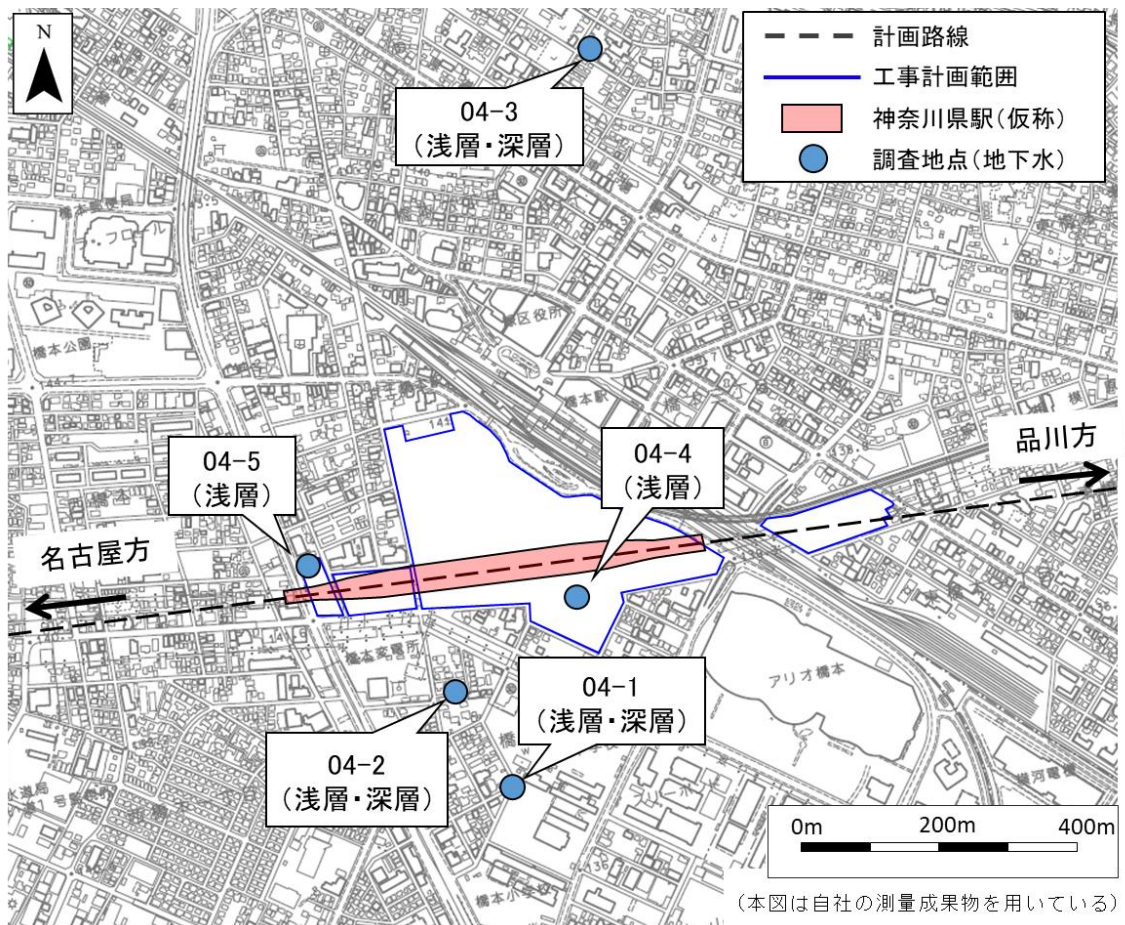


図 3-3-3-2 (4) 調査地点 (地下水) (04 橋本)

3-3-4 調査期間

調査期間は、表 3-3-4-1 に示すとおりである。

表 3-3-4-1(1) 調査期間

調査地点	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	工事中	2025年 4月1日～30日	自記水位計による連続観測 (結果は平均値を使用)
		2025年 5月1日～31日	
		2025年 6月1日～30日	
		2025年 7月1日～31日	
		2025年 8月1日～31日	
		2025年 9月1日～30日	
		2025年 10月1日～31日	
		2025年 11月1日～30日	
		2025年 12月1日～31日	
		2026年 1月1日～31日	
		2026年 2月1日～28日	
		2026年 3月1日～31日	
02	工事中	2025年 4月1日～30日	自記水位計による連続観測 (結果は平均値を使用)
		2025年 5月1日～31日	
		2025年 6月1日～30日	
		2025年 7月1日～31日	
		2025年 8月1日～31日	
		2025年 9月1日～30日	
		2025年 10月1日～31日	
		2025年 11月1日～30日	
	工事完了後	2025年 12月1日～31日	
		2026年 1月1日～31日	
		2026年 2月1日～28日	
		2026年 3月1日～31日	

表 3-3-4-1(2) 調査期間

調査地点	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
03-1' 03-1 03-2	工事中	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による連続観測 (結果は平均値を使用)
		2025年 5月 1日～31日	
		2025年 6月 1日～30日	
		2025年 7月 1日～31日	
		2025年 8月 1日～31日	
		2025年 9月 1日～30日	
		2025年 10月 1日～31日	
		2025年 11月 1日～30日	
		2025年 12月 1日～31日	
		2026年 1月 1日～31日	
		2026年 2月 1日～28日	
		2026年 3月 1日～31日	
04-1 04-2 04-3 04-4 04-5	工事中	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による連続観測 (結果は平均値を使用)
		2025年 5月 1日～31日	
		2025年 6月 1日～30日	
		2025年 7月 1日～31日	
		2025年 8月 1日～31日	
		2025年 9月 1日～30日	
		2025年 10月 1日～31日	
		2025年 11月 1日～30日	
		2025年 12月 1日～31日	
		2026年 1月 1日～31日	
		2026年 2月 1日～28日	
		2026年 3月 1日～31日	

3-3-5 調査結果

調査結果は、図 3-3-5-1 に示すとおりである。なお、水位は東京湾平均海面 (T.P.) を 0m とした場合の高さを示す。

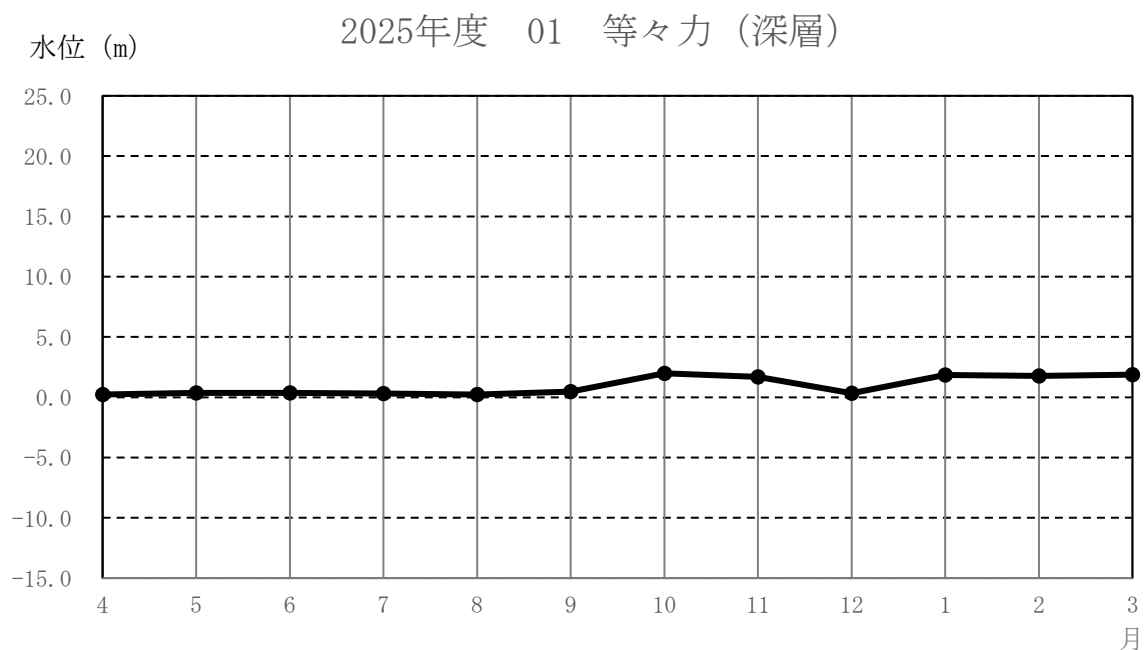
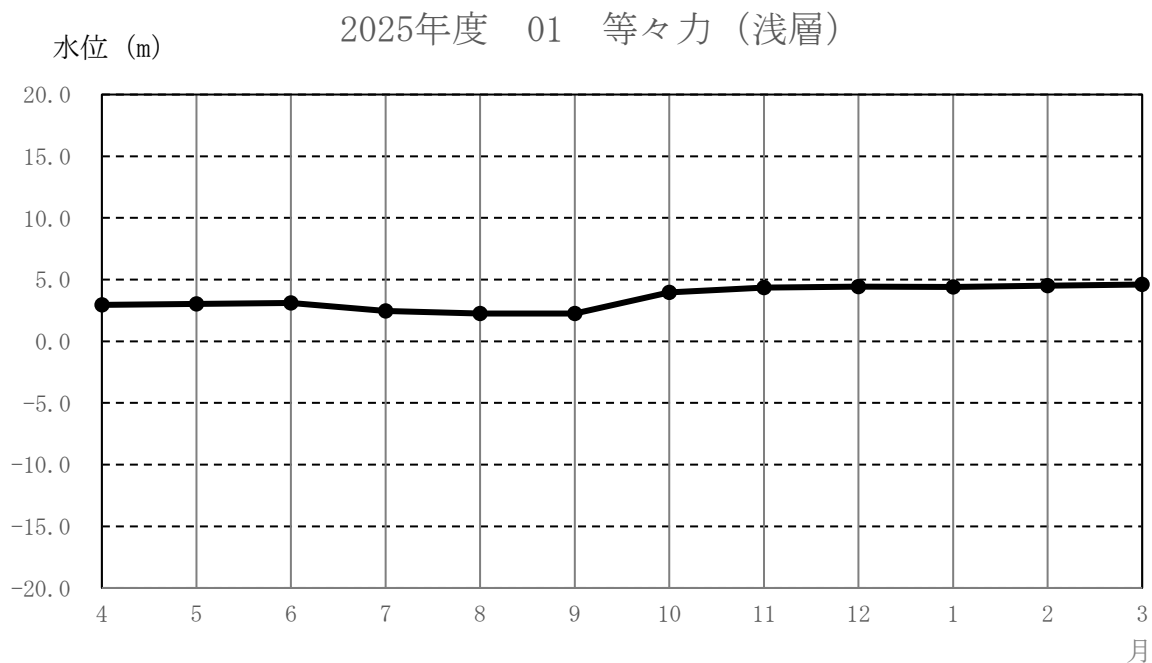


図 3-3-5-1(1) 地下水の水位の調査結果 (01 等々力)

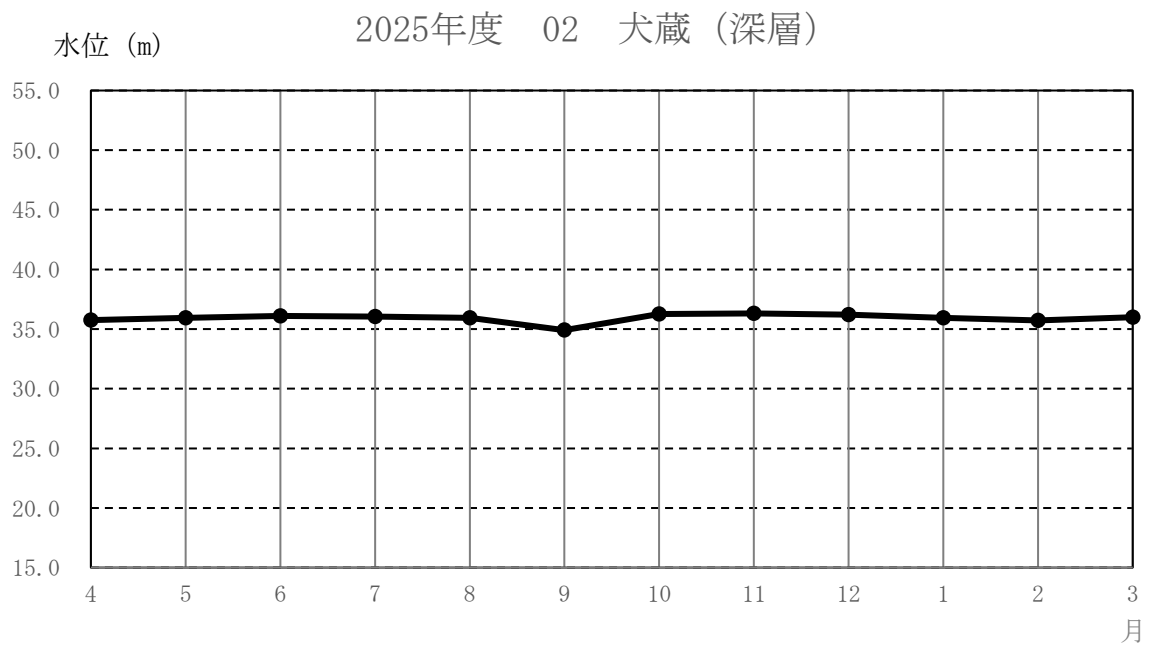
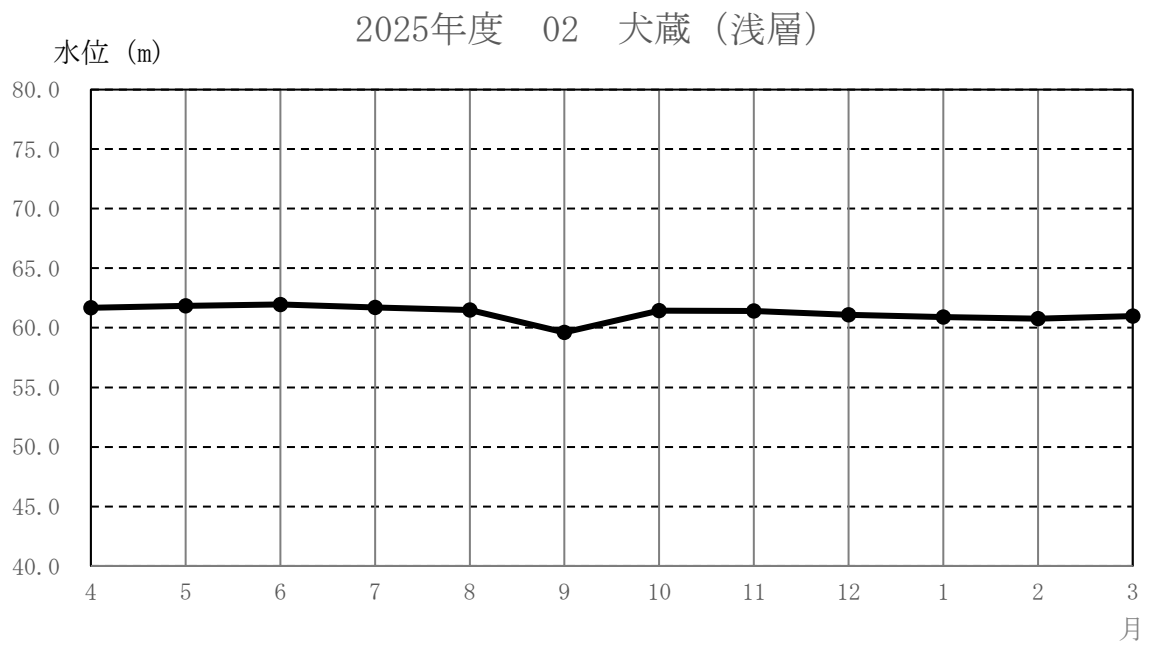


図 3-3-5-1(2) 地下水の水位の調査結果 (02 犬蔵)

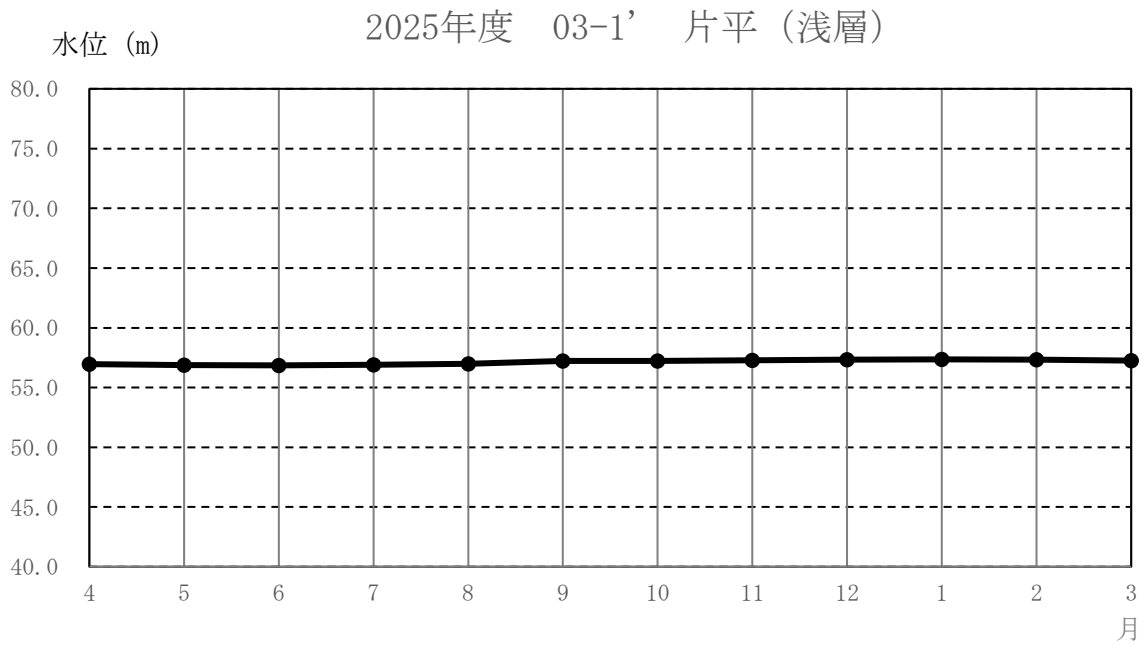


図 3-3-5-1(3) 地下水の水位の調査結果 (03-1' 片平)

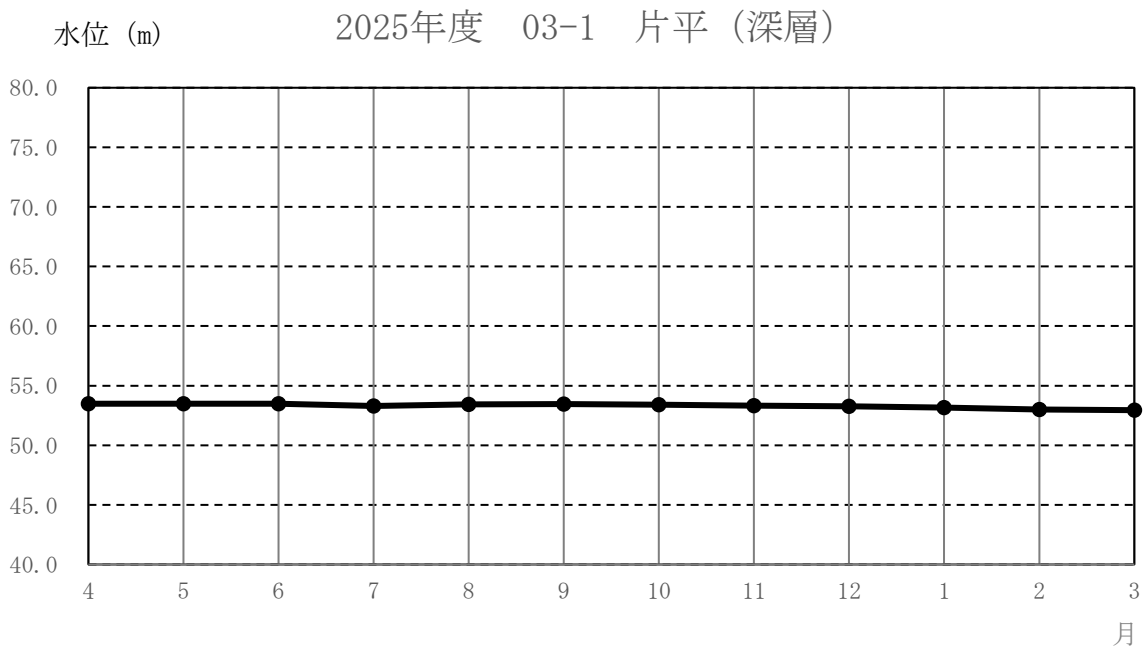
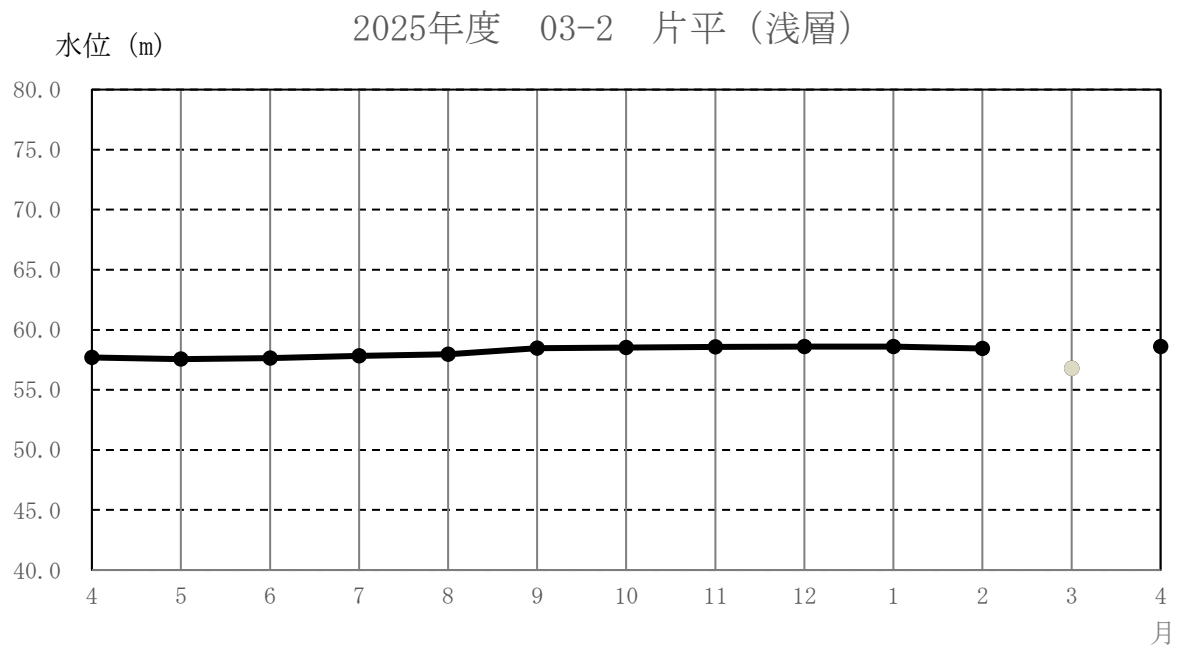


図 3-3-5-1(4) 地下水の水位の調査結果 (03-1 片平)



・2026年3月は、水位計の絶縁線劣化による故障により水位を正しく計測できていないため、参考として灰色の線で記載した。なお、地下水位に変動を与えるような作業を実施していないことやそのほかの観測井戸に水位変動が見られないことから、工事による影響ではないと考えられる。4月に水位計を修理して再度計測したところ故障前と同程度の水位であった。

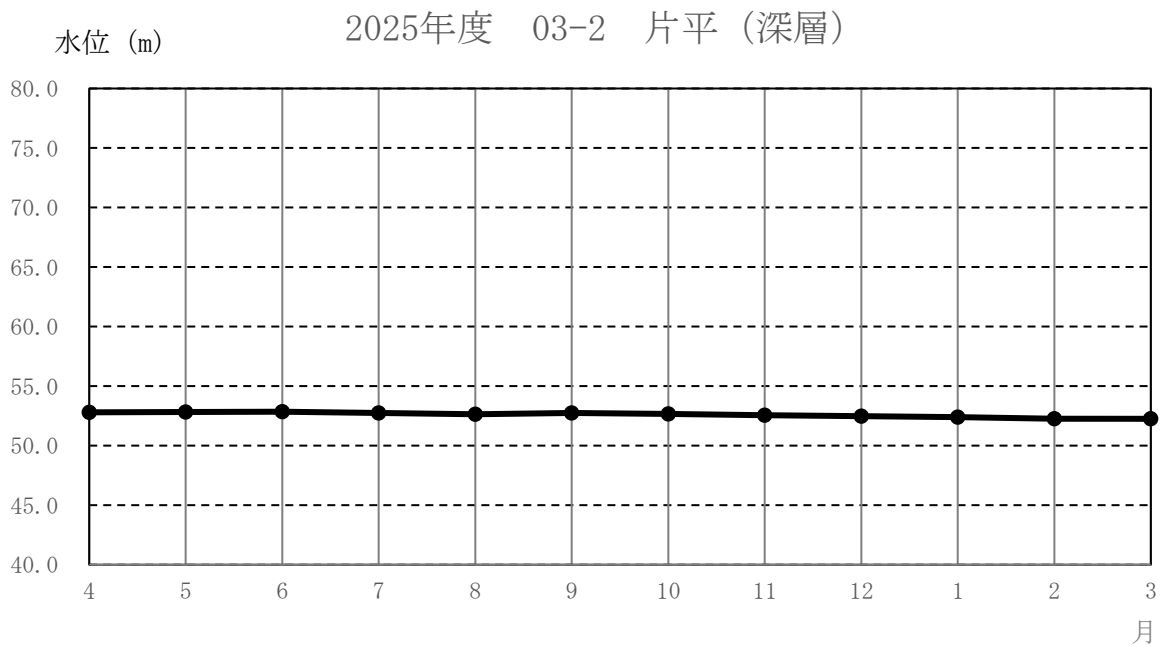
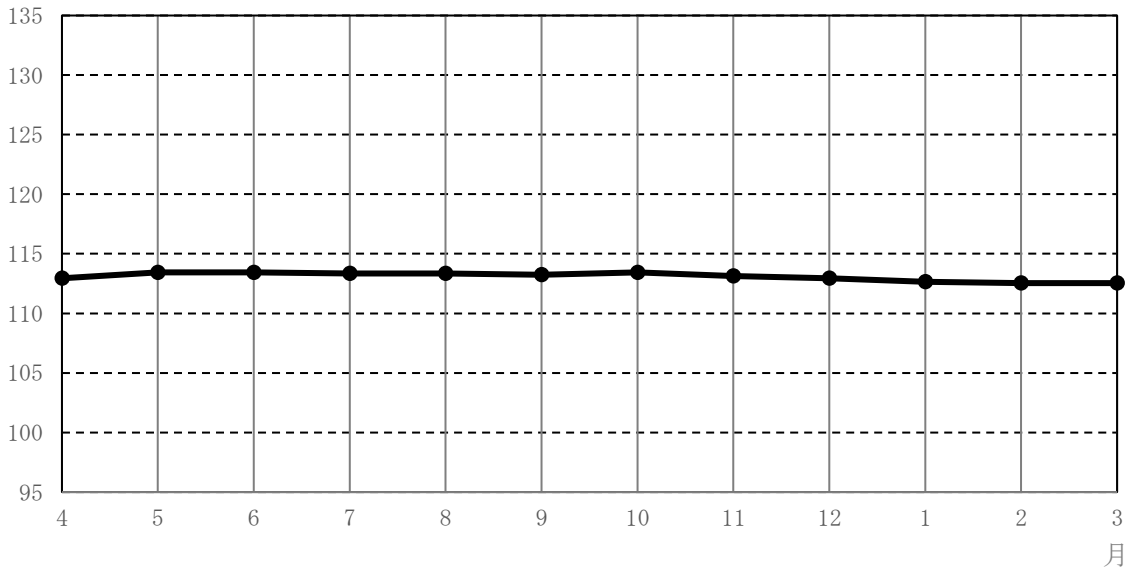


図 3-3-5-1 (5) 地下水の水位の調査結果 (03-2 片平)

水位 (m)

2025年度 04-1 橋本 (浅層)



水位 (m)

2025年度 04-1 橋本 (深層)

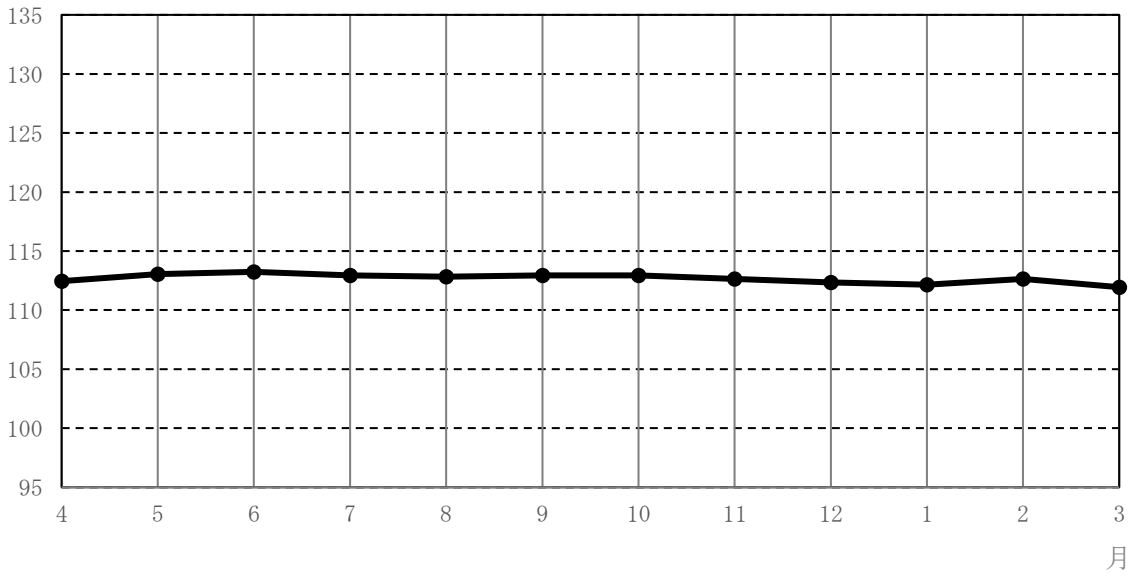
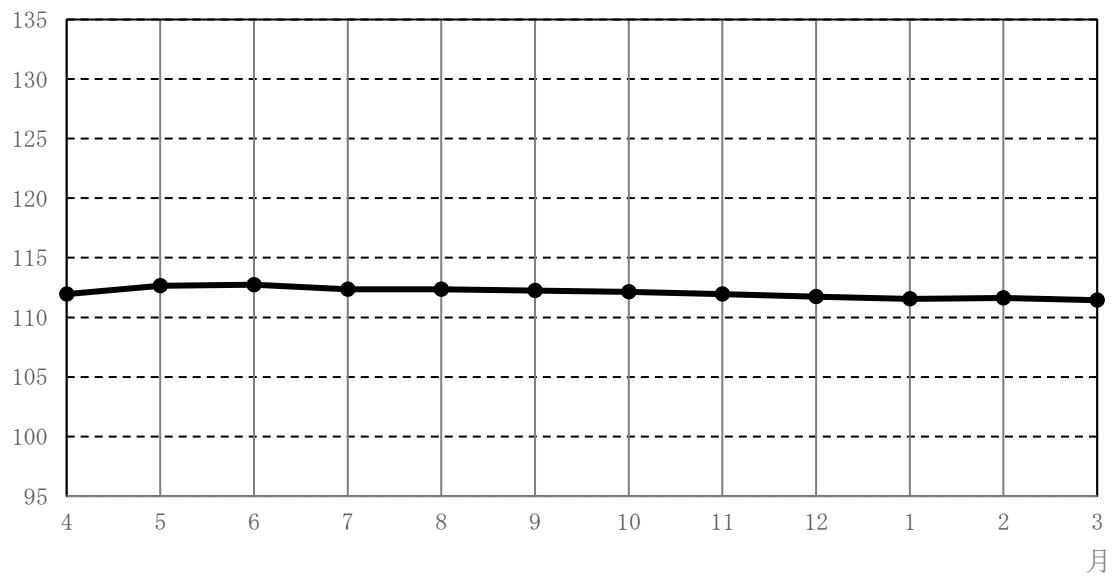


図 3-3-5-1(6) 地下水の水位の調査結果 (04-1 橋本)

水位 (m) 2025年度 04-2 橋本 (浅層)



水位 (m) 2025年度 04-2 橋本 (深層)

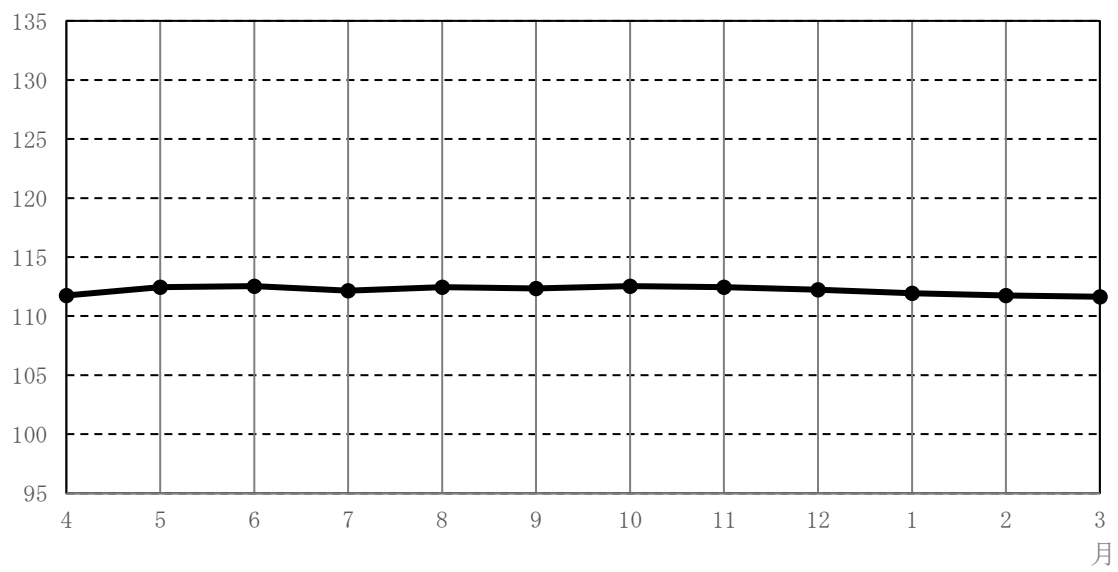


図 3-3-5-1(7) 地下水の水位の調査結果 (04-2 橋本)

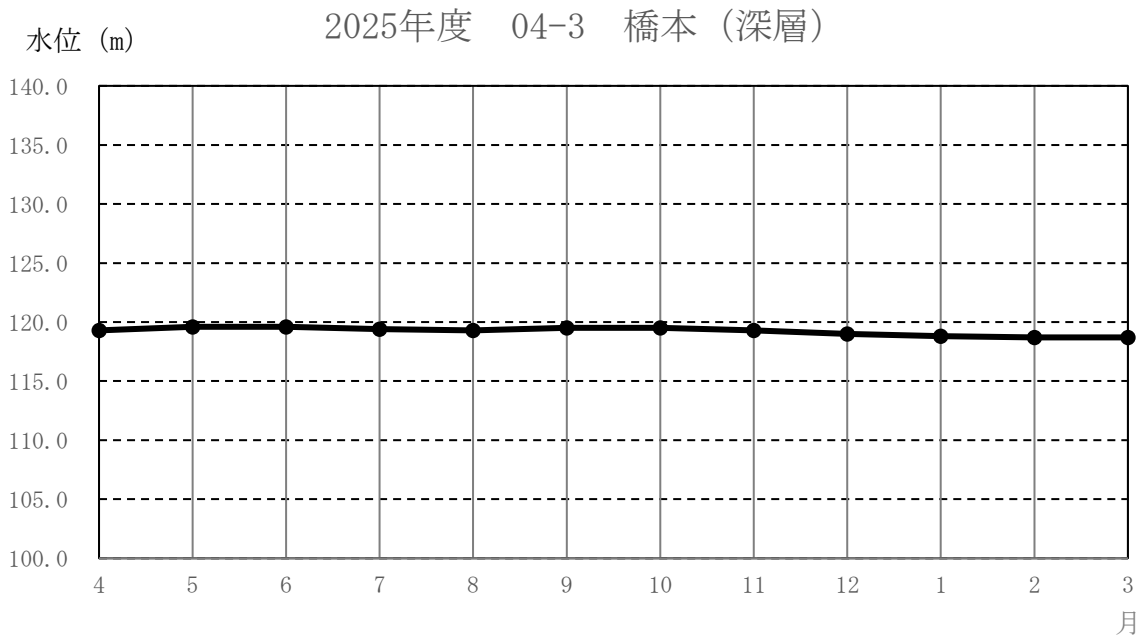
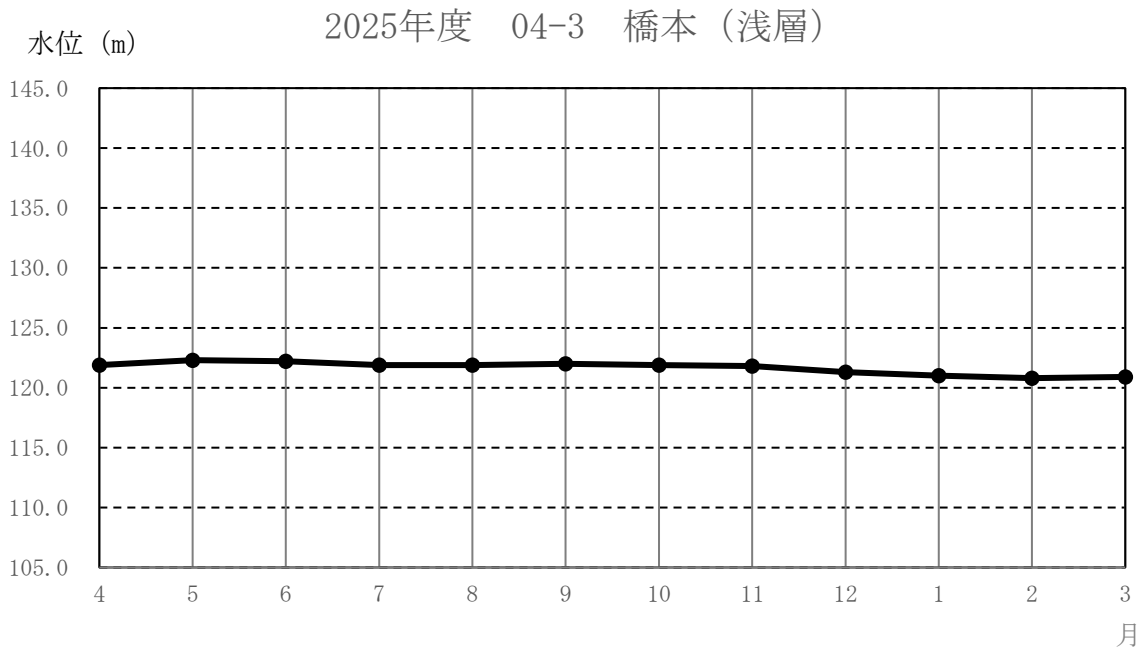


図 3-3-5-1(8) 地下水の水位の調査結果 (04-3 橋本)

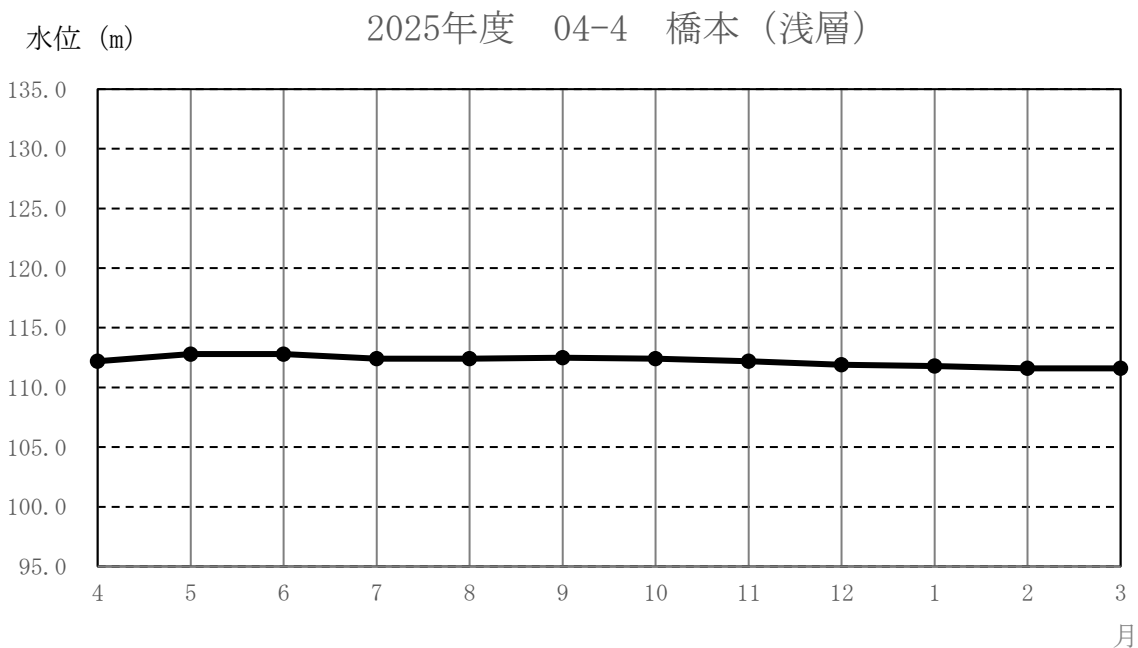


図 3-3-5-1(9) 地下水の水位の調査結果 (04-4 橋本)

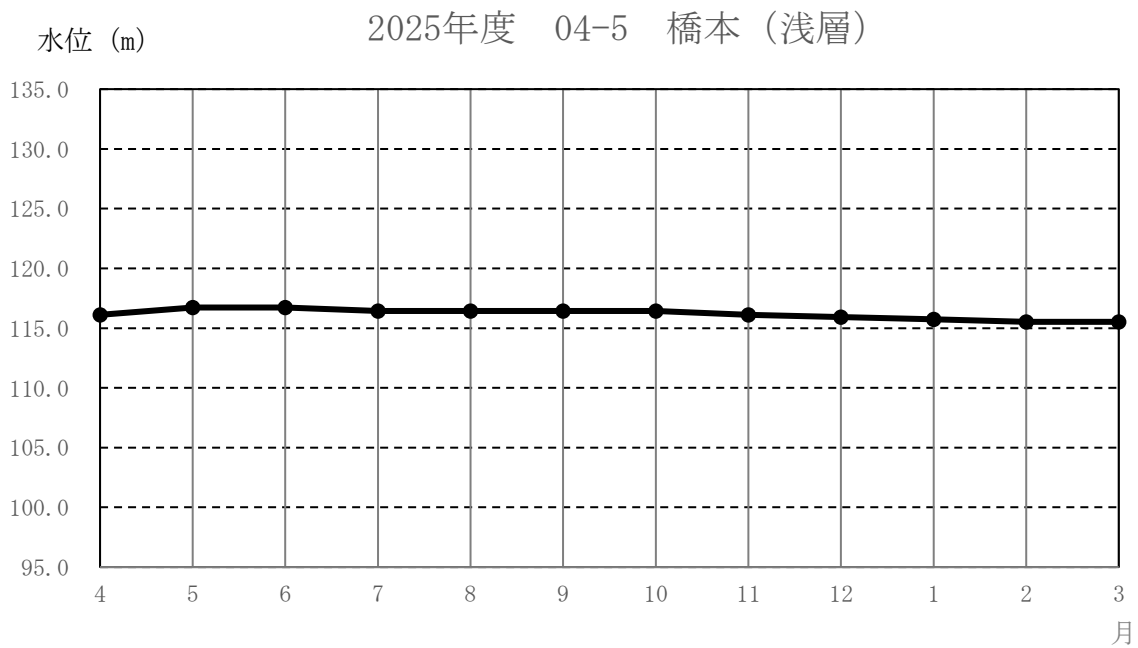


図 3-3-5-1(10) 地下水の水位の調査結果 (04-5 橋本)

3-4 水資源（非常口（都市部）及び地下駅）

水資源（井戸）について、工事中のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び水素イオン濃度（pH）の状況とした。

3-4-2 調査方法

調査方法は、表 3-4-2-1 に示すとおりである。

表 3-4-2-1 調査方法

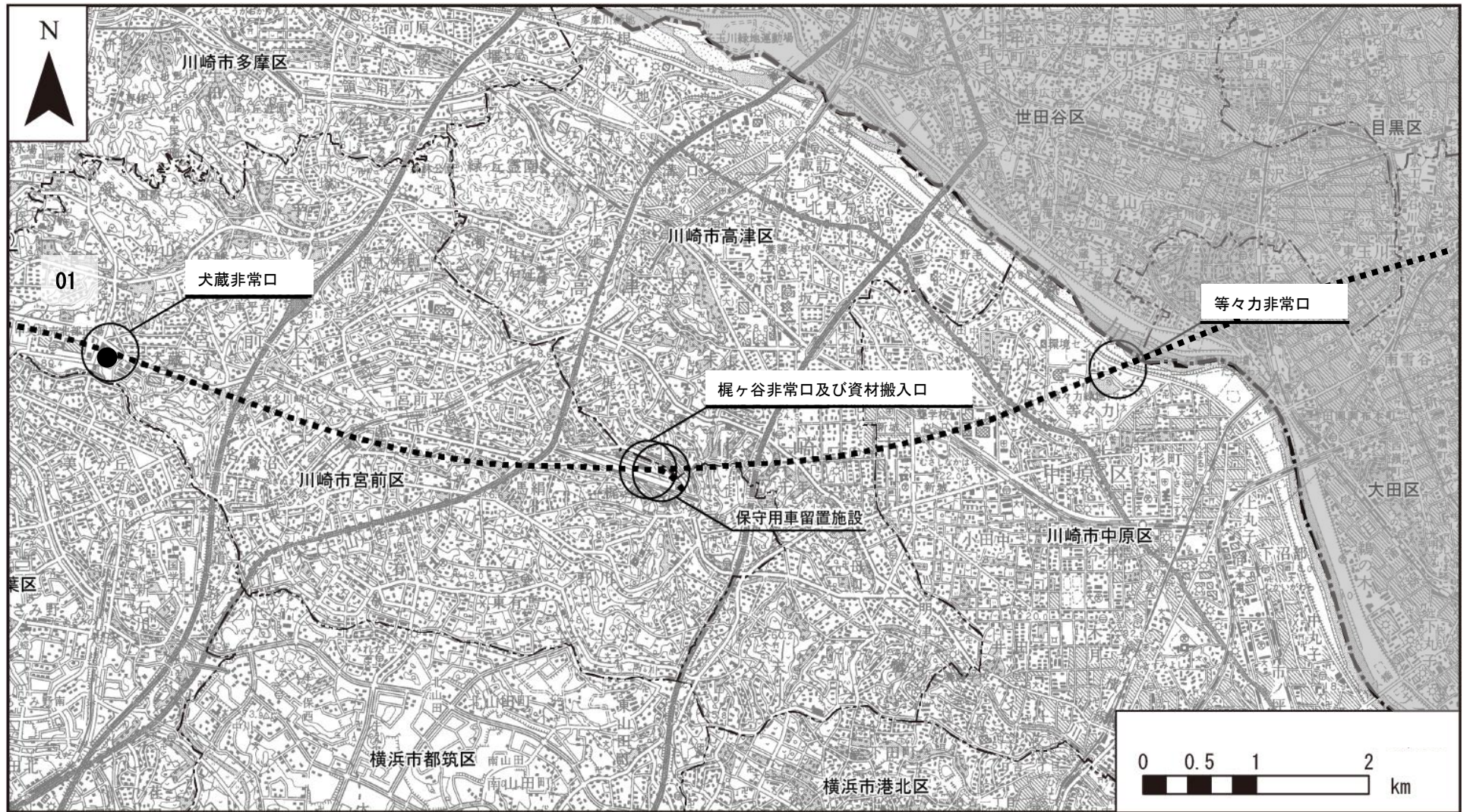
調査項目		調査方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）」（令和5年3月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	
水素イオン濃度（pH）		「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に準拠する

3-4-3 調査地点

調査地点は、表 3-4-3-1 及び図 3-4-3-1、図 3-4-3-2 に示すとおりである。

表 3-4-3-1 調査地点

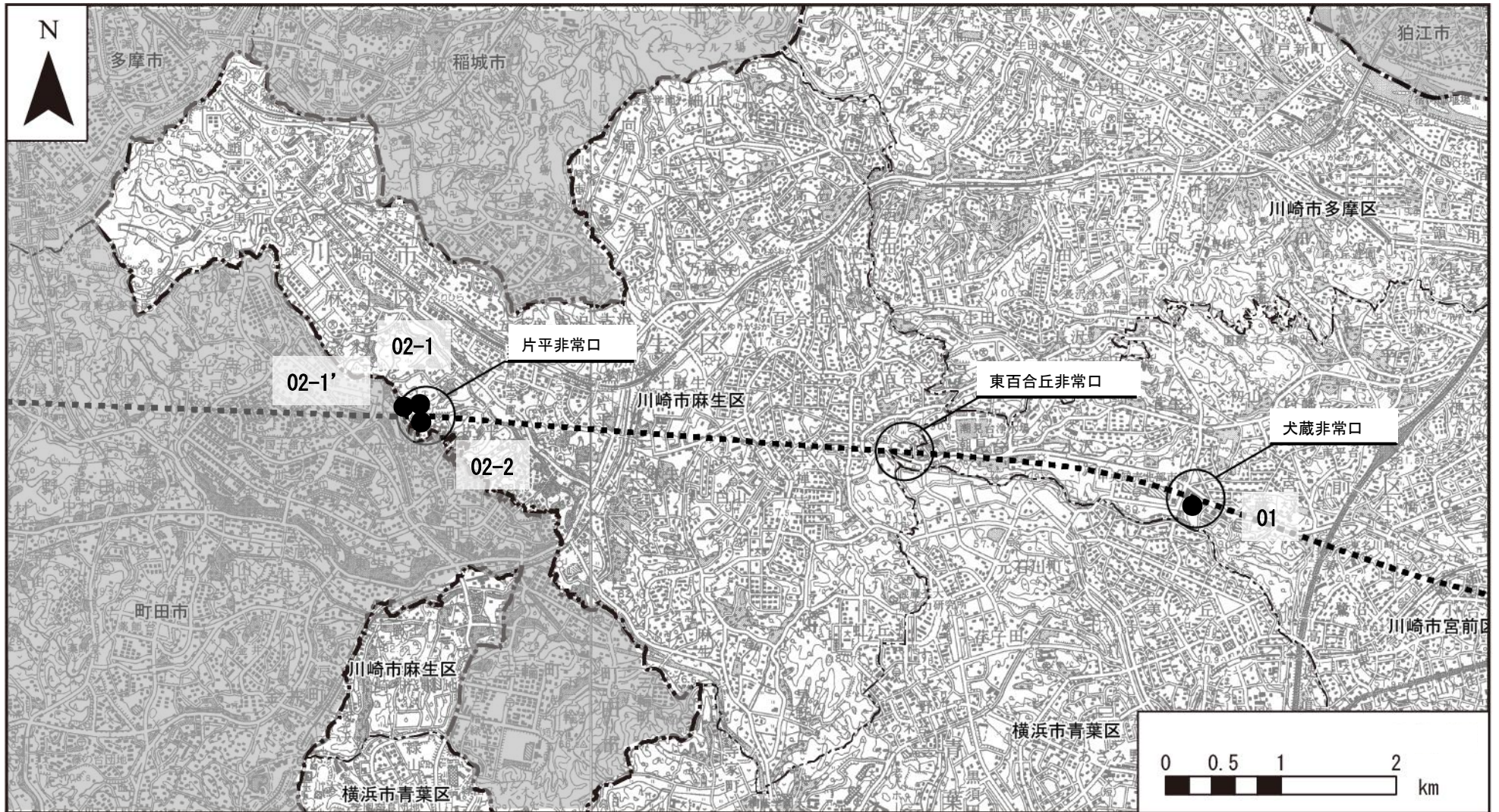
地点番号	調査地点	市区名	所在地	実施箇所	調査地点	調査項目
01		川崎市 宮前区	犬蔵	犬蔵非常口	浅層観測井	自然由来重金属等、 水素イオン濃度 (pH)
					深層観測井	
02	02-1' 02-1	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	浅層観測井	
					深層観測井	
	02-2				浅層観測井	
					深層観測井	
03		相模原市 緑区	橋本	神奈川県駅 (仮称)	浅層観測井	



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 調査地点
- 計画路線(地上部)
- 市区町村境

図 3-4-3-1(1) 調査地点 (水資源)



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境
- 調査地点

図 3-4-3-1(2) 調査地点(水資源)

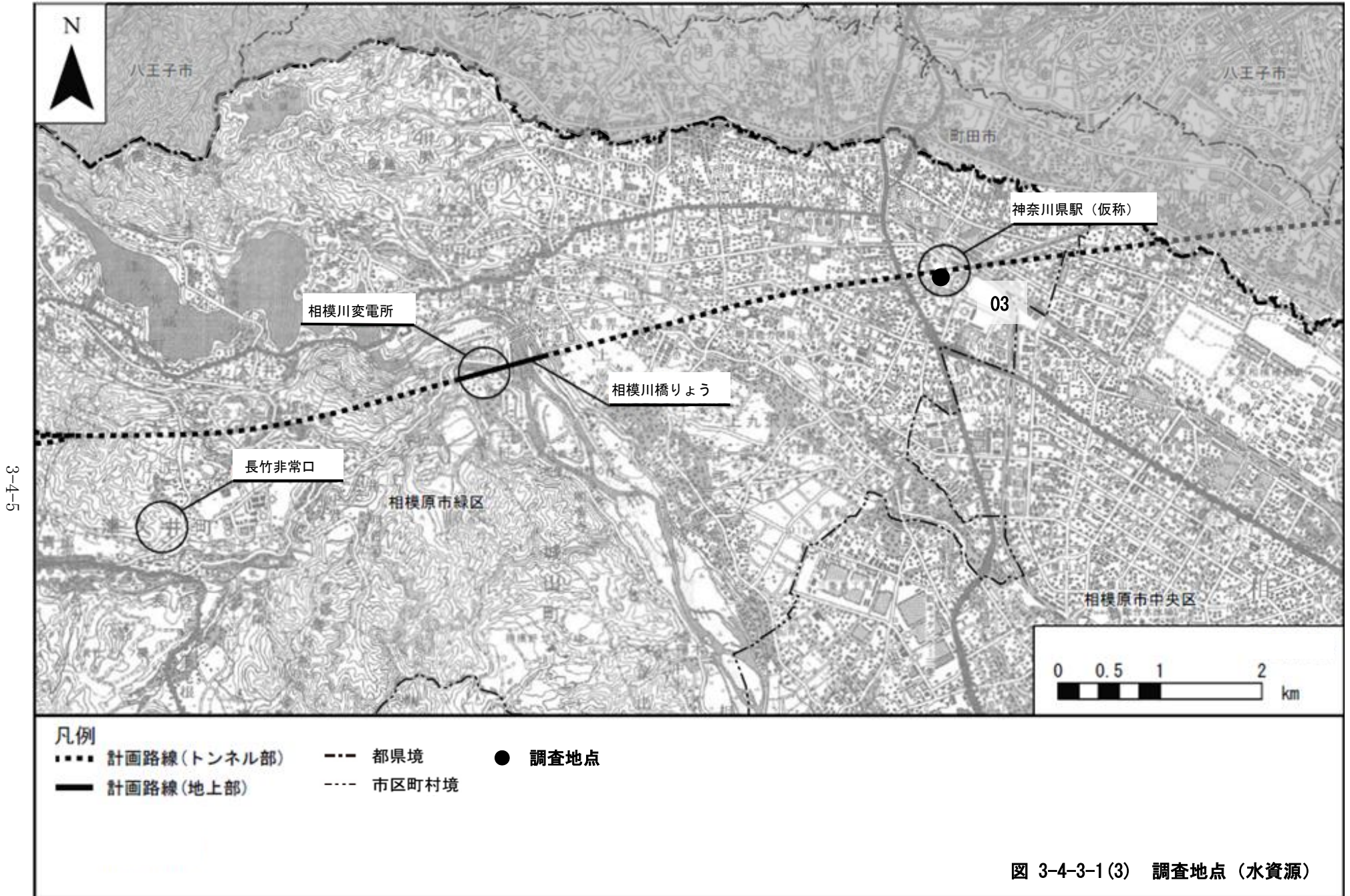


図 3-4-3-1(3) 調査地点（水資源）

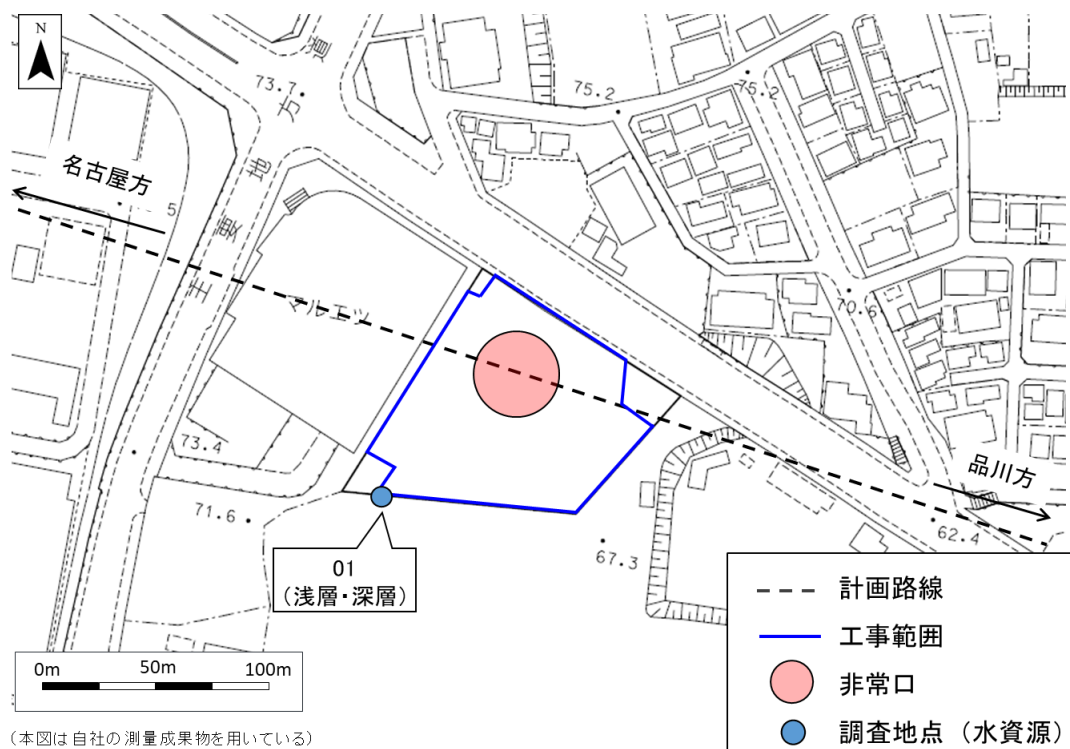


図 3-4-3-2(1) 調査地点 (水資源) (地点番号 01 犬蔵)

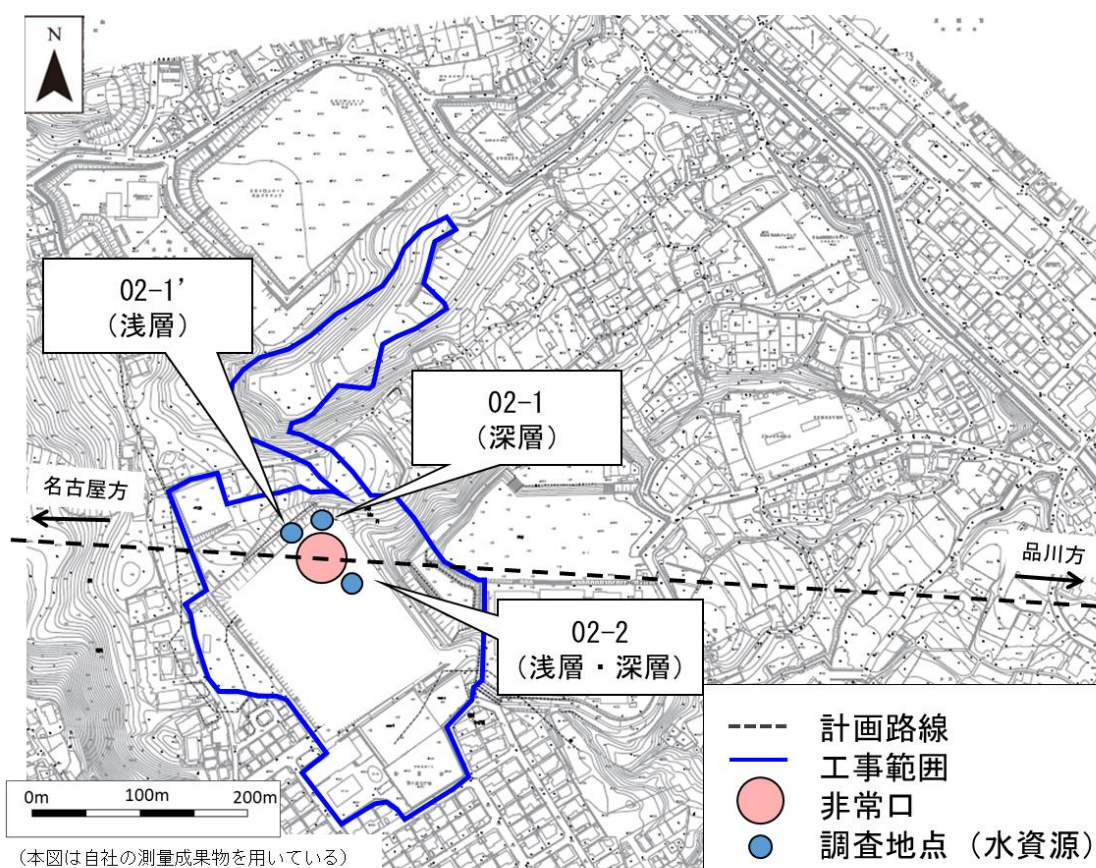


図 3-4-3-2(2) 調査地点 (水資源) (地点番号 02 片平)

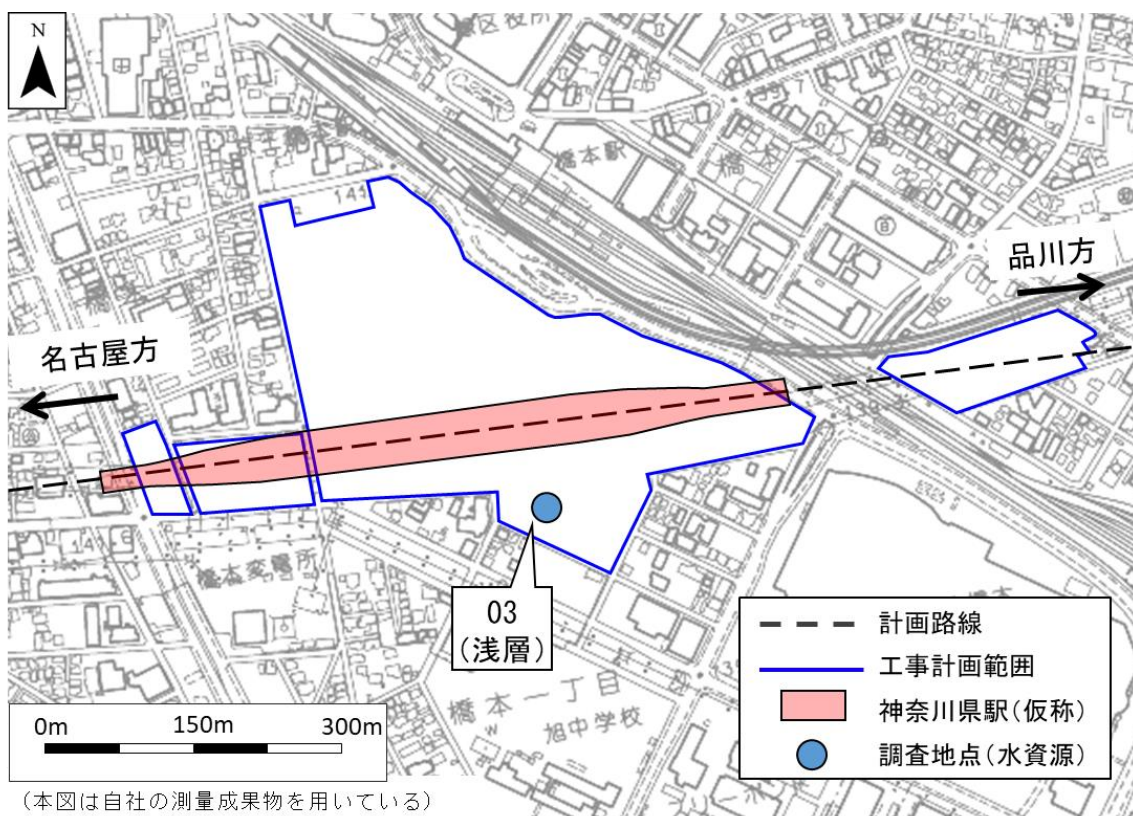


図 3-4-3-2(3) 調査地点（水資源）（地点番号 03 橋本）

3-4-4 調査期間

調査期間は、表 3-4-4-1 に示すとおりである。

表 3-4-4-1 調査期間

地点番号	調査地点	調査項目	実施時期の種別	調査日
01		自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	工事中	2025年8月21日 (浅層)
				2025年8月21日 (深層)
02	02-1' 02-1	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	工事中	2026年1月21日 (浅層)
				2026年1月21日 (深層)
	02-2			2026年1月21日 (浅層)
				2026年1月22日 (深層)
03		自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	工事中	2025年12月19日 (浅層)

3-4-5 調査結果

調査結果は、表 3-4-5-1 に示すとおりである。各調査地点の調査項目はいずれも環境基準の値に適合していた。

表 3-4-5-1(1) 調査結果

調査項目		地点番号				環境基準※
		01		02-1'	02-1	
		犬蔵 (浅層)	犬蔵 (深層)	片平 (浅層)	片平 (深層)	
自然由来重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	<0.001	<0.001	0.004	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.007	<0.001	0.001	0.003	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.14	0.09	<0.08	0.13	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.6	0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		7.1	7.5	6.9	6.9	-

・「<」は未満を示す。

※ 「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

表 3-4-5-1(2) 調査結果

調査項目		地点番号			環境基準※
		02-2		03	
		片平 (浅層)	片平 (深層)	橋本 (浅層)	
自然由来重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.08	0.09	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.6	7.2	7.9	-

・「<」は未満を示す。

※ 「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

3-5 水資源（山岳トンネル）

水資源（井戸・湧水及び地表水）について、事後調査に加え、環境管理を適切に進めるため、地点を選定し、モニタリングを実施した。

3-5-1 調査項目

調査項目は、水資源（井戸・湧水及び地表水）の水位、水量又は流量、水温、水素イオン濃度（pH）及び電気伝導率とした。

また、水資源（井戸・湧水）は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）、透視度の状況についても調査を行った。

3-5-2 調査方法

調査方法は、表 3-5-2-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	
井戸・湧水	水位又は水量、水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率、透視度	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に準拠する	
	自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）」（令和5年3月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する
		六価クロム	
		水銀	
		セレン	
		鉛	
		ヒ素	
		ふっ素	
ほう素			
地表水	流量、水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導率	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に準拠する	

3-5-3 調査地点

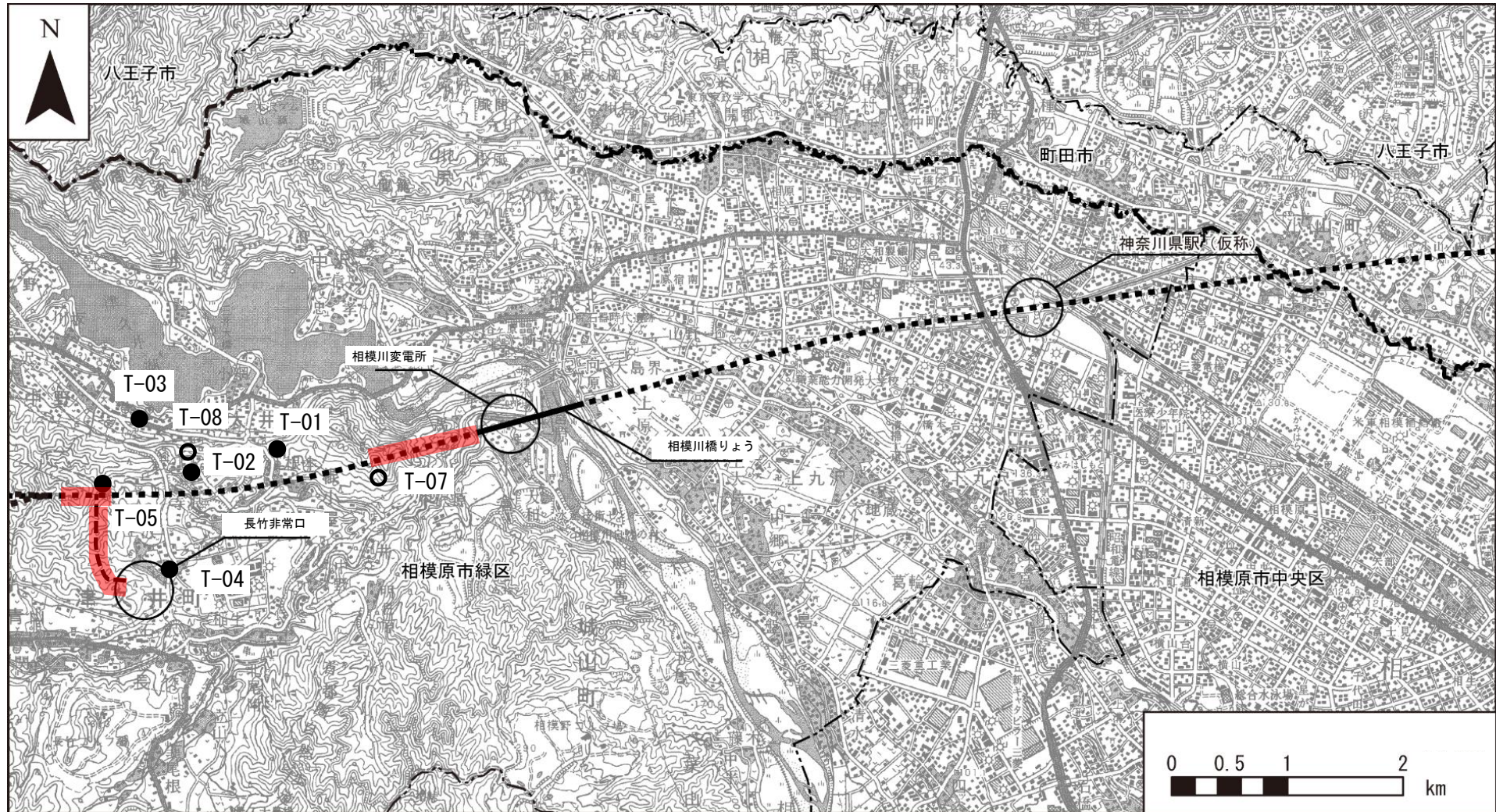
調査地点は表 3-5-3-1 及び図 3-5-3-1 に示すとおりである。

表 3-5-3-1 調査地点

対象	地点番号	市区名	調査地点	調査項目		記事		
				【井戸】 水位又は水量、水温、pH、電気伝導率、透視度 【地表水】 流量、水温、pH、電気伝導率	自然由来の 重金属等			
井戸・湧水	T-01	相模原市緑区	個人水源（縦井戸）	○	△	図 3-5-3-1 参照		
	T-02		個人水源（縦井戸）	○				
	T-03		個人水源（湧水）	○				
	T-04		個人水源（縦井戸）	○				
	T-05		観測井戸（縦井戸）	○				
	T-06		公共水源（縦井戸）	○				
	F-01		簡易水道（湧水）	○				
	F-02		観測井戸（縦井戸）	○				
	F-01 (事後調査)※		個人水源（縦井戸）	事後調査※			○	図 2-1-2-1 参照
	F-05 (事後調査)※		小規模水道（縦井戸）	事後調査※			○	
地表水	T-07	相模原市緑区	尻久保川（下流部）	○	△	図 3-5-3-1 参照		
	T-08		尻久保川（上流部）	○				
	T-09		大沢川（上流部）	○				
	T-10		青山川（上流部）	○				
	F-03		寒沢川（上流部）	○				
	F-04		寒沢川（支流）	○				
	F-05		寒沢川（支流）	○				
	F-06		寒沢川（支流）	○				
	F-07		道志川（支流）	○				
	F-08		仲沢川（支流）	○				
	F-09		仲沢川（支流）	○				
	F-10		仲沢川（支流）	○				
	F-11		仲沢川（支流）	○				
	F-12		仲沢川（上流部）	○				
	F-13		仲沢川（支流）	○				
	F-14		道志川（支流）	○				
	F-15		道志川（支流）	○				
F-16	道志川（支流）	○						
F-17	道志川（支流）	○						
F-18	川上川（上流部）	○						
F-19	道志川（支流）	○						
F-20	綱子川（支流）	○						

・地点番号は、津久井トンネルに関わる範囲を「T」、藤野トンネルに関わる範囲を「F」として記載している。

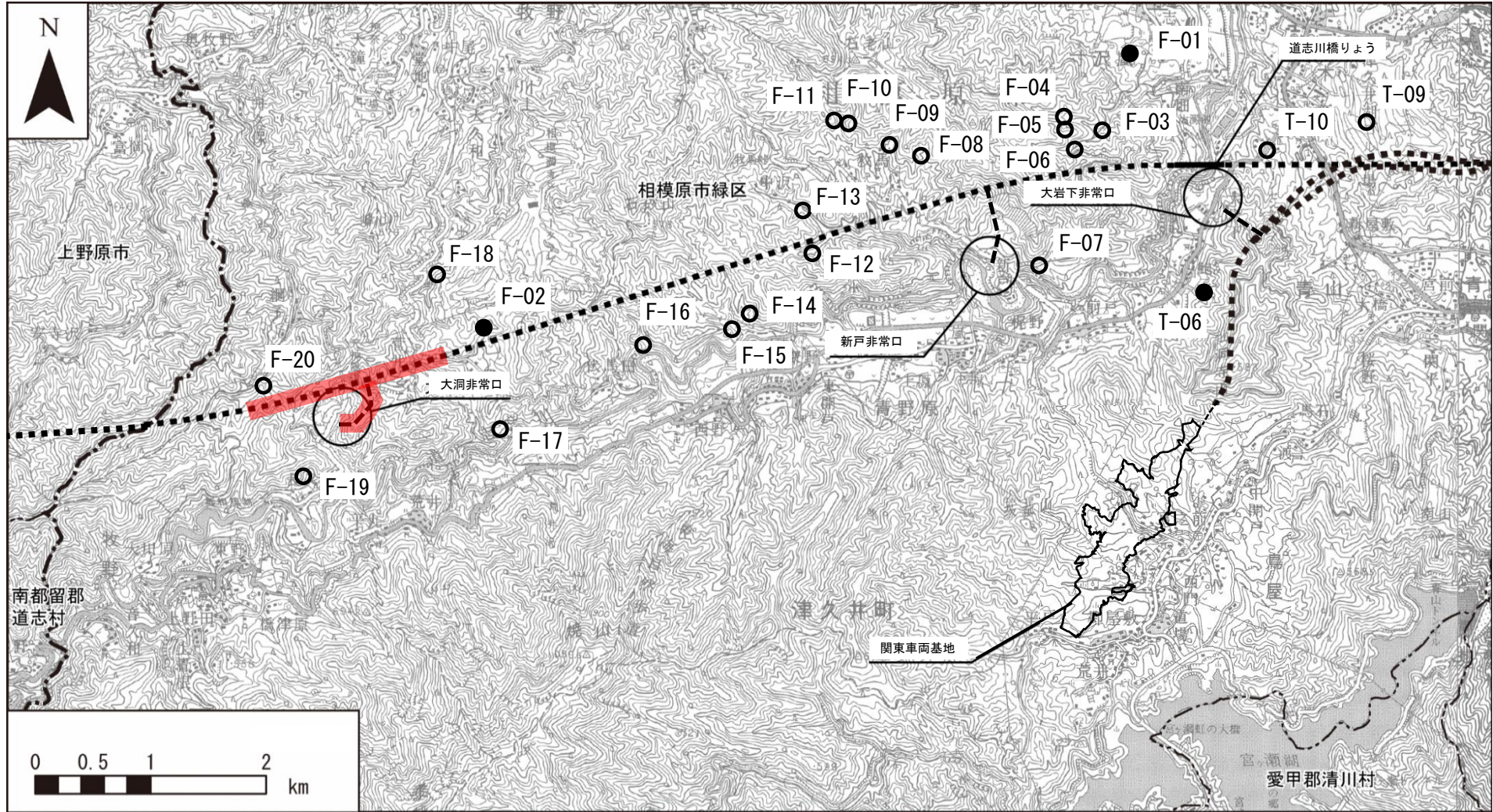
※地点番号 F-01(事後調査)は、2 事後調査の 2-1 水資源（山岳トンネル）の地点番号 F-01、地点番号 F-05(事後調査)は 2 事後調査の 2-1 水資源（山岳トンネル）の地点番号 F-05 にて井戸の水位等の調査結果を記載しているため、モニタリングでは、自然由来の重金属等の結果のみ記載している。



凡例

- 計画路線(トンネル部) ● 井戸の水位、湧水の水量 ■ (トンネル部) 掘削済み範囲
- 計画路線(地上部) ○ 地表水の流量
- 非常口トンネル(斜坑)
- 都県境
- 市町村境

図 3-5-3-1 (1) 調査地点(水資源(井戸・湧水・地表水))



凡例

- 計画路線(トンネル部) ● 井戸の水位、湧水の水量 ■ (トンネル部) 掘削済み範囲
- 計画路線(地上部) ○ 地表水の流量
- 非常口トンネル(斜坑)
- 都県境
- 市町村境

図 3-5-3-1 (2) 調査地点(水資源(井戸・湧水・地表水))

3-5-4 調査期間

調査期間は、表 3-5-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-4-1 調査期間

調査項目		調査日	頻度
井戸・湧水	水位又は水量、水温、水素イオン濃度 (pH)、電気伝導率、透視度	2025年 4月 3日、4日、5日、15日、16日、17日、19日、24日 2025年 5月 9日、10日、13日、14日、16日、17日、20日、21日、22日、24日、29日 2025年 6月 6日、7日、10日、11日、12日、17日、18日、19日、20日、21日、28日 2025年 7月 2日、3日、4日、11日、12日、16日、17日、18日、19日、22日、23日 2025年 8月 5日、6日、7日、8日、9日、20日、21日、27日 2025年 9月 5日、6日、9日、10日、11日、12日、13日、17日、18日、20日、26日 2025年 10月 3日、4日、15日、16日、17日、18日、21日、22日、24日 2025年 11月 5日、7日、8日、11日、12日、13日、14日、15日、19日、20日、27日 2025年 12月 4日、5日、6日、9日、10日、11日、13日、16日、17日、18日、19日、20日、23日 2026年 1月 8日、9日、10日、14日、15日、16日、17日、20日、21日、22日、23日 2026年 2月 4日、6日、7日、10日、12日、13日、14日、18日、19日、26日 2026年 3月 5日、6日、11日、12日、13日、14日、18日、19日、26日	月1回/ 地点
	自然由来の重金属等	2026年 1月 17日 2026年 2月 12日	年1回/ 地点
地表水	流量、水温、水素イオン濃度 (pH)、電気伝導率	2025年 4月 8日、10日、11日、12日、15日、16日、17日、18日、19日、22日、24日 2025年 5月 8日、9日、10日、11日、14日、15日、16日、17日、20日、21日、22日、23日、27日、30日 2025年 6月 3日、4日、5日、6日、7日、10日、11日、12日、13日、17日、18日、19日、20日、21日、26日、27日 2025年 7月 1日、2日、3日、10日、11日、12日、13日、15日、16日、17日、18日、19日、22日、23日、24日 2025年 8月 1日、2日、3日、5日、6日、7日、8日、9日、19日、20日、21日、22日、23日、26日 2025年 9月 6日、9日、10日、11日、12日、13日、17日、18日、19日、24日、25日 2025年 10月 2日、3日、7日、8日、9日、10日、11日、15日、16日、17日、18日、21日、23日、24日 2025年 11月 5日、8日、11日、12日、13日、18日、19日、20日、21日、26日 2025年 12月 9日、10日、11日、12日、13日、16日、17日、18日、20日、23日、24日、25日 2026年 1月 7日、8日、9日、10日、14日、15日、16日、17日、20日、21日、22日、23日、28日、29日、30日 2026年 2月 3日、10日、11日、12日、13日、14日、17日、18日、19日、20日、25日 2026年 3月 3日、10日、11日、12日、13日、14日、17日、18日、19日、25日、26日、27日	月1回/ 地点

3-5-5 調査結果

調査結果は表 3-5-5-1、表 3-5-5-2、表 3-5-5-3 及び図 3-5-5-1、図 3-5-5-2 に示すとおりである。なお、図 3-5-5-1、図 3-5-5-2 については、過去5年分のデータを記載している。

表 3-5-5-1(1) 調査結果（井戸・湧水）

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
T-01	相模原市緑区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-5.19	-5.25	-5.56	-5.15	-5.05	-5.36	-5.79	-5.90	-※	-※	-※	-※
			水温 (°C)	14.5	15.4	16.4	16.8	17.7	17.4	15.4	12.4	-※	-※	-※	-※
			pH	7.4	7.2	7.2	6.9	7.1	7.0	7.5	7.0	-※	-※	-※	-※
			電気伝導率 (mS/m)	11	13	13	13	13	14	15	13	-※	-※	-※	-※
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	-※	-※	-※	-※
T-02	相模原市緑区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-5.26	-4.97	-5.45	-5.40	-5.62	-5.58	-5.85	-5.77	-5.82	-6.23	-6.57	-6.21
			水温 (°C)	17.5	16.6	18.6	18.9	18.9	19.5	14.9	12.4	10.7	10.2	9.8	13.9
			pH	7.8	7.5	7.4	7.3	7.7	7.5	7.5	7.5	7.6	7.8	7.2	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	8.8	8.3	9.1	9.4	11	10	10	9.9	9.8	10	10	10
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

・透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。

・水位は井戸孔口からの深さを示す。

※地点 T-01 の 2025 年度 12 月期～3 月期は井戸底の土砂堆積により、水位の確認ができないため欠測とした。

表 3-5-5-1(2) 調査結果（井戸・湧水）

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025年度											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
T-03	相模原市緑区	個人水源 (湧水)	水量 (m ³ /min)	0.03	0.06	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01
			水温 (°C)	14.9	15.2	15.4	15.8	16.6	15.8	16.0	14.7	12.7	12.2	12.7	12.0
			pH	7.3	7.3	7.9	7.4	7.1	7.4	7.4	7.5	7.3	7.5	7.4	7.2
			電気伝導率 (mS/m)	19	19	19	19	19	19	19	19	20	19	19	19
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
T-04	相模原市緑区	個人水源 (縦井戸)	水位 (m)	-9.19	-9.12	-9.35	-9.20	-9.67	-9.59	-9.93	-9.86	-10.07	-10.19	-10.33	-10.13
			水温 (°C)	15.0	15.6	16.0	16.4	16.9	16.2	15.0	14.3	14.4	13.7	14.6	14.5
			pH	7.7	7.5	7.2	7.2	7.6	7.2	7.0	7.4	7.1	7.5	7.5	7.6
			電気伝導率 (mS/m)	12	13	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- ・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。
- ・透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
- ・水位は井戸孔口からの深さを示す。

表 3-5-5-1 (3) 井戸の水位、湧水の水量の調査結果

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
T-05	相模原市緑区	観測井戸 (縦井戸)	水位 (m)	-15.58	-15.07	-15.17	-15.26	-15.93	-15.31	-15.39	-15.36	-15.55	-15.61	-15.76	-15.84
			水温 (°C)	14.5	14.1	14.1	15.1	16.4	13.9	14.5	13.4	12.5	12.1	13.8	13.7
			pH	10	10	10	10	10	10	10	9.9	9.9	9.9	9.9	9.8
			電気伝導率 (mS/m)	45	44	44	44	44	45	44	44	43	43	42	43
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
T-06	相模原市緑区	公共水源 (縦井戸)	水温 (°C)	14.2	15.3	15.2	14.8	15.4	15.3	14.6	14.1	12.6	13.0	12.3	12.7
			pH	7.6	7.6	7.7	7.5	7.5	7.6	7.4	7.4	7.5	6.5	7.6	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	15	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	14
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
			井戸の 取水確認※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- ・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。
 - ・透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
 - ・水位は井戸孔口からの深さを示す。
- ※地点 T-06 は、井戸の構造上、直接水位が測定できないため、ポンプにより取水が確認できたことを○で表記した。

表 3-5-5-1(4) 井戸の水位、湧水の水量の調査結果

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度												
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
F-01	相模原市緑区	簡易水道 (湧水)	水量 (m ³ /min)	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0*	0*	0*	0.01
			水温 (°C)	14.8	15.6	16.5	18.4	19.5	20.9	18.2	16.4	14.5	12.9	5.7	12.4	
			pH	7.4	6.9	7.4	7.4	6.8	7.6	8.0	8.1	8.0	8.2	8.3	8.0	
			電気伝導率 (mS/m)	14	16	15	15	14	14	16	15	13	13	14	13	
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
F-02	相模原市緑区	観測井戸 (縦井戸)	水位 (m)	-38.40	-38.18	-37.19	-36.94	-37.33	-37.72	-38.07	-38.37	-38.77	-39.02	-39.38	-39.8	
			水温 (°C)	14.6	15.1	16.10	17.2	16.1	15.9	14.6	13.2	13.4	13.2	13.4	12.6	
			pH	9.7	9.6	8.9	9.5	9.4	9.3	9.2	9.9	8.9	9.9	9.5	9.4	
			電気伝導率 (mS/m)	10	10	12	7.9	10	10	10	13	10	9.9	10	9.9	
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50

- ・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。
 - ・透視度の「>50」は、測定機器の計測限界値である 50cm を超過したことを示す。
 - ・水位は井戸孔口からの深さを示す。
- ※確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

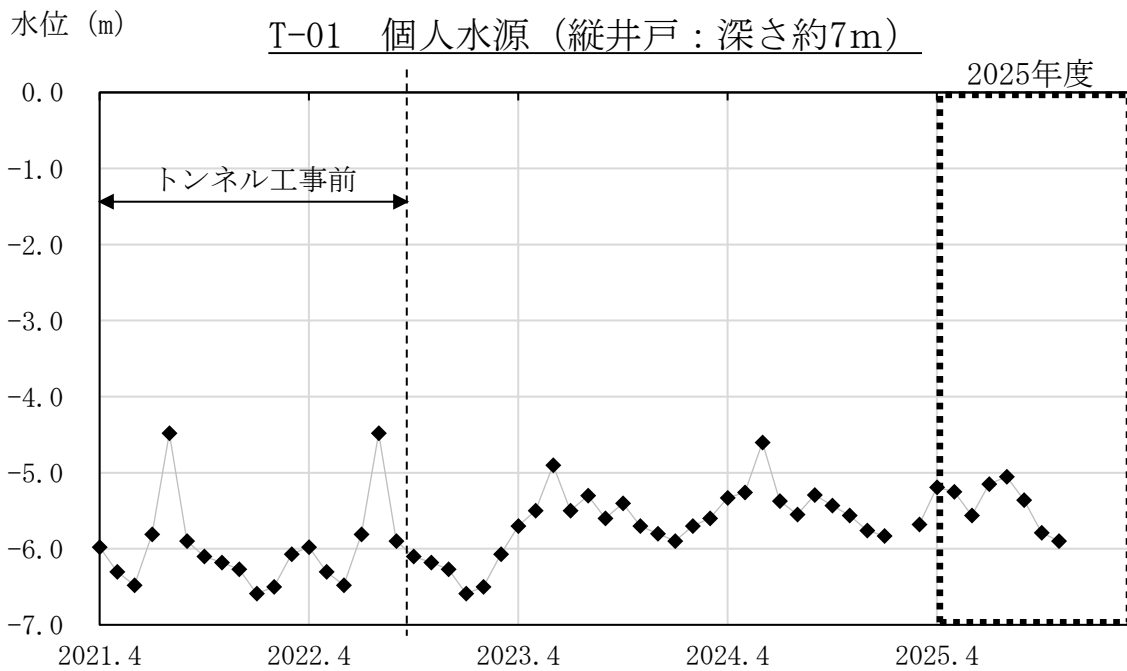
表 3-5-5-2 調査結果（自然由来の重金属等）

調査項目	調査地点			基準値※	
	相模原市緑区				
	T-03 (モニタリング) 個人水源 (湧水)	F-01 (事後調査) 個人水源 (縦井戸)	F-05 (事後調査) 小規模水道 (縦井戸)		
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.005	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.2	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

※地下水の水質汚濁に係る環境基準について（1997年3月13日環境庁告示第10号）

・「<」は未満を示す。

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。



・2024年度2月期、2025年度12月期～3月期は井戸底の土砂堆積により、水位の確認ができないため欠測とした。

図 3-5-5-1 (1) 井戸の水位の調査結果 (T-01 個人水源)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。

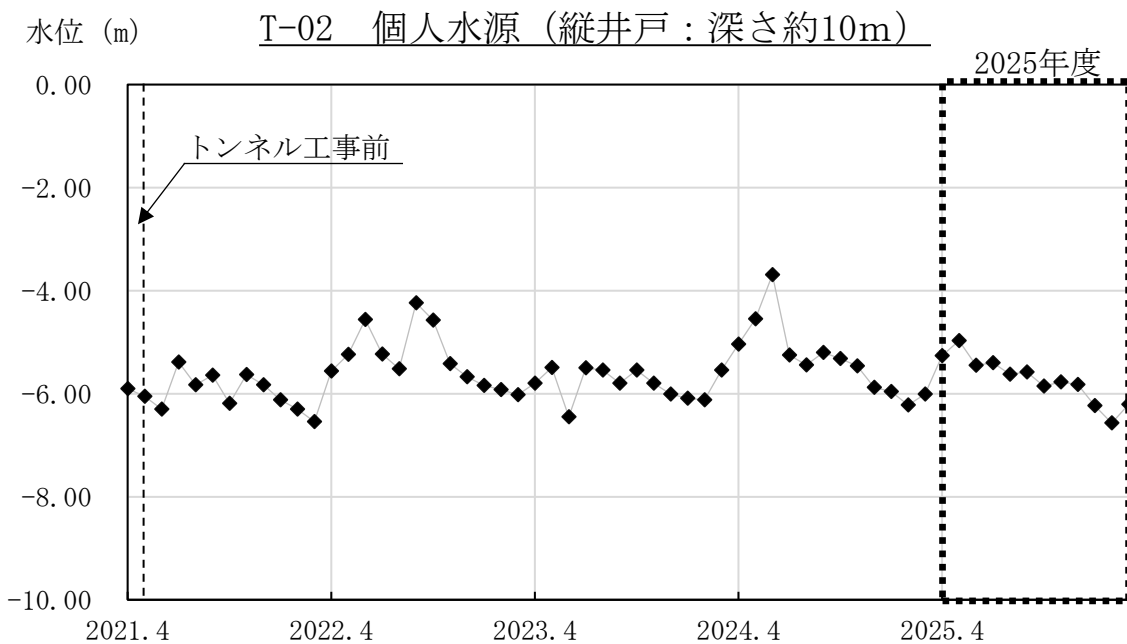
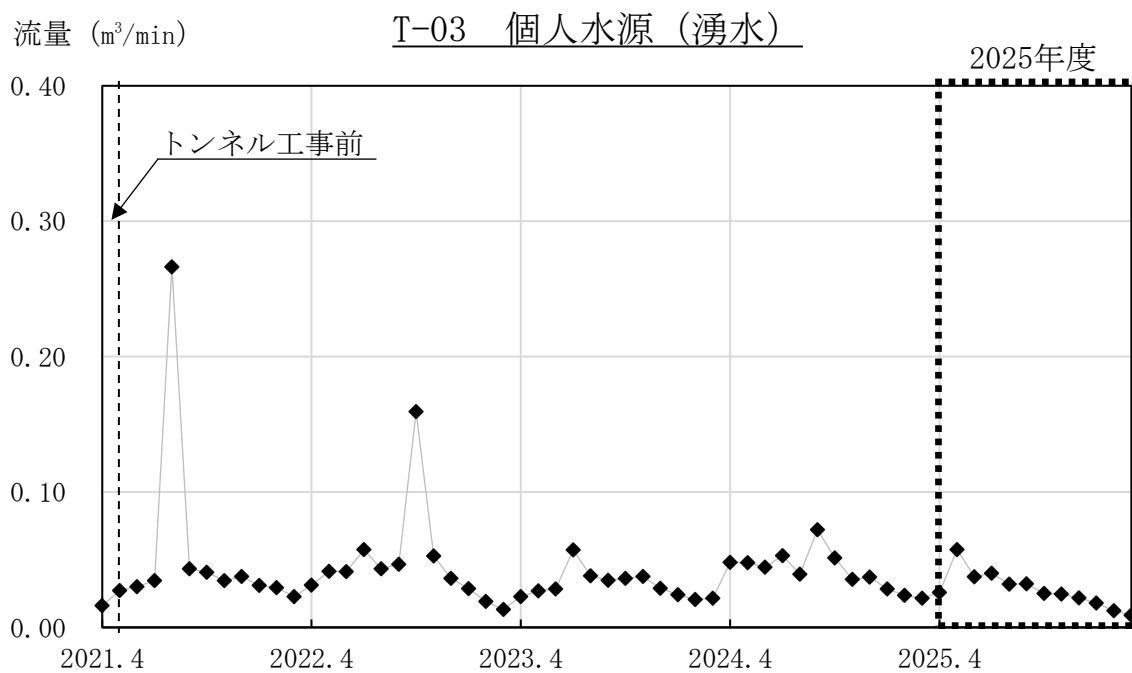


図 3-5-5-1 (2) 井戸の水位の調査結果 (T-02 個人水源)

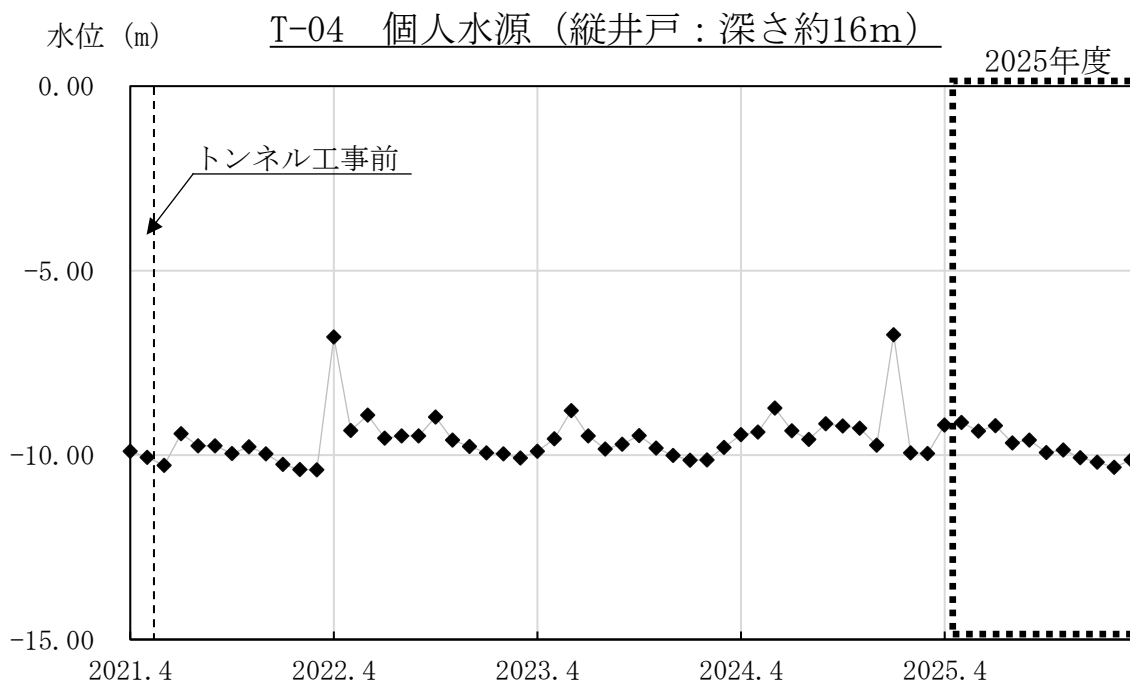
測定方法：容器法



・2021年度8月期、2022年度10月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(3) 湧水の水量の調査結果 (T-03 個人水源)

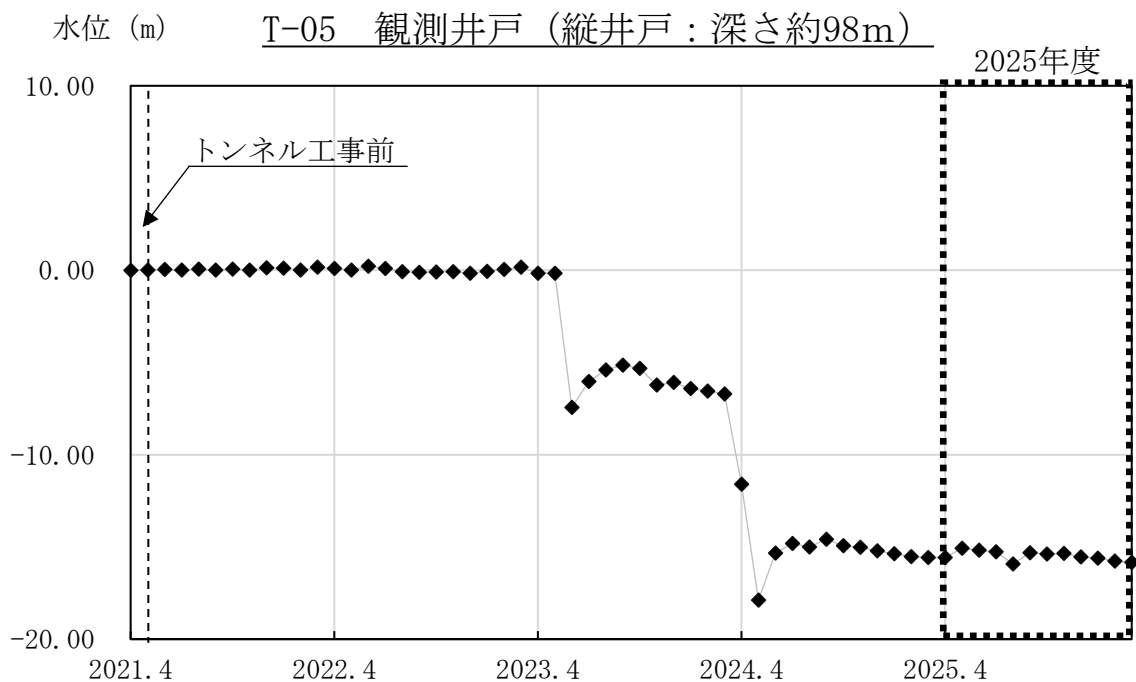
測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。



・2022年度4月期、2024年度1月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(4) 井戸の水位の調査結果 (T-04 個人水源)

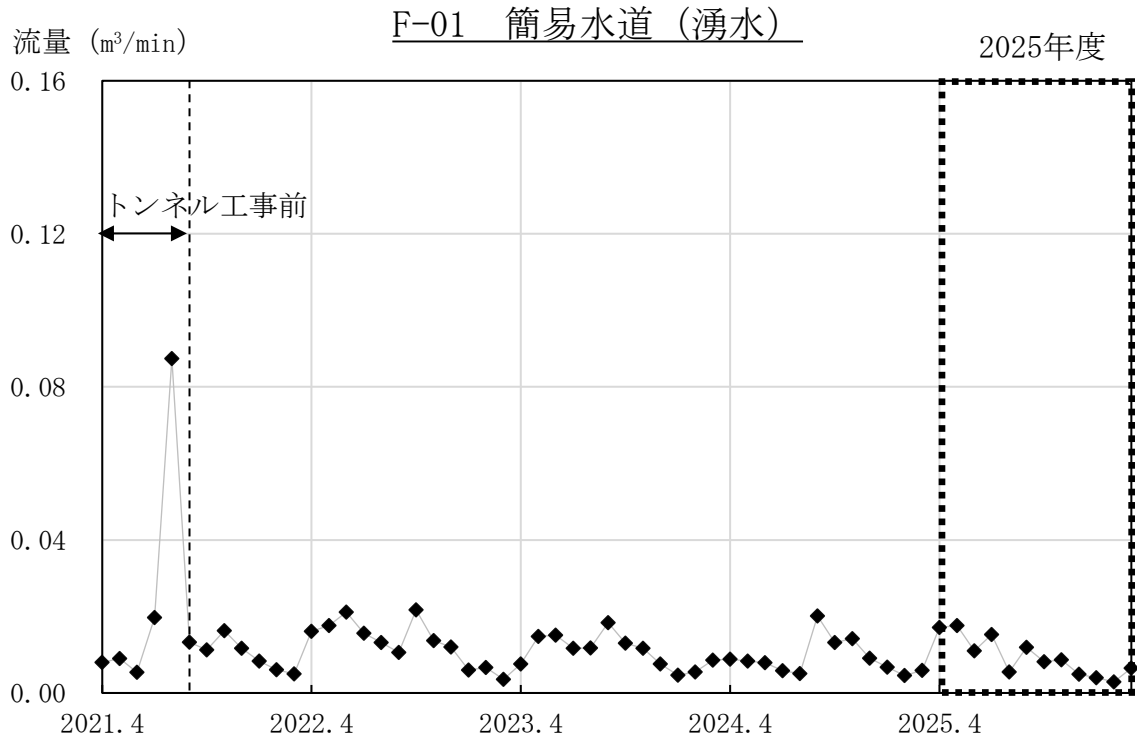
測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。



・2023年6月に水位低下が確認され、その後は若干水位回復して、水位は安定していた。2024年4月から5月にかけて再び水位低下が確認され、その後は同様に若干水位回復して、水位は安定している。なお、トンネル湧水量に大きな変化は見られず、トンネル側壁から滲む程度の量である。当該井戸は観測井のため水利用はなく、周辺には水利用がある井戸、湧水等はない状況ではあるが、引き続き当該井戸での調査を継続していく。今後、水利用がある井戸や湧水等の近傍を掘削する際は、トンネル湧水や地下水位の状況を注意深く監視しながら、慎重に施工を行っていく。

図 3-5-5-1 (5) 井戸の水位の調査結果 (T-05 観測井戸)

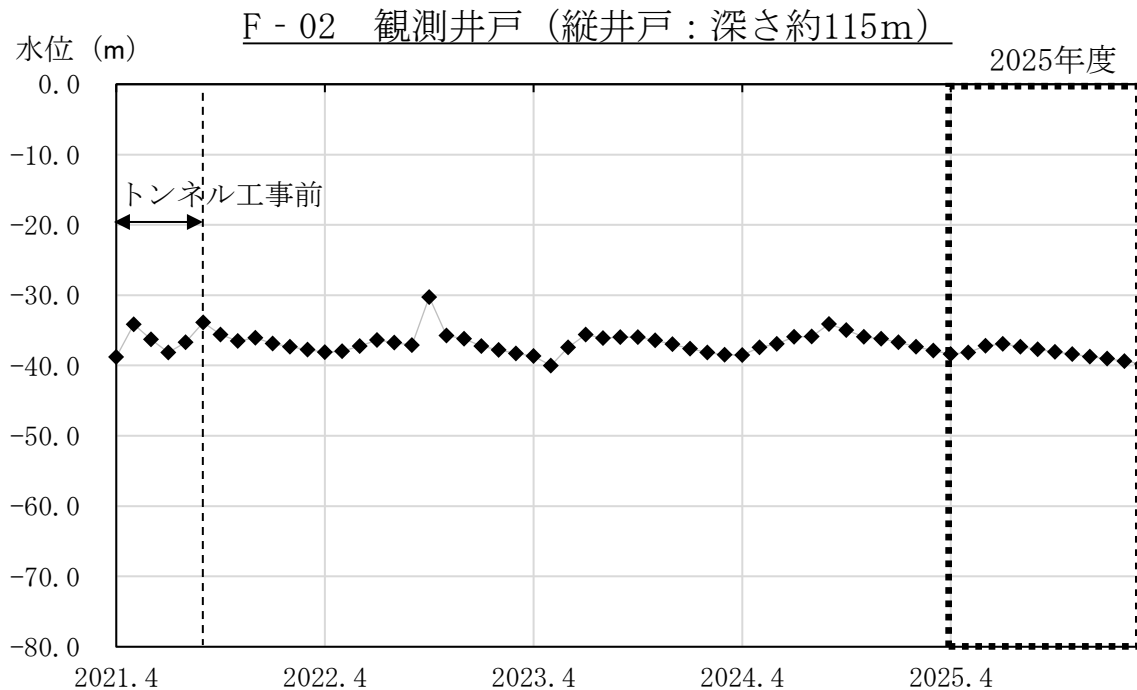
測定方法：容器法



・2021年度8月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(6) 湧水の水量の調査結果 (F-01 簡易水道)

測定方法：触針式水位計 水位は井戸孔口からの深さを示す。



・2022年度10月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-1(7) 井戸の水位の調査結果 (F-02 観測井戸)

表 3-5-5-3(1) 調査結果 (地表水)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
T-07	相模原市緑区	尻久保川 (下流部)	水量 (m ³ /min)	6.15	2.88	2.85	3.43	1.75	2.21	1.32	1.51	1.21	1.21	0.98	1.40
			水温 (°C)	15.2	15.3	20.2	19.7	22.1	18.0	13.9	11.2	8.0	7.2	7.9	9.6
			pH	7.5	7.7	7.7	7.7	7.7	7.6	7.5	7.6	7.7	7.6	7.8	7.8
			電気伝導率 (mS/m)	17	16	15	19	19	18	19	22	20	20	20	19
T-08		尻久保川 (上流部)	水量 (m ³ /min)	0.58	0.80	0.38	0.63	0.42	0.60	0.29	0.27	0.23	0.16	0.24	0.18
			水温 (°C)	13.8	14.2	18.6	20.2	21.3	18.4	16.8	13.2	9.1	7.6	9.1	11.5
			pH	7.8	8.1	7.7	7.7	7.4	7.8	7.8	7.9	7.8	7.9	7.7	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	9.2	9.1	10	10	11	10	11	11	11	11	8.8	12
T-09		大沢川 (上流部)	水量 (m ³ /min)	0.20	0.39	0.21	0.46	0.15	0.45	0.16	0.11	0.16	0.14	0.10	0.14
			水温 (°C)	13.5	13.7	19.0	18.6	20.6	19.0	16.6	10.3	8.8	6.3	8.8	9.0
			pH	7.9	8.0	7.8	7.9	7.6	7.8	7.6	7.9	7.8	7.6	7.5	7.9
			電気伝導率 (mS/m)	8.6	8.8	9.3	8.8	10	9.4	10	10	11	11	10	11

・地点番号は、図 3-5-3-1 (1) を参照。

表 3-5-5-3(2) 調査結果 (地表水)

地点番号	市区名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
T-10	相模原市緑区	青山川 (上流部)	水量 (m ³ /min)	1.08	1.04	0.56	0.56	0.42	1.62	0.46	0.53	0.47	0.45	0.47	0.56
			水温 (°C)	14.5	15.4	23.3	21.9	22.2	19.1	16.9	10.5	8.9	5.6	9.1	11.8
			pH	7.7	7.9	7.9	7.7	7.7	7.8	7.8	7.8	7.8	7.9	7.5	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	17	17	17	18	20	20	19	20	19	21	22	18
F-03		寒沢川 (上流部)	水量 (m ³ /min)	1.22	1.34	0.63	8.71	0.69	0.75	0.53	0.51	0.40	0.07	0.10	0.06
			水温 (°C)	14.2	14.3	18.8	20.7	21.8	21.9	16.7	10.1	6.6	6.4	4.8	9.0
			pH	8.1	7.8	8.0	8.0	8.1	8.1	7.7	8.3	8.4	8.4	8.2	8.2
			電気伝導率 (mS/m)	11	11	13	7.7	13	9.2	13	12	14	13	14	17
F-04		寒沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.02	0.02	0.01	0.16	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
			水温 (°C)	13.5	13.9	19.0	21.0	22.9	21.4	16.1	10.1	7.0	5.9	4.5	8.2
			pH	7.9	7.9	7.8	8.4	7.8	7.7	7.6	8.1	8.3	8.5	8.2	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	11	10	12	8.2	14	11	14	12	15	15	15	14

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

表 3-5-5-3(3) 調査結果 (地表水)

地点 番号	市区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-05	相模原市緑区	寒沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.02	0.02	0*	0.06	0*	0.01	0.01	0*	0*	0*	0.01	0*
			水温 (°C)	15.0	14.3	19.4	20.5	23.5	21.7	16.2	10.2	6.4	5.5	4.3	7.7
			pH	7.9	7.9	8.0	8.1	8.0	7.9	7.7	8.3	8.2	8.4	8.2	8.2
			電気伝導率 (mS/m)	11	10	12	8.9	13	12	13	12	12	12	11	12
F-06		寒沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.65	0.54	0.85	3.52	0.26	0.43	0.53	0.18	0.18	0.09	0.37	0*
			水温 (°C)	14.3	14.4	20.1	20.8	22.8	20.8	16.1	10.1	6.1	5.3	3.5	9.0
			pH	8.0	7.6	7.8	8.1	8.1	8.2	7.6	8.4	8.7	8.4	8.2	8.2
			電気伝導率 (mS/m)	11	11	11	9.0	13	11	13	11	13	13	12	12
F-07		道志川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.02	0.02	0.01	0.01	0*	0.02	0*	0*	0*	0*	0*	0.01
			水温 (°C)	13.8	14.7	19.4	20.3	20.8	21.0	17.1	13.9	8.9	7.8	5.5	10.0
			pH	8.2	7.6	7.8	8.1	7.1	7.8	8.4	8.3	8.0	8.0	8.3	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	35	39	49	14	50	35	52	41	50	52	58	48

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

※確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

表 3-5-5-3(4) 調査結果 (地表水)

地点 番号	市 区 名	調査地点	調査項目	2025 年度												
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
F-08	相模原市緑区	仲沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0*	0.01	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*
			水温 (°C)	16.0	16.3	21.4	23.3	24.9	25.7	16.9	12.0	10.7	7.8	5.4	12.0	
			pH	8.1	7.6	7.9	8.2	7.7	7.9	8.3	8.4	8.1	8.4	7.8	8.2	
			電気伝導率 (mS/m)	17	19	18	16	19	16	19	17	17	18	18	17	
F-09		仲沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.07	0.20	0.07	0.23	0.09	0.45	0.14	0.15	0.20	0.12	0.05	0.05	
			水温 (°C)	14.5	14.2	19.3	19.9	22.2	21.1	16.5	11.6	7.6	6.1	4.5	8.0	
			pH	7.9	7.3	7.7	7.9	7.7	7.4	7.7	8.0	7.8	8.3	7.8	8.0	
			電気伝導率 (mS/m)	15	17	17	13	16	14	17	16	16	16	16	16	
F-10		仲沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	0*	
			水温 (°C)	13.8	14.2	18.4	18.8	22.1	20.8	16.6	12.0	8.8	7.7	4.5	8.5	
			pH	8.0	7.8	7.9	7.9	7.4	7.6	8.4	8.2	8.1	8.3	8.3	8.1	
			電気伝導率 (mS/m)	14	15	15	12	14	13	16	15	14	14	14	14	

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

※確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

表 3-5-5-3(5) 調査結果（地表水）

地点 番号	市 区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-11	相模原市緑区	仲沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.07	0.13	0.10	0.12	0 ^{*1}	0.09	0.02	0.05	0.01	0 ^{*1}	0	0 ^{*1}
			水温 (°C)	13.0	13.8	17.3	19.3	21.5	20.3	15.6	12.2	8.9	6.4	- ^{*2}	8.0
			pH	7.9	7.4	7.7	7.9	7.6	7.5	8.3	8.2	8.0	8.2	- ^{*2}	8.0
			電気伝導率 (mS/m)	12	14	13	12	13	12	14	13	13	14	- ^{*2}	13
F-12		仲沢川 (上流部)	水量 (m ³ /min)	0.26	0.39	0.33	1.54	0.03	1.13	0.14	0.32	0.25	0.08	0.11	0.14
			水温 (°C)	14.0	14.7	19.3	19.5	22.3	22.2	17.2	10.7	6.1	4.5	3.1	7.9
			pH	8.1	6.8	7.8	7.9	7.9	7.7	7.7	8.1	7.9	8.1	8.1	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	8.4	9.6	9.6	8.1	11	8.4	10	9.0	9.3	9.4	9.3	8.7
F-13		仲沢川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.17	0.19	0.22	0.95	0.11	0.28	0.09	0.13	0.12	0.02	0.02	0.07
			水温 (°C)	14.6	14.9	18.9	19.2	22.6	21.8	16.6	10.3	6.5	3.5	1.8	7.9
			pH	8.0	7.2	7.8	7.9	7.6	7.5	7.9	8.3	8.1	8.2	8.1	8.1
			電気伝導率 (mS/m)	10	11	11	9.3	10	9.7	11	10	11	11	11	15

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

※1 確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

※2 水量が確認されなかったため欠測とした。なお、2025 年度は年間を通して降雨が少なく全体的に減水傾向が確認されている。

表 3-5-5-3(6) 調査結果（地表水）

地点 番号	市 区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-14	相 模 原 市 緑 区	道志川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.03	0.04	0.01	0 ^{*1}	0 ^{*1}	0.03	0.01	0.01	0 ^{*1}	0	0	0
			水温 (°C)	13.6	14.1	19.7	21.6	23.6	23.3	17.3	11.0	6.6	- ^{*2}	- ^{*2}	- ^{*2}
			pH	8.0	7.6	7.3	7.8	7.6	8.0	7.7	8.0	8.0	- ^{*2}	- ^{*2}	- ^{*2}
			電気伝導率 (mS/m)	10	11	14	12	16	11	14	10	13	- ^{*2}	- ^{*2}	- ^{*2}
F-15		道志川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.88	1.04	0.80	0.48	0.29	0.71	0.49	0.43	0.55	0.23	0.45	0.44
			水温 (°C)	13.8	13.8	19.0	21.4	23.9	23.4	17.0	12.3	5.7	3.2	0.4	7.1
			pH	8.0	7.5	7.4	7.8	8.1	8.2	7.7	8.1	8.1	8.6	8.3	8.3
			電気伝導率 (mS/m)	14	13	18	12	14	15	17	14	17	16	16	16
F-16		道志川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.04	0.03	0.04	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
			水温 (°C)	13.8	13.7	19.4	22.0	23.9	22.7	17.5	12.3	6.8	5.1	2.9	7.2
			pH	7.7	7.8	7.6	7.8	8.1	8.2	7.9	8.2	7.8	8.9	8.5	8.4
			電気伝導率 (mS/m)	13	13	16	13	16	15	16	13	15	15	13	13

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

※1 確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

※2 水量が確認されなかったため欠測とした。なお、2025 年度は年間を通して降雨が少なく全体的に減水傾向が確認されている。

表 3-5-5-3(7) 調査結果 (地表水)

地点 番号	市 区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-17	相模原市緑区	道志川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.84	1.44	0.65	0.62	0.58	1.35	0.45	0.82	2.14	0.62	0.33	0.32
			水温 (°C)	14.2	14.1	19.8	20.0	22.8	20.8	17.0	10.1	5.5	3.0	1.8	8.4
			pH	8.2	7.2	8.0	8.2	7.7	7.5	8.4	8.3	8.2	8.3	8.0	8.2
			電気伝導率 (mS/m)	14	15	14	14	13	13	15	14	13	14	14	13
F-18		川上川 (上流部)	水量 (m ³ /min)	0.36	0.36	0.54	0.27	0.16	0.28	0.18	0.26	0.11	0.16	0.15	0.17
			水温 (°C)	18.6	16.8	19.6	21.8	25.7	22.8	16.9	10.5	4.2	2.1	2.5	12.2
			pH	8.5	7.9	7.9	8.5	8.2	8.1	8.2	8.5	8.5	8.6	8.5	8.5
			電気伝導率 (mS/m)	28	28	29	23	23	24	28	28	27	28	26	27
F-19		道志川 (支流)	水量 (m ³ /min)	0.01	0.01	0.01	0.01	0*	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0*	0.01
			水温 (°C)	13.8	13.9	12.3	15.5	14.9	16.3	15.3	12.5	12.0	12.8	11.9	13.2
			pH	8.7	8.2	8.6	8.6	7.8	7.9	8.7	8.9	8.7	8.8	8.7	8.7
			電気伝導率 (mS/m)	10	12	12	10	9.8	9.8	9.8	11	10	10	10	10

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

※確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

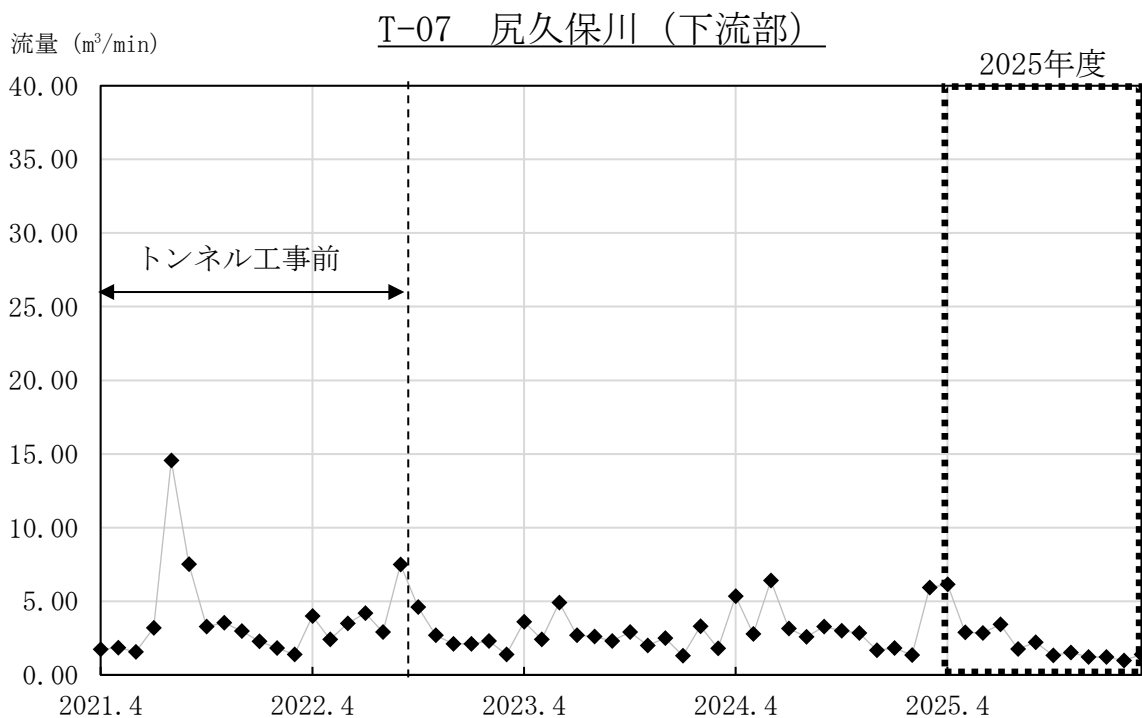
表 3-5-5-3(8) 調査結果（地表水）

地点 番号	市 区 名	調査地点	調査項目	2025 年度											
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
F-20	相 模 原 市 緑 区	綱 子 川 （ 支 流）	水量 (m ³ /min)	0.02	0.02	0.02	0.03	0.01	0.02	0.01	0.01	0*	0*	0*	0.01
			水温 (°C)	13.1	15.0	19.4	17.6	20.9	19.5	15.5	10.4	8.3	5.9	4.8	9.7
			pH	7.9	8.1	7.7	7.8	8.1	8.2	7.6	8.0	7.9	7.8	8.3	8.3
			電気伝導率 (mS/m)	9.4	9.3	10	7.8	14	8.6	9.9	9.9	11	9.1	8.4	8.6

・地点番号は、図 3-5-3-1 を参照。

※確認された流量が極めて少ないため「0」と表記した。

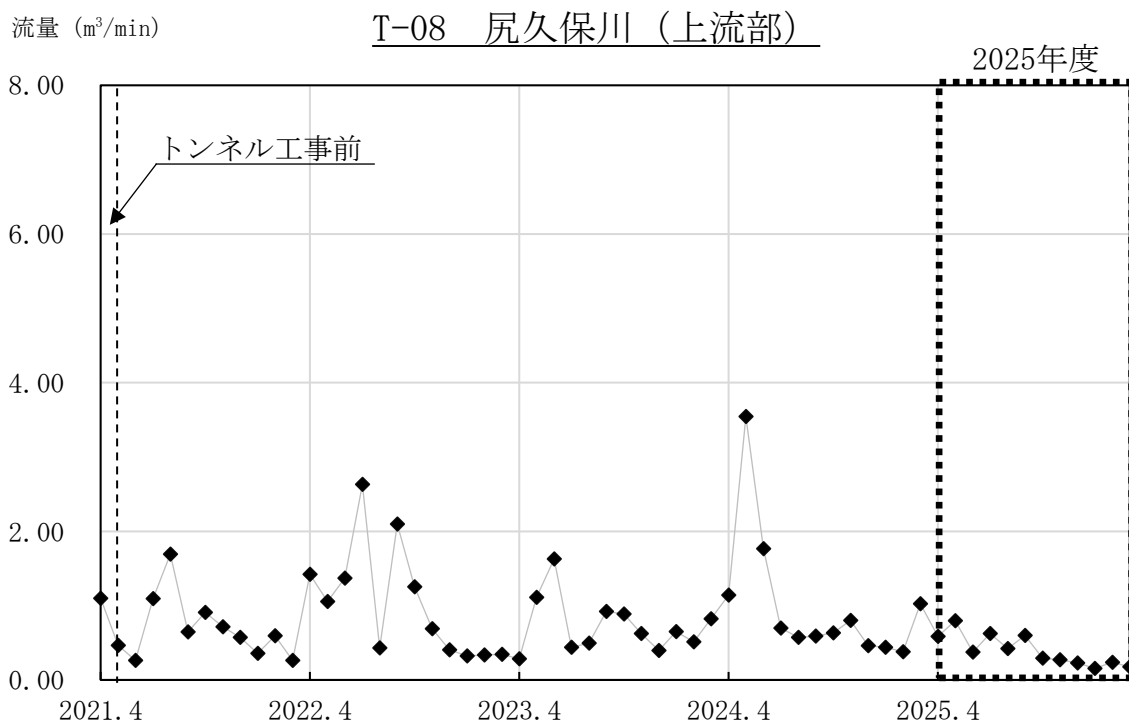
測定方法：流速計速法



・2021年度8月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(1) 地表水の流量の調査結果 (T-07 尻久保川 (下流部))

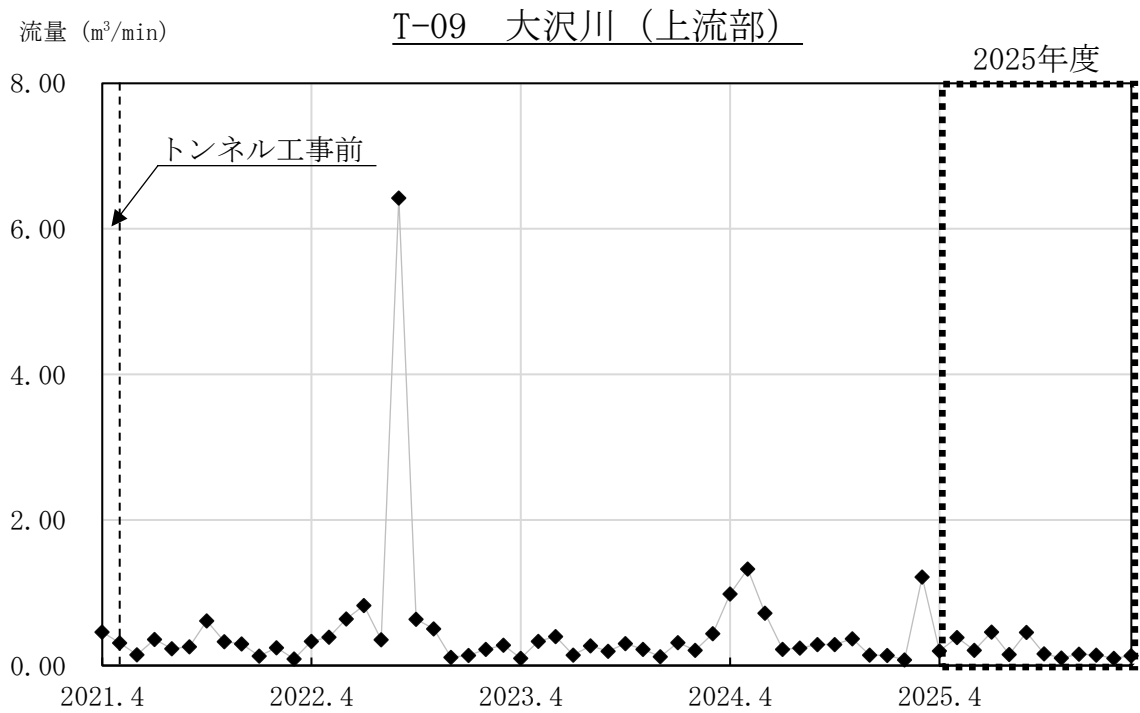
測定方法：流速計速法



・2022年度7月期、9月期、2024年度5月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(2) 地表水の流量の調査結果 (T-08 尻久保川 (上流部))

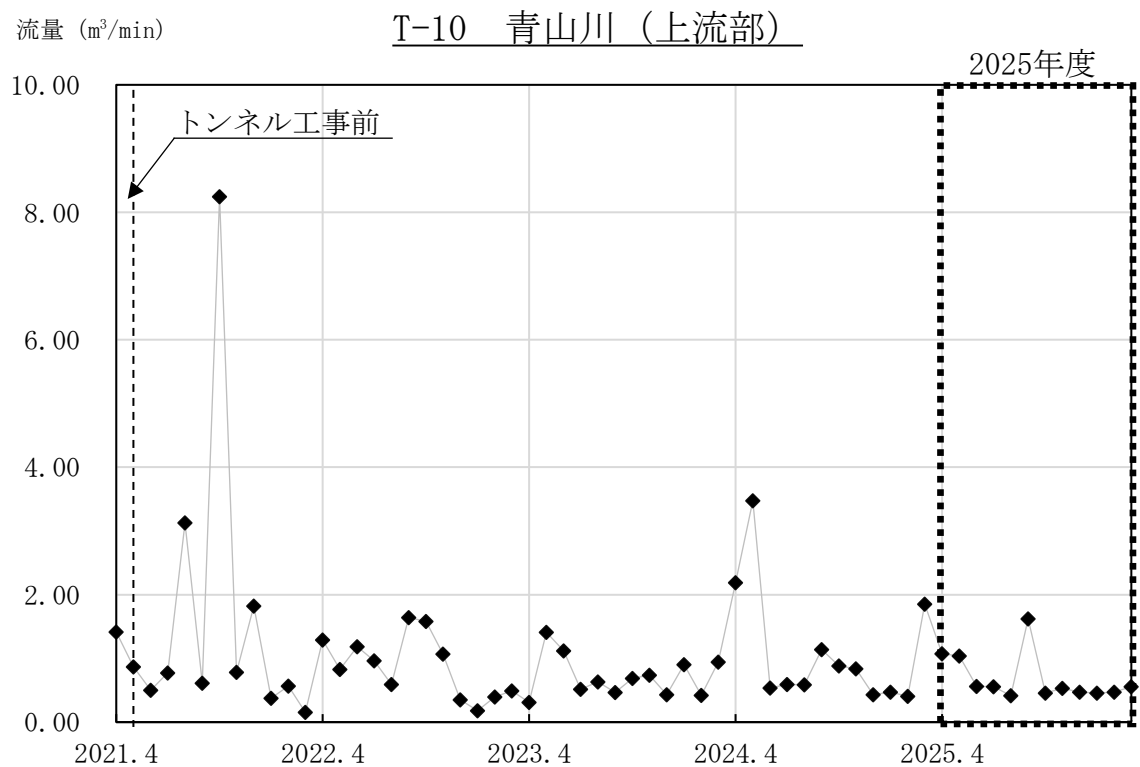
測定方法：流速計測法



・2022年度9月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(3) 地表水の流量の調査結果 (T-09 大沢川 (上流部))

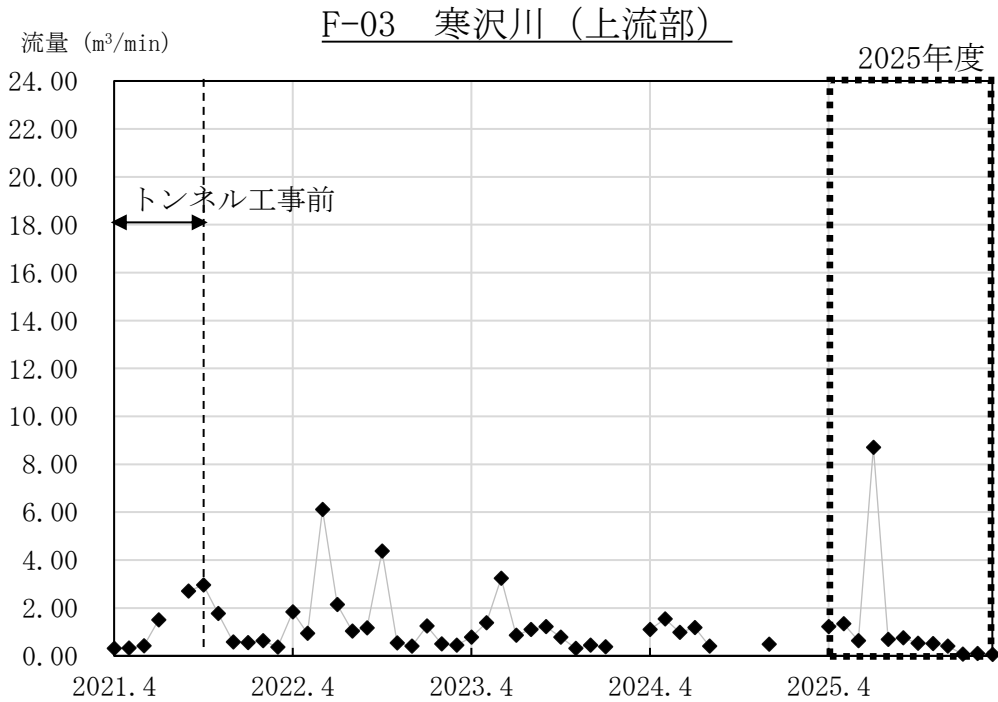
測定方法：流速計測法



・2021年度8月期、10月期、2024年度5月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(4) 地表水の流量の調査結果 (T-10 青山川 (上流部))

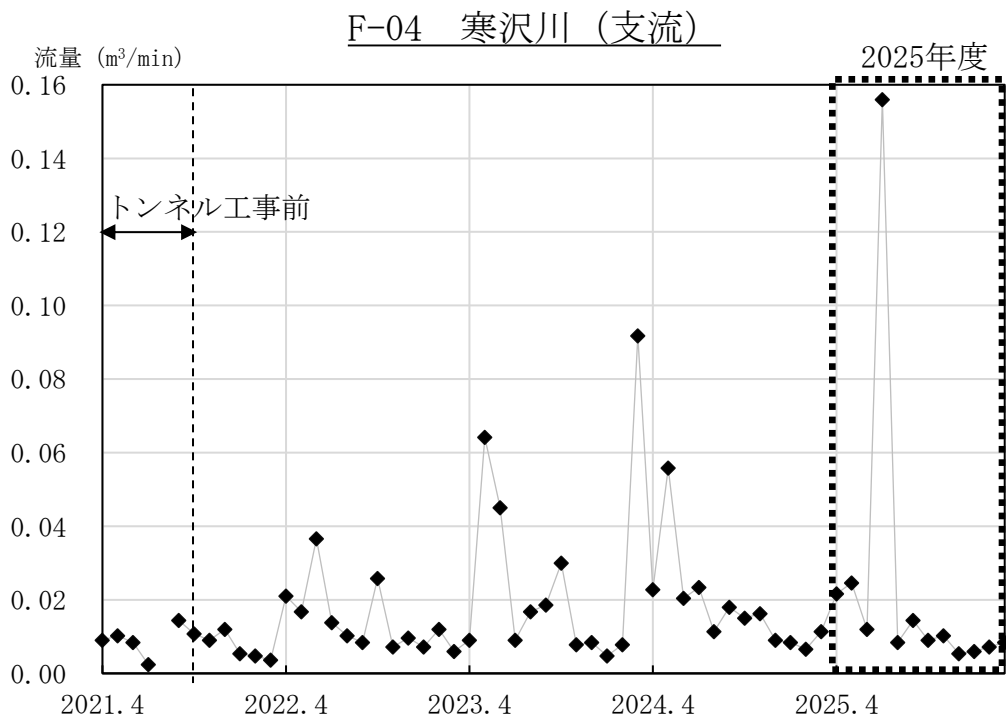
測定方法：流速計測法



- ・ 2022 年度 6 月期、10 月期、2023 年度 6 月期、2025 年度 7 月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。
- ・ 2021 年度 8 月期は、大雨による林道通行止めにより調査を中止したため欠測。2023 年度 2 月期、2024 年度 9 月期、10 月期、11 月期、1 月期、2 月期、3 月期は、倒木による林道通行止めにより調査を中止したため欠測。

図 3-5-5-2(5) 地表水の流量の調査結果 (F-03 寒沢川 (上流部))

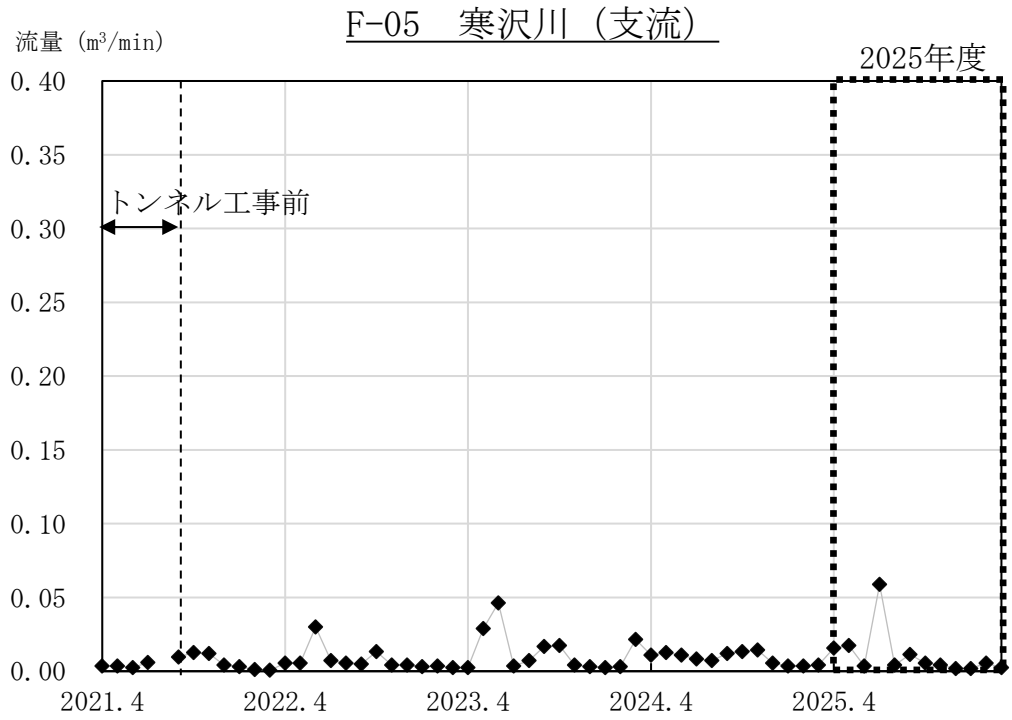
測定方法：容器法



- ・ 2022 年 6 月期、10 月期、2023 年度 5 月期、3 月期、2025 年 7 月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。
- ・ 2021 年度 8 月期は、大雨による林道通行止めにより調査を中止したため欠測。

図 3-5-5-2(6) 地表水の流量の調査結果 (F-04 寒沢川 (支流))

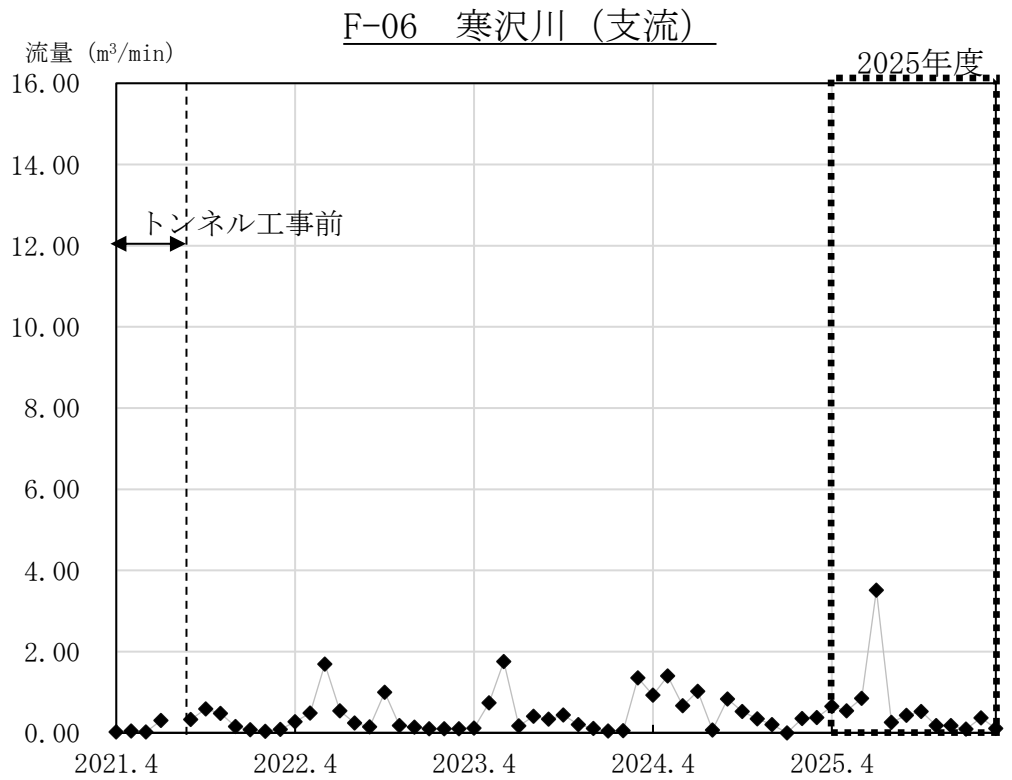
測定方法：容器法



・2022年度6月期、2023年5～6月期、2025年度7月期、には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。2021年度8月期は、大雨による林道通行止めにより調査を中止したため欠測。

図 3-5-5-2(7) 地表水の流量の調査結果 (F-05 寒沢川 (支流))

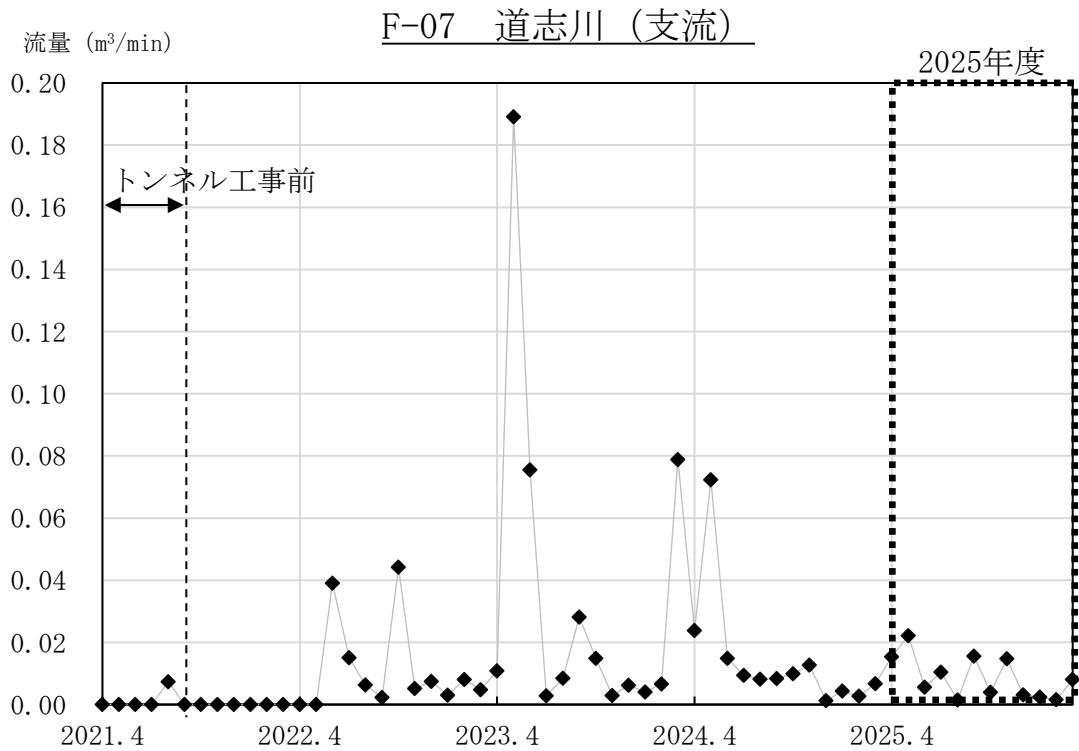
測定方法：流速計測法、容器法



・2025年度7月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。2021年度8月期は、大雨による林道通行止めにより調査を中止したため欠測。

図 3-5-5-2(8) 地表水の流量の調査結果 (F-06 寒沢川 (支流))

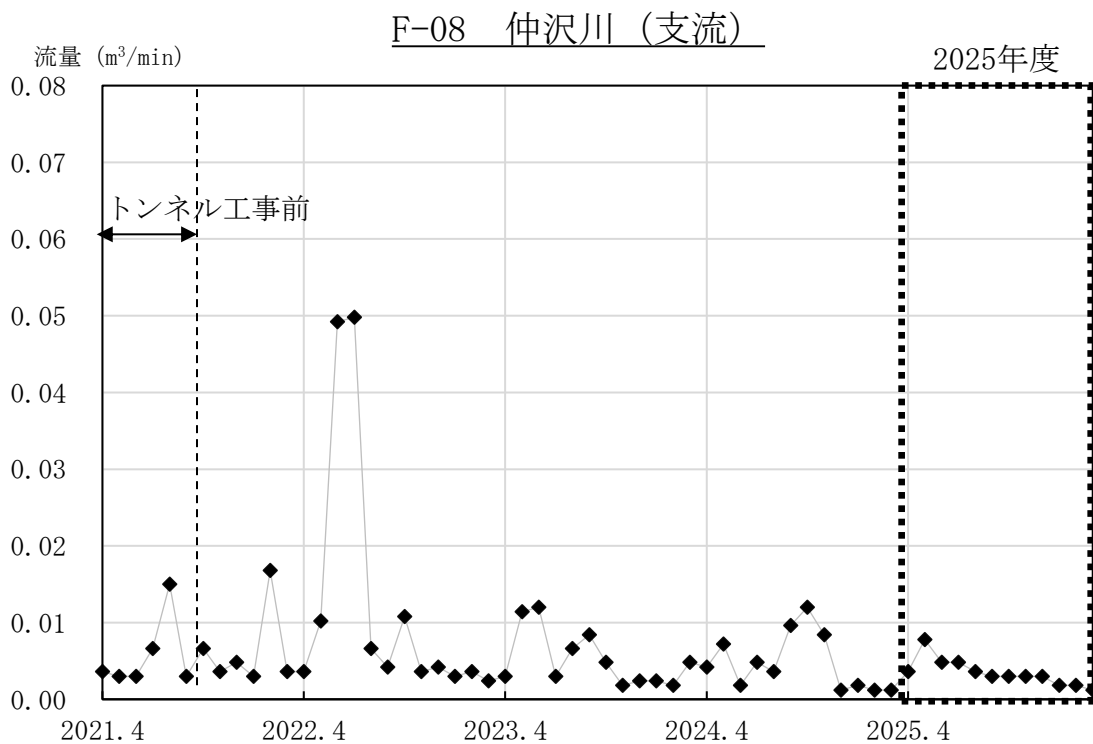
測定方法：容器法



・2022年度6月期、10月期、2023年度5～6月期、3月期、2024年度5月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(9) 地表水の流量の調査結果 (F-07 道志川 (支流))

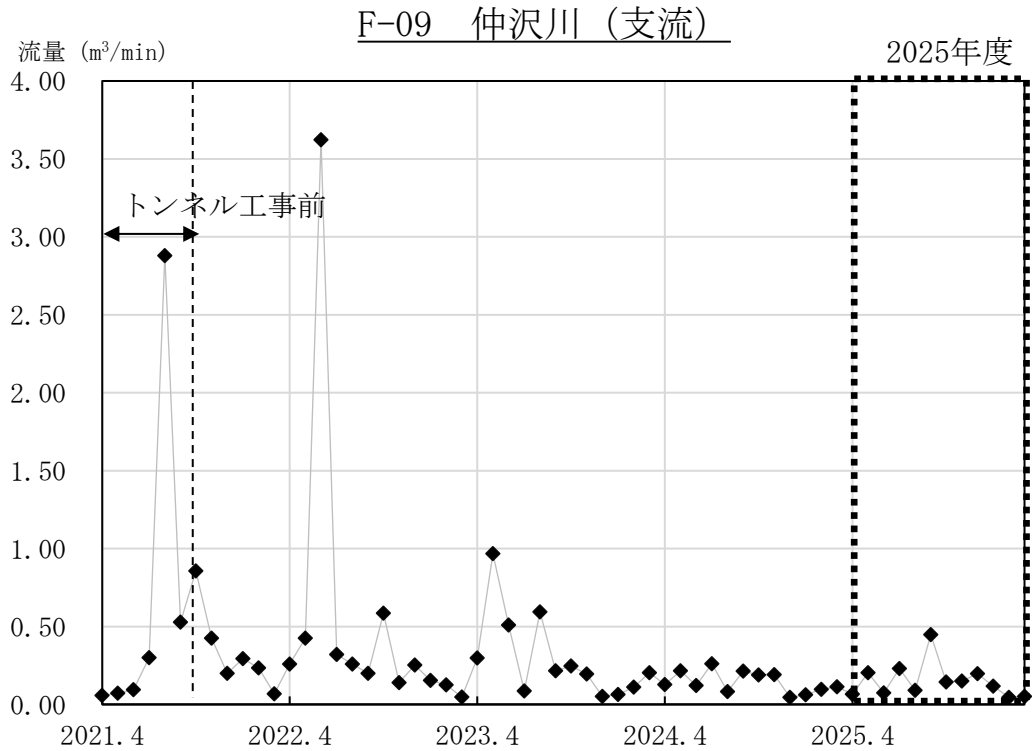
測定方法：容器法



・2022年度6～7月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(10) 地表水の流量の調査結果 (F-08 仲沢川 (支流))

測定方法：流速計測法



・2021年度8月期、2022年度6月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(11) 地表水の流量の調査結果 (F-09 仲沢川 (支流))

測定方法：容器法

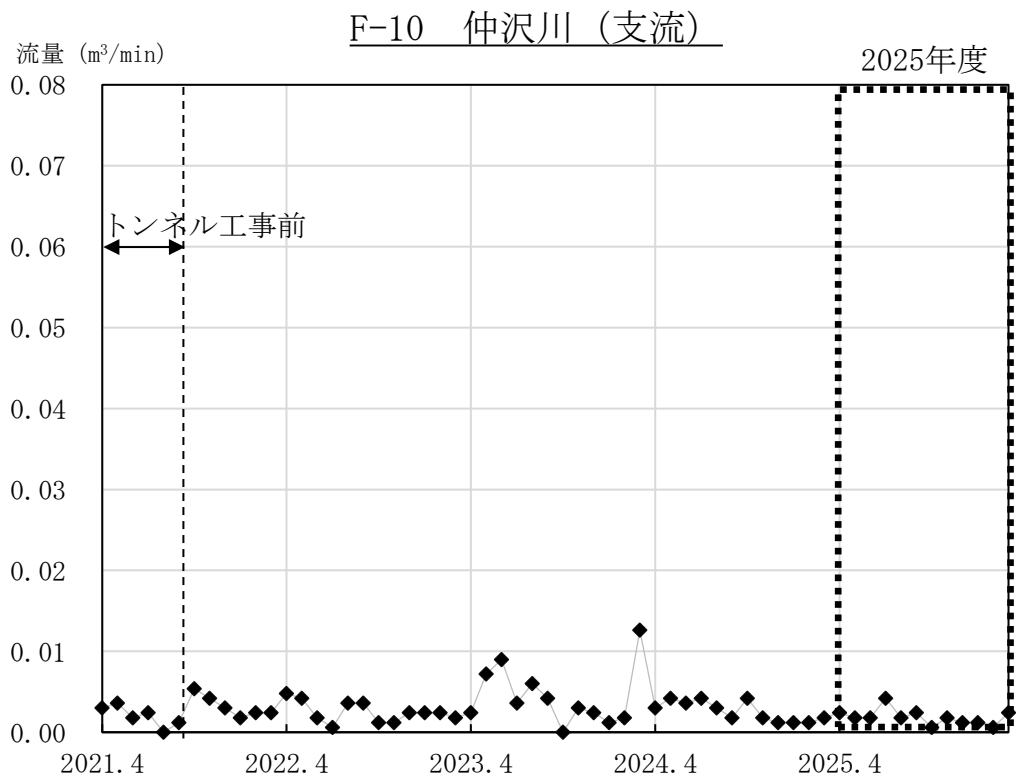
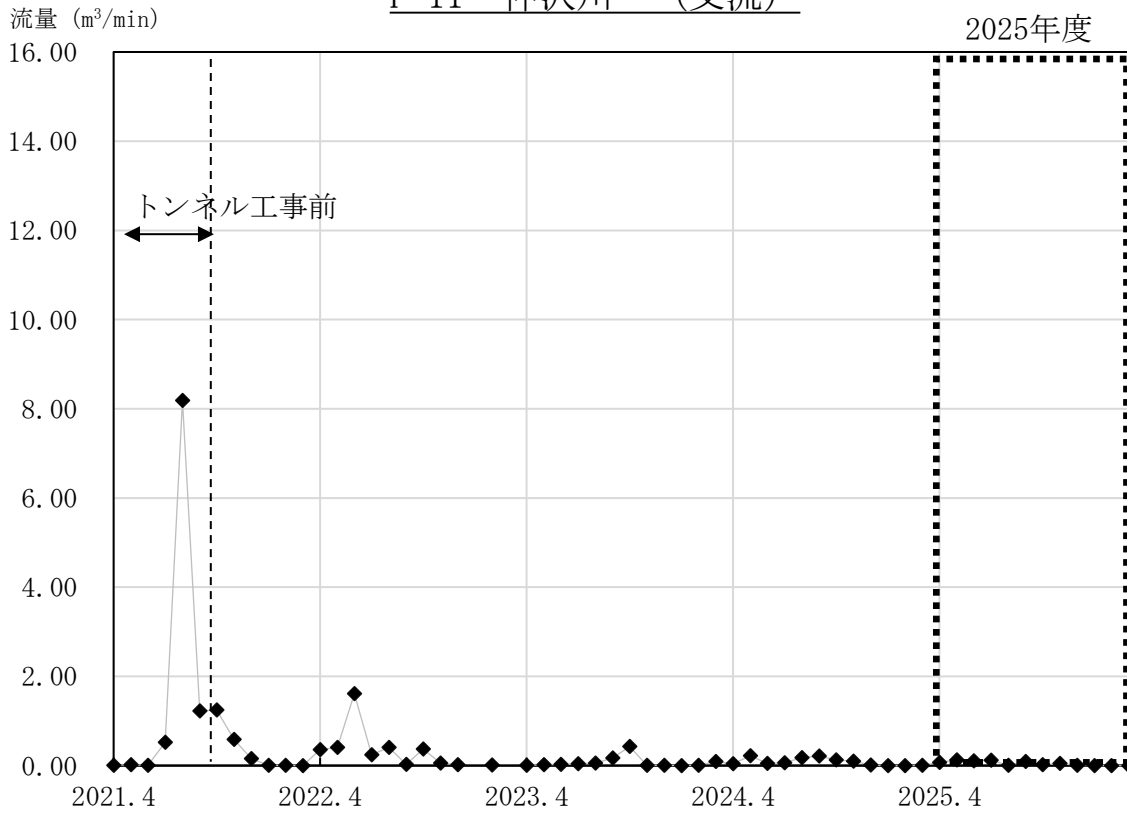


図 3-5-5-2(12) 地表水の流量の調査結果 (F-10 仲沢川 (支流))

測定方法：容器法、流速計測法

F-11 仲沢川 (支流)

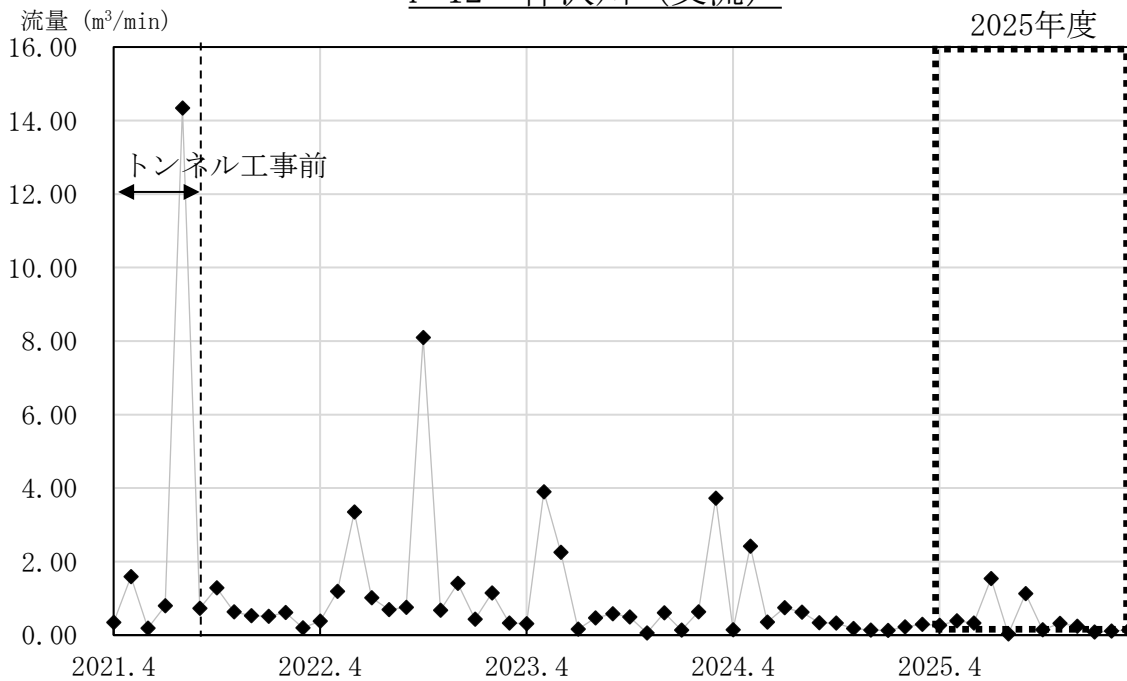


・2021年度8月期、2022年度6月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(13) 地表水の流量の調査結果 (F-11 仲沢川 (支流))

測定方法：流速計測法

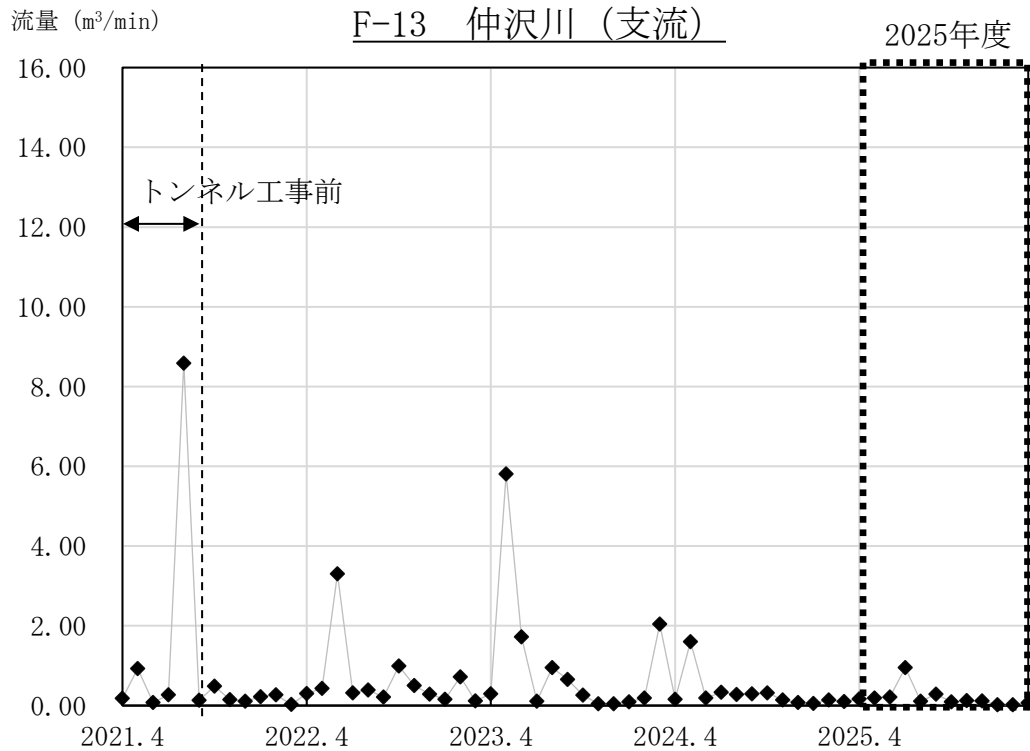
F-12 仲沢川 (支流)



・2021年度8月期、2022年度6月期、10月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(14) 地表水の流量の調査結果 (F-12 仲沢川 (上流部))

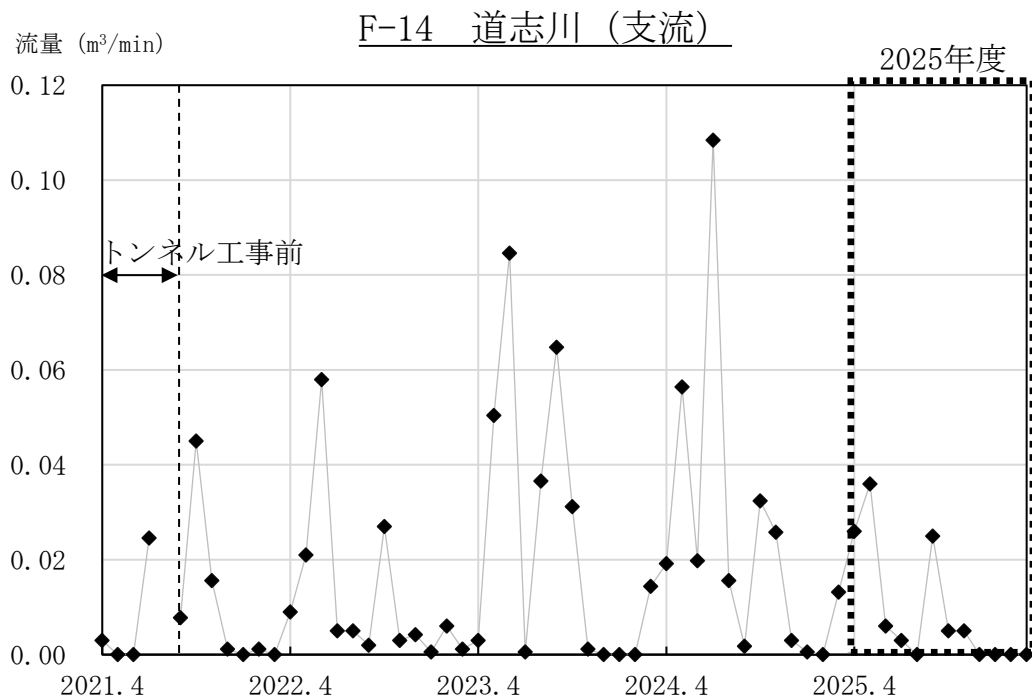
測定方法：流速計測法



・2021年度8月期、2022年度6月期、2023年度5月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(15) 地表水の流量の調査結果 (F-13 仲沢川 (支流))

測定方法：容器法

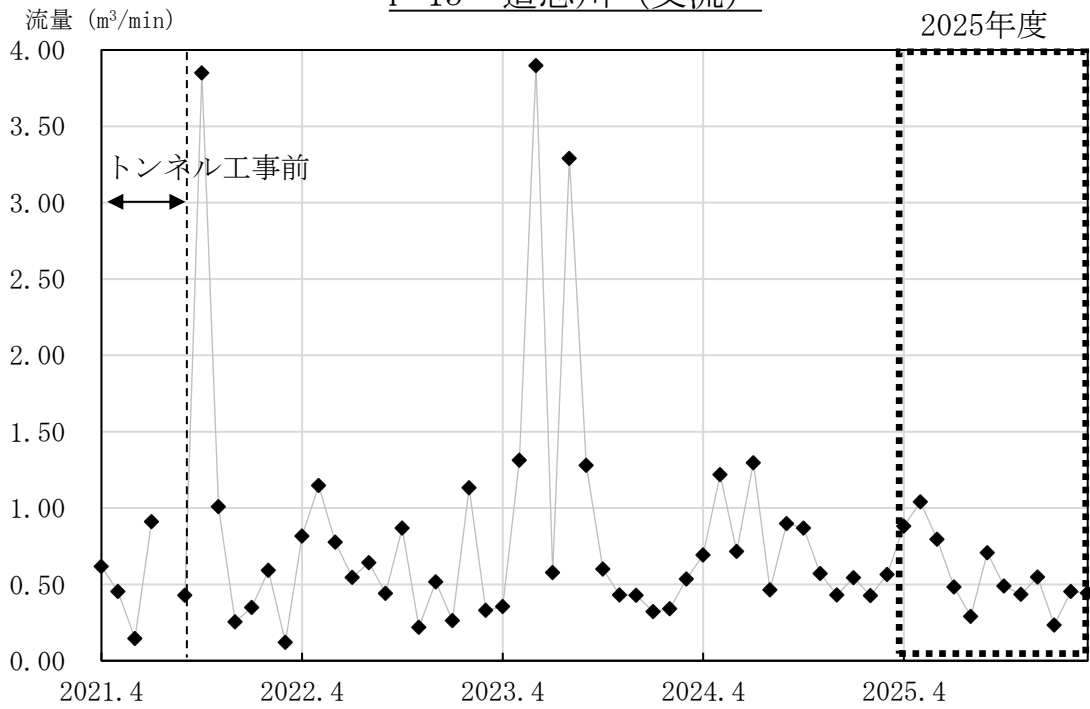


・2021年度8月期は大雨により、測定点に到達できなかったため欠測した。2021年度10月期、2022年度6月期、2023年度5月期、6月期、9月期、2024年度5月期、7月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(16) 地表水の流量の調査結果 (F-14 道志川 (支流))

測定方法：流速計測法

F-15 道志川（支流）

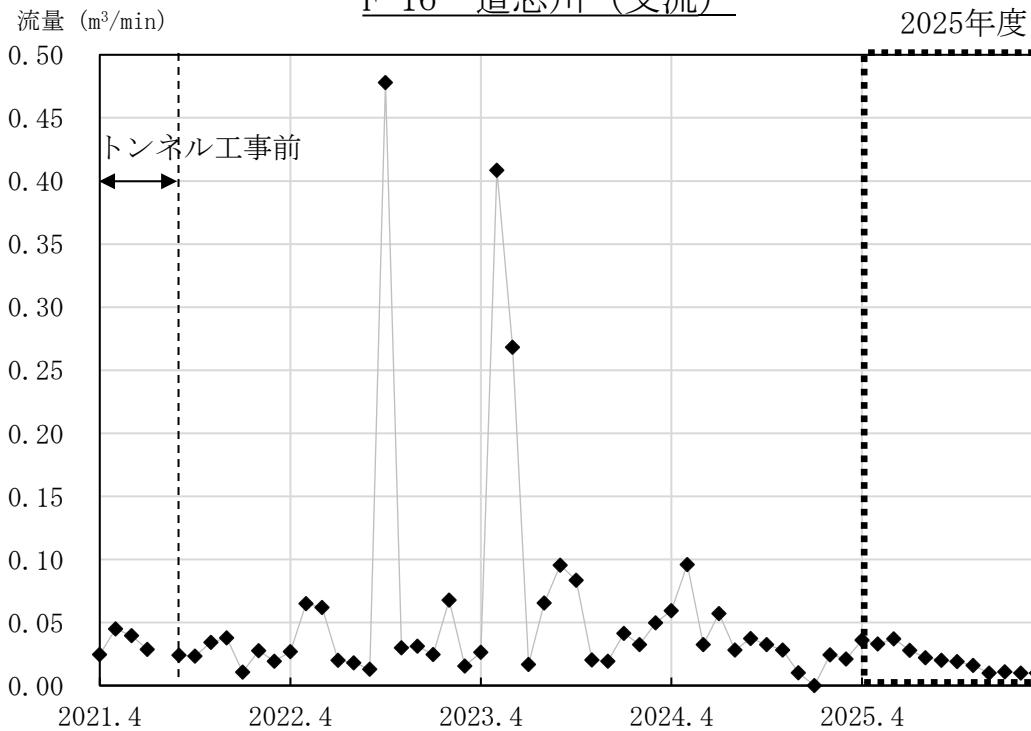


・2021年度8月期は大雨により、測定点に到達できなかったため欠測した。2021年度10月期、2023年度6月期、8月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(17) 地表水の流量の調査結果 (F-15 道志川 (支流))

測定方法：容器法

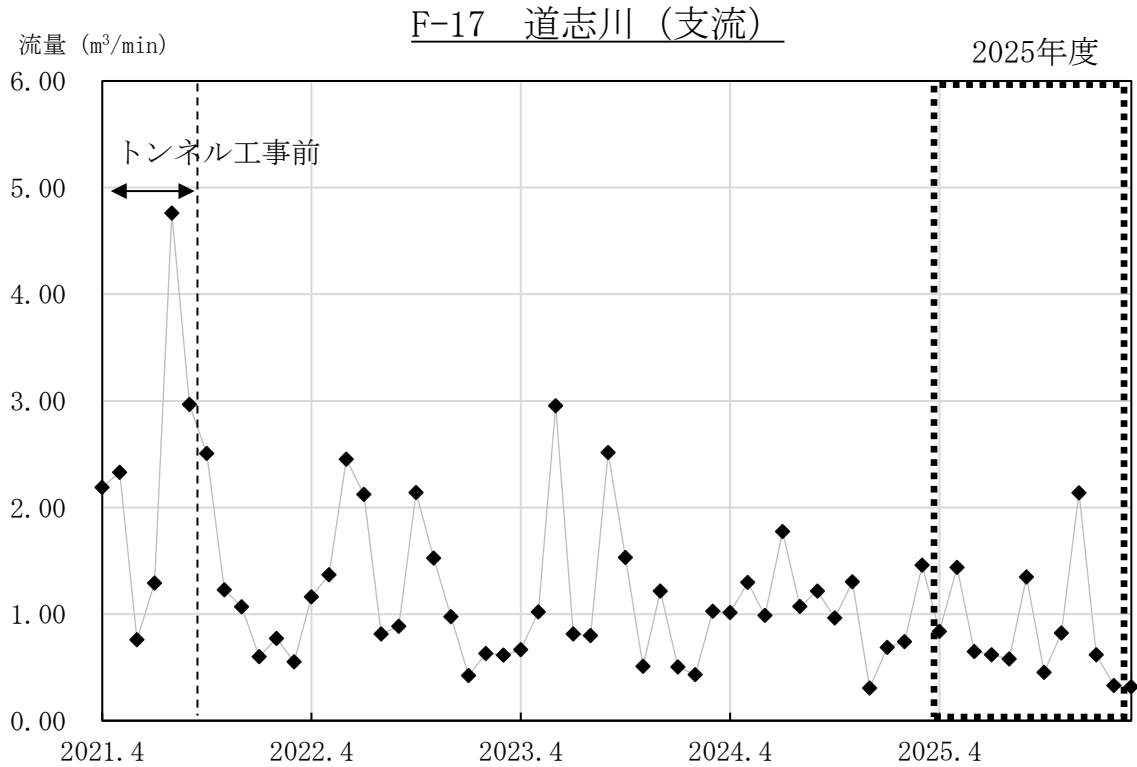
F-16 道志川（支流）



・2021年度8月期は大雨により、測定点に到達できなかったため欠測した。2022年度10月期、2023年度5～6月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(18) 地表水の流量の調査結果 (F-16 道志川 (支流))

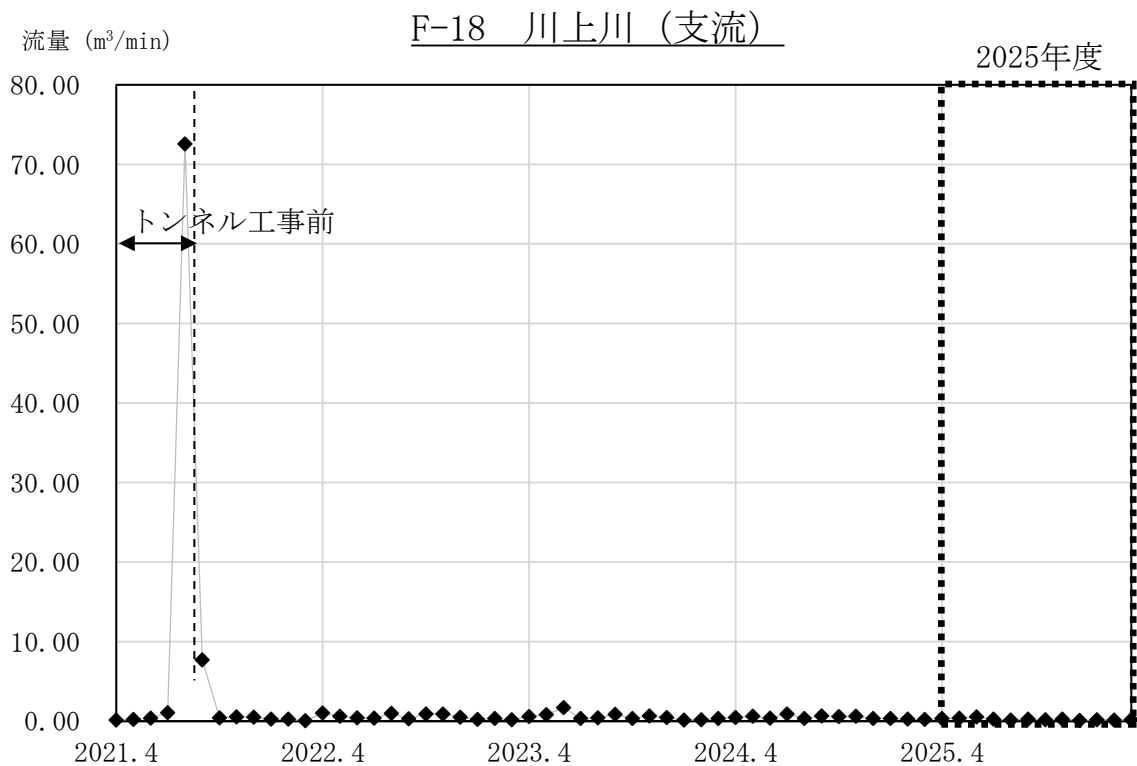
測定方法：流速計測法



・2021年度8月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(19) 地表水の流量の調査結果 (F-17 道志川 (支流))

測定方法：流速計測法

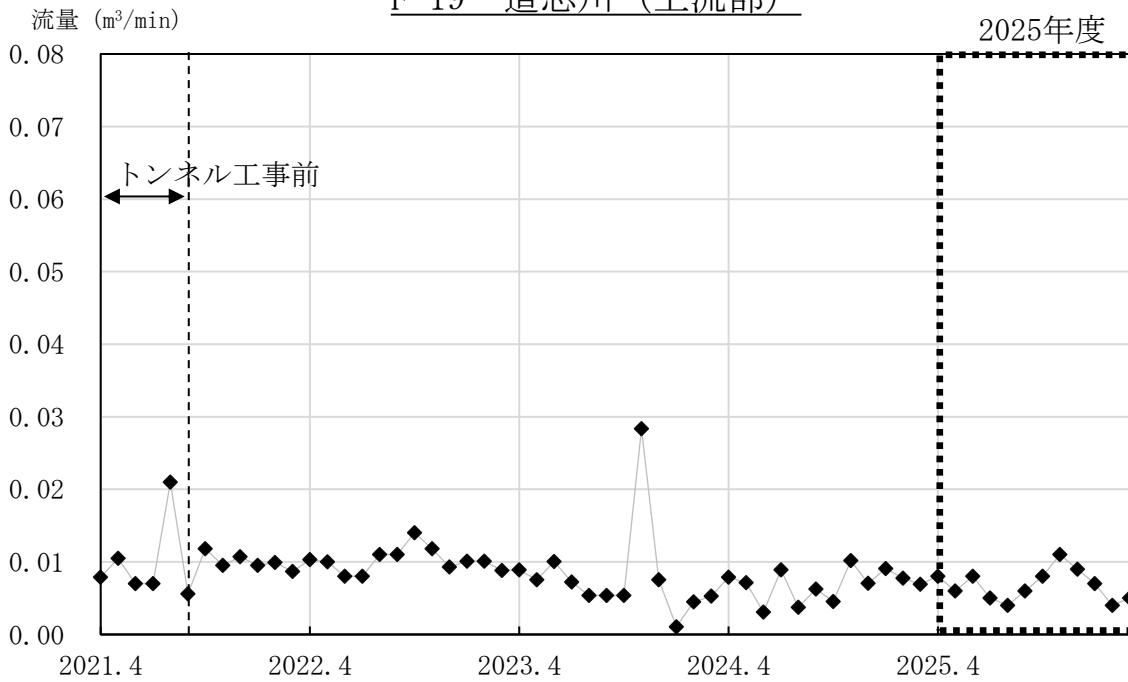


・2021年8月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(20) 地表水の流量の調査結果 (F-18 川上川 (上流部))

測定方法：流速計測法

F-19 道志川（上流部）



・2021年度8月期、2023年度11月期には測定日前または測定日当日にまとまった降雨があった。

図 3-5-5-2(21) 地表水の流量の調査結果 (F-19 道志川 (支流))

測定方法：容器法

F-20 綱子川（支流）

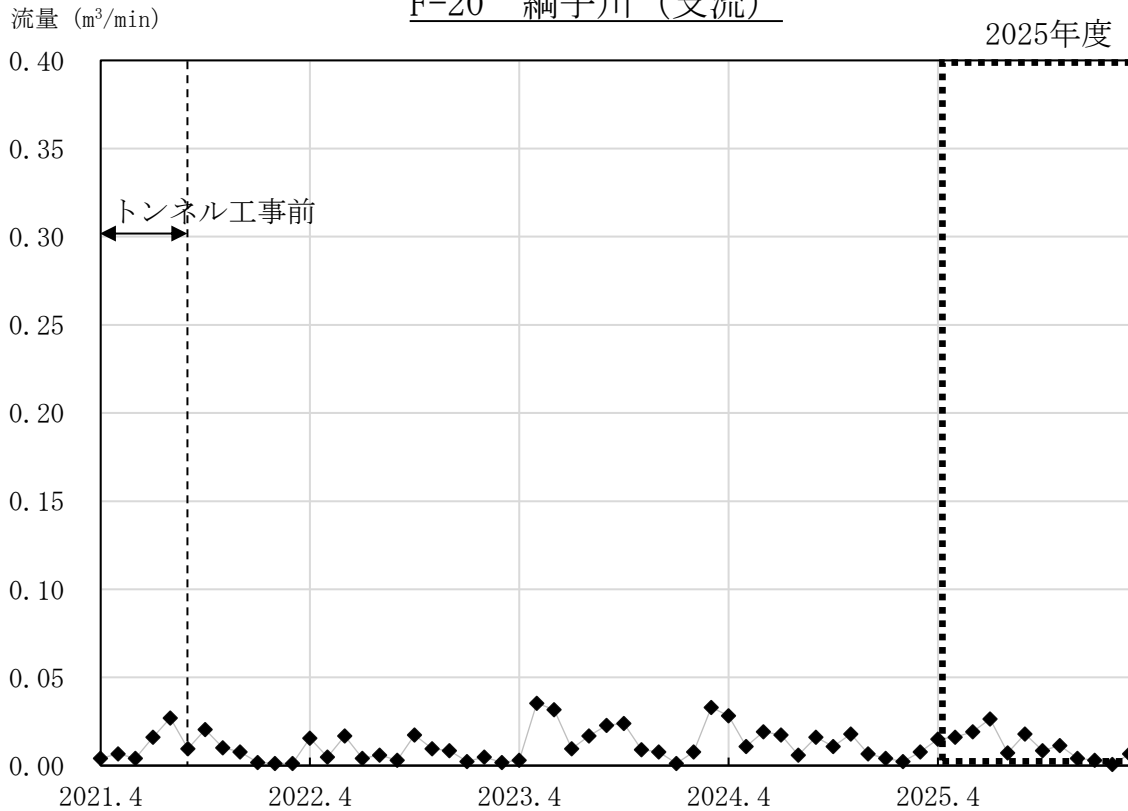


図 3-5-5-2(22) 地表水の流量の調査結果 (F-20 綱子川 (支流))

3-6 地盤沈下

工事実施箇所周辺における地盤沈下について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-6-1 調査項目

調査項目は、地盤の高さの状況とした。

3-6-2 調査方法

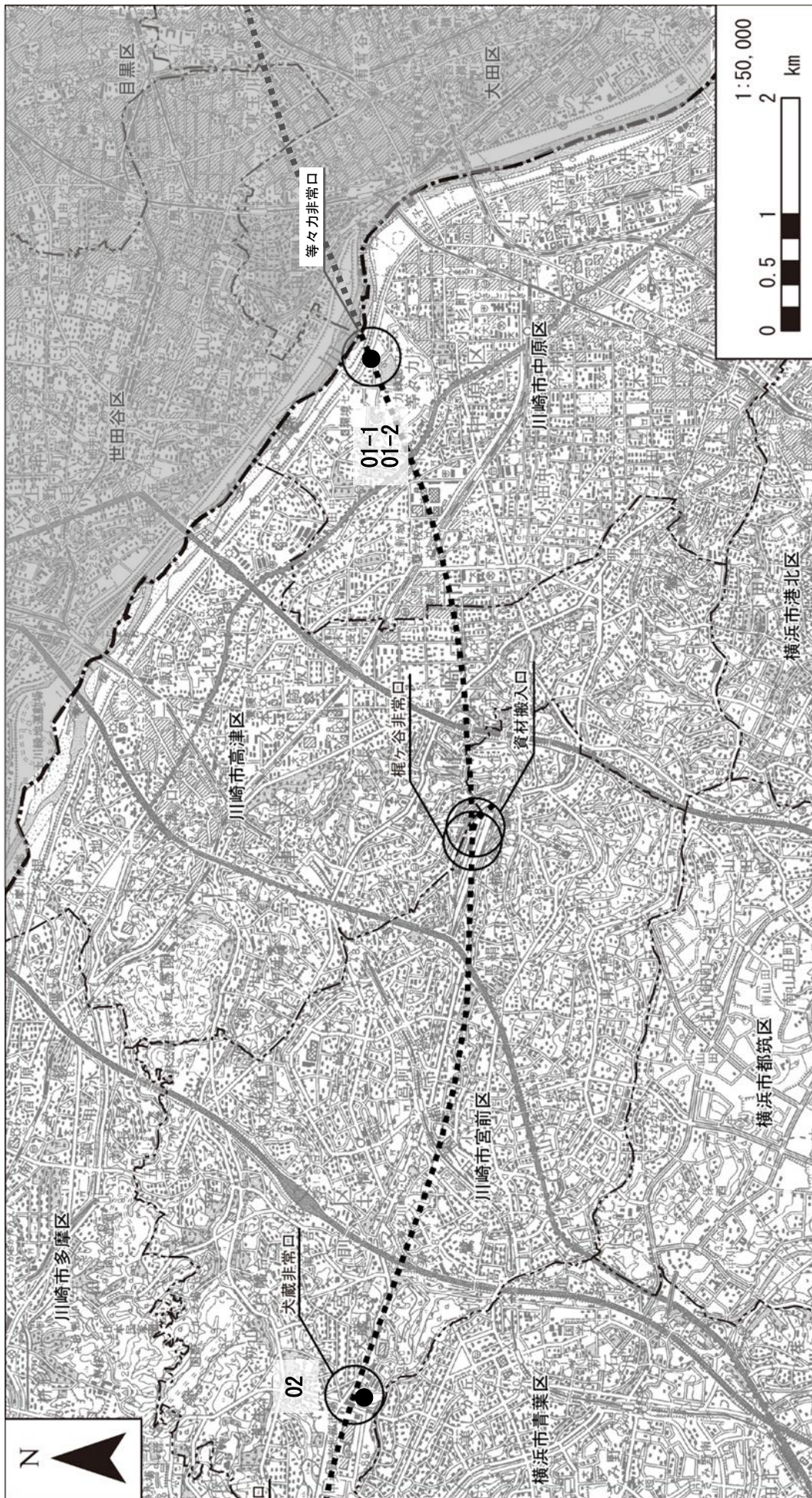
調査方法は、工事前に地下駅及び非常口（都市部）周辺に設置した測量標を用いた水準測量とした。

3-6-3 調査地点

調査地点は、表 3-6-3-1 及び図 3-6-3-1、図 3-6-3-2 に示すとおりである。

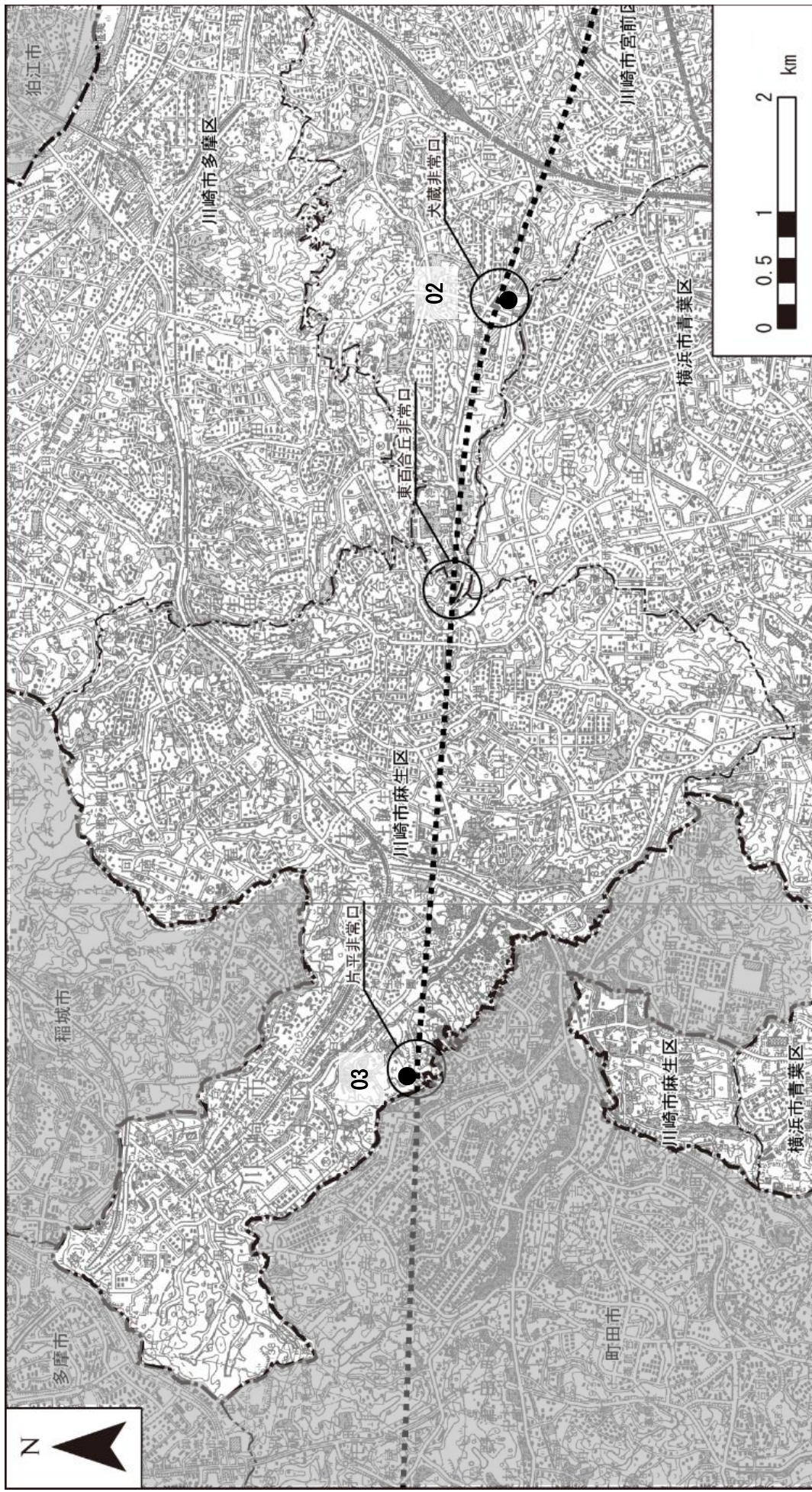
表 3-6-3-1 調査地点

地点番号	市区名	所在地	実施箇所	調査地点
01	川崎市 中原区	等々力	等々力非常口	01-1
				01-2
02	川崎市 宮前区	犬蔵	犬蔵非常口	02
03	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	03
04	相模原市 緑区	橋本	神奈川県駅 (仮称)	04-1
				04-2



- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 計画路線(地上部)
 - 都県境
 - - - 市区町村境
 - 調査地点

図 3-6-3-1 (1) 調査地点 (地盤沈下)



凡例
 計画路線(トンネル部)
 計画路線(地上部)
 - - - 都県境
 - - - 市区町村境
 ● 調査地点

図 3-6-3-1 (2) 調査地点 (地盤沈下)

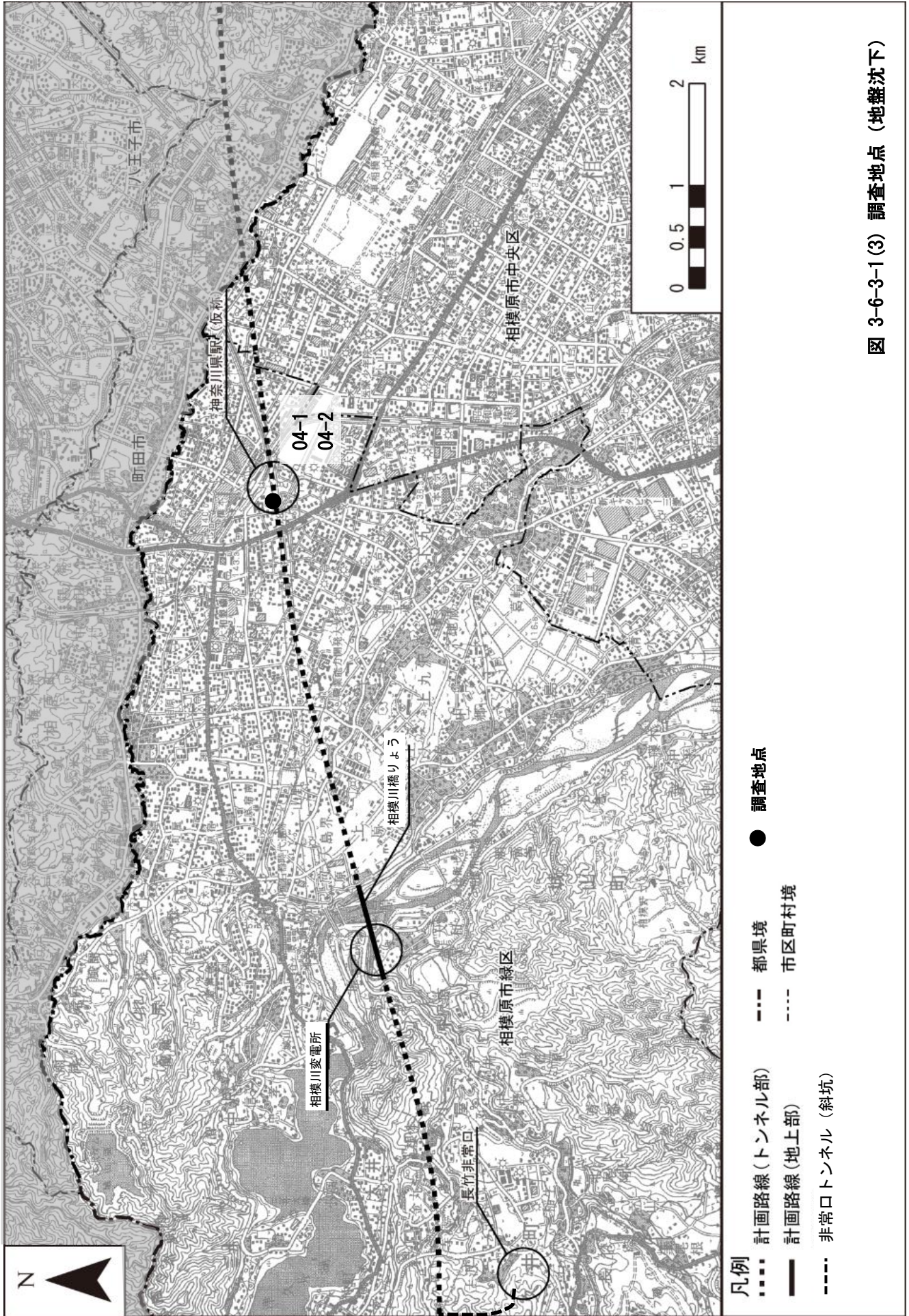


図 3-6-3-1(3) 調査地点(地盤沈下)

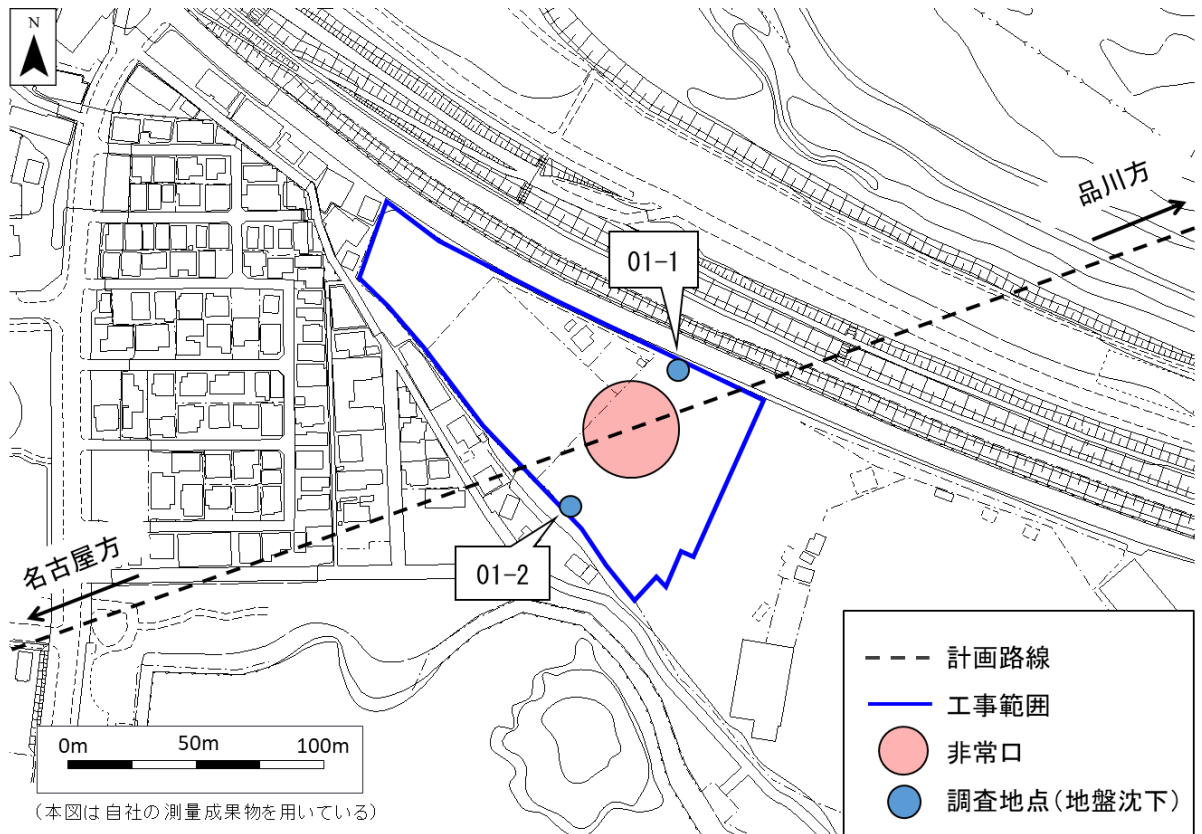


図 3-6-3-2(1) 調査地点 (地盤沈下) (01 等々力)

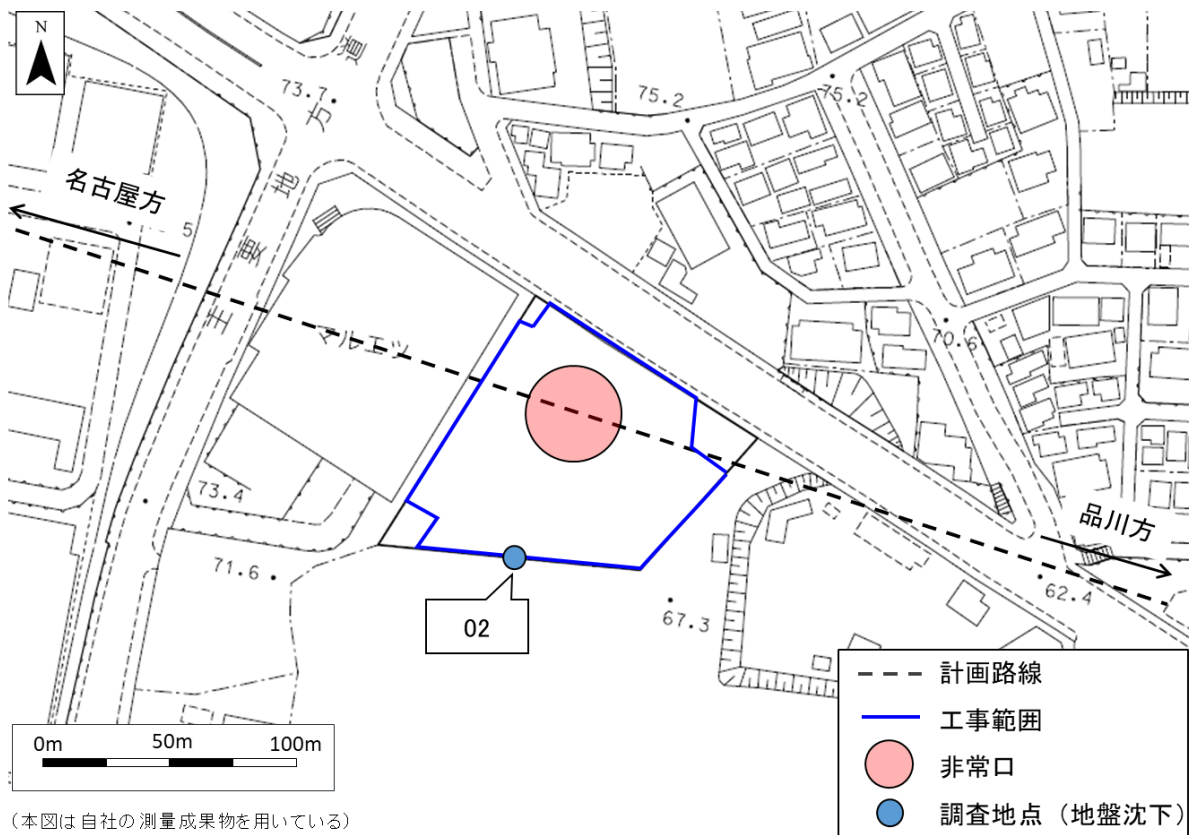


図 3-6-3-2(2) 調査地点 (地盤沈下) (02 犬蔵)

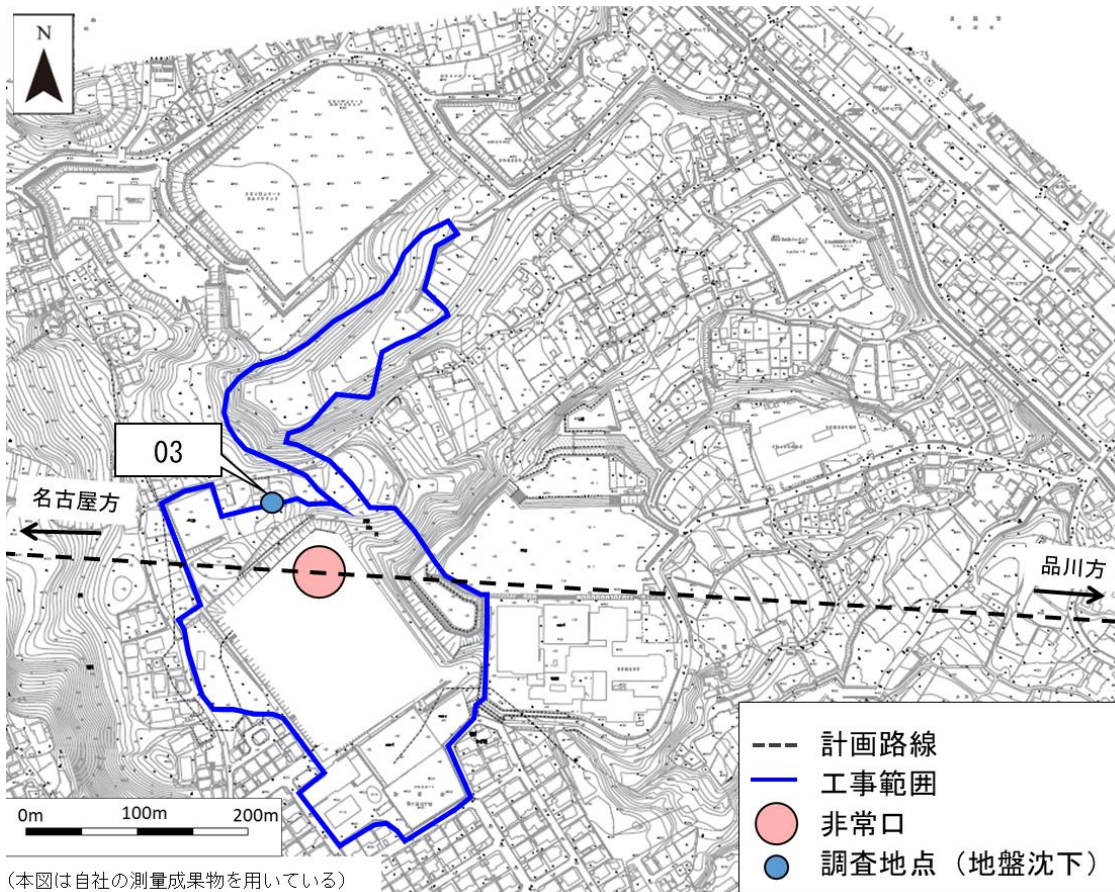


図 3-6-3-2(3) 調査地点 (地盤沈下) (03 片平)

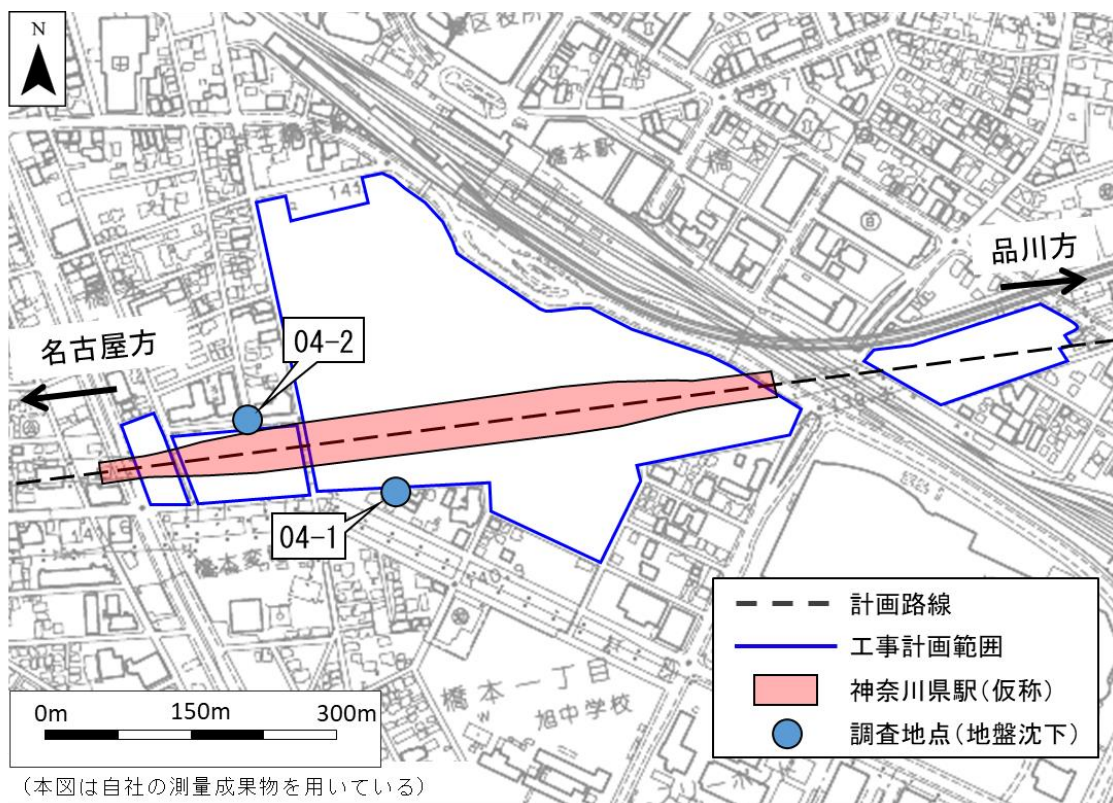


図 3-6-3-2(4) 調査地点 (地盤沈下) (04 橋本)

3-6-4 調査期間

調査期間等は、表 3-6-4-1 に示すとおりである。

表 3-6-4-1(1) 調査期間

調査地点	実施時期の種別	調査時期	調査頻度
01-1 01-2	工事中	2025年4月10日 2025年5月9日 2025年6月20日 2025年7月24日 2025年8月26日 2025年9月16日 2025年10月23日 2025年11月11日 2025年12月9日 2026年1月20日 2026年2月24日 2026年3月25日	月1回
02	工事中	2025年4月29日 2025年5月27日 2025年6月24日 2025年7月29日 2025年8月26日 2025年9月30日 2025年10月28日 2025年11月25日	月1回
	工事完了後	2025年12月23日 2026年1月27日 2026年2月24日 2026年3月31日	
03	工事中	2025年4月25日 2025年5月28日 2025年6月25日 2025年7月28日 2025年8月25日 2025年9月30日 2025年10月31日 2025年11月29日 2025年12月25日 2026年1月31日 2026年2月28日 2026年3月27日	月1回
04-1	工事中	2025年4月3日 2025年5月7日 2025年6月5日 2025年7月3日 2025年8月5日 2025年9月3日 2025年10月2日 2025年11月4日 2025年12月1日 2026年1月5日 2026年2月5日 2026年3月5日	月1回

表 3-6-4-1 (2) 調査期間

調査地点	実施時期の種別	調査時期	調査頻度
04-2	工事中	2025年4月3日 2025年5月7日 2025年6月5日 2025年7月3日 2025年8月4日 2025年9月3日 2025年10月2日 2025年11月4日 2025年12月2日 2026年1月6日 2026年2月6日 2026年3月5日	月1回

3-6-5 調査結果

調査結果は、図 3-6-5-1 に示すとおりである。なお、地盤高は東京湾平均海面 (T.P.) を 0m とした場合の高さを示す。

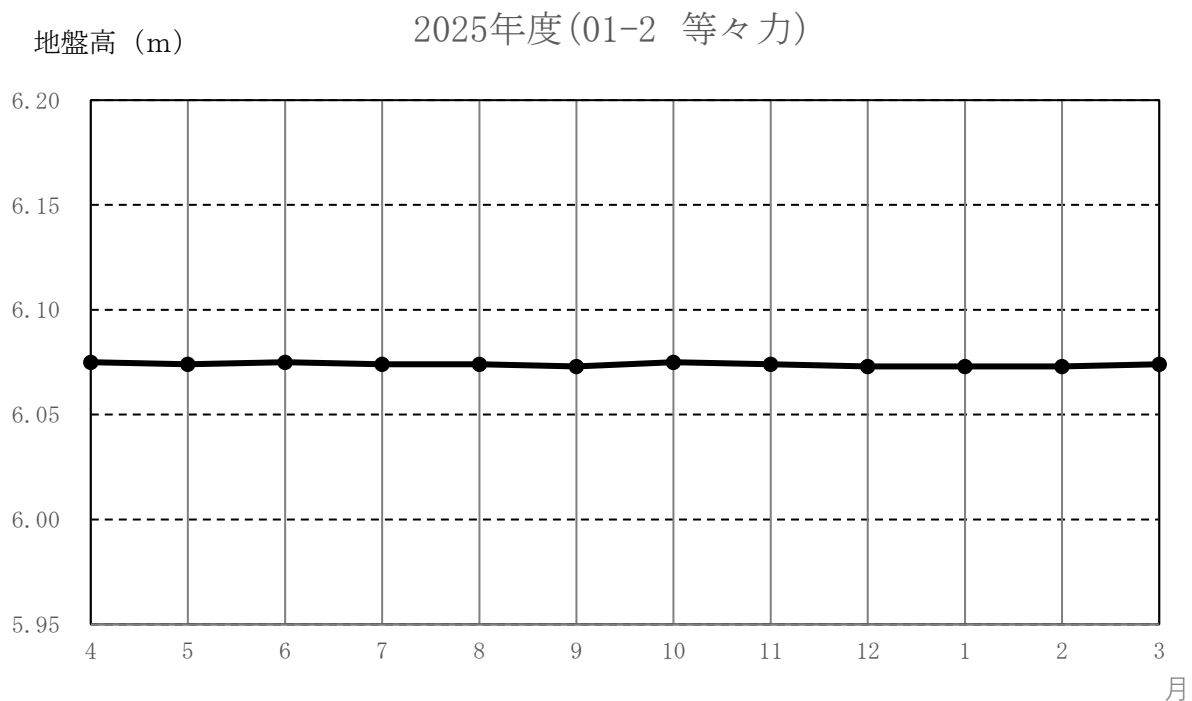
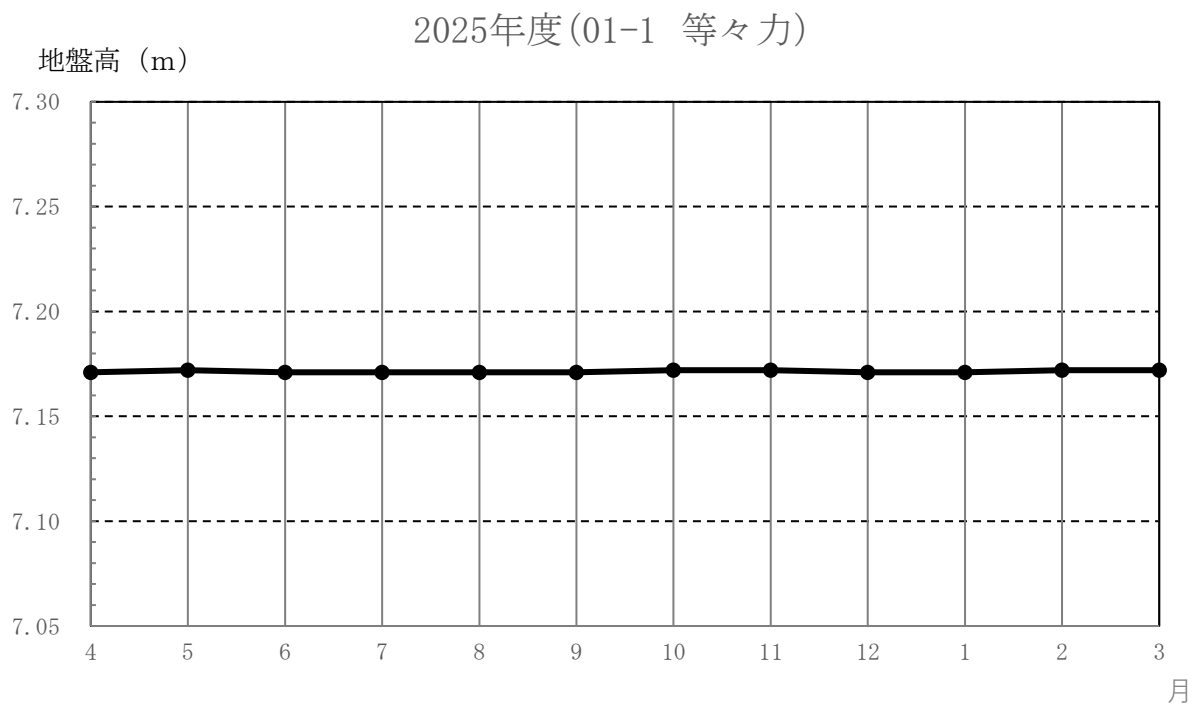


図 3-6-5-1(1) 調査結果 (01 等々力)

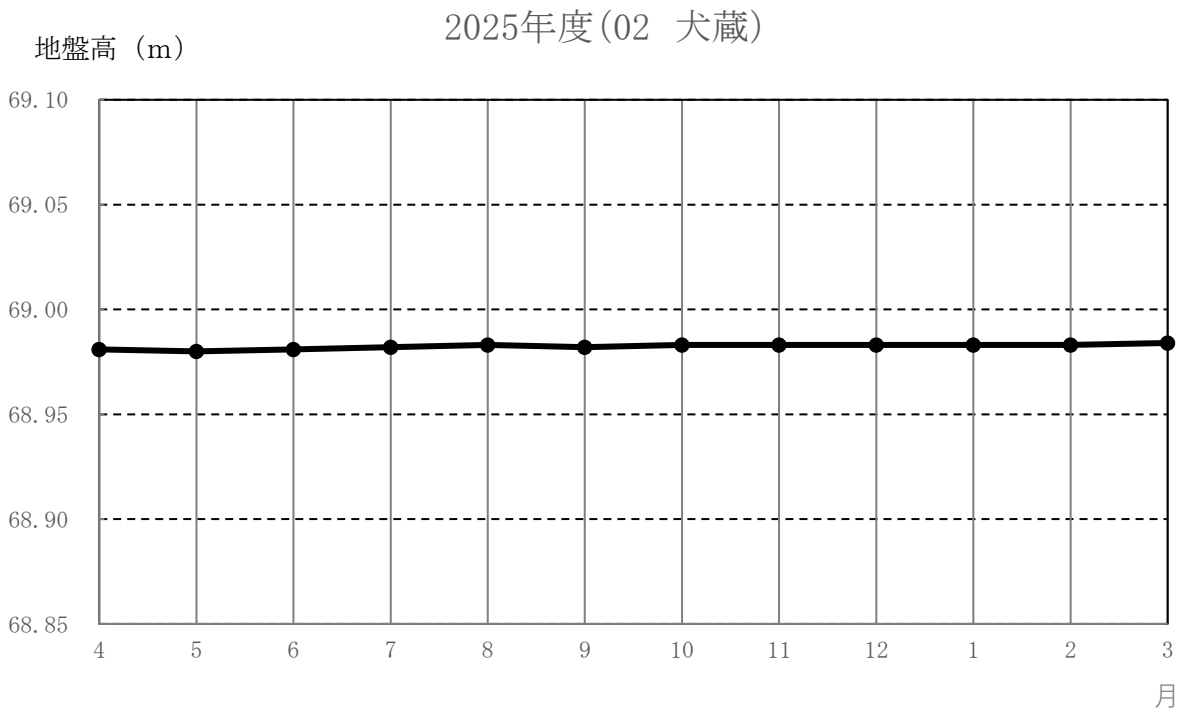


図 3-6-5-1(2) 調査結果 (02 犬蔵)

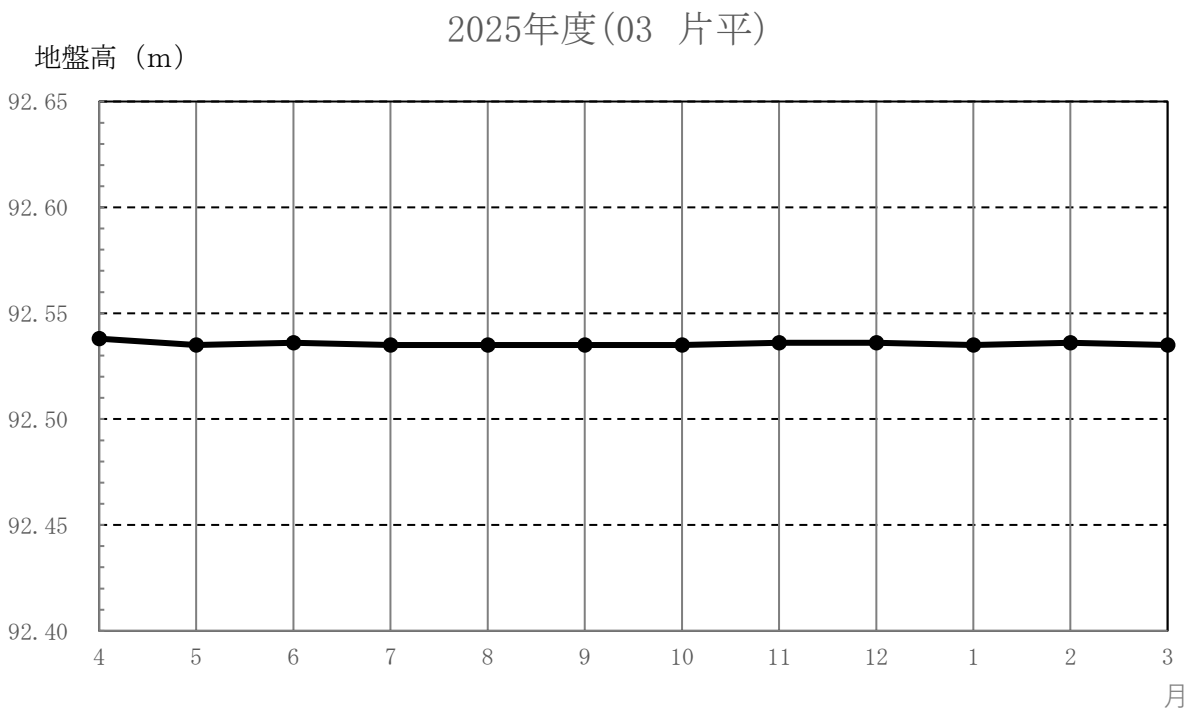
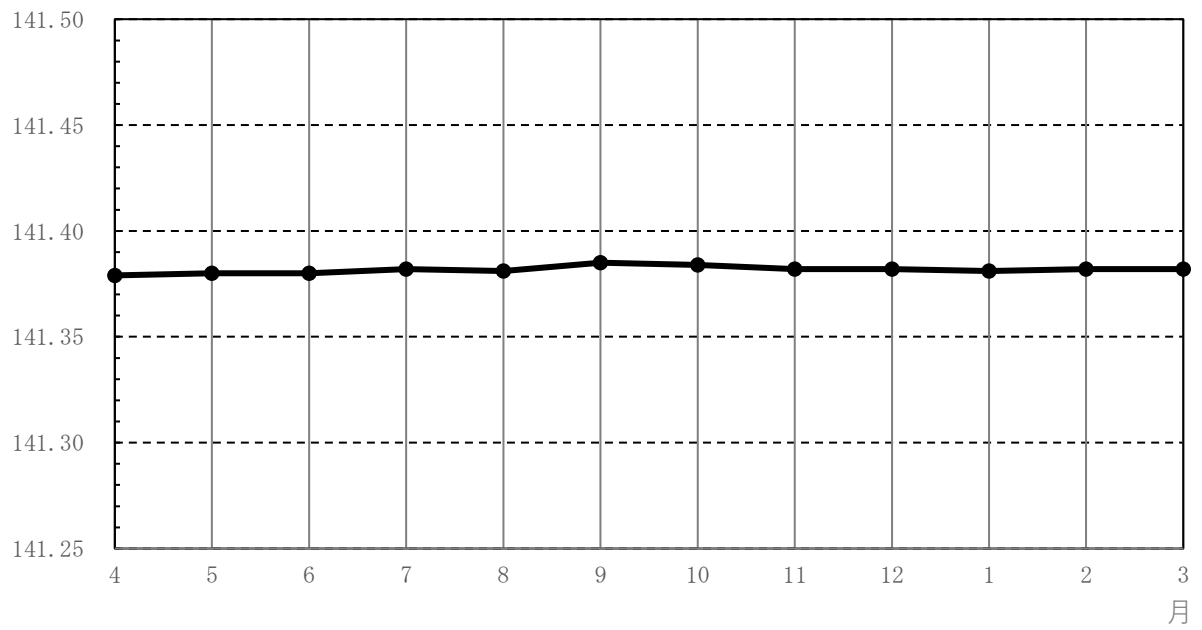


図 3-6-5-1(3) 調査結果 (03 片平)

地盤高 (m) 2025年度 (04-1 橋本)



地盤高 (m) 2025年度 (04-2 橋本)

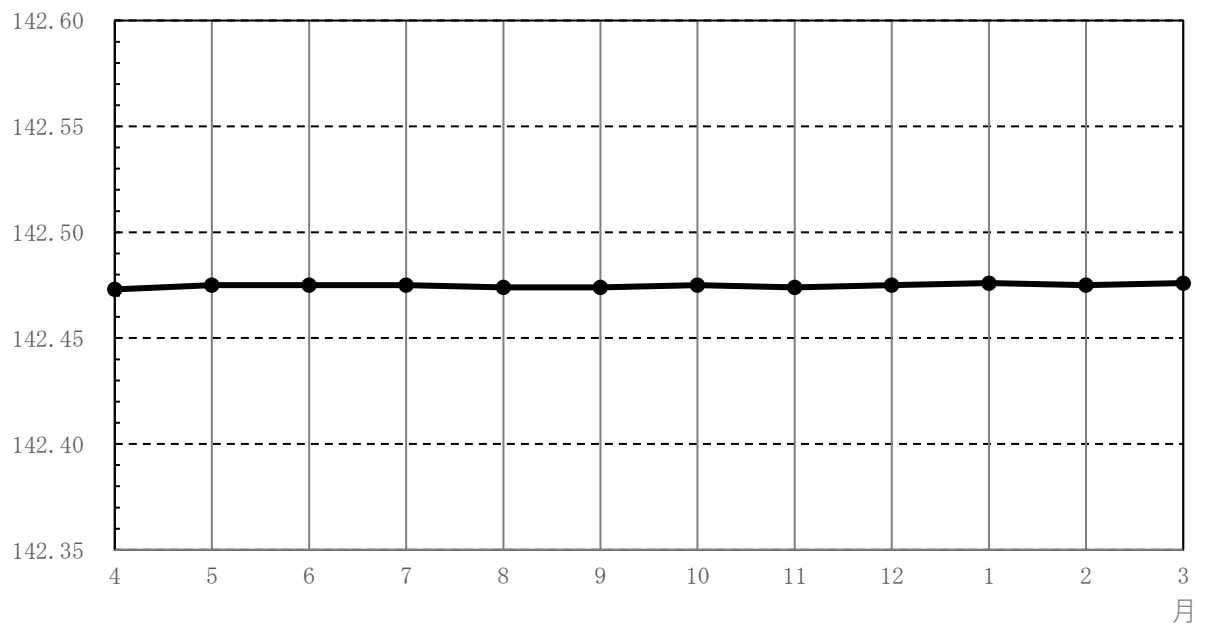


図 3-6-5-1(4) 調査結果 (04 橋本)

3-7 土壌汚染

工事実施箇所における発生土に係る土壌汚染について、工事前及び工事中のモニタリングを実施した。

3-7-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び酸性化可能性）とした。

3-7-2 調査方法

調査方法は、表 3-7-2-1 に示すとおりである。

表 3-7-2-1 調査方法

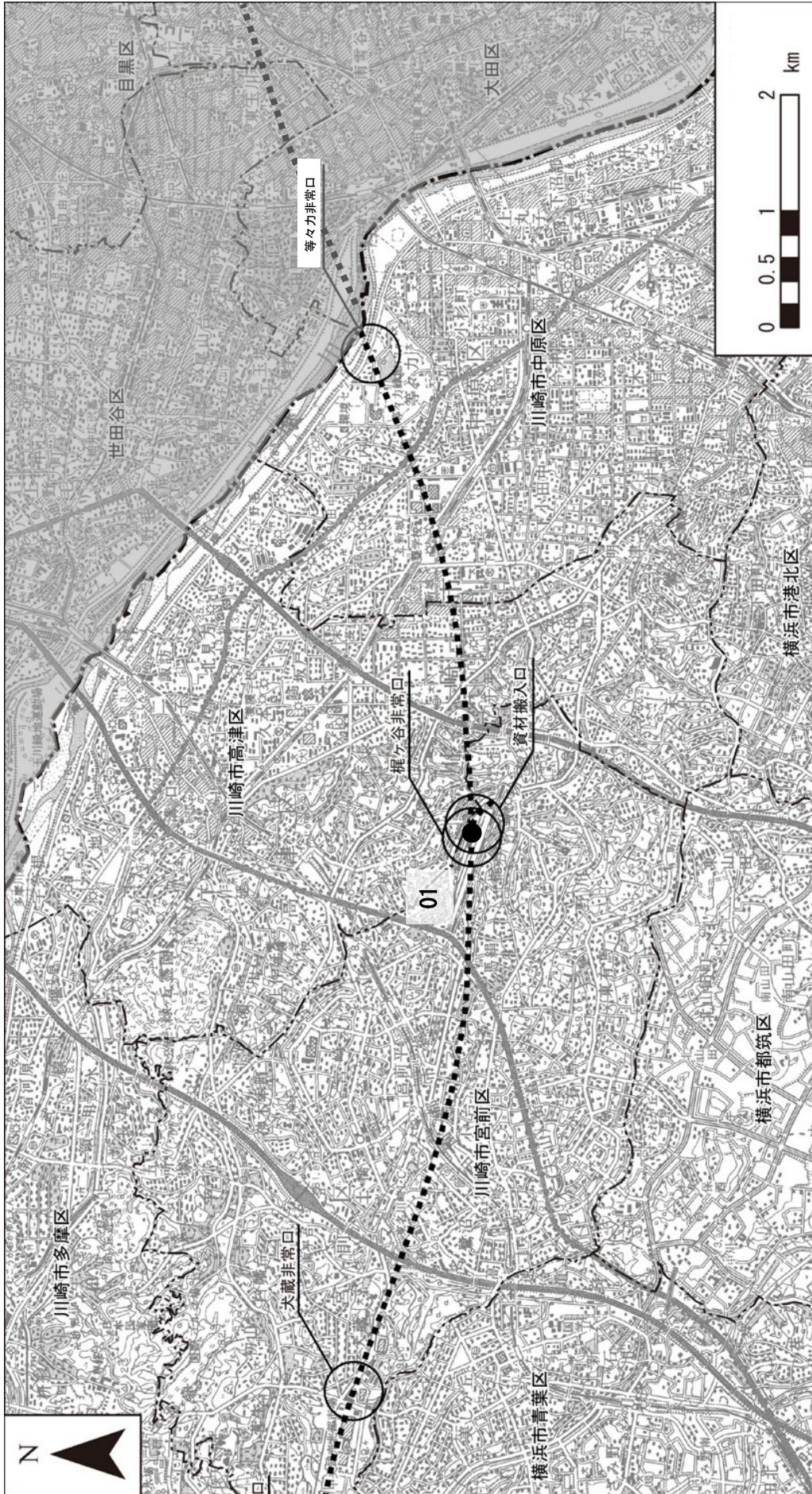
調査項目	地点番号	調査方法
土壌溶出量 (自然由来の重金属等)	04、05、 07、08	「土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件」（平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 18 号）
	01、02、 03、05、06	「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする廃棄物に含まれる金属等の検定方法」（昭和 48 年 2 月 17 日、環境庁告示第 14 号）
土壌含有量 (自然由来の重金属等)	02、03、 05、06	「「底質調査方法」について」（平成 24 年 8 月 8 日、環水大水発第 120725002 号）
酸性化可能性 pH (H ₂ O ₂)	05、08	過酸化水素水による土及び岩石の酸性化可能性試験方法（JGS 0271-2016）

3-7-3 調査地点

調査地点は、表 3-7-3-1 及び図 3-7-3-1 に示すとおりである。

表 3-7-3-1 調査地点

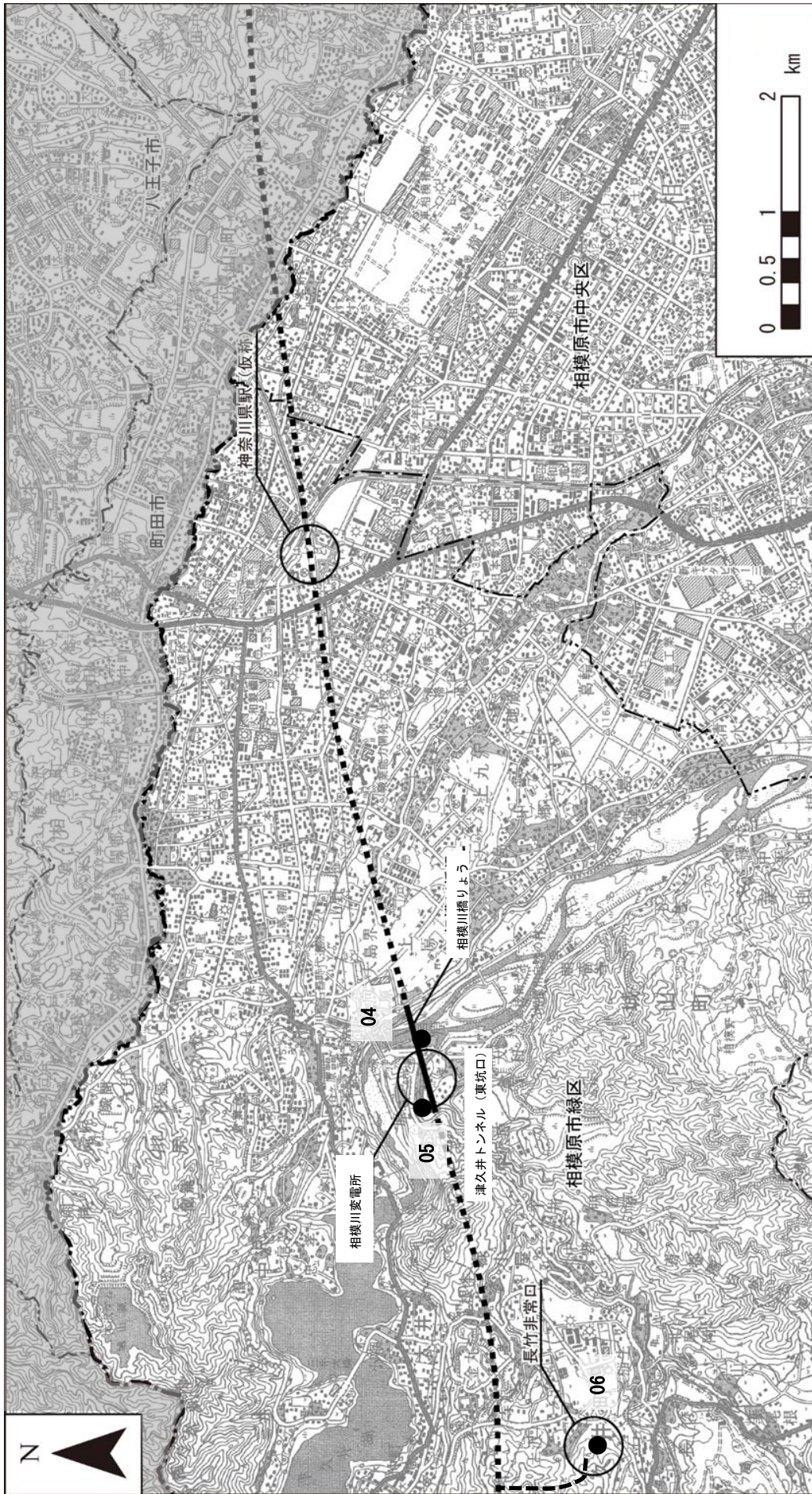
地点 番号	区市名	所在地	実施箇所
01	川崎市宮前区	梶ヶ谷	梶ヶ谷非常口
02	川崎市麻生区	東百合丘	東百合丘非常口
03	川崎市麻生区	片平	片平非常口
04	相模原市緑区	小倉	相模川橋りょう
05	相模原市緑区	小倉	津久井トンネル（東坑口）
06	相模原市緑区	長竹	長竹非常口
07	相模原市緑区	鳥屋	関東車両基地
08	相模原市緑区	大洞	大洞非常口



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境
- 調査地点

图 3-7-3-1(1) 調査地点 (土壤汚染)



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 非常口トンネル(斜坑)
- 都県境
- 市区町村境
- 調査地点

図 3-7-3-1 (3) 調査地点 (土壌汚染)

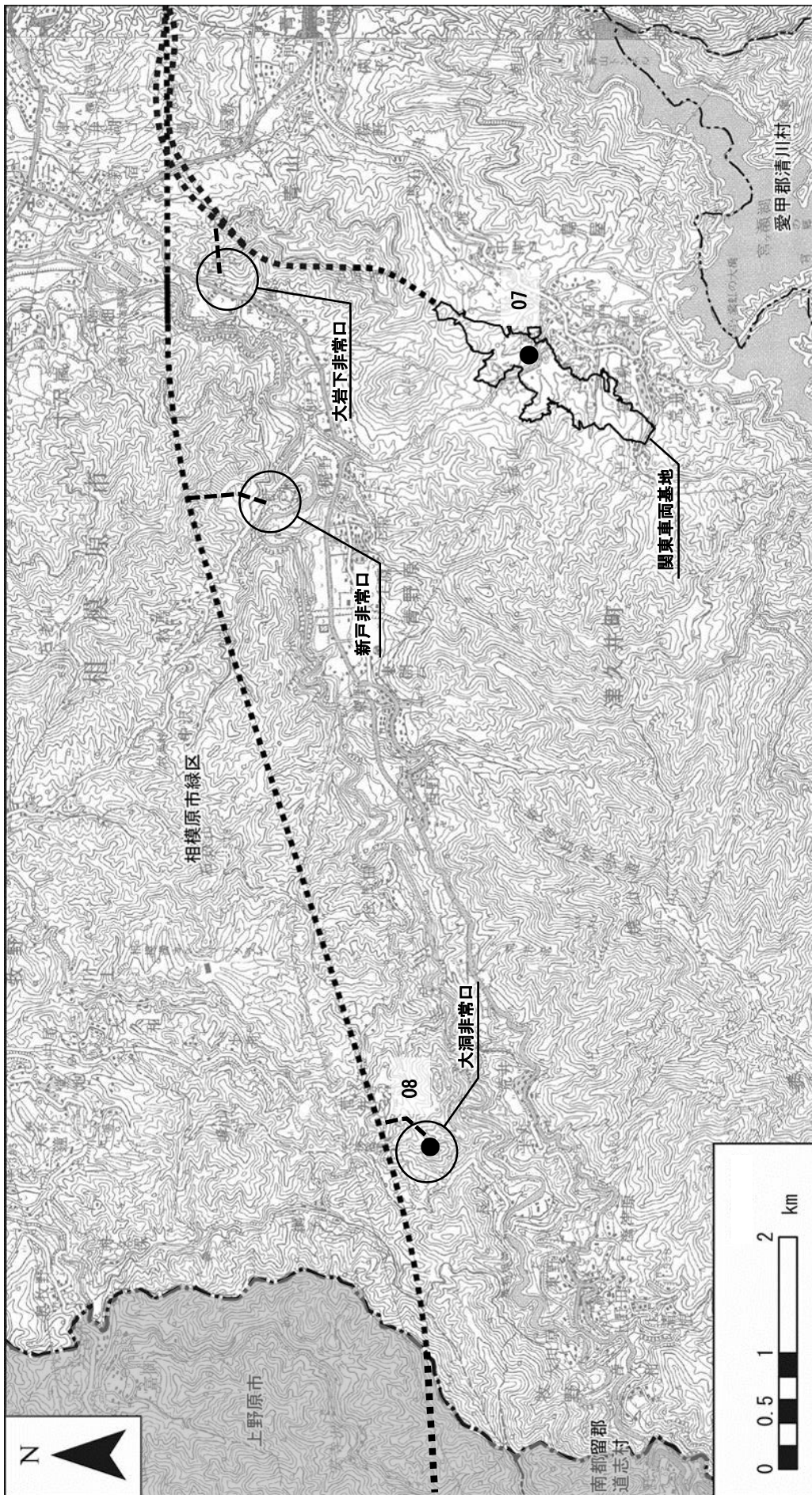


図 3-7-3-1 (4) 調査地点 (土壌汚染)

3-7-4 調査期間

調査期間は、表 3-7-4-1 に示すとおりである。

表 3-7-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	調査期間※
01	土壌溶出量	2025年4月1日～2026年3月21日
02	土壌溶出量 土壌含有量	2021年1月8日
03	土壌溶出量 土壌含有量	2021年3月19日
04	土壌溶出量	2025年4月10日～2025年7月4日
05	土壌溶出量 土壌含有量 酸性化可能性	2025年4月1日～2026年3月31日
06	土壌溶出量 土壌含有量	2025年4月16日～2026年3月11日
07	土壌溶出量	2025年6月6日～2026年1月20日
08	土壌溶出量 酸性化可能性	2025年4月1日～2026年3月28日

※調査期間について、地点番号 02、地点番号 03 においては、掘削に先立ちボーリングにより土壌採取、地点番号 01、地点番号 04、地点番号 05、地点番号 06、地点番号 07、地点番号 08 においては、掘削の進捗に合わせて土壌を採取した。

3-7-5 調査結果

調査結果は、表 3-7-5-1、表 3-7-5-2 及び表 3-7-5-3 に示すとおりである。

地点番号 01 においては、2025 年 7 月に受入先の鉛の基準値を超える土が確認された。また、地点番号 05 においては、2025 年 4 月、2025 年 6 月～2026 年 1 月に土壤汚染対策法に定めるヒ素の基準値を超える土が確認された。また、2025 年 4 月、2025 年 6 月～11 月に「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」において長期的な酸性化可能性のある値として定められた pH3.5 以下の土が確認された。調査の結果、基準不適合となった発生土については、法令等を参考に適切に処置した。

そのほかの地点番号においては、全ての調査項目で受入先基準に適合していた。

なお、自然由来の重金属等の調査結果は当該月における最大値、酸性化可能性試験の結果は調査実施月における最小値を記載した。

そのほか、「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」に示された短期溶出試験の検液の pH 試験を実施したものについて、pH が 4.0 以下の酸性を示すものは確認されなかった。

表 3-7-5-1 (1)

自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 01)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)
受入先基準 01	0.03*	0.2*	0.005	0.1	0.1	0.1	15
2025年 4月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	<0.005	0.027	<0.08
2025年 5月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	<0.005	0.025	<0.08
2025年 6月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	<0.005	0.023	<0.08
2025年 7月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.280	0.021	<0.08
2025年 8月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	<0.005	0.023	<0.08
2025年 9月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.007	0.023	<0.08
2025年 10月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.017	0.030	<0.08
2025年 11月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.039	0.031	<0.08
2025年 12月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.014	0.029	<0.08
2026年 1月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.006	0.034	<0.08
2026年 2月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	0.009	0.032	<0.08
2026年 3月	<0.005	<0.01	<0.0005	<0.005	<0.005	0.032	<0.08

・「<」は、未満を示す。

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。(2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L)

表 3-7-5-1 (2)

自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 02)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
受入先基準 02	0.03*	0.2*	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2021年 1月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.003	<0.005	0.02	<0.1	<0.2

・「<」は、未満を示す。

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。(2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L)

表 3-7-5-1 (3)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 03)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)
受入先基準 03	0.03*	0.2*	0.005	0.1	0.1	0.1	15
2021年 3月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<1.5

・「<」は、未満を示す。

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。(2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L)

表 3-7-5-1 (4)
自然由来の重金属等の溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 04)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1
2025年 4月	<0.0003	<0.013	<0.0005	<0.001	<0.001	0.01	<0.1	<0.1
2025年 5月	<0.0003	<0.013	<0.0005	<0.001	<0.001	0.01	<0.1	<0.1
2025年 6月	<0.0003	<0.013	<0.0005	<0.001	<0.001	0.01	<0.1	<0.1
2025年 7月	<0.0003	<0.013	<0.0005	<0.001	<0.001	0.01	<0.1	<0.1

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-1 (5)
自然由来の重金属等の溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 05)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1
2025年 4月	<0.003	<0.01	<0.0005	<0.001	<0.001	0.023	<0.08	<0.1
2025年 6月	<0.003	<0.01	<0.0005	0.002	<0.001	0.029	0.11	<0.1
2025年 7月	<0.003	<0.01	<0.0005	0.004	<0.001	0.056	0.10	<0.1
2025年 8月	0.0015	<0.01	0.0005	0.005	0.001	0.019	0.08	<0.1
2025年 9月	0.0018	<0.01	<0.0005	0.004	<0.001	0.067	0.09	<0.1
2025年 10月	<0.003	<0.01	<0.0005	0.004	0.001	0.029	0.08	<0.1
2025年 11月	<0.003	<0.01	<0.0005	0.006	0.001	0.045	0.11	<0.1
2025年 12月	<0.003	0.02	<0.0005	0.001	<0.001	0.180	0.11	<0.1
2026年 1月	<0.003	<0.01	<0.0005	0.001	<0.001	0.021	0.09	<0.1
2026年 2月	<0.003	<0.01	<0.0005	<0.001	<0.001	0.001	<0.08	<0.1
2026年 3月	<0.003	0.02	<0.0005	<0.001	<0.001	0.001	<0.12	<0.1

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-1 (6)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 05)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
受入先基準 05	0.03**	0.2**	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2025年 4月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2025年 6月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	0.01	<0.8	<0.1
2025年 7月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2025年 8月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2025年 9月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2025年 10月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2025年 11月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2025年 12月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2026年 1月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2026年 2月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1
2026年 3月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.8	<0.1

・「<」は、未満を示す。

・2025年5月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。(2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L)

表 3-7-5-1 (7)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 06)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
受入先基準 06	0.03*	0.2*	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2025年 4月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.005	<0.001	0.025	<0.2	<0.1
2025年 5月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.006	0.011	0.077	<0.2	0.1
2025年 6月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.006	0.023	0.064	<0.2	<0.1
2025年 7月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.006	0.017	0.057	<0.2	<0.1
2025年 8月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.005	0.007	0.047	<0.2	<0.1
2025年 9月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.005	0.021	0.063	<0.2	<0.1
2025年 10月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.005	0.009	0.047	<0.2	<0.1
2025年 11月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.005	0.011	0.067	<0.2	<0.1
2025年 12月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.005	0.006	0.049	<0.2	<0.1
2026年 1月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.005	<0.001	0.014	<0.2	<0.1
2026年 2月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.005	0.017	0.073	<0.2	<0.1
2026年 3月	<0.001	<0.02	<0.0005	<0.005	0.008	0.046	<0.2	<0.1

・「<」は、未満を示す。

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。(2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L)

表 3-7-5-1 (8)
自然由来の重金属等の溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 07)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1
2025年 6月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 7月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 8月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 9月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	0.001	<0.08	<0.1
2025年 10月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	0.1	<0.1
2025年 11月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 12月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	<0.08	<0.1
2026年 1月	<0.0005	<0.005	<0.0005	<0.001	<0.004	<0.001	<0.08	<0.1

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-1 (9)
自然由来の重金属等の溶出量試験結果 (月別最大値) (地点番号 08)

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1
2025年 4月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 5月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 6月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 7月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	<0.08	<0.1
2025年 8月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 9月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 10月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 11月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2025年 12月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	<0.08	<0.1
2026年 1月	<0.0003	0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2026年 2月	<0.0003	0.007	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2026年 3月	<0.0003	0.008	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	<0.08	<0.1

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-2 (1)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果 (月別最大値) (地点番号 02)

調査時期	カドミウム (mg/kg)	六価クロム (mg/kg)	水銀 (mg/kg)	セレン (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	ふっ素 (mg/kg)	ほう素 (mg/kg)
受入先基準 02	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2021年 1月	0.1	<0.5	0.03	1.1	15	9	0.20	42

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-2 (2)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果 (月別最大値) (地点番号 03)

調査時期	水銀 (mg/kg)
受入先基準 03	25
2021年 3月	<2.5

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-2 (3)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果 (月別最大値) (地点番号 05)

調査時期	カドミウム (mg/kg)	六価クロム (mg/kg)	水銀 (mg/kg)	セレン (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	ふっ素 (mg/kg)	ほう素 (mg/kg)
受入先基準 05	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2025年 6月	<0.1	<0.1	0.05	0.3	12	4.2	51	<0.5
2025年 7月	<0.1	<0.1	0.02	0.4	7.3	2.5	42	0.6
2025年 8月	<0.1	<0.1	0.02	0.4	10	1.8	46	39
2025年 9月	<0.1	<0.1	0.03	0.6	8.6	3.3	70	3.5
2025年 10月	<0.1	<0.1	0.03	0.4	9.8	4.2	56	<0.5
2025年 11月	<0.1	<0.1	0.02	0.4	9.3	3.2	63	<0.5
2025年 12月	<0.1	<0.1	0.02	0.8	11	3.7	39	<0.5
2026年 1月	<0.1	<0.1	0.04	0.7	12	6.6	54	<0.5
2026年 2月	<0.1	<0.1	0.07	1.3	10	8.1	67	5.0
2026年 3月	<0.1	<0.1	0.04	0.6	13	6.7	53	<7.1

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-2 (4)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果 (月別最大値) (地点番号 06)

調査時期	カドミウム (mg/kg)	六価クロム (mg/kg)	水銀 (mg/kg)	セレン (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	ふっ素 (mg/kg)	ほう素 (mg/kg)
受入先基準 06	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2025年 4月	0.15	<2	0.12	0.6	21	12	430	80
2025年 5月	0.13	<2	0.098	0.5	19	13	350	90
2025年 6月	0.16	<2	0.11	0.8	23	12	420	100
2025年 7月	0.13	<2	0.089	0.5	18	11	340	80
2025年 8月	0.14	<2	0.11	0.4	20	12	400	80
2025年 9月	0.13	<2	0.13	0.8	23	12	590	90
2025年 10月	0.08	<2	0.10	0.6	17	12	400	80
2025年 11月	0.13	<2	0.12	0.9	21	10	410	100
2025年 12月	0.12	<2	0.097	0.6	18	8.5	300	70
2026年 1月	0.13	<2	0.12	0.9	23	12	420	100
2026年 2月	0.13	<2	0.12	0.9	24	13	460	80
2026年 3月	0.07	<2	0.063	0.7	14	10	370	40

・「<」は、未満を示す。

表 3-7-5-3
酸性化可能性試験結果 (月別最小値)

調査時期	地点番号 05	地点番号 08
	pH (H ₂ O ₂)	pH (H ₂ O ₂)
参考値	3.5	
2025年 4月	2.8	9.0
2025年 5月	-※	10.3
2025年 6月	3.0	9.8
2025年 7月	2.4	9.7
2025年 8月	2.4	10.4
2025年 9月	2.4	9.0
2025年 10月	2.4	10.1
2025年 11月	2.6	9.9
2025年 12月	3.6	9.3
2026年 1月	7.7	9.0
2026年 2月	4.9	8.0
2026年 3月	9.1	8.7

・「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル(2023年版)(令和5年3月)」に示されている参考値であり、pH(H₂O₂)が3.5以下のものを長期的な酸性化の可能性があると評価する。

※2025年5月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

3-8 安全（交通）

安全（交通）について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-8-1 調査項目

調査項目は、表 3-8-1-1 に示すとおりである。

表 3-8-1-1 調査項目

項 目		備 考
安全（交通）	(1) 交通量実態調査 ・ 自動車実測交通量調査 ・ 横断歩道部歩行者等交通量調査 ・ 渋滞長、滞留長調査 ・ 信号現示調査 (2) 交差点需要率の算出	工事最盛期における交通量実態調査を実施し、工事車両による交通への影響を検討するための交差点需要率の算定を行う。

3-8-2 調査方法

調査方法は、表 3-8-2-1 に示すとおりである。

表 3-8-2-1 調査方法

調査項目	調査方法
自動車実測交通量	自動車の交通量を方向別、時間別、分類別にカウンターを用いて、観測する。集約は 15 分毎とし、車種区分は下記の分類に基づく。 ① 乗用車 ② 小型車（中央新幹線工事用車両を除く） ③ 大型車（ダンプ）（中央新幹線工事用車両を除く） ④ 大型車（牽引車）（中央新幹線工事用車両を除く） ⑤ 大型車（その他）（中央新幹線工事用車両を除く） ⑥ バス ⑦ 二輪車 ⑧ 小型車（中央新幹線工事用車両） ⑨ 大型車（ダンプ）（中央新幹線工事用車両） ⑩ 大型車（牽引車）（中央新幹線工事用車両） ⑪ 大型車（その他）（中央新幹線工事用車両）
横断歩道部歩行者等交通量	横断歩道部の歩行者の交通量を方向別、時間別、分類別にカウンターを用いて観測する。集約は 15 分毎とし、区分は下記の分類に基づく。 ① 歩行者 ② 自転車
渋滞長・滞留長	対象交差点の渋滞長、滞留長を流入別に 15 分単位で観測する。
信号現示	対象交差点における信号現示、信号サイクル長を秒単位で計測し、1 時間当たり 3 回観測する。

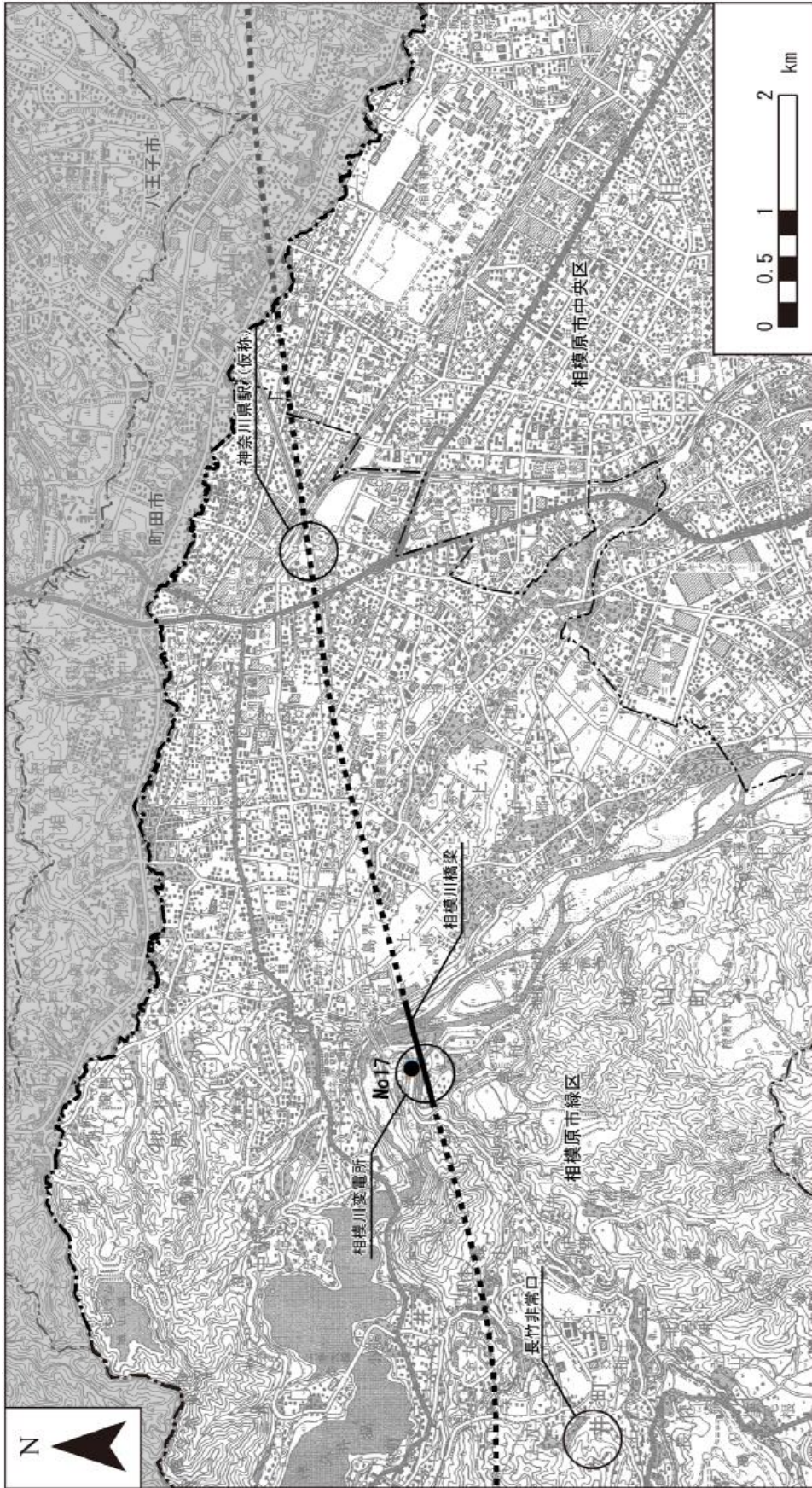
3-8-3 調査地点

調査地点は、表 3-8-3-1 及び図 3-8-3-1 に示すとおりである。

表 3-8-3-1 調査地点

地点番号※	市区名	所在地	計画施設	交差点名
17	相模原市 緑区	県道 510 号 長竹川尻線	相模川橋りょう 津久井トンネル	宮原

※ 地点番号は評価書【神奈川県】に記載している地点番号と同じである。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- - - 都県境
- 市区町村境

● : 調査地点

図 3-8-3-1 調査地点 (安全 (交通))

3-8-4 調査期間

調査期間は、表 3-8-4-1 に示すとおりである。

表 3-8-4-1 調査期間

地点番号	調査日	調査日の 主な工事内容	調査時間
17	2025年2月27日 (木)	躯体構築工 (相模川橋りょう) 掘削工 (津久井トンネル)	7:00~18:00

3-8-5 調査結果

調査結果は、表 3-8-5-1 及び図 3-8-5-1 に示すとおりである。交差点需要率は、交差点交通流に支障が出るとされる 0.9 を下回っていた。

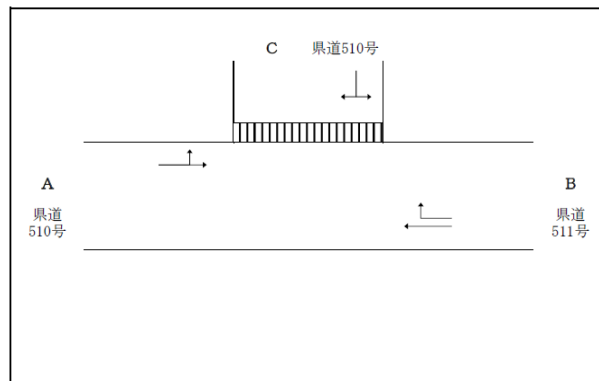
表 3-8-5-1 (1) 自動車・歩行者・自転車交通量の調査結果

地点番号	総流入 自動車交通量 (台/11h)	大型車 混入率 (%)	歩行者 (人/11h)	自転車 (台/11h)
17	7,129	27.3	6	7

表 3-8-5-1 (2) 渋滞長・滞留長の調査結果

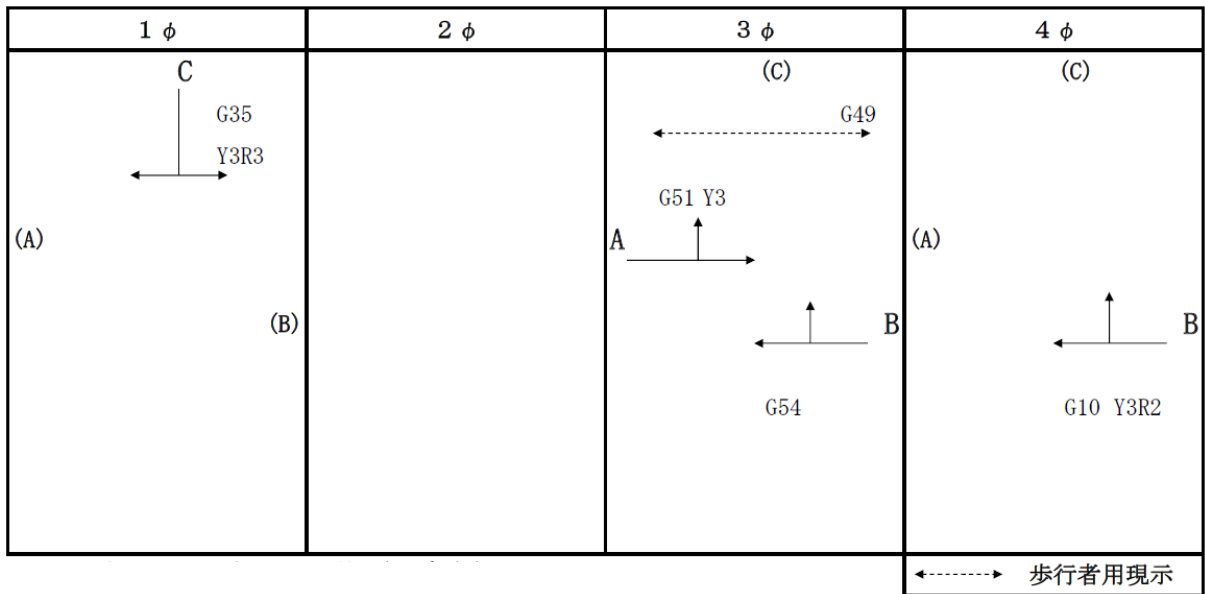
地点番号	流入部	渋滞長		滞留長	
		最大渋滞長 (m)	発生時間帯	最大滞留長 (m)	発生時間帯
17	A	0	-	70	16:00~16:15
	B	280	9:00~9:15	360	9:00~9:15
	C	50	9:45~10:00	160	8:00~8:15

・発生時間帯の「-」は、渋滞の発生がないことを示す。



17 宮原

図 3-8-5-1 (1) 現地調査交差点概略図 (地点 17)



- ・ サイクル長：110 秒（7 時台）
- ・ 信号現示は交差点需要率が最大となる時間帯の値、図中記号は以下の通り
G (青)、Y (黄)、R (赤)

図 3-8-5-1 (2) 信号現示概略図 (地点 17)

表 3-8-5-1 (3) 交差点需要率の算出結果

地点番号	算出時間帯	設計交通量 ^{※1} (台/時)	工事用車両 (台/時)	交差点需要率 ^{※2}	参考値
17	13:00~14:00	586	54	0.299	0.9

※1 表中に示した設計交通量は、実測交通量または需要交通量であり工事用車両台数を含んでいる。

需要交通量=実測交通量（停止線通過台数）+1 時間ごとの渋滞長の増減分（車両台数に換算）

※2 交差点需要率は、調査時間内において交差点内を通行する工事用車両が最大となる時間帯にて算出した。

4 環境保全措置の実施状況

2025年度に実施した、または過年度より継続して実施している環境保全措置は以下のとおりである。

なお、動物、植物、生態系に係る環境保全措置のうち、希少種の生息・生育箇所の特定に繋がる情報については、保護の観点から非公開とした。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 等々力非常口

環境保全措置の実施状況を表4-1-1-1及び写真4-1-1-1～写真4-1-1-4に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、工事施工ヤードの管理を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-1-1 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・地下水 (地下水の水位) ・水資源	地下水の継続的な監視	写真4-1-1-1
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源	工事排水の適切な処理	写真4-1-1-2
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真4-1-1-3
・地盤沈下	周辺地盤の計測管理	写真4-1-1-4

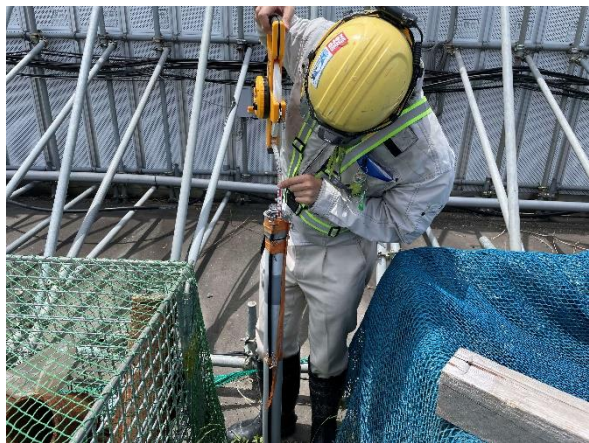


写真4-1-1-1
地下水の継続的な監視



写真4-1-1-2
工事排水の適切な処理



写真4-1-1-3
処理設備の点検・整備による性能維持



写真4-1-1-4
周辺地盤の計測管理

4-1-2 第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-2-1及び写真4-1-2-1～写真4-1-2-16に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、トンネル掘進等を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-1-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) ・ 騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-2-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-2-3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真4-1-2-4

表 4-1-2-1 (2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全 (交通) ・温室効果ガス ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-2-5
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 	適切な構造及び工法の採用	写真4-1-2-6
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 	地下水の継続的な監視	写真4-1-2-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真4-1-2-8
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全 (交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-2-9
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真4-1-2-10

表 4-1-2-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・安全 (交通) ・温室効果ガス ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	貨物列車を活用した発生土の運搬	写真4-1-2-11
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真4-1-2-12
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転)	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	下水道への排水	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	工事排水の監視	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真4-1-2-13
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・土壤汚染 	仮置場における発生土の適切な管理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・土壤汚染 	工事排水の適切な処理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・土壤汚染 ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・安全 (交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真4-1-2-14

表 4-1-2-1(4) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・安全（交通） ・地域交通 （交通混雑、交通安全） 	工事計画の周知	写真4-1-2-15
<ul style="list-style-type: none"> ・安全（交通） ・地域交通 （交通混雑、交通安全） 	交通誘導員による誘導	写真4-1-2-16
<ul style="list-style-type: none"> ・安全（交通） ・地域交通 （交通混雑、交通安全） 	車両整備の徹底	写真4-1-2-12



写真4-1-2-1
仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲い設置)



写真4-1-2-2
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-2-3
建設機械の点検及び整備による性能維持

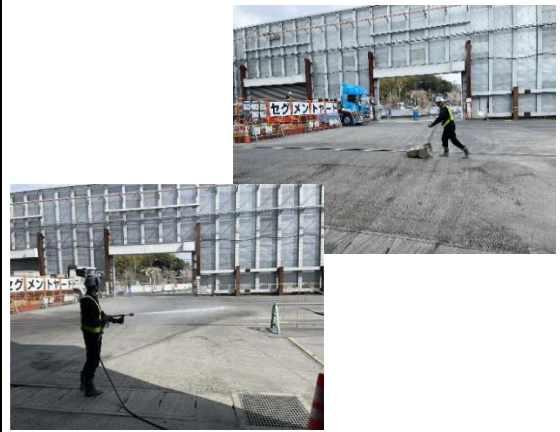


写真4-1-2-4
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-2-5
工事従事者への講習・指導

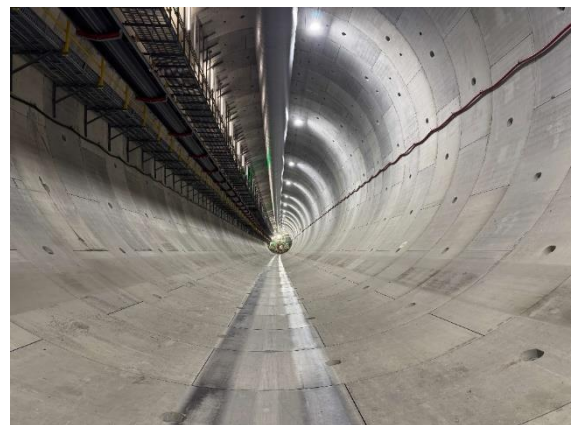


写真4-1-2-6
適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)



写真4-1-2-7
地下水の継続的な監視



写真4-1-2-8
山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-2-9
荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-2-10
資材及び機械の運搬に用いる車両の
出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄



写真4-1-2-11
貨物列車を活用した発生土の運搬

環境保全措置として、発生土の一部を
鉄道貨物により運搬することで、工事用
車両台数を低減している。
2025年度は、第一首都圏トンネル（梶
ヶ谷工区）からの発生土のうち約5割を
鉄道貨物にて運搬した。



写真4-1-2-12
資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備
による性能維持、車両整備の徹底



写真4-1-2-13
処理設備の点検・整備による性能維持



写真4-1-2-14
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真4-1-2-15
工事計画の周知



写真4-1-2-16
交通誘導員による誘導

4-1-3 犬蔵非常口

環境保全措置の実施状況を表4-1-3-1及び写真4-1-3-1～写真4-1-3-16に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、躯体構築工を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-3-1 (1) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-3-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-3-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真4-1-3-4

表 4-1-3-1 (2) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・安全 (交通) ・温室効果ガス ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-3-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	下水道への排水	—
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の監視	写真4-1-3-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真4-1-3-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真4-1-3-8
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	適切な構造及び工法の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留工法等の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-3-6
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	周辺地盤の計測管理	写真4-1-3-9
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	副産物の分別・再資源化	写真4-1-3-10
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—

表4-1-3-1(3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真4-1-3-11
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真4-1-3-12
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底(資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転)	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真4-1-3-13
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真4-1-3-14
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事計画の周知	写真4-1-3-15
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	交通誘導員による誘導	写真4-1-3-16
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	車両整備の徹底	写真4-1-3-12



写真4-1-3-1
仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲い設置)



写真4-1-3-2
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用

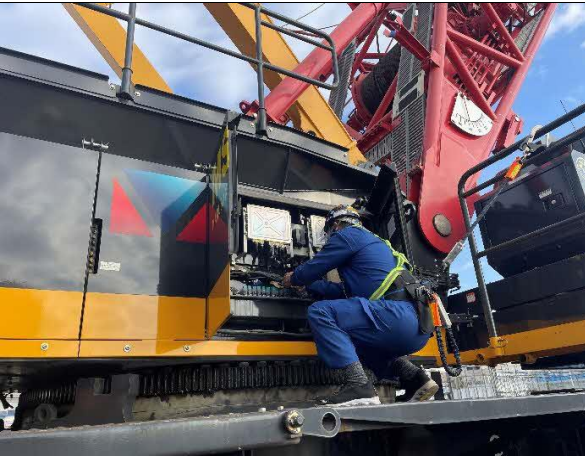


写真4-1-3-3
建設機械の点検及び整備による性能維持

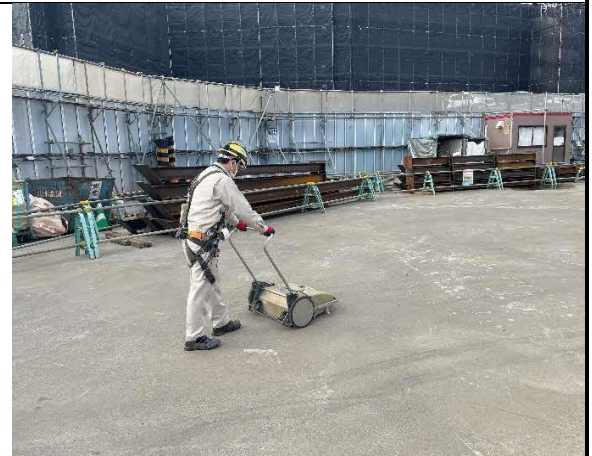


写真4-1-3-4
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-3-5
工事従事者への講習・指導



写真4-1-3-6
工事排水の監視
工事排水の適切な処理

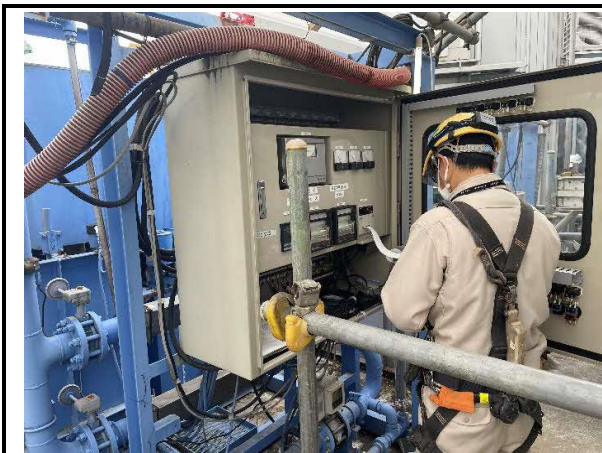


写真4-1-3-7
処理設備の点検・整備による性能維持



写真4-1-3-8
地下水の継続的な監視

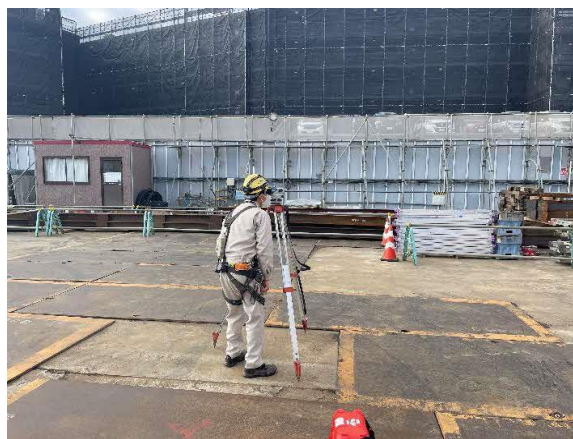


写真4-1-3-9
周辺地盤の計測管理



写真4-1-3-10
副産物の分別・再資源化



写真4-1-3-11
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄



写真4-1-3-12
資材及び機械の運搬に用いる車両の点検
及び整備による性能維持、車両整備の徹底



写真4-1-3-13
低燃費車種の選定、積載の効率化、
運搬計画の合理化による運搬距離の最適化



写真4-1-3-14
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真4-1-3-15
工事計画の周知



写真4-1-3-16
交通誘導員による誘導

4-1-4 第一首都圏トンネル（東百合丘工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-4-1及び写真4-1-4-1～写真4-1-4-15に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、トンネル掘進等を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表4-1-4-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-4-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-4-4

表4-1-4-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全(交通) ・温室効果ガス ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-4-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	下水道への排水	—
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-4-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の監視	写真 4-1-4-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-4-8
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・土壌汚染 	仮置き場における発生土の適切な管理	写真 4-1-4-9
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-4-7
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	—
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 ・廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-4-10

表4-1-4-1(3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-4-11
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-4-12
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転)	—
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルートへの配慮	写真 4-1-4-13
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真 4-1-4-14
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	工事計画の周知	—
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	交通誘導員による誘導	写真 4-1-4-15
<ul style="list-style-type: none"> ・安全(交通) ・地域交通 (交通混雑、交通安全) 	車両整備の徹底	—

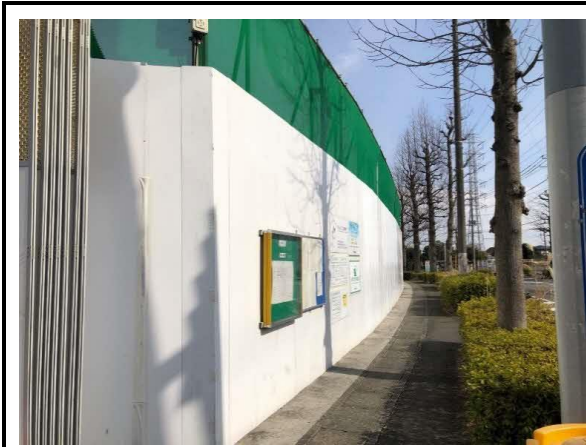


写真 4-1-4-1(1)
仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-4-1(2)
仮囲い・防音シート等の設置

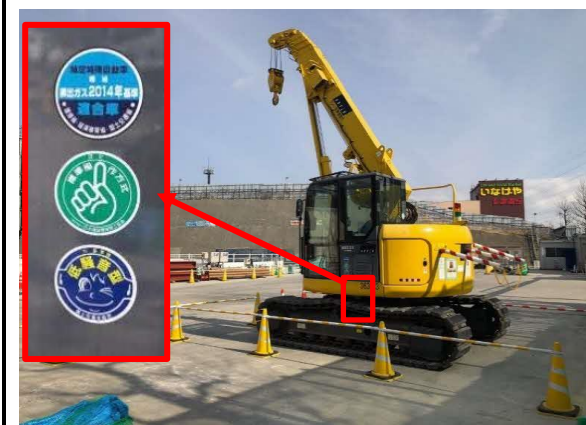


写真 4-1-4-2
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用

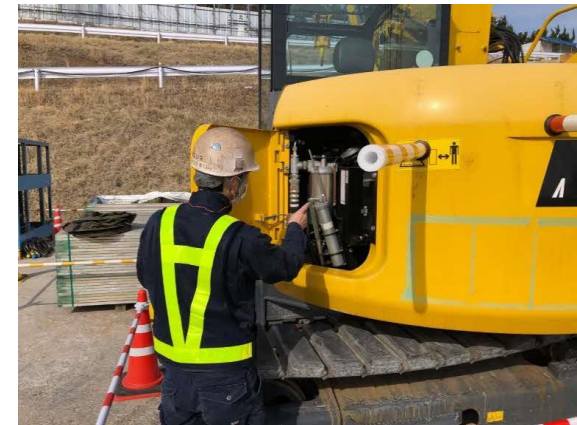


写真 4-1-4-3
建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-4-4
工事現場の清掃及び散水



写真 4-1-4-5
工事従事者への講習・指導



写真 4-1-4-6
適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)



写真 4-1-4-7
工事排水の監視、工事排水の適切な処理
(濁水処理設備の設置)



写真 4-1-4-8
処理設備の点検・整備による性能維持



写真 4-1-4-9
仮置き場における発生土の適切な管理
(土砂ピット)



写真 4-1-4-10
副産物の分別、再資源化



写真 4-1-4-11
荷台への防じんシート敷設及び散水
(防じんシートの敷設)



写真 4-1-4-12
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入り口等の清掃、
散水及びタイヤの洗浄

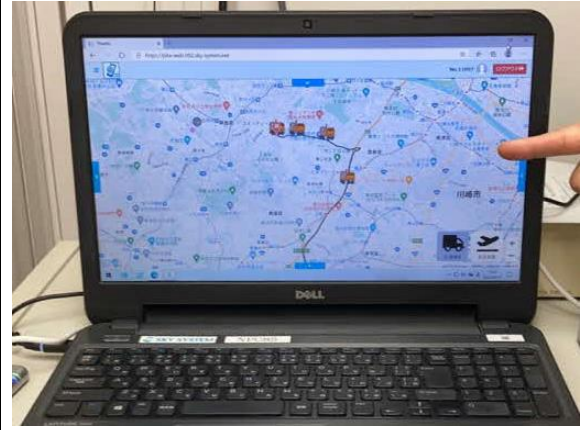


写真 4-1-4-13
資材及び機械の運搬に用いる
車両の運行ルートへの配慮



写真 4-1-4-14
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真 4-1-4-15
交通誘導員による誘導

4-1-5 片平非常口

環境保全措置の実施状況を表4-1-5-1及び写真4-1-5-1～写真4-1-5-17に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、掘削工を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表4-1-5-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（粉じん等） ・ 騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-5-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用 低公害型の工事車両の選定	写真 4-1-5-2 写真 4-1-5-3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス ・ 安全（交通） ・ 地域交通（交通混雑、交通安全） 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-5-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-5
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-5-6

表4-1-5-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-5-7
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-5-8
・水質（水の濁り、汚れ） ・水資源	下水道への排水	—
・地下水（地下水の水位） ・水資源	止水性の高い山留め工法等の採用	—
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-5-9
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-5-10
・地下水 （地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-5-11
・地盤沈下	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-5-12
・地盤沈下	適切な構造及び工法の採用 地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	—
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-5-9
・土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	—
・土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	—
・土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-5-8
・植物 ・生態系	濁水処理設備の設置	写真 4-1-5-9
・動物 ・生態系	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-5-1 写真 4-1-5-2

表4-1-5-1(3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・廃棄物等	建設発生土の再利用 発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別・再資源化	写真 4-1-5-13
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-5-3
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・安全（交通） ・地域交通（交通混雑、交通安全）	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-14
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底（資材及び機械の運搬に用いる車両の適切な運転）	—
・安全（交通）	迂回ルートの設定時に対する配慮	—
・安全（交通） ・地域交通（交通混雑、交通安全）	工事に使用する道路、搬入時間及び法定速度制限の遵守	写真 4-1-5-15
・安全（交通） ・地域交通（交通混雑、交通安全）	工事計画の周知	写真 4-1-5-16
・安全（交通） ・地域交通（交通混雑、交通安全）	交通誘導員による誘導	写真 4-1-5-17
・安全（交通） ・地域交通（交通混雑、交通安全）	車両整備の徹底	写真 4-1-5-14



写真4-1-5-1(1)
仮囲い・防音シート等の設置



写真4-1-5-1(2)
仮囲い・防音シート等の設置
(エンジン周りに防音シートを設置)



写真4-1-5-2
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-5-3
低公害型の工事用車両の選定
低燃費車種の選定、積載の効率化、
運搬計画の合理化による運搬距離の最適化



写真4-1-5-4
工事従事者への講習・指導



写真4-1-5-5
建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-5-6
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-5-7
荷台への防じんシート敷設及び散水
(防じんシートの敷設)



写真4-1-5-8
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄
外来種の拡大抑制



写真4-1-5-9
工事排水の監視
工事排水の適切な処理
濁水処理設備の設置



写真4-1-5-10
処理設備の点検・整備による性能維持



写真4-1-5-11
地下水の継続的な監視



写真4-1-5-12
山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-5-13
副産物の分別・再資源化



写真4-1-5-14
資材及び機械の運搬に用いる
車両の点検及び整備による性能維持
車両整備の徹底



写真4-1-5-15
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定速度制限の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真4-1-5-16
工事計画の周知



写真4-1-5-17
交通誘導員による誘導

4-1-6 神奈川県駅（仮称）

環境保全措置の実施状況を表4-1-6-1及び写真4-1-6-1～写真4-1-6-22に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、構築工を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表4-1-6-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施している環境保全措置	備考
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-6-1
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等)	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
	工事の平準化	—
・騒音 ・振動	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-6-4
・大気質 (粉じん等) ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-6-2
		写真 4-1-6-3
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-6-1
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-6-4
	建設機械の点検および整備による性能維持	写真 4-1-6-5
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-6-6
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源	下水道への排水	写真 4-1-6-7
・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-6-8
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-6-10 写真 4-1-6-11
	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-6-10 写真 4-1-6-11
・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源	地下水の継続的な監視	写真 4-1-6-12
・地盤沈下	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-6-8
	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	写真 4-1-6-8
	地下水等の継続的な監視	写真 4-1-6-12
	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-6-13

表4-1-6-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施している環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	仮置場における発生土の適切な管理	写真 4-1-6-9
	工事排水の適切な処理	写真 4-1-6-10
	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	—
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別・再資源化	写真 4-1-6-14
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
・ 温室効果ガス	低炭素型建設機械の選定	—
	工事規模に合わせた建設機械の選定	—
	高負荷運転の抑制	写真 4-1-6-15
	建設機械の点検・整備による性能維持	写真 4-1-6-5
	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-6-4
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-6-17
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 安全 (交通)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	写真 4-1-6-16
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転)	—
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動	工事の平準化	—
・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 安全 (交通) ・ 温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-6-4

表 4-1-6-1 (3) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施している環境保全措置	備考
・ 大気質 (粉じん等)	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-6-19
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-6-20
・ 安全 (交通)	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真 4-1-6-15
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	写真 4-1-6-21
	迂回ルートの設定時に対する配慮	—
	車両整備の徹底	写真 4-1-6-17
・ 温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-6-16 写真 4-1-6-18



写真4-1-6-1
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-6-2
仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲いの設置)

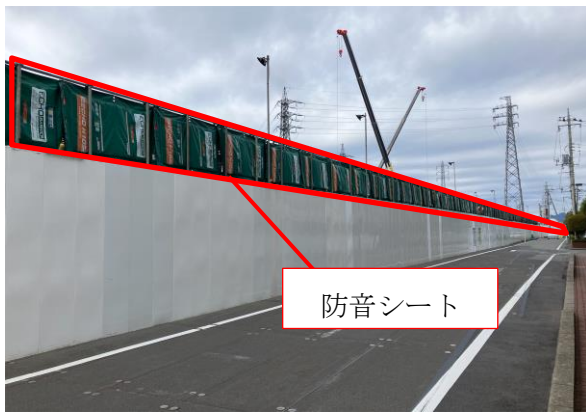


写真4-1-6-3
仮囲い・防音シート等の設置
(防音シートの設置)



写真4-1-6-4
工事従事者への講習・指導
建設機械の使用時における配慮



写真4-1-6-5
建設機械の点検および整備による性能維持



写真4-1-6-6
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-6-7
下水道への排水



写真4-1-6-8
止水性の高い山留め工法等の採用
地質の状況等に応じた山留め工法等の採用



写真4-1-6-9
仮置場における発生土の適切な管理



写真4-1-6-10
工事排水の監視
処理設備の点検・整備による性能維持
工事排水の適切な処理



写真4-1-6-11
工事排水の監視
処理設備の点検・整備による性能維持

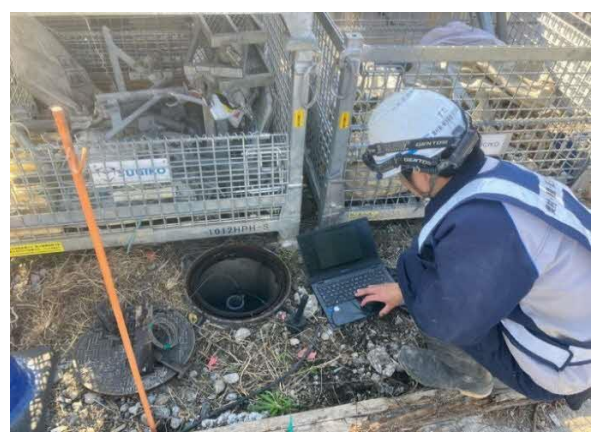


写真4-1-6-12
地下水の継続的な監視



写真4-1-6-13
山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真4-1-6-14
副産物の分別・再資源化



写真4-1-6-15
高負荷運転の抑制
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守

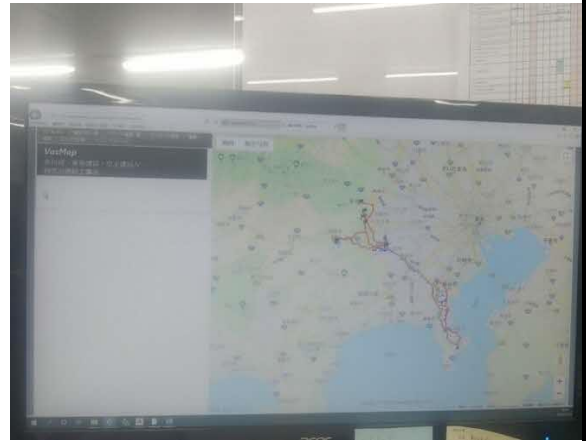


写真4-1-6-16
資材及び機械の運搬に用いる
車両の運行計画の配慮
低燃費車種の選定、積載の効率化、
運搬計画の合理化による運搬距離の最適化
(VASMAP管理)



写真4-1-6-17
資材及び機械の運搬に用いる車両の
点検及び整備による性能維持
車両整備の徹底



写真4-1-6-18
低燃費車種の選定、積載の効率化、
運搬計画の合理化による運搬距離の最適化
(工事車両へのGPS設置)



写真4-1-6-19
荷台への防じんシート敷設及び散水
(防じんシートの敷設)



写真4-1-6-20
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入口等の清掃、散水
及びタイヤの洗浄
(タイヤ洗浄)



写真4-1-6-21
交通誘導員による誘導

4-1-7 第二首都圏トンネル

環境保全措置の実施状況を表4-1-7-1及び写真4-1-7-1～写真4-1-7-13に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、シールド機組立準備工、シールド機組立及び発進準備工を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表4-1-7-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施している環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等) ・騒音	仮囲いの設置	写真 4-1-7-1
・騒音	防音シート等の設置	写真 4-1-7-10 写真 4-1-7-11
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-7-2
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
	工事の平準化	—
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-7-2
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-7-3
	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-7-4
	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-7-6
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-7-5
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-7-7
・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
	高負荷運転の抑制	—
	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-7-4
	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-7-6
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全(交通)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動	工事の平準化	—

表4-1-7-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施している環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-7-8
・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底 （資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転）	—
・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・安全（交通） ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-7-6
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—
・安全（交通）	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真 4-1-7-9
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	写真 4-1-7-12
	車両整備の徹底	写真 4-1-7-4



写真4-1-7-1
仮囲いの設置



写真4-1-7-2
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-7-3
建設機械の使用時における配慮



写真4-1-7-4
建設機械の点検及び整備による性能維持
車両整備の徹底



写真4-1-7-5
工事現場の清掃、散水



写真4-1-7-6
工事従事者への講習・指導



写真4-1-7-7
副産物の分別、再資源化

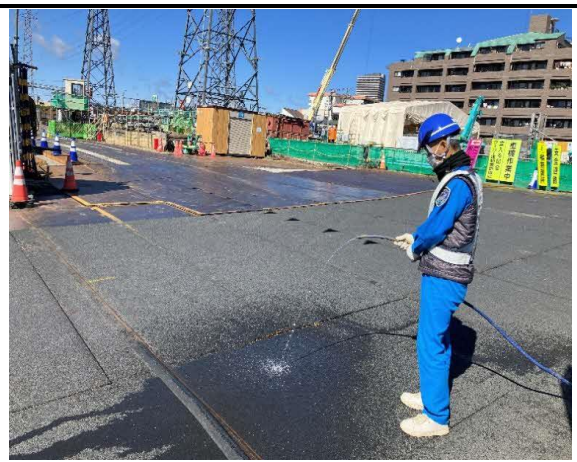


写真4-1-7-8
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄



写真4-1-7-9
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示に依る安全運転意識)



写真4-1-7-10
防音シート等の設置
(750tクレーン)



写真4-1-7-11
防音シート等の設置
(350tクレーン)

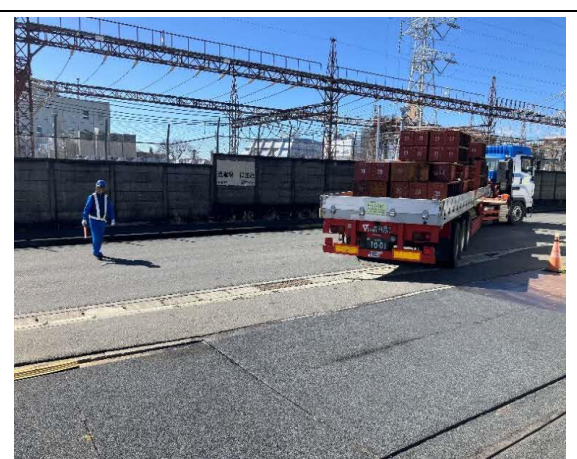


写真4-1-7-12
交通誘導員による誘導

4-1-8 相模川橋りょう

環境保全措置の実施状況を表4-1-8-1及び写真4-1-8-1～写真4-1-8-17に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、橋りょう及び高架橋の橋脚基礎工、橋脚下部工、橋脚上部工を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表4-1-8-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施している環境保全措置	備考
・騒音	防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-8-1
	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-8-2
・大気質（粉じん等）	仮囲いの設置	写真 4-1-8-3
	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-8-4
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音	排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-8-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）	工事に伴う変更区域を出来る限り小さくすること	—
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音、振動	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
	工事の平準化	—
	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-8-5
	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-8-6
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音、振動	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-8-7
・水質（水の濁り、水の汚れ）	工事排水の適切な処理	写真 4-1-8-8
	仮締切工の実施	—
	工事排水の監視	—
	処理設備の点検・整備による性能維持	—
・重要な地形及び地質	地形の変更区域を出来るだけ小さくした工事施工ヤード及び工事用道路の計画	—
	地形の変更区域を出来るだけ小さくする工法または構造の採用	—
・土壌汚染	有害物質の確認と汚染土壌の適切な処理	—
	工事排水の適切な処理	—
	仮置き場における掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-8-9
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
・日照障害	鉄道施設（嵩上式）の構造物の形式・配置等の工夫	—

表4-1-8-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・電波障害	鉄道施設（嵩上式）の構造物の形式・配置等の工夫	—
・動物 ・植物 ・生態系	重要な種の生息地及び生育地の全体又は一部を回避	—
	工事に伴う変更区域を出来る限り小さくする	—
	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-8-6
	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-8-8
・動物 ・生態系	資材運搬等の平準化	—
	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	—
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-8-10
・景観	橋梁等の形状の配慮	—
・人と自然とのふれあいの活動の場	鉄道施設の設置位置、構造への配慮	—
	鉄道施設の形状等の工夫による周辺環境への調和の配慮	—
	散策路ルート機能の確保	写真 4-1-8-11
	市民及び利用者への工事情報等の適切な周知	写真 4-1-8-12
・廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
・温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	写真 4-1-8-13
	工事規模に合わせた建設機械の選定	—
	建設機械の点検及び整備による性能維持	—
	工事従事者への講習・指導	—
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-8-14
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音、振動 ・安全（交通）	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音、振動	工事の平準化	—

表4-1-8-1(3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	—
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-8-15
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音、振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
	環境負荷低減を意識した運転の徹底（高負荷運転の抑制）	—
	工事従事者への講習・指導	—
・安全（交通）	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真 4-1-8-16
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	写真 4-1-8-17
	車両整備の徹底	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-8-1
防音シート等の設置による遮音対策



写真4-1-8-2
排出ガス対策型の建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-8-3
仮囲いの設置

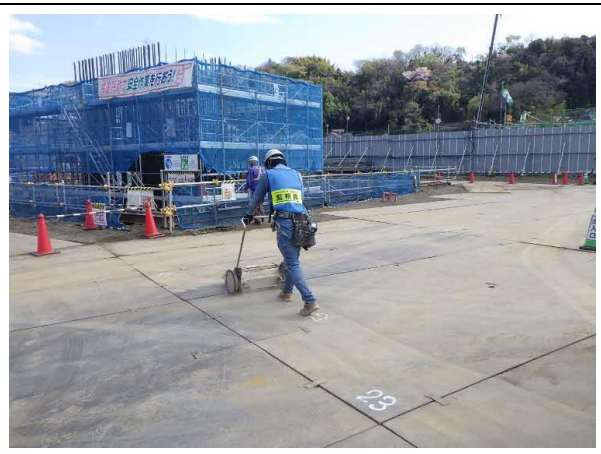


写真4-1-8-4
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-8-5
建設機械の使用時における配慮
(重機械運転者にアイドリング
ストップを促す看板の設置)



写真4-1-8-6
工事従事者への講習・指導



写真4-1-8-7
建設機械の点検及び整備による性能維持

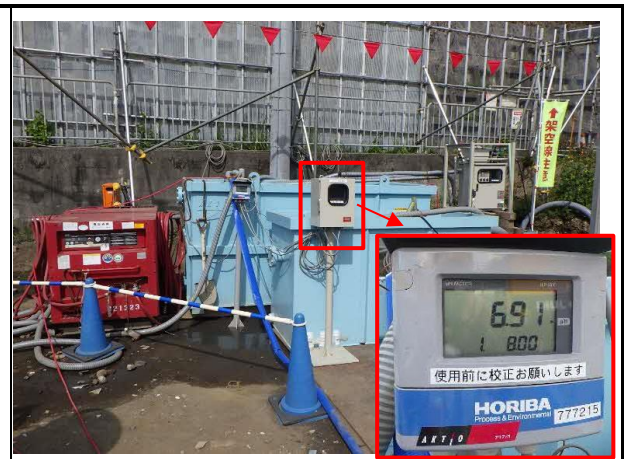


写真4-1-8-8
工事排水の適切な処理
汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置
(深礎杭施工時の濁水処理設備)



写真4-1-8-9
仮置き場における掘削土砂の適切な管理



写真4-1-8-10
外来種の拡大抑制
(タイヤ洗浄)



写真4-1-8-11
散策ルート機能の確保



写真4-1-8-12
市民及び利用者への工事情報等の適切な周知



写真4-1-8-13
高負荷運転の抑制
(運転手講習会の実施)



写真4-1-8-14
副産物の分別、再資源化



写真4-1-8-15
荷台への防じんシート敷設及び散水
(防じんシートの敷設)



写真4-1-8-16
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真4-1-8-17
交通誘導員による誘導

4-1-9 津久井トンネル（東工区）・相模川変電所

環境保全措置の実施状況を表4-1-9-1及び写真4-1-9-1～写真4-1-9-19に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、トンネル工事及び敷地造成工事を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-9-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-9-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	写真 4-1-9-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-9-3
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ・動物 ・生態系 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-9-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-9-4

表 4-1-9-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・安全(交通) ・温室効果ガス ・動物 ・植物 ・生態系 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-9-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-9-6
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-9-7
	発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別・再資源化	写真 4-1-9-8
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全(交通) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転)	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-9-9
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-9-10

表 4-1-9-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-9-11
・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-9-12
	放流時の放流箇所及び水温の調整	—
・水資源	地下水の継続的な監視	写真 4-1-9-13
・水質 (水の濁り、水の汚れ)	工事排水の監視	写真 4-1-9-14
・土壌汚染	発生土に含まれる自然由来の重金属等の定期的な検査	写真 4-1-9-15
	土砂ピットにおける発生土の適切な管理	写真 4-1-9-16
・安全 (交通)	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真 4-1-9-17
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	—
	車両整備の徹底	—
	迂回ルートの設定時に対する配慮	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—
・動物 ・生態系	照明の漏れ出しの抑制等	写真 4-1-9-18
	資材運搬等の適正化	—
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	写真 4-1-9-9



写真 4-1-9-1
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-9-2
工事規模に合わせた建設機械の設定



写真 4-1-9-3
仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲い設置)



写真 4-1-9-4
建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-9-5
工事従事者への講習・指導



写真 4-1-9-6
工事現場の清掃及び散水



写真 4-1-9-7
建設汚泥の脱水処理



写真 4-1-9-8
副産物の分別・再資源化



写真 4-1-9-9
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄
外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄



写真 4-1-9-10
荷台への防じんシート敷設及び散水
(防じんシートの敷設)



写真 4-1-9-11
工事排水の適切な処理



写真 4-1-9-12
処理設備の点検・整備による性能維持



写真 4-1-9-13
地下水の継続的な監視



写真 4-1-9-14
工事排水の監視



写真 4-1-9-15
発生土に含まれる自然由来の
重金属等の定期的な検査



写真 4-1-9-16
土砂ピットにおける発生土の適切な管理



写真 4-1-9-17
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真 4-1-9-18
照明の漏れ出しの抑制等
(LED ライトの使用)

4-1-10 津久井トンネル（西工区）

環境保全措置の実施状況を表4-1-10-1及び写真4-1-10-1～写真4-1-10-19に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、本線トンネルの掘削工、ヤード整備工を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-10-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-10-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・安全（交通） ・温室効果ガス ・動物 ・植物 ・生態系 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-10-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・騒音 ・動物 ・生態系 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-10-3
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ・動物 ・生態系 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-10-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—

表 4-1-10-1 (2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-10-4
	環境負荷低減を意識した運転の徹底(資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転)	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真4-1-10-5
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-10-6
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真4-1-10-7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真4-1-10-8
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質 (水の濁り、水の汚れ) ・ 水資源 	工事排水の適切な処理(長竹非常口)	
	工事排水の監視(長竹非常口)	写真4-1-10-9
	処理設備の点検・整備による性能維持(長竹非常口)	写真4-1-10-10
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水資源 	地下水の継続的な監視	写真4-1-10-11
<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌汚染 	土砂ピットにおける発生土の適切な管理(長竹非常口)	写真4-1-10-12
	発生土に含まれる自然由来の重金属等の定期的な調査	写真4-1-10-13
<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌汚染 ・ 廃棄物等 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物 ・ 生態系 	小動物が脱出可能な側溝の設置(長竹非常口)	写真4-1-10-14
	汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置(長竹非常口)	写真4-1-10-15

表 4-1-10-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・動物 ・生態系	資材運搬等の適正化	—
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制	写真4-1-10-7
・廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理（長竹非常口）	写真4-1-10-16
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別・再資源化	写真4-1-10-17
・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・安全（交通）	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
・安全（交通）	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真4-1-10-18
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	—
	迂回ルートの設定時に対する配慮	—
	車両整備の徹底	—
・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—

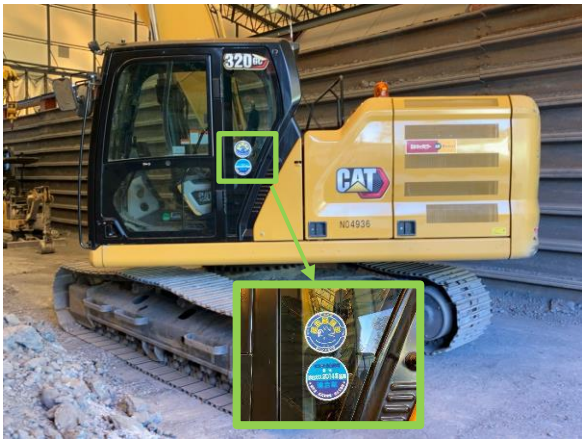


写真4-1-10-1
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-10-2
工事従事者への講習・指導



写真4-1-10-3
仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲い設置)

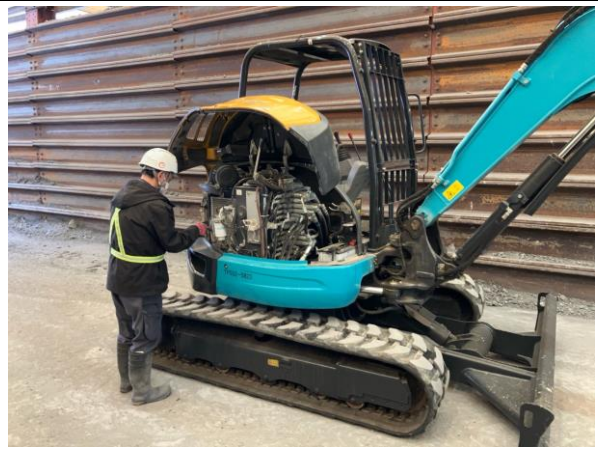


写真4-1-10-4
建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-10-5
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-10-6
荷台への防じんシート敷設及び散水
(防じんシートの敷設)



写真4-1-10-7
資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄
外来種の拡大抑制（タイヤ洗浄の実施）



写真4-1-10-8
工事排水の適切な処理



写真4-1-10-9
工事排水の監視



写真4-1-10-10
処理設備の点検・整備による性能維持



写真4-1-10-11
地下水の継続的な監視

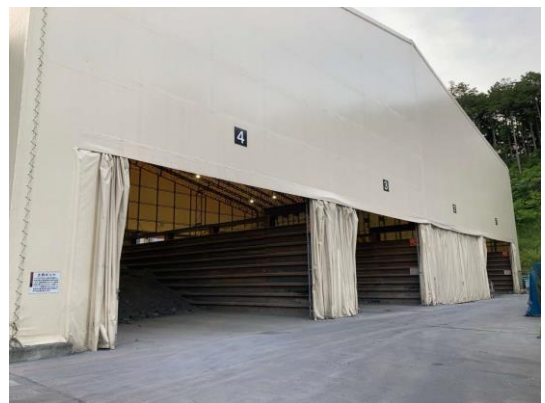


写真4-1-10-12
土砂ピットにおける発生土の適切な管理



写真4-1-10-13
発生土に含まれる自然由来の
重金属等の定期的な調査



写真4-1-10-14
小動物が脱出可能な側溝の設置



写真4-1-10-15
汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置



写真4-1-10-16
建設汚泥の脱水処理



写真4-1-10-17
副産物の分別・再資源化



表4-1-10-18
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)

4-1-11 関東車両基地

環境保全措置の実施状況を表4-1-11-1及び写真4-1-11-1～写真4-1-11-17に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、工事施工ヤード造成、県道64号仮設道路工、県道64号付替道路工及び谷戸沢仮設道路工等を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-11-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-11-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真4-1-11-2
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-11-3
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真4-1-11-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の使用時における配慮	—
	建設機械の点検及び整備による性能維持	—
	環境負荷低減を意識した運転の徹底 (資材及び機械の運搬に用いる車両の適切な運転)	—
	資材及び機械の運行に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全 (交通) 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全 (交通) ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-11-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—

表 4-1-11-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 ・動物 ・生態系 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-11-6
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ・生態系 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-11-1
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	資材運搬の適正化	—
	代替巣の設置	—
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真4-1-11-4
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） 	工事排水の適切な処理	写真4-1-11-7
	工事排水の監視	写真4-1-11-8
	処理設備の点検・整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地形及び地質 	地盤改良及び補強材の適切な配置	写真4-1-11-9
	法面等の防護	写真4-1-11-10
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	写真4-1-11-11
	工事排水の適正な処理	写真4-1-11-7
	仮置場における発生土の適切な管理	写真4-1-11-12
	発生土を有効活用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・地形分断 	既存道路機能の確保	写真4-1-11-13

表 4-1-11-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・廃棄物等	副産物の分別・再資源化	写真4-1-11-14
	発生土を有効活用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-11-1
	積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—
・安全（交通）	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真4-1-11-15
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	写真4-1-11-16
	迂回ルートの設定時に対する配慮	写真4-1-11-17
	車両整備の徹底	—



写真 4-1-11-1
 排出ガス対策型建設機械の採用
 低騒音型建設機械の採用
 低燃費車種の選定



写真 4-1-11-2
 工事現場の清掃及び散水



写真 4-1-11-3
 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真 4-1-11-4
 資材及び機械の運搬に用いる
 車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄
 外来種の拡大抑制（タイヤ洗浄）



写真 4-1-11-5
 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-11-6
 仮囲い・防音シート等の設置
 (仮囲い設置)



写真 4-1-11-7
工事排水の適切な処理



写真4-1-11-8
工事排水の監視



写真 4-1-11-9
地盤改良及び補強材の適切な配置



写真4-1-11-10
法面等の防護



写真 4-1-11-11
有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理



写真 4-1-11-12
仮置き場における発生土の適切な管理



写真 4-1-11-13
既存道路機能の確保



写真4-1-11-14
副産物の分別・再資源化



写真 4-1-11-15
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(交通標識の明示)



写真 4-1-11-16
交通誘導員による誘導



写真 4-1-11-17
迂回ルートの設定時に対する配慮

4-1-12 藤野トンネル

環境保全措置の実施状況を表4-1-12-1及び写真4-1-12-1～写真4-1-12-15に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、主にトンネル工事を実施しているため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-12-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真4-1-12-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) ・騒音 ・動物 ・生態系 	仮囲い・防音シート等の設置	写真4-1-12-2
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 ・動物 ・生態系 	低騒音型建設機械の採用	写真4-1-12-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真4-1-12-3

表 4-1-12-1 (2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 安全 (交通) ・ 温室効果ガス ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 	工事従事者への講習・指導	写真4-1-12-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真4-1-12-5
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質 (水の濁り、水の汚れ) ・ 水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	—
	工事排水の適切な処理	—
	工事排水の監視	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水の水質及び水位 (地下水の水質、水位の変化) ・ 水資源 	適切な構造及び工法の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水資源 	地下水の継続的な監視	写真4-1-12-6
	応急措置の体制整備、代替水源の確保	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物 ・ 生態系 	小動物が脱出可能な側溝の設置	写真4-1-12-7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌汚染 	仮置場における発生土の適切な管理	写真4-1-12-8
	発生土に含まれる自然由来の重金属等の定期的な調査	写真4-1-12-9
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	—
	工事排水の適切な処理	—

表 4-1-12-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・動物 ・生態系	濁水処理設備及び仮設沈砂池の設置	写真4-1-12-10
	照明の漏れ出しの抑制等	写真4-1-12-11
	資材運搬等の適正化	—
・植物 ・生態系	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	—
・廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	写真4-1-12-12
	発生土を有効利用する事業者への情報提供	—
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別・再資源化	—
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・安全(交通)	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
・大気質 (粉じん等)	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真4-1-12-13
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	—

表 4-1-12-1 (4) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・安全（交通）	工事に使用する道路、搬入時間及び法定制限速度の遵守	写真4-1-12-14
	工事計画の周知	—
	交通誘導員による誘導	写真4-1-12-15
	車両整備の徹底	—
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真4-1-12-1
排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真4-1-12-2
仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲い設置)

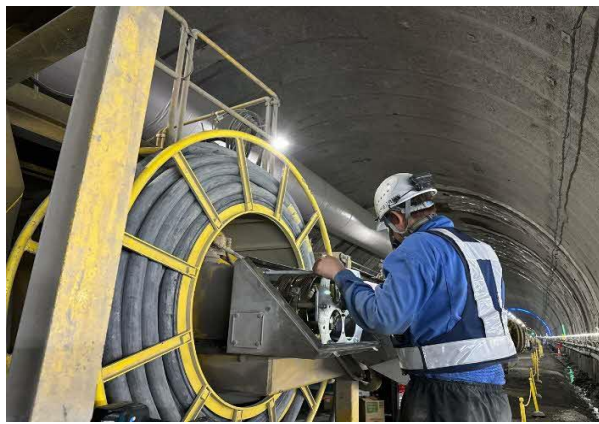


写真4-1-12-3
建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-12-4
工事従事者への講習・指導



写真4-1-12-5
工事現場の清掃及び散水



写真4-1-12-6
地下水の継続的な監視



写真4-1-12-7
小動物が脱出可能な側溝の設置



写真4-1-12-8
仮置場における発生土の適切な管理



写真4-1-12-9
発生土に含まれる自然由来の重金属等の定期的な調査



写真4-1-12-10
濁水処理設備及び仮設沈砂池の設置



写真4-1-12-11
照明の漏れ出しの抑制等
(遮光設備 (ルーバー) の設置)



写真4-1-12-12
建設汚泥の脱水処理



写真4-1-12-13
荷台への防じんシート敷設及び散水



写真4-1-12-14
工事に使用する道路、
搬入時間及び法定制限速度の遵守
(車両標識明示による安全運転意識の向上)



写真4-1-12-15
交通誘導員による誘導

4-2 代替巢の設置

生息環境の一部が保全されない可能性がある種を対象に、これまでに専門家に現地確認を頂いた上で、表 4-2-1 の通り代替巢を設置した。設置した代替巢においては状況を確認し必要に応じてメンテナンスを実施している。2025 年度における代替巢の確認及び設置状況は写真 4-2-1～写真 4-2-4 に示すとおりである。

表 4-2-1 代替巢の設置状況

対象種	設置箇所数	設置時期
ノスリ（鳥屋Aペア）	2箇所 （代替巢A、B）	代替巢A、B 2015年12月21日
オオタカ（鳥屋Bペア）	2箇所 （代替巢A、B）	代替巢A 2016年12月26日 代替巢B 2017年1月29日

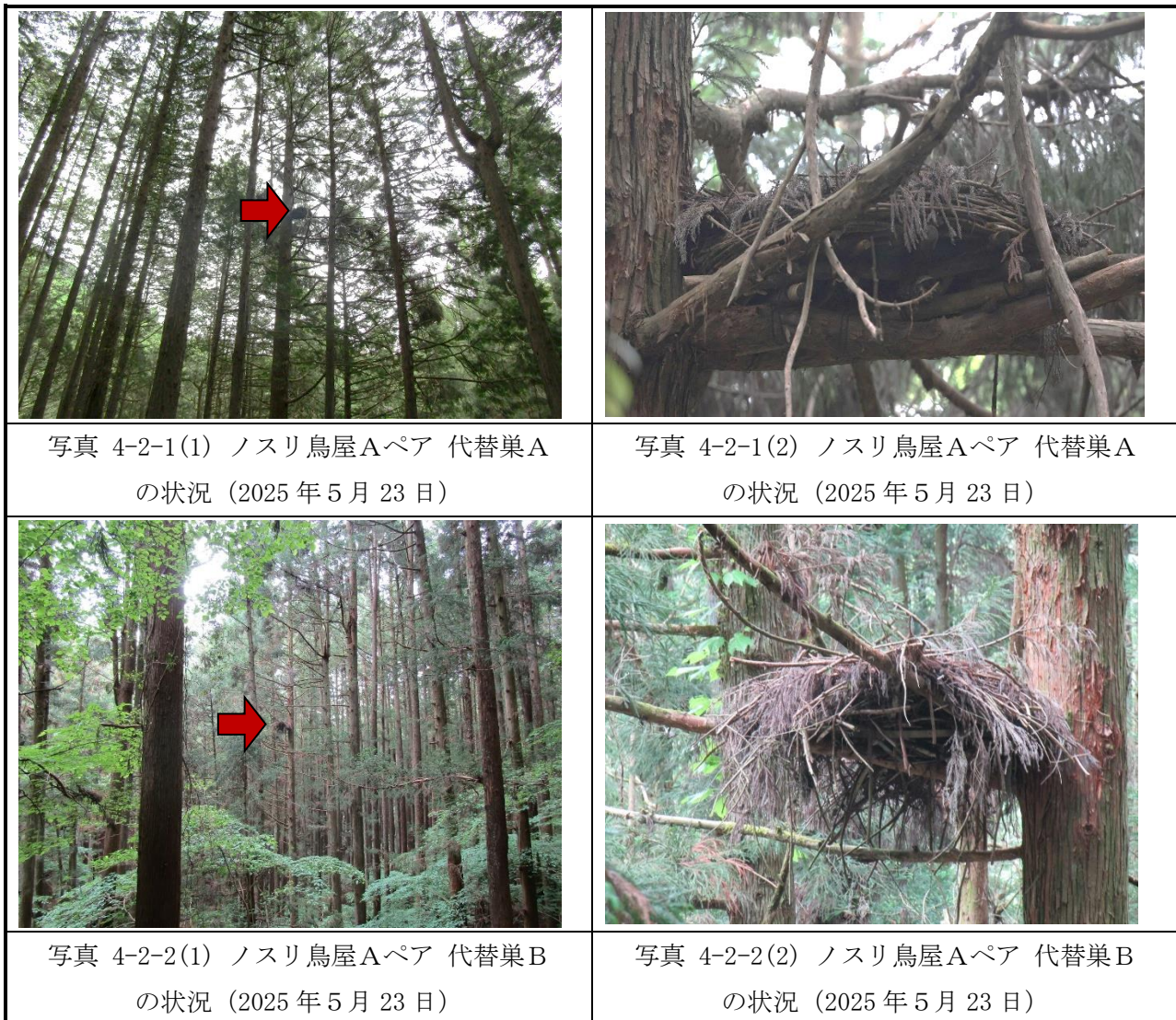




写真 4-2-3(1) オオタカ鳥屋Bペア 代替巣A
の状況 (2025年5月23日)



写真 4-2-3(2) オオタカ鳥屋Bペア 代替巣A
の状況 (2025年5月23日)



写真 4-2-4(1) オオタカ鳥屋Bペア 代替巣B
の状況 (2025年5月23日)



写真 4-2-4(2) オオタカ鳥屋Bペア 代替巣B
の状況 (2025年5月23日)

4-3 重要な種の移植

生育する箇所を回避することができなかった重要な種を対象に、2025年度において表4-3-1のとおり重要な種の移植を実施した。移植時の状況は写真4-3-1～写真4-3-8に示すとおりである。

また、鳥屋地区のキンランについては、移植時に地上部が立ち枯れしていたため、周囲の土ごと移植を実施した。

表 4-3-1 2025 年度に移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
カヤラン	ラン科	相模原市緑区 青山	相模原市緑区 青山	2025年12月12日 (1 個体移植)
			相模原市緑区 牧野	2025年12月12日 (1 個体移植)
		相模原市緑区 牧野	相模原市緑区 青山	2025年12月12日 (1 個体移植)
エビネ	ラン科	相模原市緑区 青山	相模原市緑区 青山 (移植地A)	2025年12月11日 (6 個体移植)
			相模原市緑区 青山 (移植地B)	2025年12月11日 (6 個体移植)
キンラン	ラン科	相模原市緑区 鳥屋	相模原市緑区 鳥屋	2025年10月16日 (2 個体移植)



写真 4-3-1 移植作業の状況 (移植前個体)
(青山 カヤラン)



写真 4-3-2 移植作業の状況 (移植後個体)
(青山 カヤラン)



写真 4-3-3 移植作業の状況（剥ぎ取り个体）
（牧野 カヤラン）



写真 4-3-4 移植作業の状況（移植後个体）
（牧野 カヤラン）



写真 4-3-5 移植作業の状況（移植前个体）
（青山 エビネ）



写真 4-3-6 移植作業の状況（植え付け状況）
（青山 エビネ）



写真 4-3-7 移植作業の状況（掘り取り个体）
（鳥屋 キンラン）



写真 4-3-8 移植作業の状況（植え付け状況）
（鳥屋 キンラン）

5 その他特に実施した調査

5-1 希少猛禽類の継続調査

事後調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、工事着手までの間の生息状況を把握するため、継続調査を実施した。既往の調査で個体が確認された牧馬地区の非常口（山岳部）の工事施工ヤード計画地など事業予定地周辺に調査範囲を設定した。なお、2025年度に完了した繁殖期の調査結果を記載した。

5-1-1 調査項目

ハヤブサ（牧馬ペア）の生息状況とした。

5-1-2 調査方法

調査方法は表 5-1-2-1 に示すとおりである。

表 5-1-2-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事着手前の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

5-1-3 調査地点

調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように工事施工ヤード計画地など事業地予定地周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

5-1-4 調査期間

調査期間は表 5-1-4-1 に示すとおりである。

表 5-1-4-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	2025年2月17日 ～ 2025年2月19日
			2025年3月17日 ～ 2025年3月19日
			2025年4月14日 ～ 2025年4月16日
			2025年5月9日、22日
			2025年6月3日、9日
			2025年7月7日 ～ 2025年7月9日
			2025年8月4日 ～ 2025年8月6日

5-1-5 調査結果

希少猛禽類の継続調査における確認状況は表 5-1-5-1 に示すとおりである。なお、当該ペアについては事後調査を実施するまでの間、調査を継続的に行う予定である。

表 5-1-5-1 希少猛禽類の確認状況（2025年2月～2025年8月）

ペア名	確認状況
ハヤブサ（牧馬ペア）	ハヤブサ（牧馬ペア）は、現地調査により、2021年～2023年において繁殖を確認した営巣地で抱卵等が確認されたが、その後雛の姿は確認されなかった。今後も継続して調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認とした。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）、犬蔵非常口、第一首都圏トンネル（東百合丘工区）、片平非常口、神奈川県駅（仮称）、第二首都圏トンネル、相模川橋りょうほか、津久井トンネルほか（東工区）、津久井トンネルほか（西工区）、関東車両基地及び藤野トンネルとした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、2025年度とした。

6-1-5 集計結果

集計結果は、表 6-1-5-1 に示すとおりである。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量※
建設発生土	1,111,251m ³

※建設発生土の発生量は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量	再資源化等の率
建設廃棄物	建設汚泥	3,936m ³	3,936m ³	100%
	コンクリート塊	8,493m ³	8,493m ³	100%
	アスファルト・コンクリート塊	5,479m ³	5,479m ³	100%
	建設発生木材	2,448t	2,448t	100%

- ・「再資源化等の量」の定義は以下のとおりとする。
 - ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
 - ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計
- なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。
- ・「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）、犬蔵非常口、第一首都圏トンネル（東百合丘工区）、片平非常口、神奈川県駅（仮称）、第二首都圏トンネル、相模川橋りょうほか、津久井トンネルほか（東工区）、津久井トンネルほか（西工区）、関東車両基地及び藤野トンネルとした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、2025年度とした。

6-2-5 集計結果

集計結果は、表 6-2-5-1 に示すとおりである。なお、第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）における環境保全措置として、2025年度は梶ヶ谷非常口からの発生土のうち約5割を鉄道貨物により運搬した。2025年度の鉄道貨物輸送によるCO₂排出量は、対象とした発生土を自動車輸送した場合に比べて約9割削減している。

表 6-2-5-1 温室効果ガス (CO₂換算) 排出量の状況

区分		温室効果ガス (CO ₂ 換算) 排出量 (tCO ₂)		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費 (CO ₂)	5,666	13,968	
	燃料消費 (N ₂ O)	37		
	電力消費 (CO ₂)	8,265		
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	CO ₂ (鉄道貨物を除く)	10,478	10,806	
	CO ₂ (鉄道貨物) ※	277		
	CH ₄	5		
	N ₂ O	46		
建設資材の使用	CO ₂	38,615	38,615	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	235	239
		N ₂ O	4	
	埋立	CH ₄	—	
CO ₂ 換算排出量の合計			63,628	

※「CO₂ (鉄道貨物)」には鉄道貨物運行に係る温室効果ガス排出量に加え、発着地点で発生する場内運搬等に係る温室効果ガス排出量を含んでいる。

・排出がない場合は「—」と記載した。

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 7-1 に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務のうち、神奈川県においては、主にパシフィックコンサルタンツ株式会社が担当した。

表 7-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 杉崎 英司	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目 33 番 10 号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 畠山 仁	東京都新宿区 西新宿六丁目 14 番 1 号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 大本 修	東京都千代田区 神田錦町三丁目 22 番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 藤原 協	東京都新宿区 北新宿二丁目 21 番 1 号
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目 13 番 3 号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 吉村 剛	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目 11 番 12 号

・ 2026 年 6 月 1 日時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務のうち、工事の実施に係る一部の測定は、表 7-2 に示す工事請負業者が実施した。

表 7-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称	
		構成員
等々力非常口	中央新幹線第一首都圏トンネル新設 (梶ヶ谷工区) ほか工事共同企業体	前田建設工業株式会社、三井住友建設株式会社、大日本土木株式会社、アイサワ工業株式会社
第一首都圏トンネル (梶ヶ谷工区)		
犬蔵非常口		
第一首都圏トンネル (東百合丘工区)	中央新幹線第一首都圏トンネル新設 (東百合丘工区) ほか工事共同企業体	西松建設株式会社、五洋建設株式会社
片平非常口		
神奈川県駅 (仮称)	中央新幹線神奈川県駅 (仮称) 新設 工事共同企業体	株式会社奥村組、東急建設株式会社、京王建設株式会社
第二首都圏トンネル	中央新幹線第二首都圏トンネル新設 工事共同企業体	株式会社奥村組、東急建設株式会社、日本国土開発株式会社
相模川橋りょうほか	中央新幹線相模川橋りょうほか新設 工事共同企業体	株式会社銭高組、株式会社富士ピー・エス、昭和コンクリート工業株式会社
津久井トンネルほか (東工区)	株式会社フジタ	
津久井トンネルほか (西工区)	中央新幹線津久井トンネルほか新設 (西工区) 工事共同企業体共同企業体	株式会社竹中土木、佐藤工業株式会社
関東車両基地	清水建設株式会社	
藤野トンネル	中央新幹線藤野トンネル新設 工事共同企業体	戸田建設株式会社、岩田地崎建設株式会社

参考資料 1 : 事業の実施状況

1-1 トンネルの施工状況

2025年度までのトンネル（立坑を含む）の施工状況を、以下に示す。

等々力非常口について、立坑^{※1}（約70m）の躯体構築を7割程度（約50m）実施した。

梶ヶ谷非常口について、立坑^{※2}（約80m）が2021年度に完成した。

資材搬入口について、立坑^{※2}（約75m）が2020年度に完成した。

犬蔵非常口について、立坑^{※1}（約90m）が2025年度に完成した。

東百合丘非常口について、立坑^{※1}（約100m）が2021年度に完成した。

片平非常口について、立坑^{※1}（約110m）の掘進が完了し、底版を施工した。

第一首都圏トンネルについて、梶ヶ谷工区（梶ヶ谷非常口～東百合丘非常口）は約4,600m掘進し、東百合丘工区（東百合丘非常口～片平非常口）は約2,200m掘進した。

津久井トンネル（東工区）について、工事中トンネルの掘削が2023年度に完了した。本線トンネルを3割程度（約880m）掘削した。

津久井トンネル（西工区）について、長竹非常口トンネルの掘削が2023年度に完了した。本線トンネルを2割程度（約580m）掘削した。

藤野トンネルについて、大洞非常口のトンネル掘削が2022年度に完了した。本線トンネルを3割程度（約1,800m）掘削した。

※1 地中連続壁工法

※2 ニューマチックケーソン工法

1-2 トンネル湧水等の状況

山岳トンネル工事の実施箇所におけるトンネル湧水等（トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。）の状況を、以下に示す。

1-2-1 津久井トンネル（東工区）

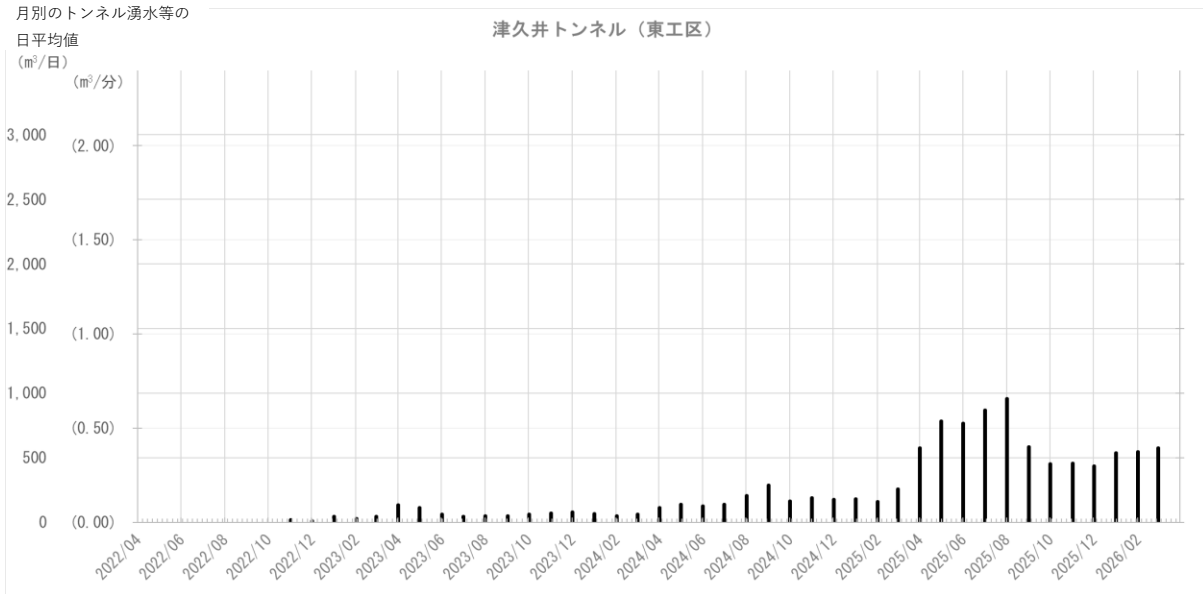


図 参 1-2-1 津久井トンネル（東工区）のトンネル湧水等の状況

1-2-2 津久井トンネル（西工区）

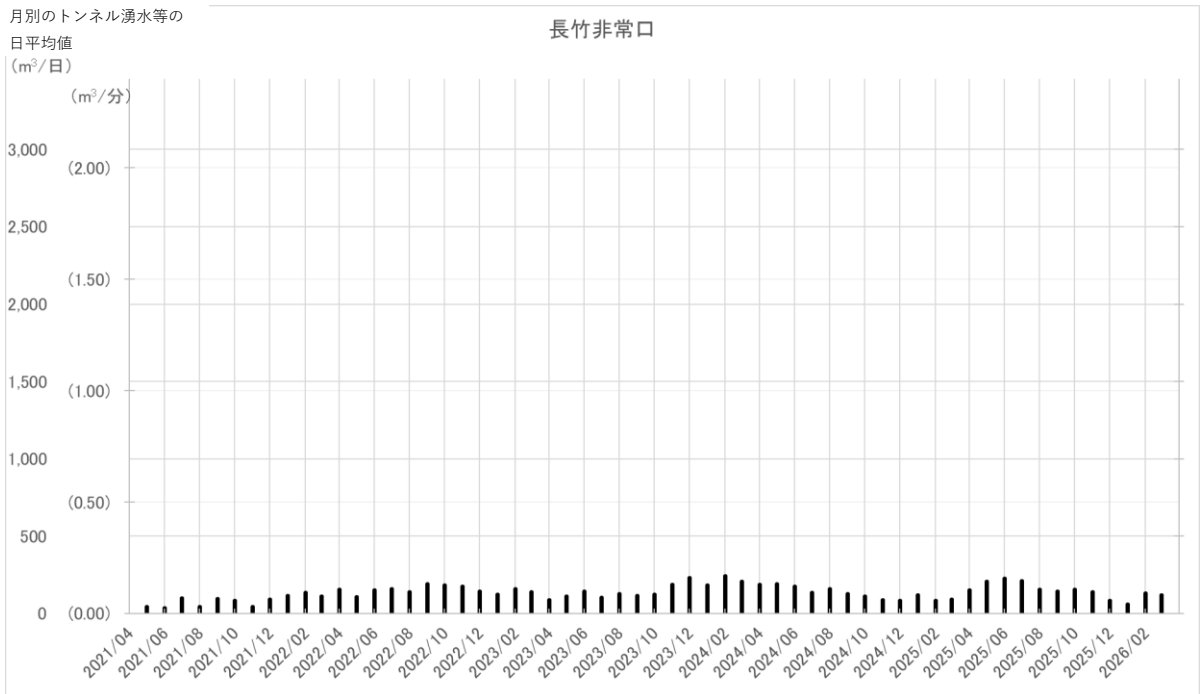


図 参 1-2-2 長竹非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等の状況

1-2-3 藤野トンネル

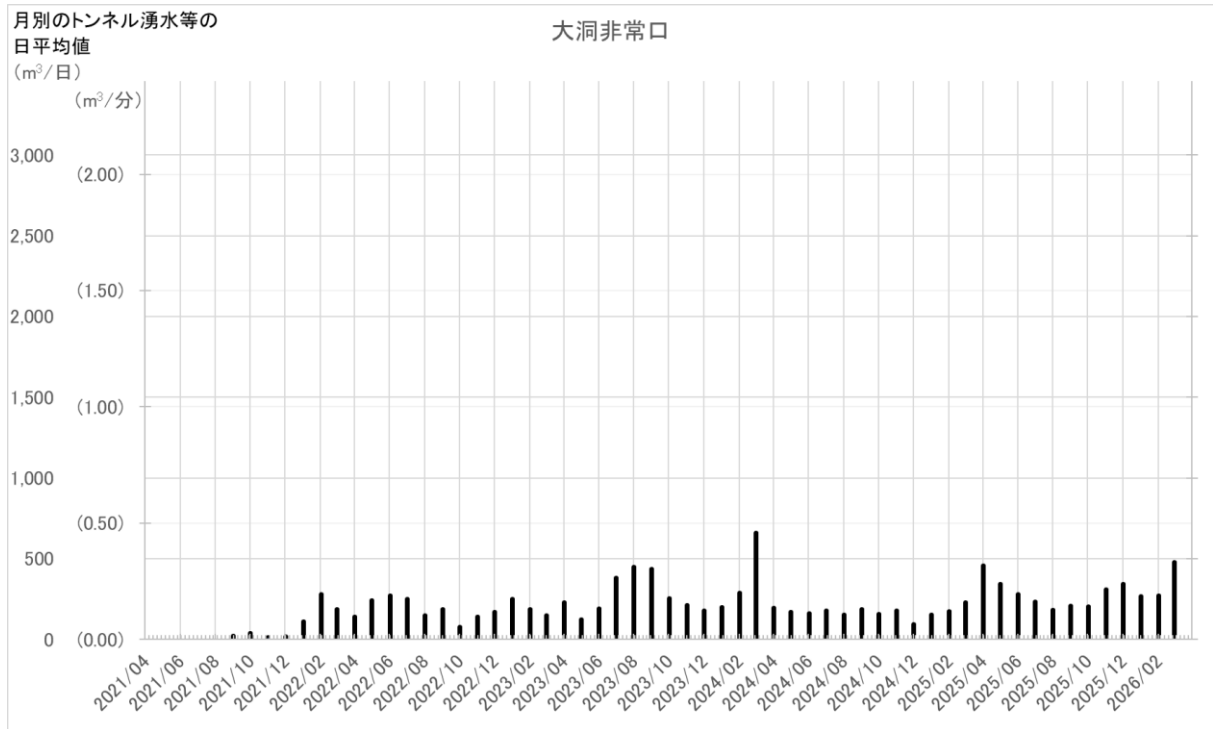


図 参 1-2-3 大洞非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等の状況

1-3 建設発生土の主な運搬先と土量

2025年度の各工事実施箇所における建設発生土の主な運搬先と土量を以下に示す。

第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）、第一首都圏トンネル（東百合丘工区）、片平非常口、神奈川県駅（仮称）、相模川橋りょうほか、津久井トンネルほか（東工区）、津久井トンネルほか（西工区）、関東車両基地、藤野トンネルからの建設発生土は、相模川変電所の敷地造成に約2万 m^3 、公共事業等に約100万 m^3 、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先に約4万 m^3 を活用した。なお、基準値等に適合しなかった発生土1万 m^3 未満については、法令等を参考に適切に処置した。

参考資料 2 : 騒音・振動の簡易計測

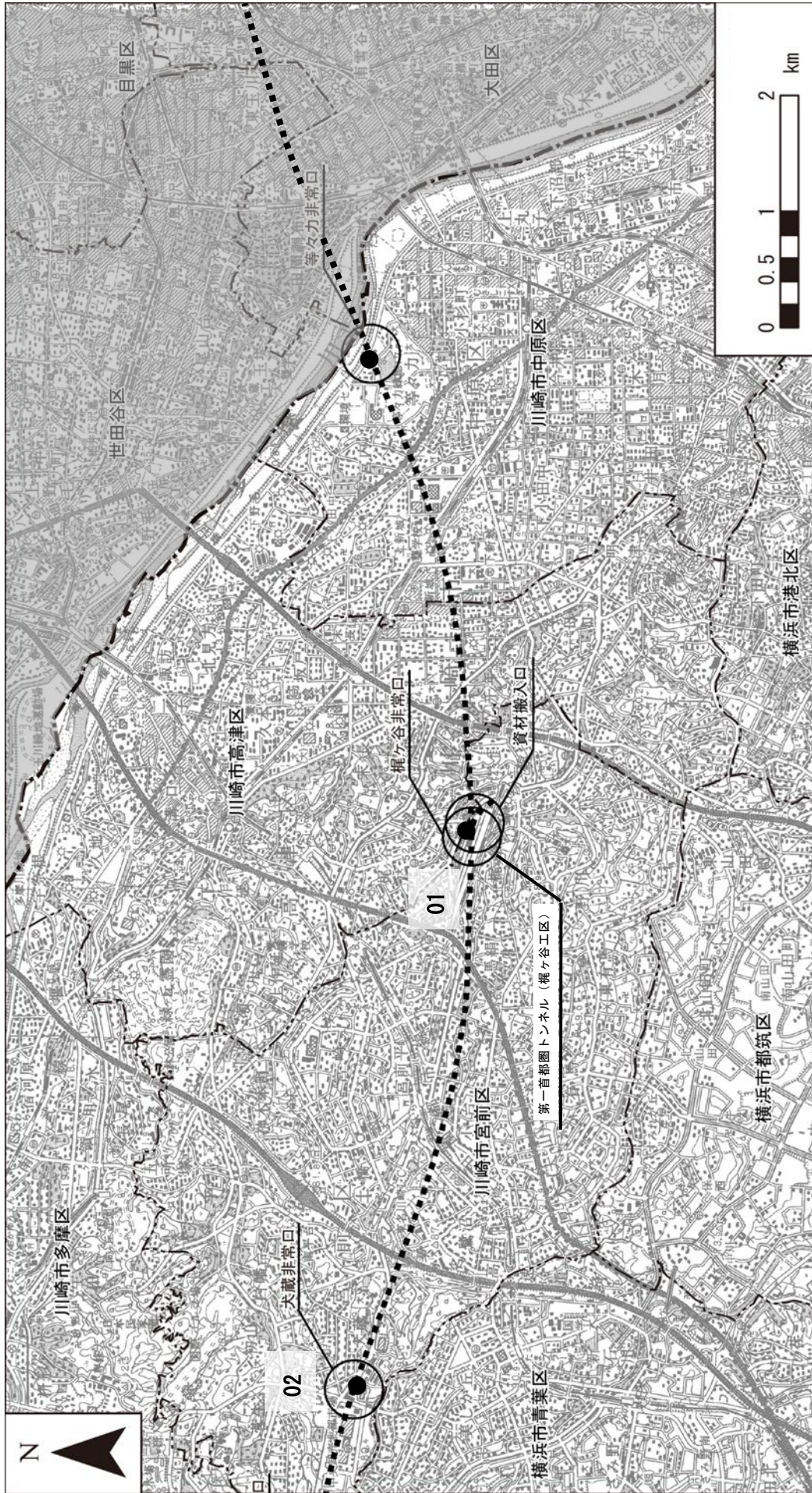
工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を常時表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音・振動の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は表 参-2-1 及び図 参-2-1、図 参 2-2 に示すとおりである。また、モニター表示例を写真 参-2-1 に示す。

表 参-2-1(1) 簡易計測の実施地点

調査地点	市区名	所在地	実施箇所	計測開始時期
01	川崎市 宮前区	梶ヶ谷	梶ヶ谷非常口 資材搬入口	既設杭撤去工前
			第一首都圏トンネル（梶ヶ谷工区）	準備工前
02	川崎市 宮前区	犬蔵	犬蔵非常口	地中連続壁工前
03	川崎市 麻生区	東百合丘	東百合丘非常口	切土工前
			第一首都圏トンネル （東百合丘工区）	地盤改良・設備 設置工前
04	町田市	能ヶ谷	片平非常口	準備工前
05-1 05-2 05-3	相模原市 緑区	橋本	神奈川県駅（仮称）	掘削工前
05-4			第二首都圏トンネル	地盤改良工前
06-1 06-2	相模原市 緑区	川尻	相模川橋りょう	橋脚基礎構築前
07	相模原市 緑区	小倉	相模川変電所 津久井トンネル東坑口	準備工前
08	相模原市 緑区	長竹	長竹非常口	造成工前
09	相模原市 緑区	大岩下	大岩下非常口	造成工前

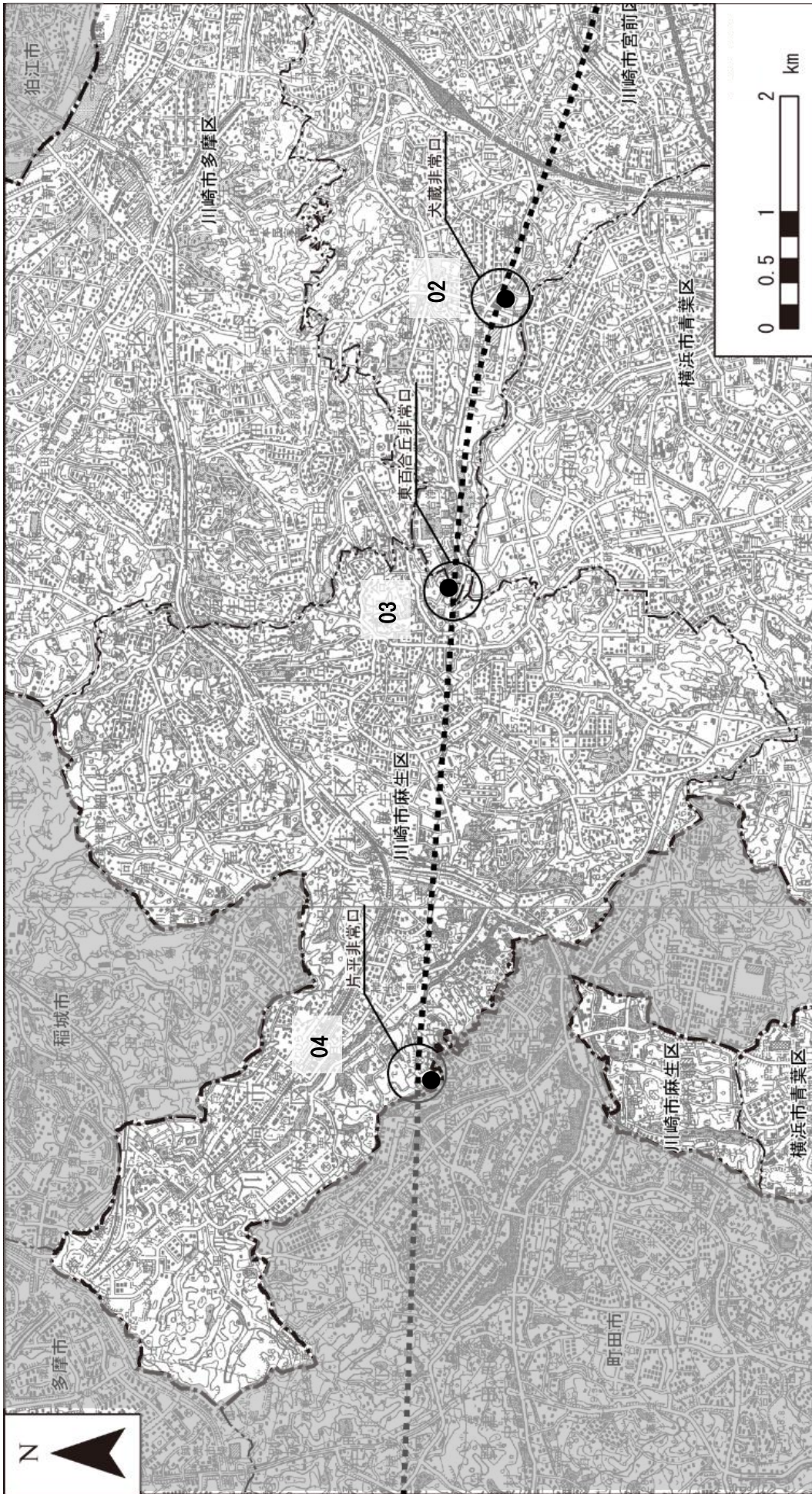
表 参-2-1(2) 簡易計測の実施地点

調査地点	市区名	所在地	実施箇所	計測開始時期
10	相模原市 緑区	鳥屋	関東車両基地	準備工前
11	相模原市 緑区	大洞	大洞非常口	造成工前



凡例
 計画路線(トンネル部)
 ——— 計画路線(地上部)
 - - - 都県境
 - · - · - 市区町村境
 ● 実施地点

図 参-2-1(1) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)



凡例

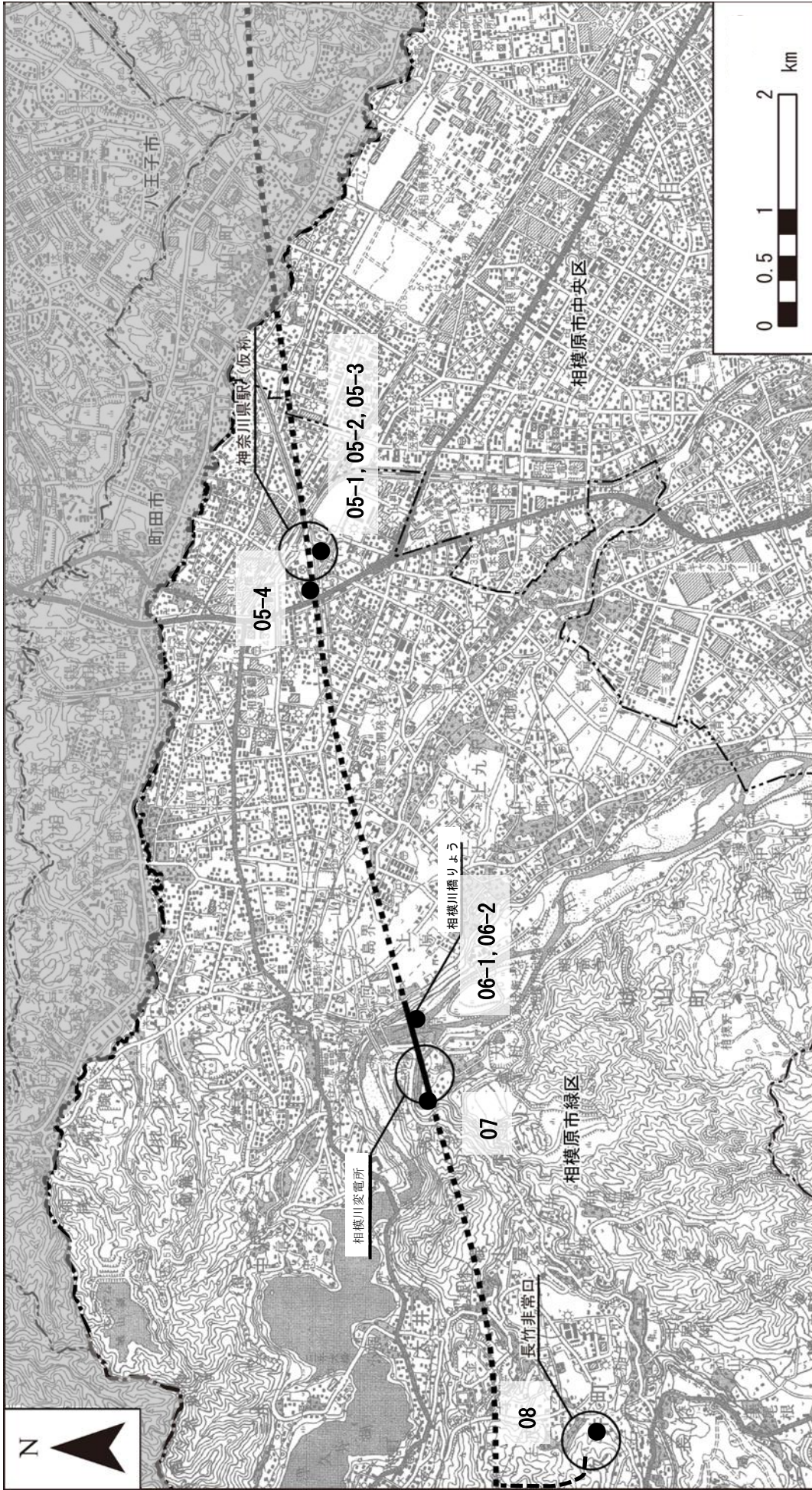
- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)

● 実施地点

--- 都県境

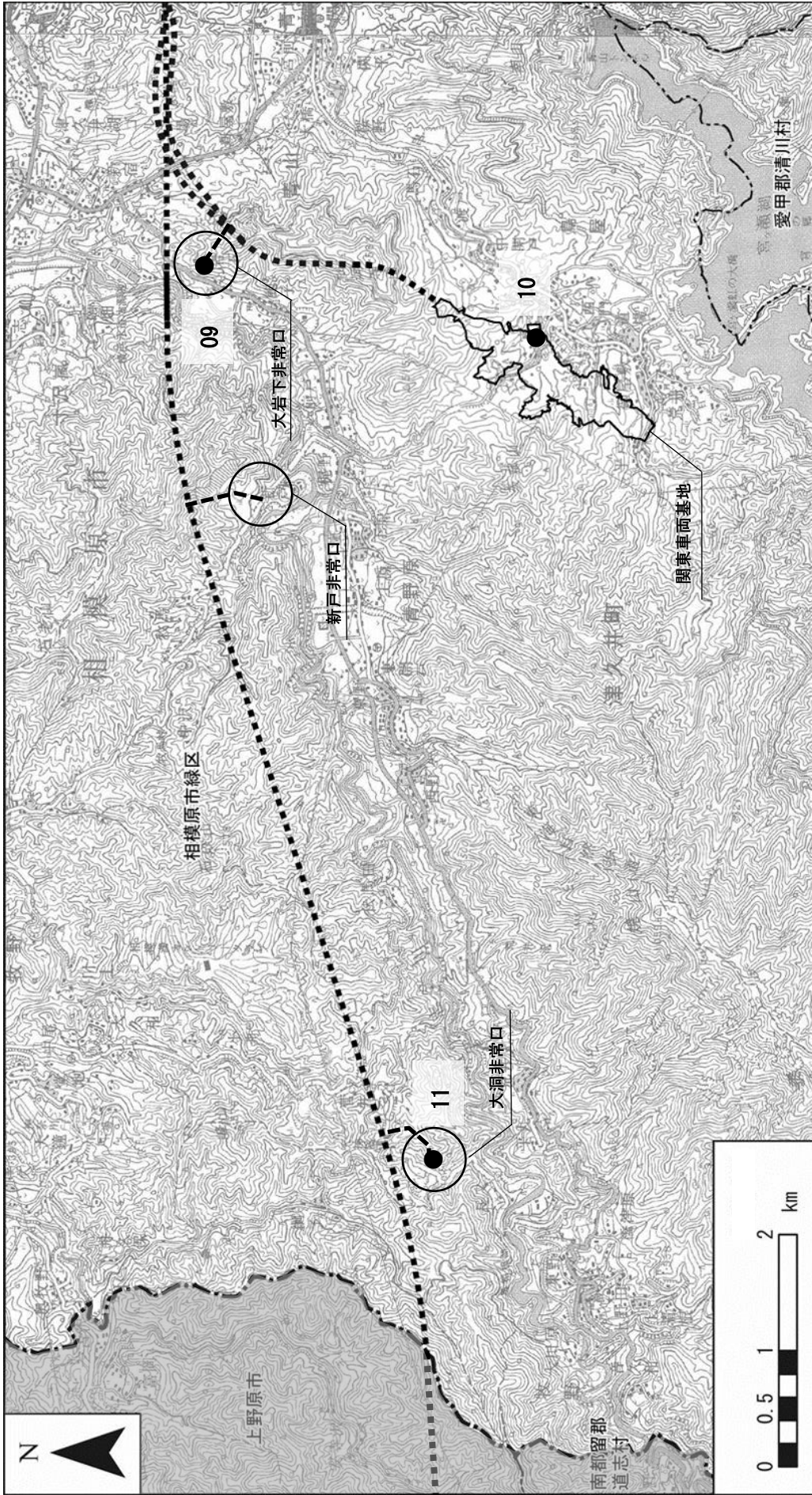
---- 市区町村境

図 参-2-1(2) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)



- 凡例
- 実施地点
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 非常口トンネル (斜坑)
 - 計画路線 (トンネル部)
 - 計画路線 (地上部)
 - 相模川変電所
 - 相模川橋りょう

図 参-2-1(3) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 計画路線(地上部)
- 非常口トンネル(斜坑)
- 実施地点
- 市区町村境

図 参-2-1(4) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)

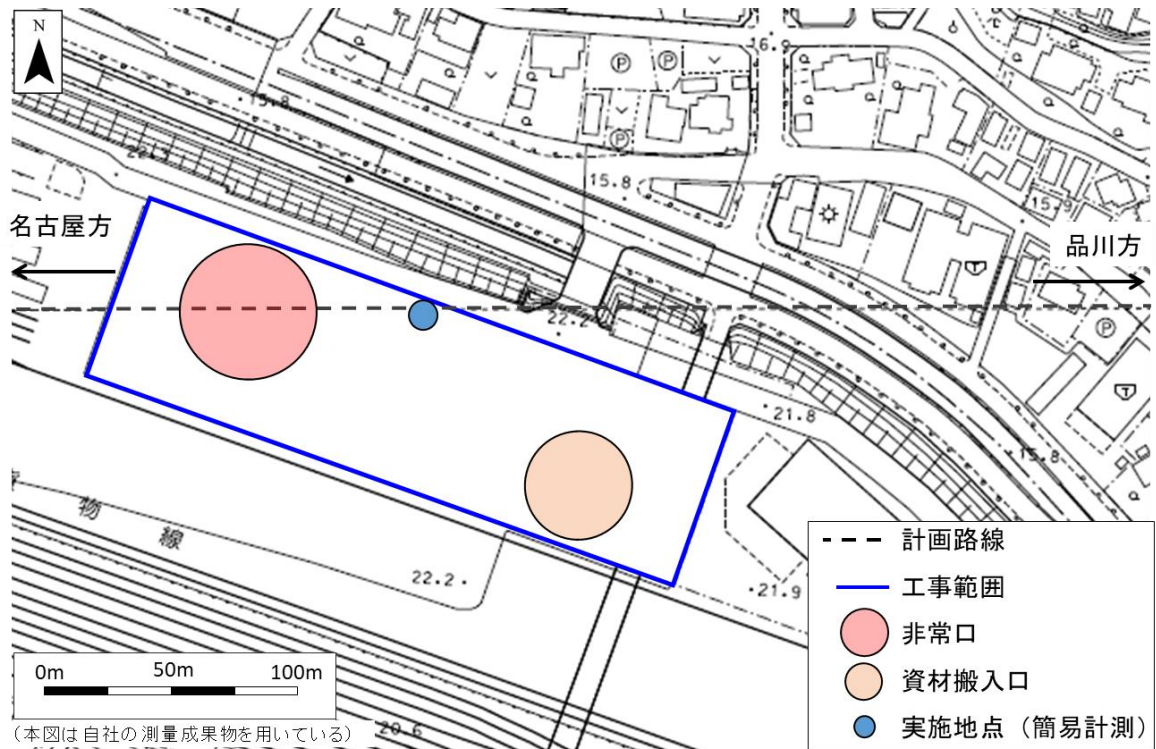


図 参-2-2(1) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (01 梶ヶ谷)

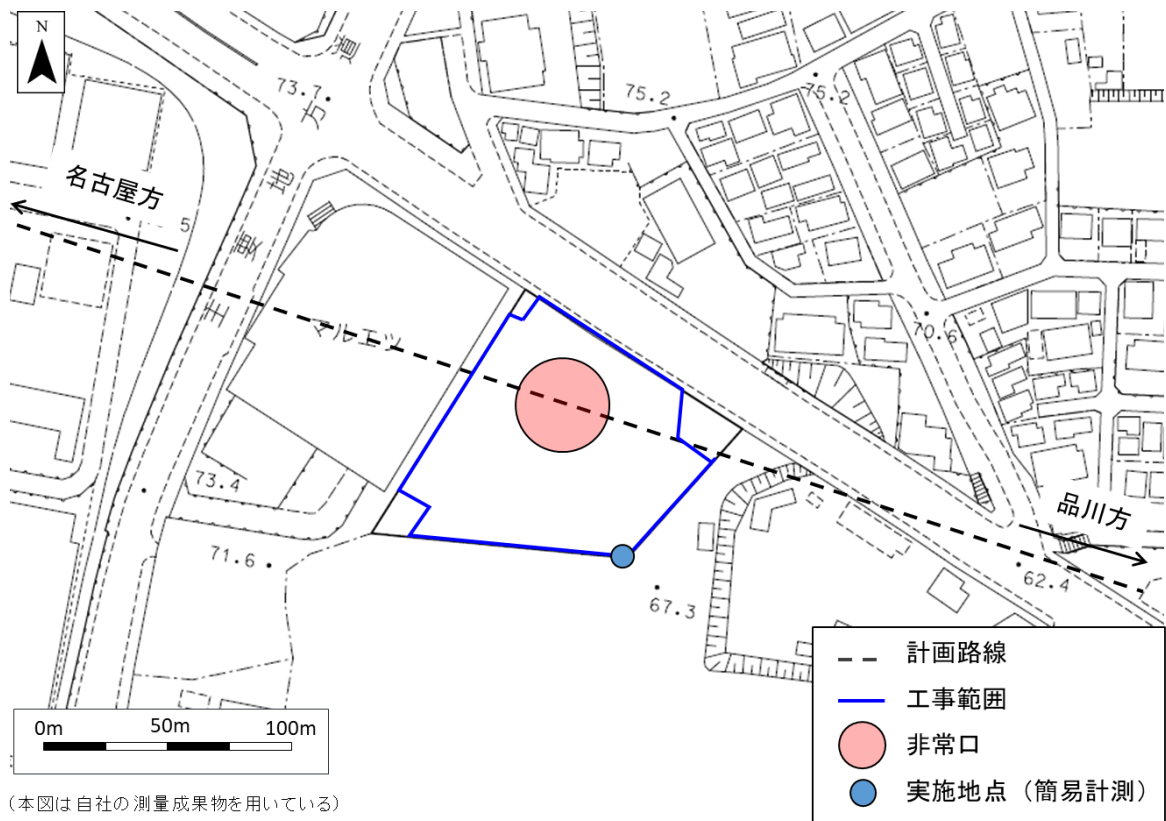
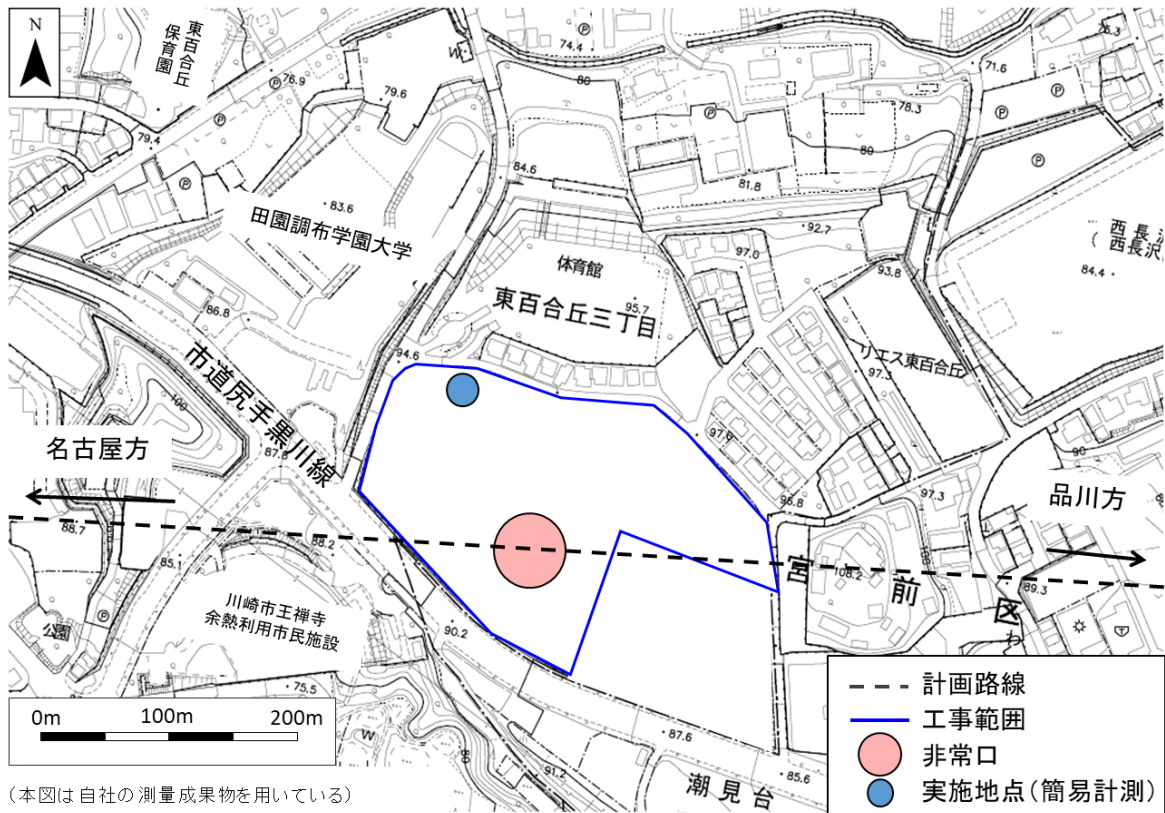
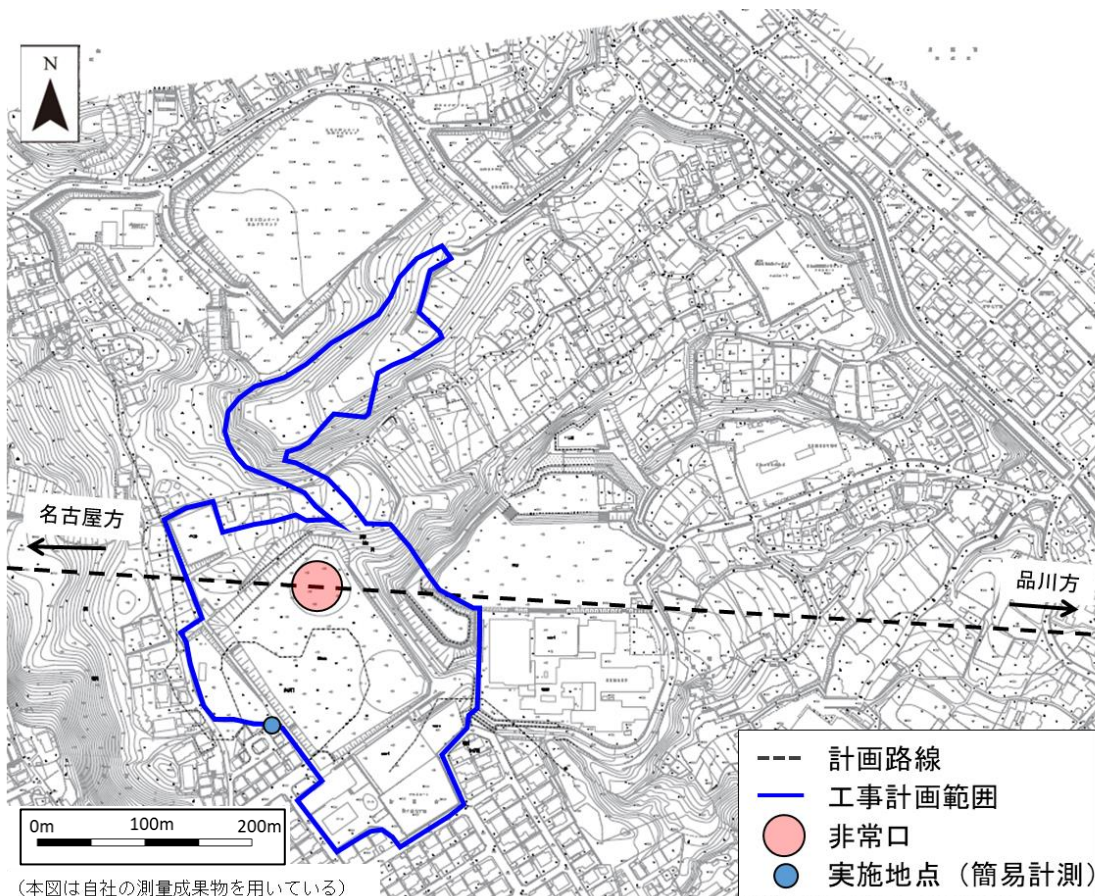


図 参-2-2(2) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (02 犬蔵)



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 参-2-2(3) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)(03 東百合丘)



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 参-2-2(4) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)(04 能ヶ谷)

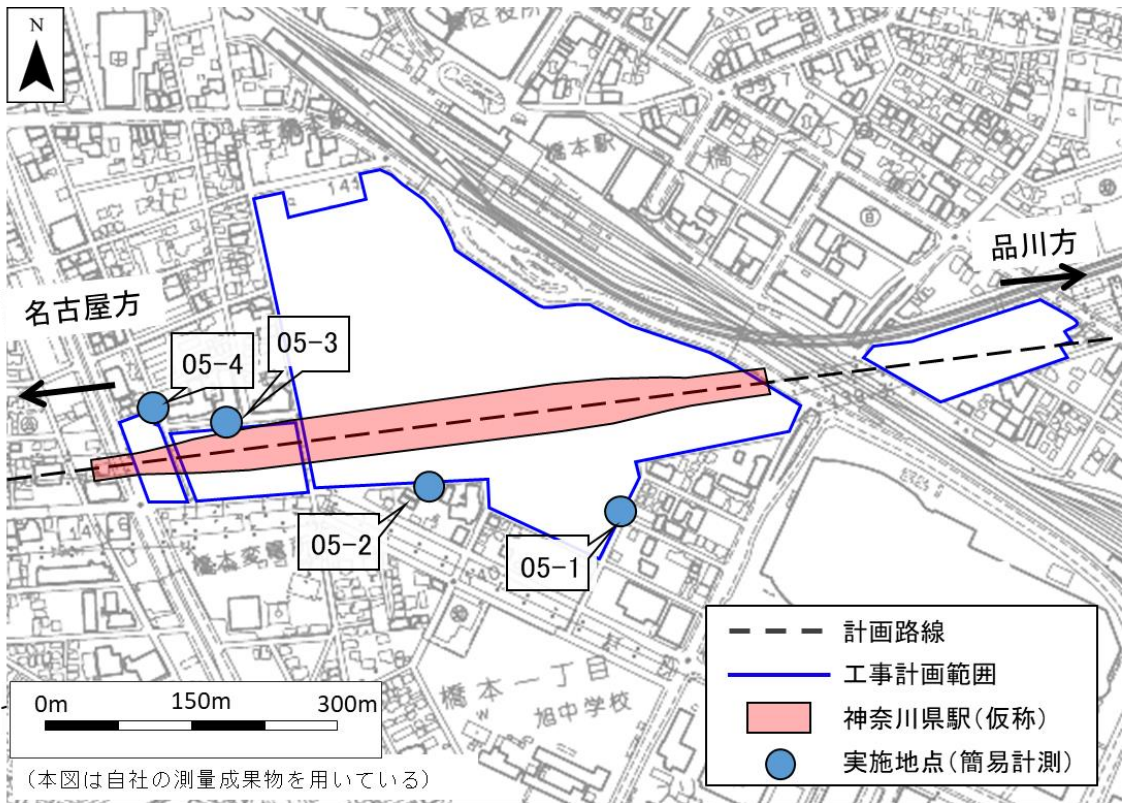


図 参-2-2(5) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)(05-1、05-2、05-3、05-4 橋本)

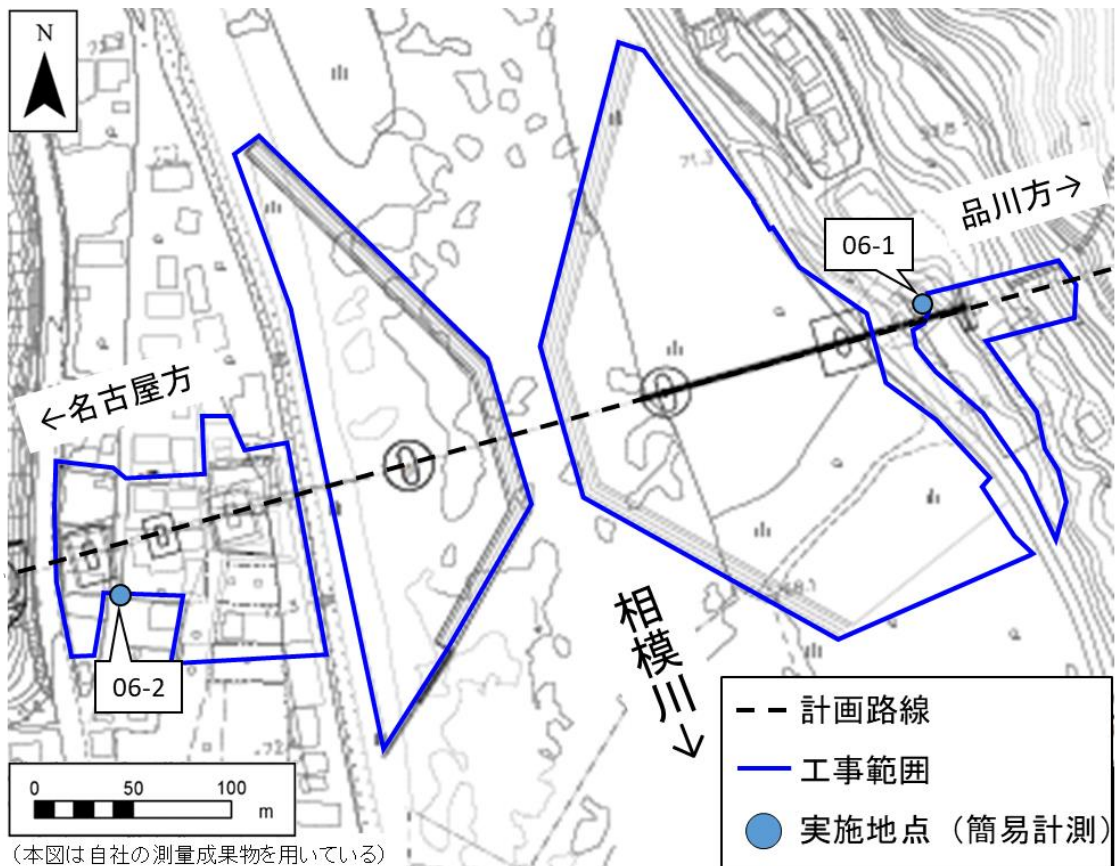


図 参-2-2(6) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)(06-1、06-2 川尻)

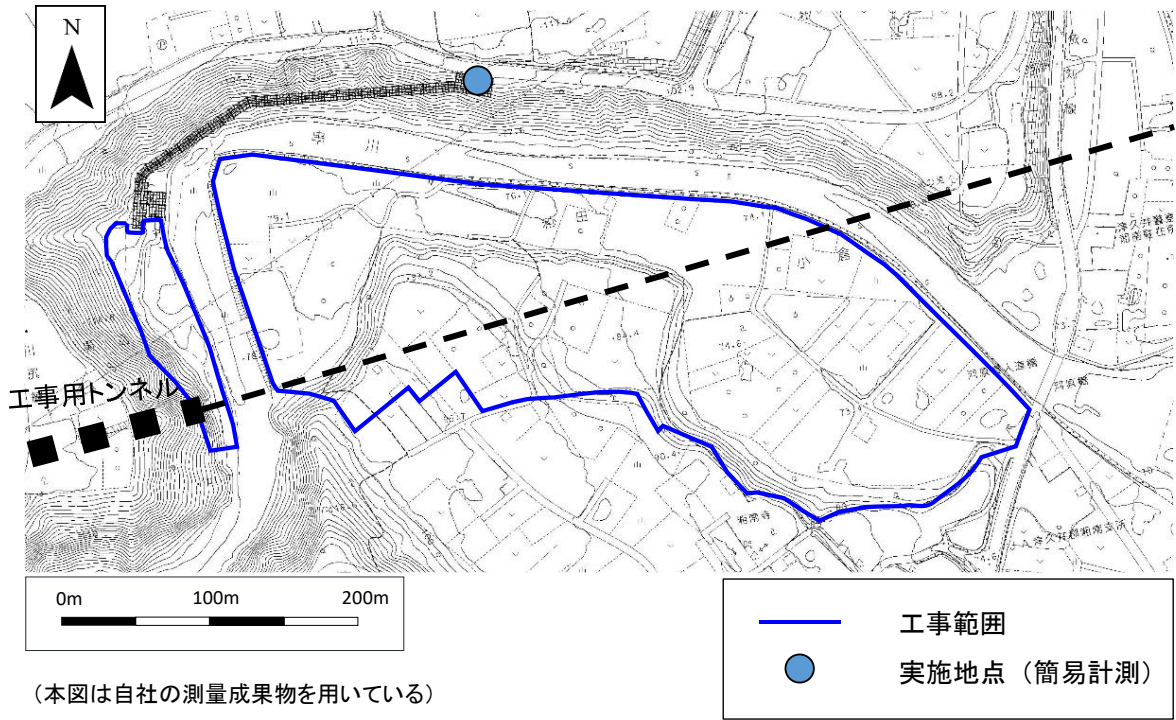


図 参-2-2(7) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (07 小倉)



図 参-2-2(8) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (08 長竹)

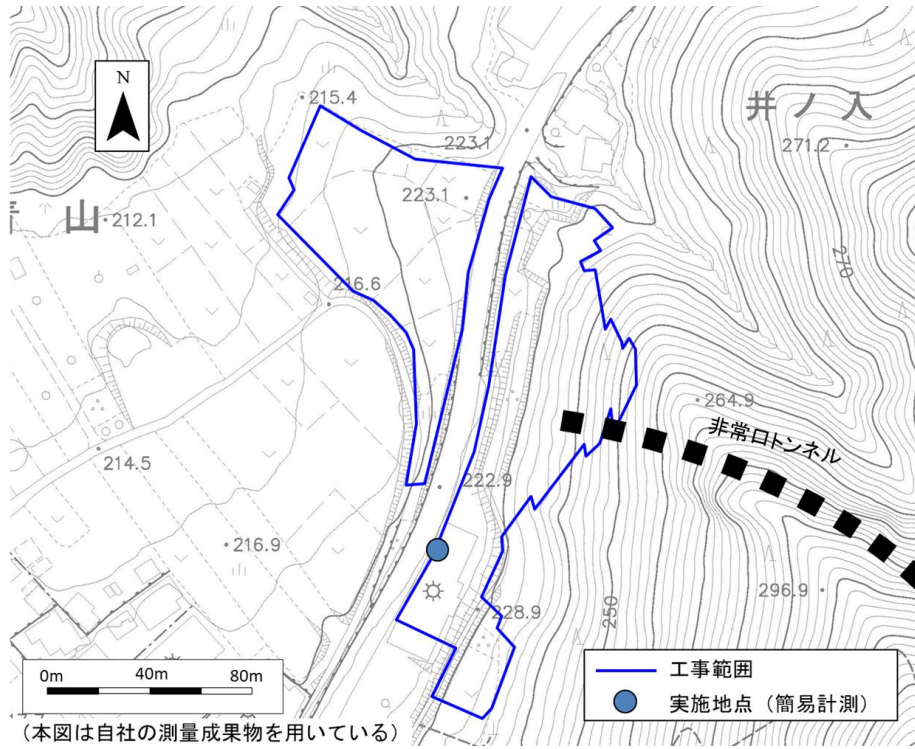


図 参-2-2(9) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (09 大岩下)

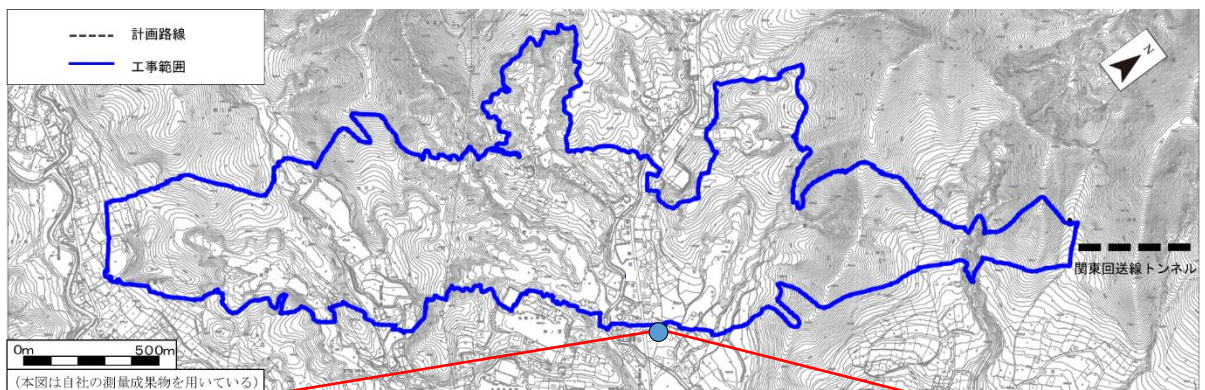
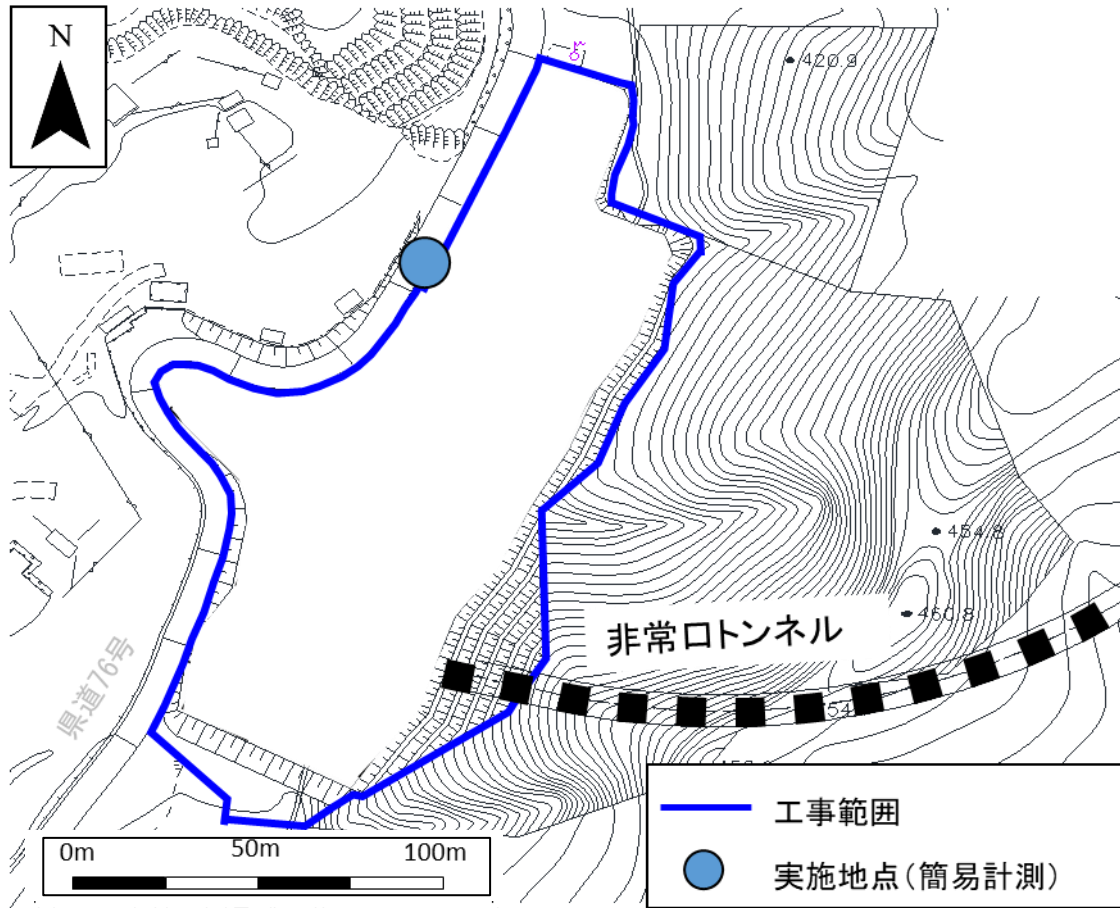


図 参-2-2(10) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (10 鳥屋)



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 参-2-2(11) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (11 大洞)



写真 参-2-1 (1) モニターの表示例 都市部 (05-2 橋本)



写真 参-2-1 (2) モニターの表示例 山岳部 (11 大洞)

参考資料 3 : 安全・安心の取組み

以下の取組みを実施し、安全にトンネル掘進を行った。

参考 3-1 掘進時の取組み

2025 年度は、梶ヶ谷工区及び東百合丘工区における本格的な掘進にあたり、施工管理を徹底し、地上の土地利用に支障が生じないよう、工事の安全、生活環境の保全に関する取組みを実施した。

なお、取組みの最新の結果は、以下に掲載している。

<工事の安全、生活環境の保全に関する取組みの結果等>

工事の安全、生活環境の保全に関する取組みの結果等は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載を行った。今後、工事の進捗状況に応じて適宜更新を行う。

[資料はこちら]



https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/progress/

(リンク先をスクロールすると、神奈川県が確認できます。)

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の数値地図50000（地図画像）を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。